加須市埋蔵文化財調査報告書　第３集

埼玉県加須市

騎西城武家屋敷跡

第13・18・25・32・33・34・38・49次調査

騎西城跡

第９・10次調査

2012
加須市教育委員会

騎武第13次　完掘

同　陶磁器

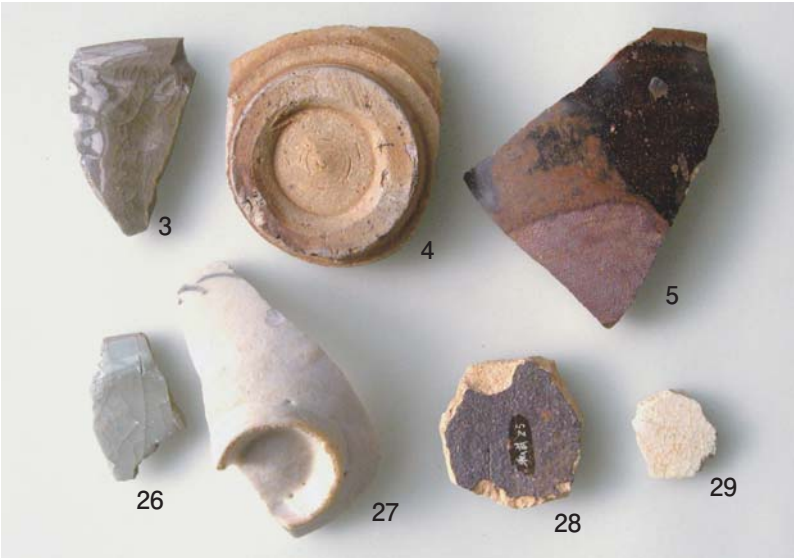
口絵２

騎武第18次　完掘

同　陶磁器類

騎武第25次　１号土壙　遺物出土

同　拡大



第25次　陶磁器類

口絵４

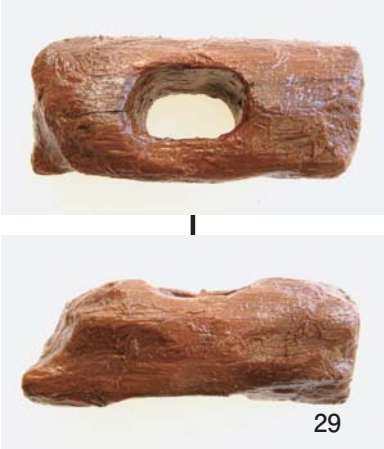
騎武第32次　完掘

同　陶磁器類

同　木製品

騎武第33次　完掘

同　陶磁器



同　木製品

口絵 6

騎武第34次　10号井戸　遺物出土

同　陶磁器

馬形土製品

尖頭器

石鏃

陶器

底板

桶側板

騎武第34次　出土遺物

口絵 8

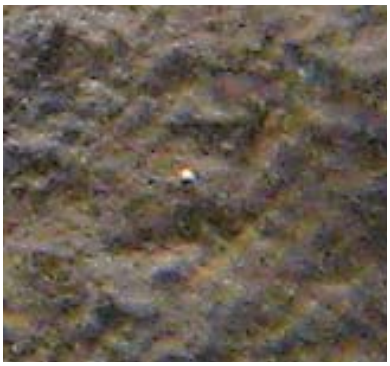
底　板

騎武第34次　出土木製品

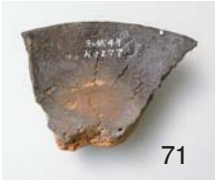
騎武第38次２号井戸遺物出土

同　陶磁器

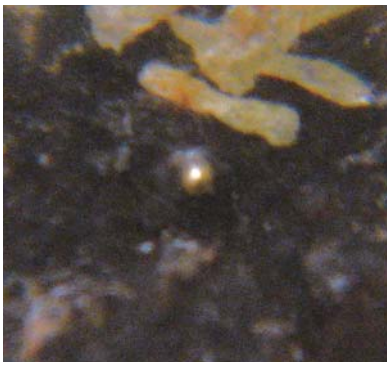
口絵 10



No. 61拡大



No. 71拡大



No. 63拡大
騎武第49次　金粒付着土器

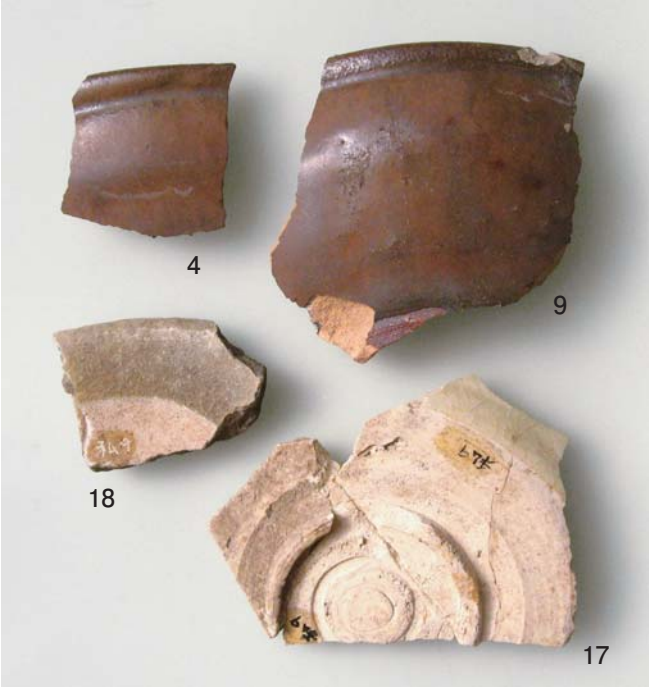
同　金属製品

同　陶磁器

騎西城跡第９次　完掘

荒屋型彫刻器（No. 31）出土

荒屋型彫刻器



同　陶磁器

口絵 12

騎西城跡第10次　完掘

同　J-１号住居跡　完掘

序

加須市は埼玉県の北東部に位置し、利根川をはじめ多くの河川を擁する豊かな田園地帯であります。

今回報告いたします騎西城武家屋敷跡が所在する騎西地域はその中央に延喜式内社玉敷神社が鎮座する、歴史の古い地域であります。

地域内には、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が所在いたしますが周辺の市町村とともに都市化が進み、景観が著しく変貌しております。

今回の調査報告は、平成２～８年に実施された根古屋地域に所在する騎西城武家屋敷跡第13・18・25・32・33・38・49次調査及び騎西城跡９・10次調査の記録であります。調査の結果、当時の堀や井戸の跡、居住した武士が使用した陶磁器など貴重な遺構・遺物が検出され、城館跡を研究する上で、騎西城の重要性を再認識することとなりました。

本報告が文化財の保護に対する理解の一助として、また郷土資料として広く活用されることを望んでおります。

最後になりましたが、調査の実施、本書の刊行に当たりまして深いご理解と多くのご協力をいただきました開発者の方々をはじめ関係各位の皆様に対しまして深く感謝申し上げます。

平成24年３月

加須市教育委員会

教育長　若山　勝彦

例　言

1　本書は埼玉県加須市内遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は住宅建設に先立つもので、平成２～８年に、報告書の刊行事業は平成23年度に、いずれも国・県の補助金を受けて、実施した。

3　発掘調査組織

調査主体者　騎西町教育委員会

担　当　者　各調査に記載

調査協力員　同　上

4　整理組織

（平成22年度）加須市教育委員会

教育長　　若山勝彦

生涯学習部長　　牛久保達二郎

生涯学習副部長　奈良邦彦

騎西教育事務所　所長　中野一成

主幹　嶋村英之

主査　坂本征男

本書の刊行に際して次のように分担して業務に当たった。

（1）執筆　　嶋村英之

基礎データ　陶磁器　島村範久　◇印　嶋村

（2）写真撮影は現場のものは調査担当者がその他は嶋村英之の指導の下整理協力員が行った。

（3）出土品の整理・図版の作成は下記の指導者の下、遺物整理員が行った。『騎西町史考古資料編１』掲載のものは本報告の図を優先する。

指導者

陶磁器・石金属製品の一部　　島村範久

銭貨　　坂本征男

ほか　　嶋村英之

※板碑は『騎西町史考古資料編２』をもとに作成した。

整理協力員

新井博子　上野由里子　小川美津子　方波見良子

遠井恭子　野口二三子　長谷川恵　松村順子

木製品は嶋村薫が実測した。

5　本書の編集は嶋村英之が行った。

6　資料は加須市教育委員会が保管している。

7　騎西城は私市城とも記すがここでは武家屋敷が存在していた時期の古文書等により騎西城とする。

また、本報告では騎西城武家屋敷跡は煩雑となるため騎武と略す。

8　挿図について

○縮尺は以下の通りである。

遺構　溝　土層堆積　１／40

溝断面・井戸状遺構・土壙　１／60

遺物出土１／40

遺物

縄文　土器片１／３　石器１／１

古墳　土製品１／２

中近世

陶磁器類・木製品　１／３　鉄・銅製品１／２

土製品・石製品１／４　銭貨１／１

○遺構断面図の基準標高は各々に記載した。

9　本文および表について

○（　）の数値は残存値である。

○　土層説明は土層色調／含有物の順に記載した。

略称凡例

※テフラ＝T、ローム＝L、炭化物＝C、焼土＝S、酸化鉄＝FE、黒褐色＝BB、黒色＝B、褐色＝Br

※粒子＝R、ブロック＝B

※非常に多い＝☆、多量＝◎、少量＝△、微量＝▲、万遍なく＝アンダーライン

※やや明るい＝やや明、やや暗い＝やや暗、

※非常に軟らかい＝軟度高・軟らかい＝軟質・やや軟らかい＝軟度低　・硬い＝堅緻

※締まり良し＝締良・締まり悪し＝締悪・粘性強し＝粘強・粘性有り＝粘有

10　発掘調査・整理報告に際して下記の方からご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。

藤沢良祐氏

目　次

序／例言／目次
第Ⅰ章　遺跡の立地と環境
　第１節　遺跡の位置……1
　第２節　遺跡の地理的環境……1
　第３節　遺跡の歴史的環境……2

第Ⅱ章　騎武第13次調査
　第１節　調査の概要……9
　第２節　遺構と遺物……9

第Ⅲ章　騎武第18次調査
　第１節　調査の概要……18
　第２節　遺構と遺物……18

第Ⅳ章　騎武第25次調査
　第１節　調査の概要……33
　第２節　遺構と遺物……33

第Ⅴ章　騎武第32次調査
　第１節　調査の概要……41
　第２節　遺構と遺物……41

第Ⅵ章　騎武第33次調査
　第１節　調査の概要……47
　第２節　遺構と遺物……47

第Ⅶ章　騎武第34次調査
　第１節　調査の概要……57
　第２節　遺構と遺物……57

第Ⅷ章　騎武第38次調査
　第１節　調査の概要……72
　第２節　遺構と遺物……72

第Ⅸ章　騎武第49次調査
　第１節　調査の概要……80
　第２節　遺構と遺物……80

第Ⅹ章　騎西城跡第９次調査
　第１節　調査の概要……95
　第２節　遺構と遺物……95

第Ⅺ章　騎西城跡第10次調査
　第１節　調査の概要……104
　第２節　遺構と遺物……104

第Ⅻ章　出土遺物補遺……117

第ⅩⅢ章　まとめ……119

引用参考文献／図版／報告書抄録

挿図目次

第１図　遺跡の位置（騎西地域）……1
第２図　周辺の微地形分類と縄文・古墳時代遺跡……3
第３図　周辺の主な縄文・古墳時代遺跡……3
第４図　騎西城を取り巻く勢力図……6
第５図　各調査区の位置……8
第６図　騎武第13次周辺と遺構位置図……10
第７図　騎武第13次遺構１……11
第８図　騎武第13次遺構２……12
第９図　騎武第13次遺構３……13
第10図　騎武第13次遺物１……14
第11図　騎武第13次遺物２……15
第12図　騎武第13次遺物３……16
第13図　騎武第18次周辺と遺構位置図……19
第14図　騎武第18次遺構１……20
第15図　騎武第18次遺構２……21
第16図　騎武第18次遺構３……22
第17図　騎武第18次遺構４……23
第18図　騎武第18次遺構５……24
第19図　騎武第18次遺物１……25
第20図　騎武第18次遺物２……26

第21図　騎武第18次遺物３……27
第22図　騎武第18次遺物４……28
第23図　騎武第18次遺物５……29
第24図　騎武第18次遺物６……30
第25図　騎武第25次周辺と遺構位置図……34
第26図　騎武第25次遺構１……35
第27図　騎武第25次遺構２……36
第28図　騎武第25次遺物１……37
第29図　騎武第25次遺物２……38
第30図　騎武第32～34・38次周辺と遺構位置図…40
第31図　騎武第32次遺構１……42
第32図　騎武第32次遺構２……43
第33図　騎武第32次遺構３……44
第34図　騎武第32次遺物１……45
第35図　騎武第32次遺物２……46
第36図　騎武第33次遺構１……48
第37図　騎武第33次遺構２……49
第38図　騎武第33次遺構３……50
第39図　騎武第33次遺構４……51
第40図　騎武第33次遺構５……52
第41図　騎武第33次遺物１……53
第42図　騎武第33次遺物２……54
第43図　騎武第33次遺物３……55
第44図　騎武第34次遺構１……58
第45図　騎武第34次遺構２……59
第46図　騎武第34次遺構３……60
第47図　騎武第34次遺構４……61
第48図　騎武第34次遺物１……62
第49図　騎武第34次遺物２……63
第50図　騎武第34次遺物３……64
第51図　騎武第34次遺物４……65
第52図　騎武第34次遺物５……66
第53図　騎武第34次遺物６……67
第54図　騎武第34次遺物７……68
第55図　騎武第34次遺物８……69
第56図　騎武第38次遺構１……73
第57図　騎武第38次遺構２……74
第58図　騎武第38次遺構３……75
第59図　騎武第38次遺物１……76
第60図　騎武第38次遺物２……77
第61図　騎武第38次遺物３……78
第62図　騎武第49次周辺と遺構位置図……81
第63図　騎武第49次遺構……82
第64図　騎武第49次遺物１……84
第65図　騎武第49次遺物２……85
第66図　騎武第49次遺物３……86
第67図　騎武第49次遺物４……87
第68図　騎武第49次遺物５……88
第69図　騎武第49次遺物６……89
第70図　騎武第49次遺物７……90
第71図　騎武第49次遺物８……91
第72図　騎西城跡第９・10次周辺と遺構位置図…94
第73図　騎西城跡第９次遺構１……96
第74図　騎西城跡第９次遺構２……97
第75図　騎西城跡第９次遺構３……98
第76図　騎西城跡第９次遺構４……99
第77図　騎西城跡第９次遺物１……100
第78図　騎西城跡第９次遺物２……101
第79図　騎西城跡第９次遺物３……102
第80図　騎西城跡第10次遺構１……105
第81図　騎西城跡第10次遺構２……106
第82図　騎西城跡第10次遺構３……107
第83図　騎西城跡第10次遺物１……108
第84図　騎西城跡第10次遺物２……109
第85図　騎西城跡第10次遺物３……110
第86図　騎西城跡第10次遺物４……111
第87図　騎西城跡第10次遺物５……112
第88図　騎西城跡第10次遺物６……113
第89図　騎西城跡第10次遺物７……114
第90図　出土遺物補遺……118
第91図　各地区の騎西城内の推定位置……119
第92図　遺構の変遷……120

表目次

第１表　騎武第13次遺構一覧表……12
第２表　騎武第13次遺物一覧表……17
第３表　騎武第18次遺構一覧表……20
第４表　騎武第18次遺物一覧表１……31
第５表　騎武第18次遺物一覧表２……32
第６表　騎武第25次遺構一覧表……35
第７表　騎武第25次遺物一覧表……39
第８表　騎武第32次遺構一覧表……42
第９表　騎武第32次遺物一覧表……46
第10表　騎武第33次遺構一覧表……49
第11表　騎武第33次遺物一覧表……56
第12表　騎武第34次遺構一覧表……58
第13表　騎武第34次遺物一覧表１……70
第14表　騎武第34次遺物一覧表２……71
第15表　騎武第38次遺構一覧表……73
第16表　騎武第38次遺物一覧表……79
第17表　騎武第49次遺構一覧表……83
第18表　騎武第49次遺物一覧表１……83
第19表　騎武第49次遺物一覧表２……92
第20表　騎武第49次遺物一覧表３……93
第21表　騎西城跡第９次遺構一覧表……96
第22表　騎西城跡第９次遺物一覧表……103
第23表　騎西城跡第10次遺構一覧表……105
第24表　騎西城跡第10次遺物一覧表１……115
第25表　騎西城跡第10次遺物一覧表２……116
第26表　出土遺物補遺一覧表……117

図版目次

図版１　騎武第13次遺構１
図版２　騎武第13次遺構２
図版３　騎武第13次遺構３
図版４　騎武第13次出土遺物
図版５　騎武第18次遺構１
図版６　騎武第18次遺構２
図版７　騎武第18次遺構３
図版８　騎武第18次遺構４
図版９　騎武第18次出土遺物１
図版10　騎武第18次出土遺物２
図版11　騎武第25次遺構１
図版12　騎武第25次遺構２　出土遺物１
図版13　騎武第25次出土遺物２
図版14　騎武第32次遺構１
図版15　騎武第32次遺構２
図版16　騎武第33次遺構１
図版17　騎武第33次遺構２
図版18　騎武第33次遺構３
図版19　騎武第33次出土遺物
図版20　騎武第34次遺構１
図版21　騎武第34次遺構２
図版22　騎武第34次遺構３
図版23　騎武第34次遺構４
図版24　騎武第34次出土遺物
図版25　騎武第38次遺構１
図版26　騎武第38次遺構２
図版27　騎武第38次遺構３
図版28　騎武第38次出土遺物
図版29　騎武第49次遺構１
図版30　騎武第49次遺構２
図版31　騎武第49次遺構３　出土遺物１
図版32　騎武第49次出土遺物２
図版33　騎西城跡第９次遺構
図版34　騎西城跡第９次出土遺物
図版35　騎西城跡第10次遺構１
図版36　騎西城跡第10次遺構２
図版37　騎西城跡第10次出土遺物１
図版38　騎西城跡第10次出土遺物２

第Ⅰ章　遺跡の立地・環境

第１節　遺跡の位置（第１図－遺跡の位置）

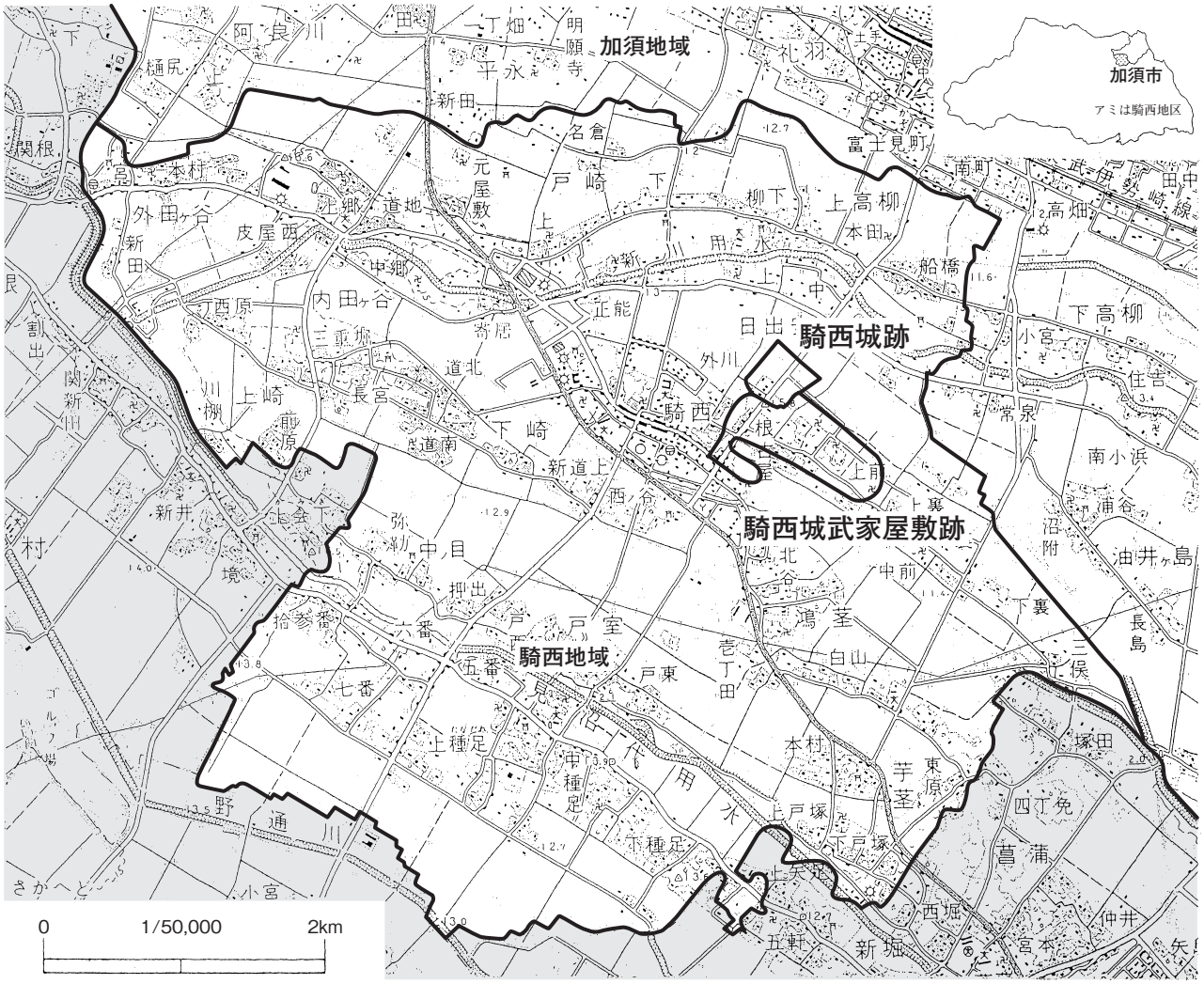
加須市騎西地域は埼玉県北東部に位置し騎西城武家屋敷跡は地域のほぼ中央にある。行政上では加須市根古屋字道上・中宿・前・道下、牛重上前・中前・上裏その他に所在する。戦国から江戸時代の城跡で、昭和56年度実施の騎西町遺跡詳細分布調査や明治９年の「地引番号全図根古屋」、江戸時代に描かれた「武州騎西之絵図」などにより城の形状や武家屋敷の範囲が明らかである。遺跡の範囲は騎西生涯学習センターから南東へ1.2km、南西へ約0.5kmである。

第２節　遺跡の地理的環境

（第２図－周辺の微地形分類と縄文･古墳時代遺跡）

大宮台地の北東から南東方向には肥沃な水田地帯である加須低地・中川低地が広がっている。加須低地には、騎西島状台地群をはじめとして笠原支台より断続的に続く埋没ローム台地がいくつか存在し、造盆地運動によって台地や低地が沈降した。その上に利根川などの氾濫による河成堆積物が堆積し、自然堤防・埋没ローム台地・後背湿地・沼沢地が形成されたものである。

現在地域内で確認されている原始から近世までの遺跡は埋没ローム台地と自然堤防上に立地していると言われてきた。しかし発掘調査では、旧石器時代から奈良・平安時代の遺跡は自然堤防とされている見沼代用水両岸に位置しいずれもローム台地上に展開している。



第１図　遺跡の位置（騎西地域）

第３節　遺跡の歴史的環境

（第２図及び第３図）※（遺跡名）は騎西町史考古資料編１に準じたものである。城館跡名では不適切となるため小字による遺跡名を付け直した。

１　旧石器時代

約２万年前以降、ナイフ形石器や尖頭器が盛行した頃、萩原遺跡をはじめ（前）・（中宿）遺跡で該期の遺物が出土している。（前）遺跡では尖頭器及び剥片の集中箇所が２カ所確認されている。

細石刃石器群が出現した約１万５千年前以降では下崎中郷遺跡で北方系の削片、（道上）遺跡では同系の荒屋型彫刻器が出土している。

２　縄文時代

草創期に（中宿）遺跡で有舌尖頭器が見られるのみで土器は発見されていない。早期は修理山・小沼耕地・（前）・（道上）遺跡で撚糸文系土器、（前）遺跡では集石遺構が、（道上）遺跡で沈線文系土器、条痕文系は修理山・（前）・（中宿）・（道上）遺跡で土器が出土しており、特に修理山・（中宿）遺跡では炉穴が確認された。

前期では前半花積下層・関山・黒浜式土器が小沼耕地・（前）・（道上）で出土している。後半諸磯から十三菩提式期までは前半に加え萩原遺跡で諸磯式土器が、小沼耕地遺跡では県内では希少な花積下層式期の住居跡状落ち込みが検出されている。

中期前半に（道上）・萩原遺跡で五領ヶ台式・勝坂式が確認されている。後半は加曽利Ｅ式期その後半に（中宿）遺跡で柄鏡形住居・（道上）遺跡で竪穴住居が、萩原・修理山遺跡では集落が展開した。修理山遺跡では10軒の竪穴住居、萩原遺跡では数軒の住居跡と墓壙などが見つかっている。

両遺跡は後期前半堀の内期までは集落を継続し少数ながら住居跡や貯蔵穴が検出された。後半になると再び遺物のみの出土となるが萩原・中郷・（前）・（中宿）・（道上）遺跡で加曽利Ｂ～後期安行式が出土している。晩期では安行３a～３d式が修理山・町並・（道上）・（前）・（中宿）遺跡で出土している。

３　弥生時代

地域内の遺跡は少なく中期では上種足三番遺跡で磨製石鏃が、（道上）遺跡では後期の壺や器台の破片が出土しており、中種足五番遺跡の絵画土器や小沼耕地遺跡の土器片は弥生時代終末期から古墳時代初頭のものである。

４　古墳時代

古墳跡は小沼耕地遺跡※で６～７世紀の前方後円墳１基・円墳５基が確認されている。（内田ヶ谷中郷）遺跡で勾玉や埴輪片、（前）遺跡の埴輪片や隣接する（中宿）遺跡の切子玉・さらにその周辺で出土したと伝えられる石棺部材（町内の玉敷神社所在）等からこれらの地域にも古墳が所在していたものと考えられる。また、集落は前期の住居跡が小沼耕地遺跡・（中宿）遺跡、中期の住居跡が萩原遺跡、後期の住居跡は萩原遺跡・（道上）遺跡・（中宿）遺跡で確認されており、なかでも萩原遺跡は町内屈指の集落遺跡である。そのほかにも古墳時代の土師器が中種足五番遺跡・観音堂遺跡から出土し集落の所在を予想させる。他に古墳時代前期の方形周溝墓が修理山遺跡・小沼耕地遺跡で確認されている。

以上のように現在遺跡が確認されている台地には古墳及び集落がそれぞれ所在するものと考えられる。

※町史の上種足三番遺跡を含む

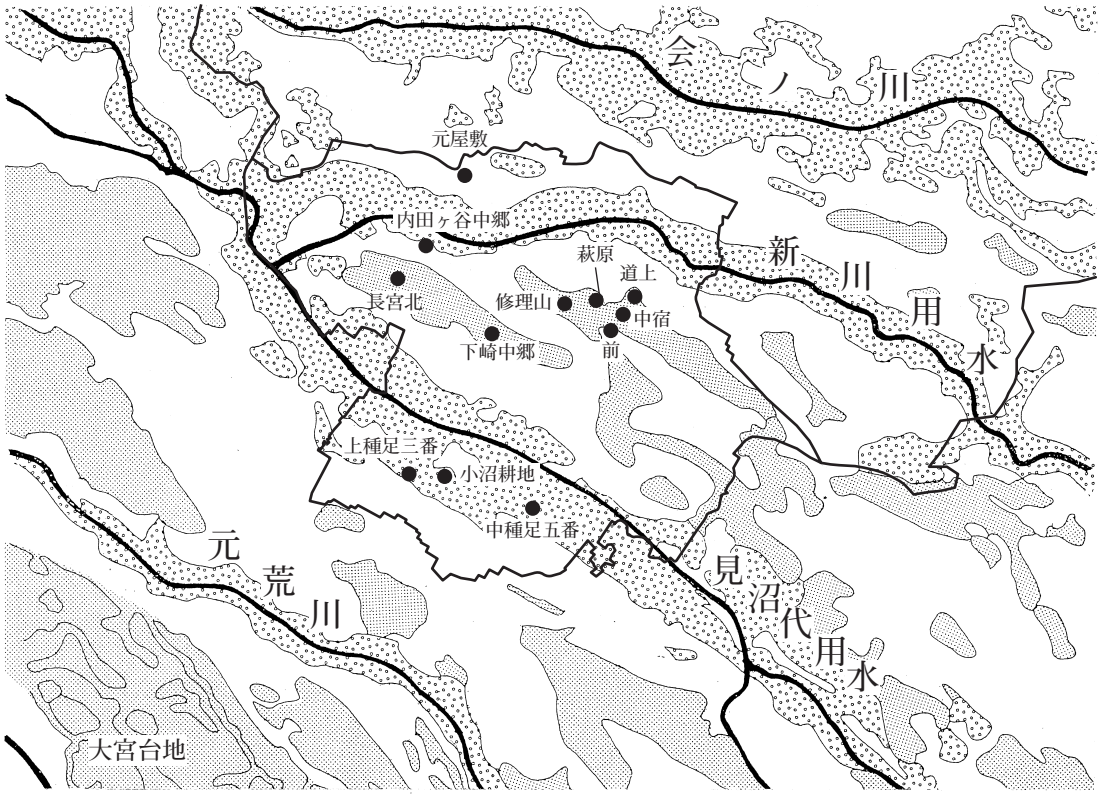
５　奈良・平安時代

住居跡が確認されているのは（道上）遺跡・上種足三番遺跡で８世紀代のものである。下崎中郷遺跡では湖西産とみられる須恵器が、観音堂・中種足五番遺跡で須恵器や土師器が、（中宿）遺跡では小金銅仏が出土している。元屋敷遺跡では墨書土器や瓦が出土している。

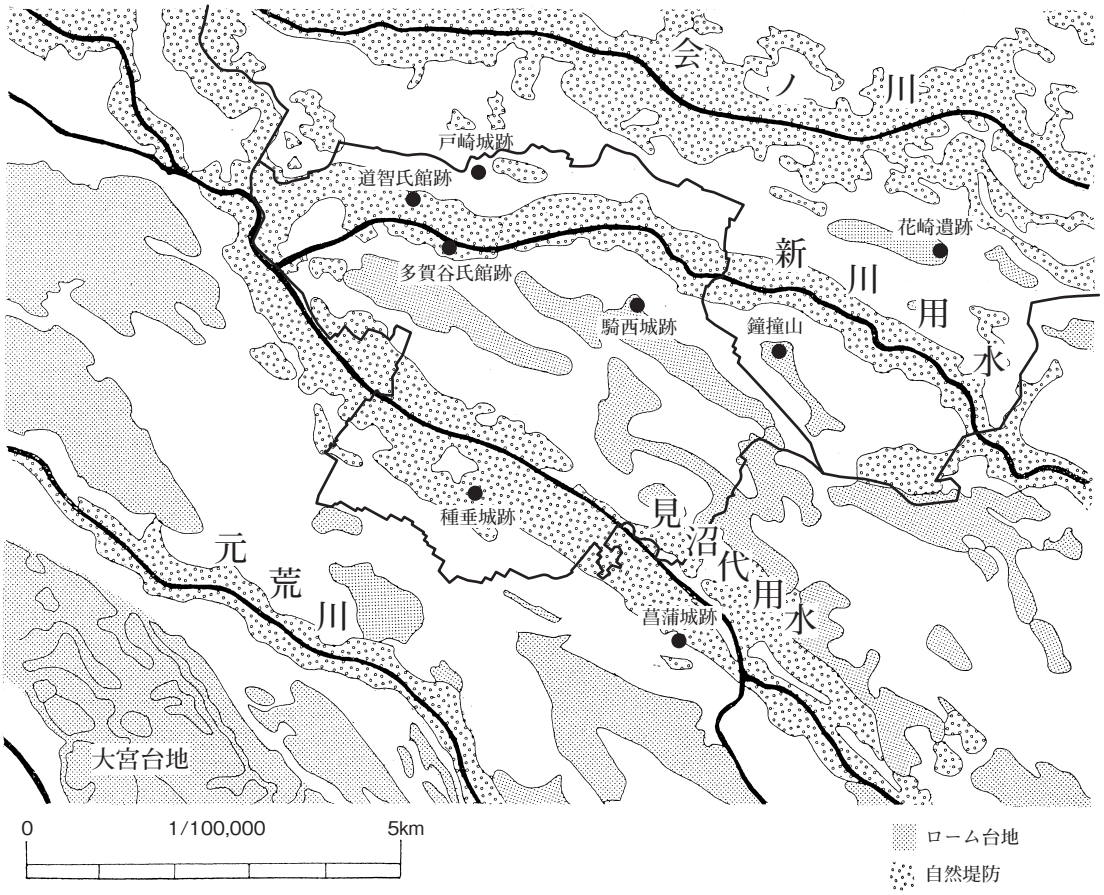
６　中近世

騎西地域内には平安末から鎌倉時代にかけて武蔵武士野与党の道智氏・多賀谷氏が館を構えたといわれる。

多賀谷氏館跡は内田ヶ谷の大福寺を中心にあったものと思われ、建久元年（1190）多加谷小三郎が源頼朝の上洛の随兵を、建長３年（1251）多賀谷弥五郎重茂が鎌倉由比ヶ浜での御弓始の射手を務めている『吾妻鏡』。永享年間（1429－41）初め頃に結城



第２図　周辺の微地形分類と縄文・古墳時代遺跡



第３図　周辺の主な縄文・古墳時代遺跡

に移ったといわれる多賀谷光義は敬神の念厚く郭内に稲荷明神を勧請した『多賀谷旧記』。発掘調査では館跡の東端で、溝から12～14世紀の同安龍泉窯系青磁碗・常滑広口壺が出土しており、ほぼ中央大福寺の北で、土壙から12～13世紀の同安龍泉窯系青磁とともに刀身先端や鉄鏃が出土している。

道智氏館跡は、道地の成就院周辺で建久元年（1190）道智次郎が源頼朝の上洛の随兵を、承久３年（1221）の宇治橋の合戦では道智三郎太郎が討ち死にしている『吾妻鏡』。発掘調査では館跡のほぼ中央で13～14世紀の龍泉窯系青磁が、西端で12～13世紀の龍泉窯系青磁などが出土している。

種垂城跡は、上種足種垂城址公園から東へ広がり百石・シロンチ（城の内？）等の地名が残る。『雲祥寺縁起』には騎西城主小田顕家が養子の助三郎（忍城主成田親泰の子）に家督を譲り種垂村に隠居したという。発掘調査では、溝・井戸・土壙・火葬跡を検出し、漆椀・小柄や13～17世紀の陶磁器類が出土している。

隣接する**上種足三番遺跡**（現小沼耕地遺跡）では、溝・土壙・井戸・集石墓が検出されており、12世紀の白磁水注・13世紀の龍泉窯系青磁・常滑甕・在地の蔵骨器・篦状木製品が出土している。

小沼耕地遺跡では県埋蔵文化財調査事業団の調査で、掘立柱建物跡・基壇状遺構・溝・井戸などが検出され、12～13世紀を主体とする陶磁器類が出土している。種足は、中世前半の弘安10年頃（1287）伊賀光清が所領としており、また応永24年（1417）に日英上人が種垂の講演御堂（布教道場）等の講演職を弟子に任せている。三番・小沼耕地遺跡の成果はそれらに関わるものとも思われる。

やや南よりの中種足五番遺跡では12～13世紀の龍泉窯系の青磁や15～16世紀の染付、13～17世紀の古瀬戸・常滑・在地の陶磁器類が出土している。

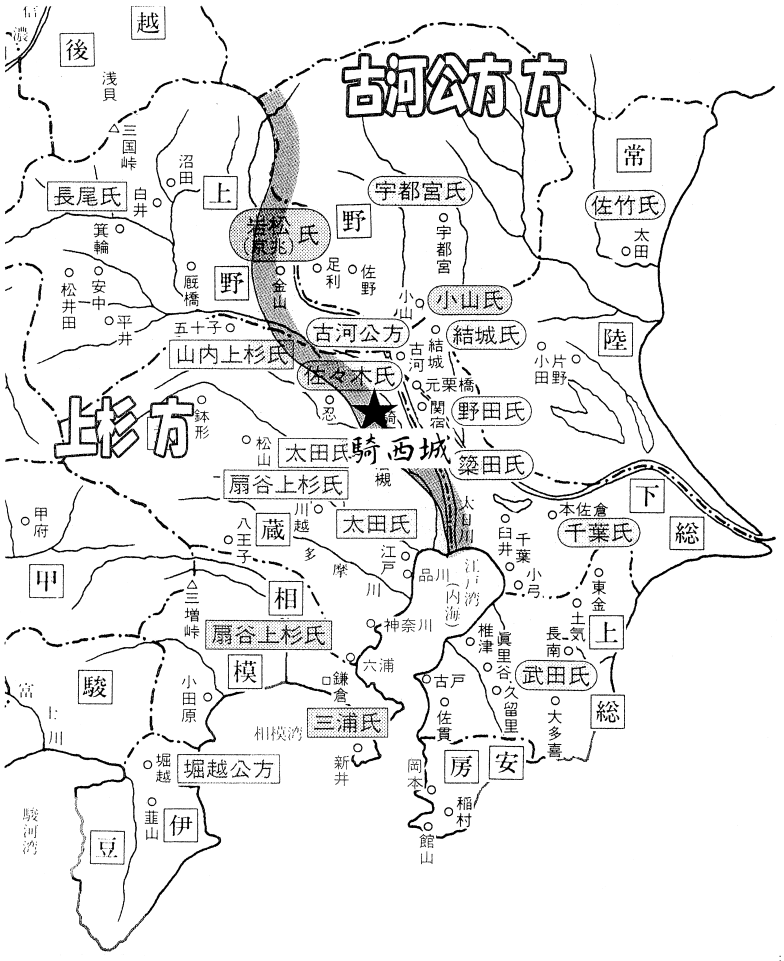
戸崎城跡は『新編武蔵風土記稿』に戸崎右馬允の居跡なりとの記載がある。また『吾妻鏡』には戸崎右馬允国延が寿永３年（1184）源頼朝の御前の射手となるとある。発掘調査では土塁跡や13世紀の鉢や17・18世紀の陶磁器類が出土している。

騎西城跡（年表参照）は文献や江戸初期の『武州騎西之絵図』など城の絵図が遺る。遺構は現在土塁跡が僅かに残るだけであるが、昭和55年から80次を超えて発掘調査されており、主に土地区画整理に伴い城郭部や武家屋敷跡西部の成果が顕著である。これまでに溝400条・土壙1600基・井戸状遺構200基・障子堀５ヶ所・橋跡４ヶ所が確認されている。遺物は戦場及び生活の場として武器武具・生活・生業・信仰・流通に関する多様なものが出土している。特に水位が高いことから木製品の遺存がよい。武器武具では、兜・前立・刀装品・鉄鏃・火縄挟み・弾丸・馬甲・轡・四方手・野沓・腰刀・薙鎌など、生活品では、下駄・鏡・竪杵・鉄鍋・桶・漆椀・杓子・折敷・火打金・天目茶碗・湯釜・将棋の駒など、生業では、砥石・紡錘車・鋏・溶解炉・鋳型・坩堝・金粒付着土器など、信仰では護符・呪符・舟形・位牌・銅鋺・数珠など、流通では金・袋入り銭貨・荷札などがある。年代を計れる陶磁器は12世紀から19世紀にかけてのもので、主体は16～17世紀前半である。瀬戸美濃をはじめ中国染付・唐津・志戸呂・初山・在地産かわらけ・ほうろく・擂鉢などがある。

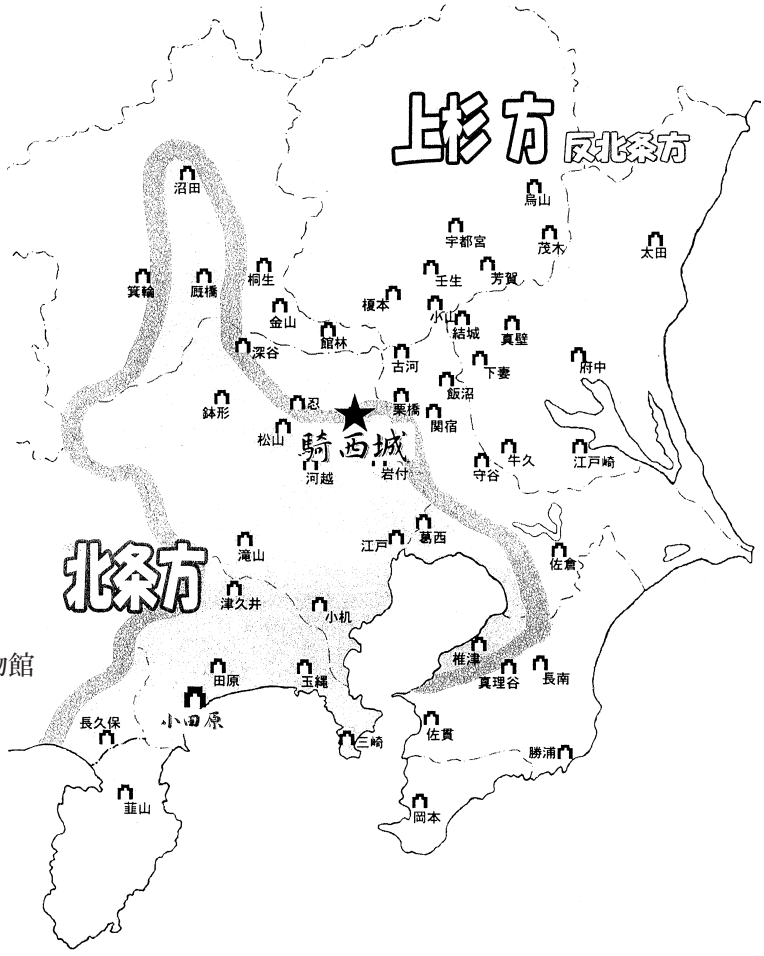
このほかに、日出安の保寧寺中世墓址では、大量の川原石や板碑、12～14世紀の常滑の甕・壺、13世紀の布目瓦が出土している。墓域の成立は中世前半に遡るものか。また、下崎の道南遺跡で工事の際1978枚の北宋銭が出土している。

騎西城周辺年表

康正元年（1455）	足利成氏、崎西郡（騎西城）に集結する上杉勢（上杉・庁鼻和など）を攻略する
文正元年（1466）	足利成氏、南多賀谷（田ヶ谷）と北根原（鴻巣市）で上杉勢と合戦に及ぶ
応仁元年（1467）	★応仁の乱
文明３年（1471）	上杉方に対峙する足利成氏の戦略配置に私市（騎西）の佐々木氏あり
文亀２年（1502）	騎西城主小田顕家、上会下（鴻巣市）・雲祥寺を復興。忍城（行田市）主成田長泰の子助三郎家時を娘婿とし騎西城を譲り、自らは種足村に隠居する
天文８年（1539）	騎西城主小田顕家没、雲祥寺に葬られる
天文12年（1543）	★鉄砲伝来
永禄３年（1560）	長尾景虎（上杉謙信）関東の北条方諸城を攻略。騎西城主小田助三郎、兄の忍城主成田長泰と共に景虎の小田原攻めに参加する
永禄４年（1561）	長泰、鶴岡八幡宮で上杉政虎（謙信）に辱めを受け、北条方となる。助三郎も同様
永禄６年（1563）	北条氏康・武田信玄連合軍が松山城（吉見町）を攻略。報復に上杉輝虎（謙信）、騎西城を攻略
永禄12年（1569）	上杉と北条の講和成立（越相同盟）。上杉方は武蔵北部を支配
天正２年（1574）	上杉謙信、羽生・関宿城を救援。騎西・古河・栗橋・館林・菖蒲・岩槻城を焼き払う
天正３年（1575）	小田大炊頭、古河公方への年頭の挨拶を行う
天正４年（1576）	騎西城主成田泰喬、家臣に知行を行う
天正６年（1578）	小田大炊頭、足利義氏に年頭の挨拶。謙信没
天正18年（1590）	★徳川家康、関東へ入国。松平康重に騎西城２万石を与える
天正19年（1591）	松平康重大英寺を開基、日出安・保寧寺に田畑１町歩を寄進する
慶長元年（1596）	康重、朝鮮出兵のため騎西領民を召し連れる。根古屋・金剛院、日出安から移転する
慶長４年（1599）	松平康重の奥方、城内にて死去、大英寺に葬る
慶長５年（1600）	★関ヶ原の戦い
慶長７年（1602）	大久保忠常、騎西城２万石を拝領する
慶長８年（1603）	★徳川家康、江戸に幕府を開く
慶長11年（1606）	騎西藩の家臣、領内（正能村）を検地する
慶長16年（1611）	忠常病死。子の忠職、父の遺領騎西城２万石を拝領する
慶長19年（1614）	大久保忠隣改易となり小田原・羽生城を没収、騎西城主忠職は閉門に処せられる
寛永４年（1627）	大久保忠職、久伊豆大明神に社領を寄進する
寛永９年（1632）	騎西城廃され、代官所置かれる



享徳の乱初期の関東
(1454 ～)



氏康 × 謙信の頃の関東
(永禄～天正年間)

『古河公方展』古河歴史博物館
『中世・下町再発見』葛飾郷土と天文の博物館
掲載の図を改変

第４図　騎西城を取り巻く勢力図

騎西城周辺の歴史的経過（年表・第４図参照）

当遺跡では濃密ではないが中世を通して遺物が出土している。12世紀代の常滑甕・舶載白磁、渥美製品、また古瀬戸陶器等が見られる。騎西城以前にも集落・館等が存在していたようである。

【享徳の乱】

文献では騎西城は、康正元年（1455）に初出し寛永９年（1632）年廃城となる。享徳の乱では、関東公方足利成氏が古河に移り、関東管領上杉氏と対峙する。その争いの中に崎西郡を舞台として争う場面がある。これが騎西城とされる。残念ながら現在のところ当該期に相当する遺構は確認されていない。だがこの時期に騎西城の前線基地としての重要性は格段に高まり、戦闘の拠点としての城の整備がされたものと思われる。関東管領家臣の太田道灌が岩付城・河越城・江戸城の防衛ラインを張ったとき騎西城はすでに古河方の足場として機能していたのではないだろうか。

【永禄・天正期の軍事的緊張】

また、永禄から天正年間にかけての後北条氏対上杉謙信の覇権争いにおいても境の城であった。騎西城は何度となく厳しい立場に追い込まれている。特に謙信が関東の足掛かりとした羽生城を間近にしており、２度の戦火を被っている。

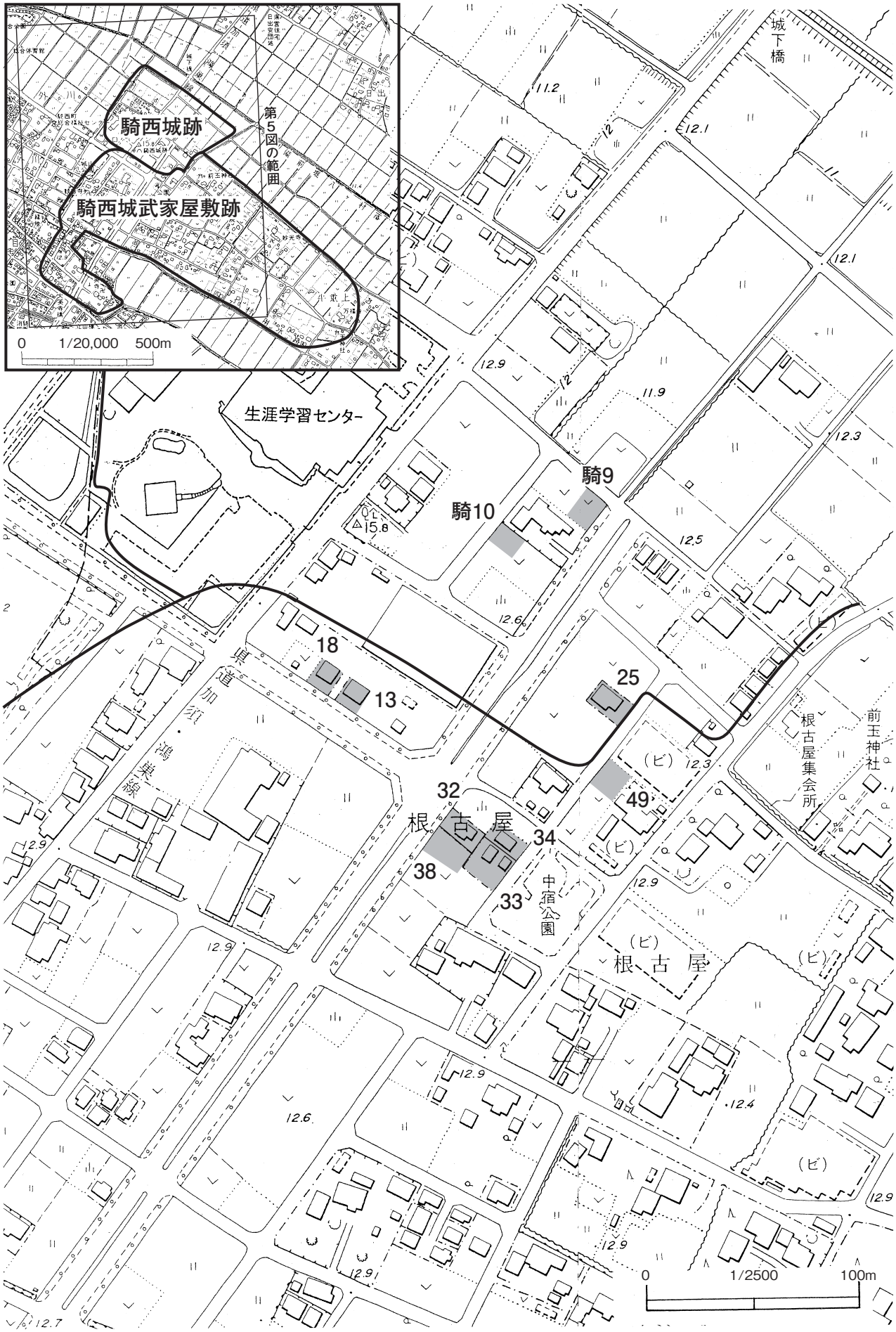
文献では、永禄６年、北条氏康・武田信玄が松山城を包囲したが、その救援に間に合わなかった謙信は攻める方向を転じ騎西城を陥落したとされる。その後、謙信は武田信玄との敵対関係から後北条氏との和睦（越相同盟）を成し、しばし平安であった。しかし北条氏康没後、甲相同盟の復活により再び北条・上杉の合戦が再開された。天正２年には謙信が羽生・関宿城援護のため出陣し、古河・栗橋・菖蒲・岩槻城とともに騎西城を焼き討ちにしている。

当該期の遺物・遺構は豊富で、城郭部周辺の障子堀（KB15区・騎13次）から炭化物・遺物が多量に出土している。これらはこの頃の戦火に伴う戦後処理のものと思われる。

【秀吉の小田原攻めと家康の関東入封】

豊臣秀吉が小田原城を攻めたとき、忍城も石田三成に水攻めを受けている。騎西城も備えとして城の拡張・改良を行なったものと思われる。特に城郭部を巡る障子堀を二重にしたり、堀幅を広くしたのはこの時期の可能性がある。

その後家康が関東に入り、騎西城には松平康重、大久保忠常・忠職が藩主となっている。その際に城郭部の縮小や城下の再編成を行なったものと思われる。実際『武州騎西之絵図』に載る御蔵屋舗には外側に障子堀を備え、戦乱時は城郭部であったことを物語っている。


騎西城跡
騎西城武家屋敷跡
第5図の範囲
0 1/20,000 500m
生涯学習センター
城下橋
騎9
騎10
18
13
25
32
34
33
38
49
根古屋
中宿公園
根古屋集会所
前玉神社
県道 加須・鴻巣線
0 1/2500 100m

第５図　各調査区の位置

第Ⅱ章　騎武第13次調査

第１節　調査の概要

（調査に至る経過）

平成元年８月９日、開発者及川正則氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋202－４における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、教育総務課主事嶋村英之が担当した。

（調査協力員）

石井寿美子　石井のゑ　栗原政子　田口島蔵
吉田美津

（文化庁通知）元委保記第５－6406号
平成２年５月21日

（調査期間）　平成元年11月27日～
平成２年１月９日

（調査面積）　112.5㎡

（調査の経過）

建設予定地に10m×12m の調査区を設定し、人力により表土を掘り下げた。その際土層の堆積状況を確認するため、先行して西側をトレンチ状に掘り下げた。南西隅は電柱埋設箇所に近いため調査対象外とした。南側は土層確認のためベルトをローム面まで方眼に残して調査をした。ローム面を確認面として溝・土壙・井戸などの調査を行った。北端に検出した１・２号溝調査完了後、重複する６号溝を調査した調査地点は比較的高く降雨等がなかったため、排水の為の側溝は不要であった。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

基準杭の標高は KB14区に所在する基準点から計測し使用した。

（周辺の調査）

騎武第18次調査区に隣接する。18次では１号溝とつながる。他に溝が２条・井戸が１基・土壙が11基検出された。また、KB13区が南に接しており、ピットが多数確認されている。

第２節　遺構と遺物

【溝】北側に３条東西方向に走行し、南側に３条ありうち２条は調査区に対し斜めに走行する。１・６号溝にローム層の２次堆積がある。（第６・７図）

１号溝　幅76cm で、覆土上層にロームが厚さ30cm に２次堆積している。

２号溝　１号溝に並行し、幅90cm と同規模である。かわらけ等出土。

３・４号溝　走行軸は他の溝や・土壙と異にする。

６号溝　18次のものとつながり、堀と並行する。上位と中位にロームの２次堆積がある。かわらけ（６）出土。

【井戸状遺構】３基を数え北東西寄りに位置する。

１号井戸　湧水無し。井戸として機能していたものか？直径80cm 深さ106cm を計る。

２号井戸　覆土にロームの２次堆積あり。

【土壙】　12基検出した。長方形のものが多く９基、他に楕円形２基、方形１基がある。

４号土壙　平面不整形。覆土は炭化物層で粉状の白色土（骨？）が中央に集中する。板碑片（10）出土。

５号土壙　平面楕円形で、覆土は炭化物層である。

14号土壙　平面楕円形で、94cm×60cm を計る。

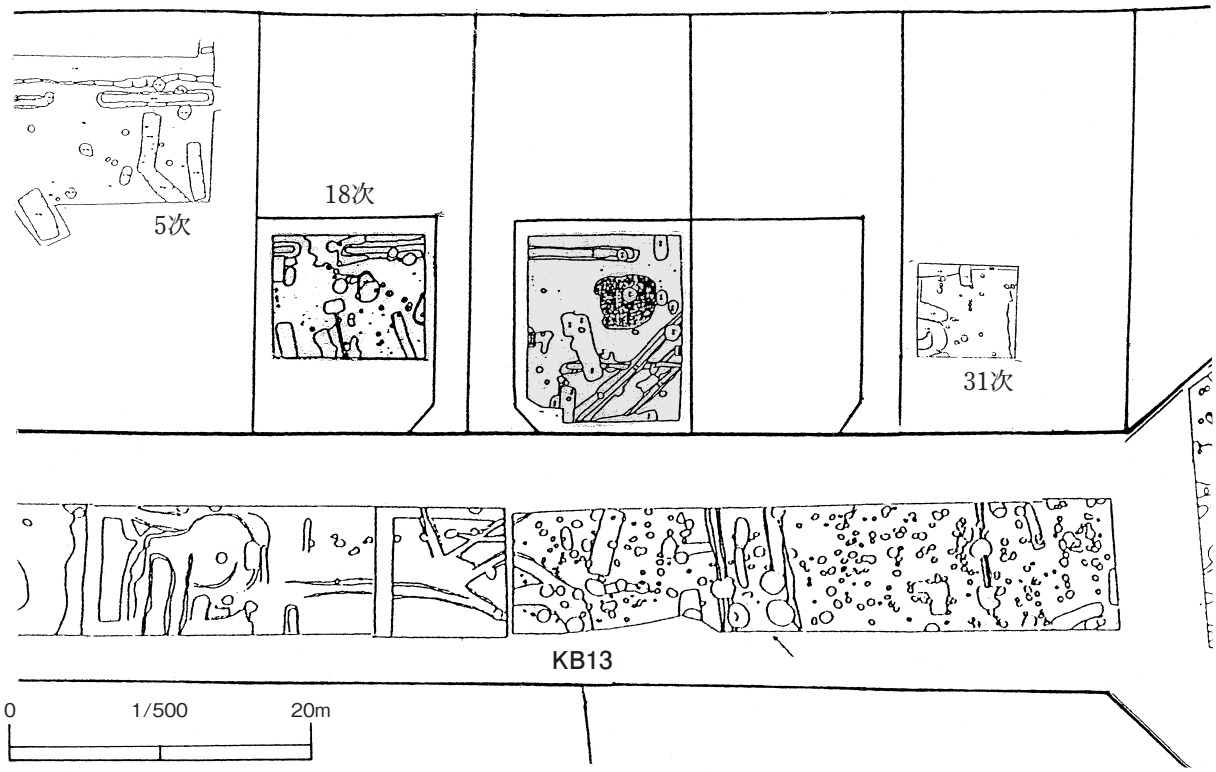
【遺構外出土遺物】

陶磁器では、同安窯系青磁（11）・瀬戸美濃天目碗（13・14）志野丸皿（16）や唐津皿（18）がある。

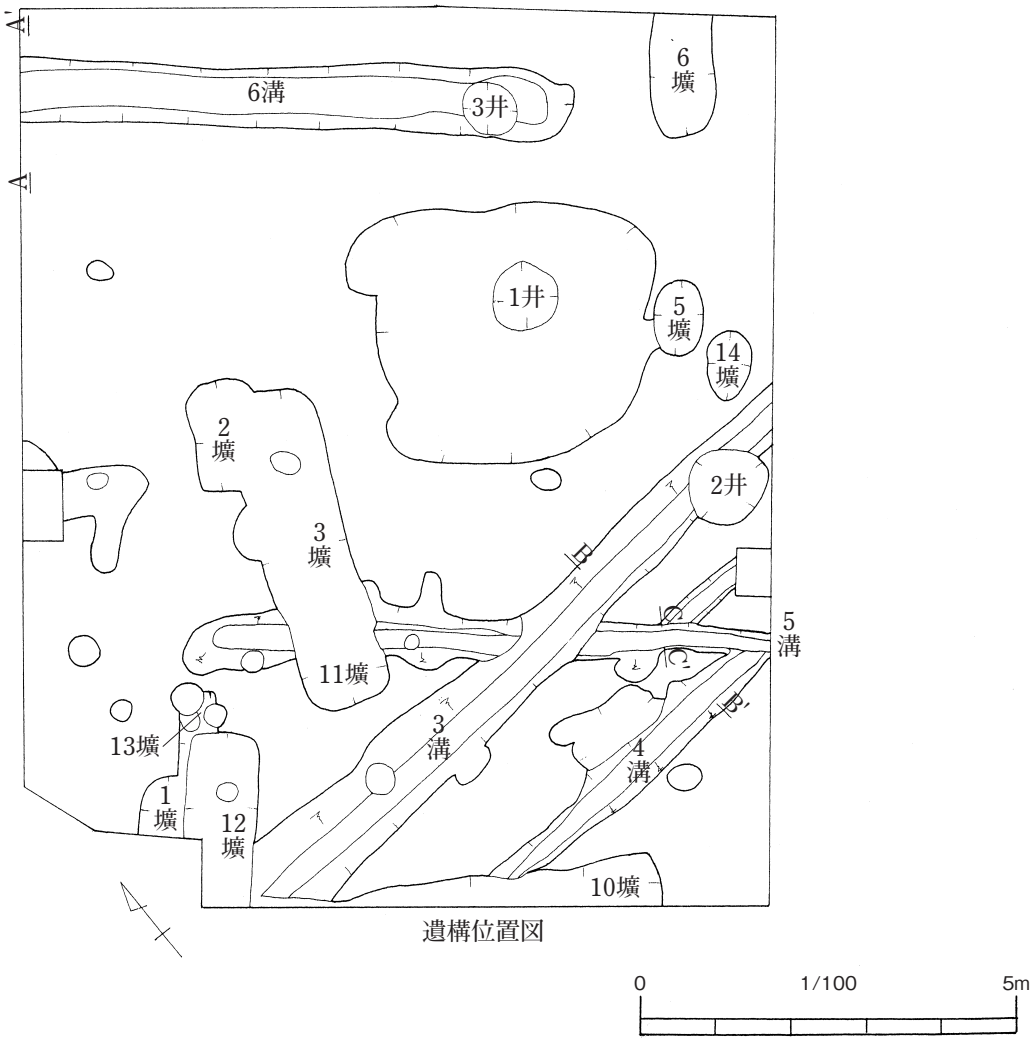
在地では16世紀代と思われるかわらけ（19・20）やほうろく・擂鉢（28）がある。32はスラグが付着し坩堝と思われる。

石製品では石臼・板碑片があり39・40の板碑は摩耗痕があり砥石として使用された。

他に桃の種７点・骨粉・スラグ84g がある。近代の製糸関連の集緒器（44）は珍しい。縄文土器は加曽利Ｅから安行式の破片（45～59）で、磨石（61）もある。

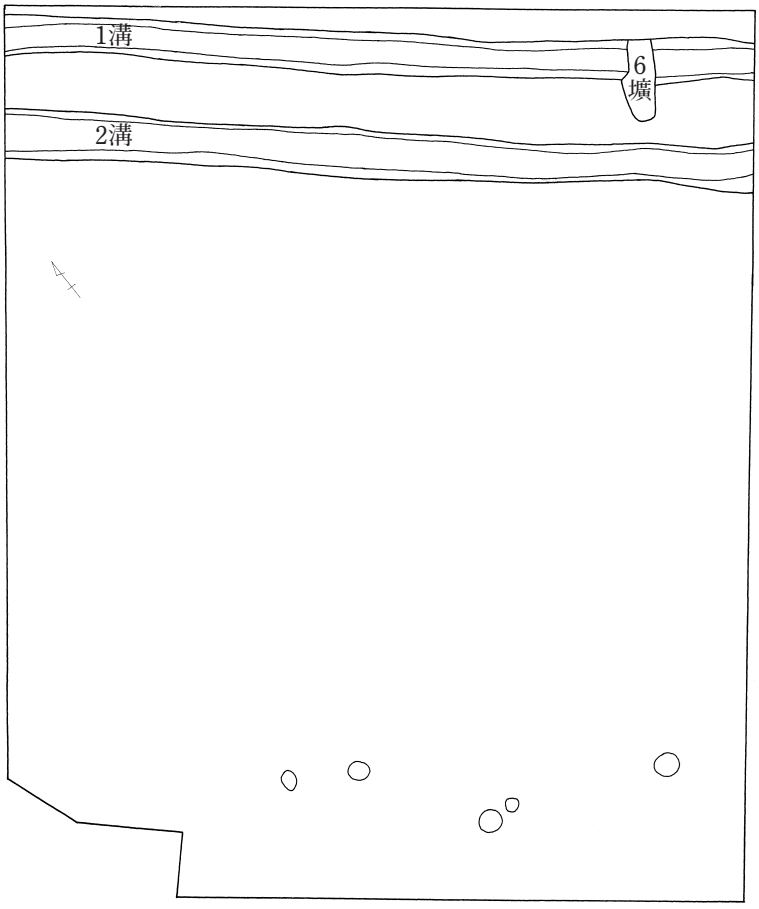


周辺の調査



遺構位置図

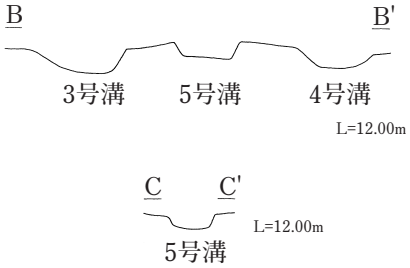
第６図　騎武第13次周辺と遺構位置図

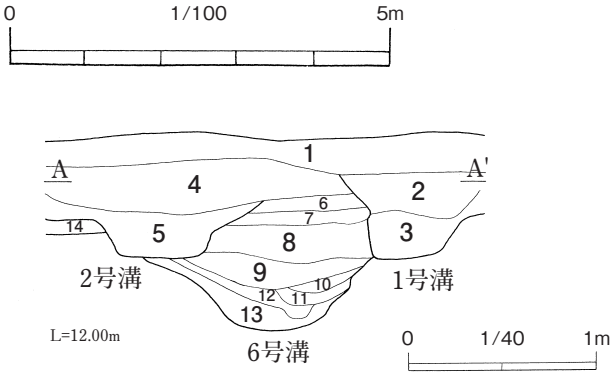


1･2号溝完掘図

土層説明凡例
色調／含有物
テフラ＝T
ローム＝L
炭化物＝C
焼土＝S
酸化鉄＝FE
黒褐色＝BB
黒色＝B
褐色＝Br
粒子＝R
ブロック＝B

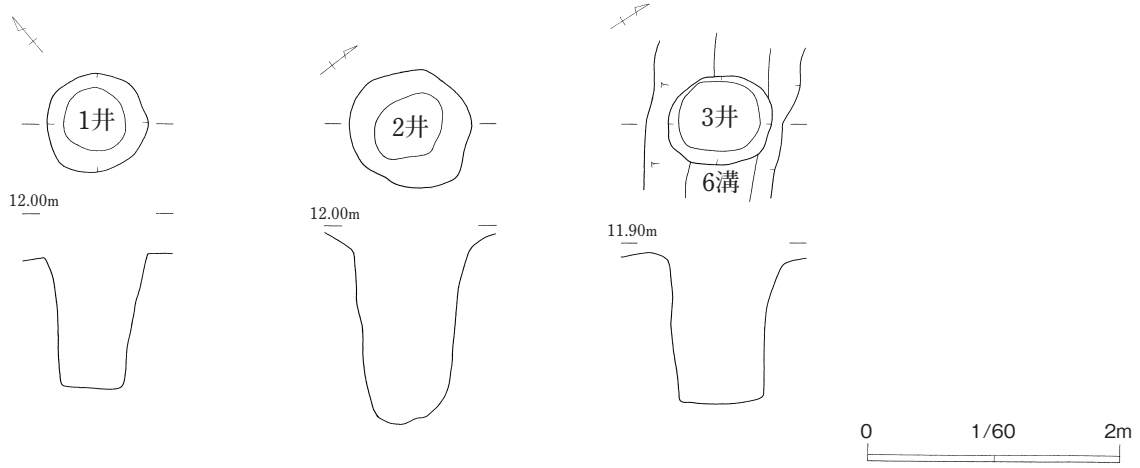
非常に多い＝☆
多量＝◎
少量＝△
微量＝▲
万遍なく＝アンダーライン
やや明るい＝やや明
やや暗い＝やや暗
非常にやわらかい＝軟度高
やわらかい＝軟質
ややわらかい＝軟度低
かたい＝堅緻
締まり良し＝締良
締まり悪し＝締悪
粘性強し＝粘強
粘性有り＝粘有



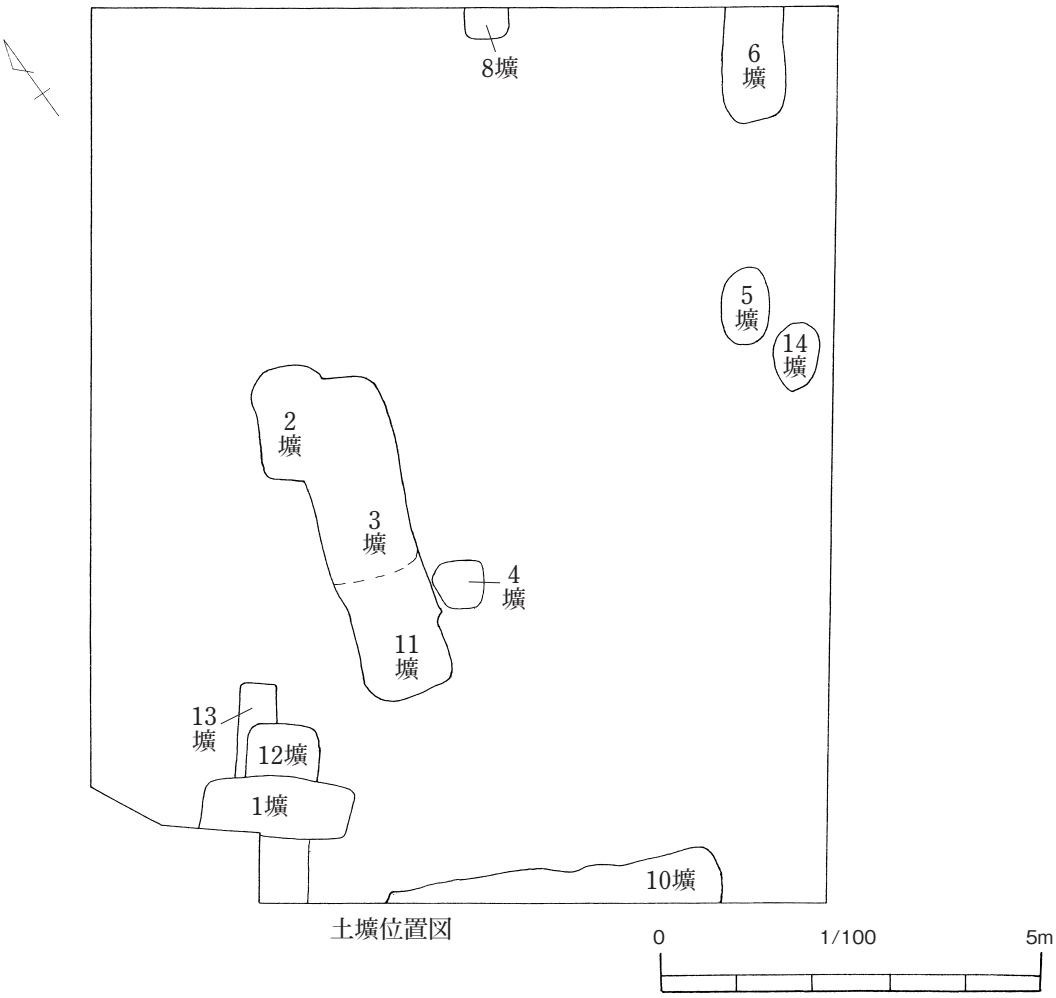


１溝２溝６溝西壁セクション

1　耕作土+盛土
2　黄茶褐色土／L（ハード）微細な粒子の２次堆積　締良
3　暗灰褐色土／LB、LR、CR△、SR▲　締良
4　暗横褐色土／LB、LR☆、CR▲　締やや悪
5　暗灰褐色土／LB、LR、CR、SR△　締良
6　暗灰褐色土／LB、LR、CR△　締良
7　暗灰褐色土（灰色味強い）／LR、CR　締良
8　黄茶褐色土／L（ハード）微細な粒子の２次堆積
9　暗灰褐色土／LB、LR　FE　締良
10　黄褐色土／L（ハード）微細な粒子の２次堆積　締良
11　灰色土／FE　締良
12　黄褐色土／L（ハード）の２次堆積　締良
13　灰色土／LR、C、FE　締良
14　暗灰褐色土／LR、CR△　締良



第７図　騎武第13次遺構１

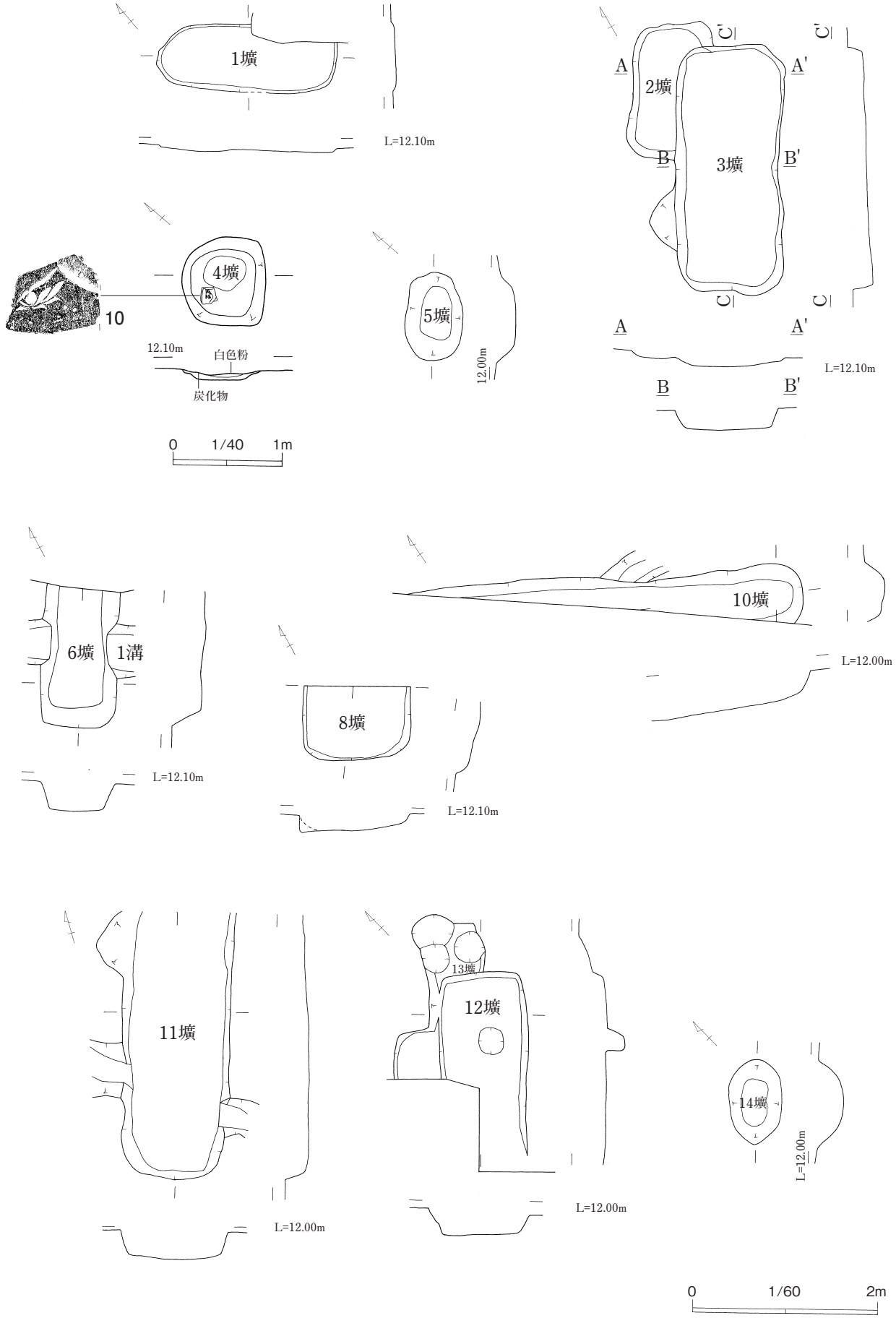


第８図　騎武第13次遺構２

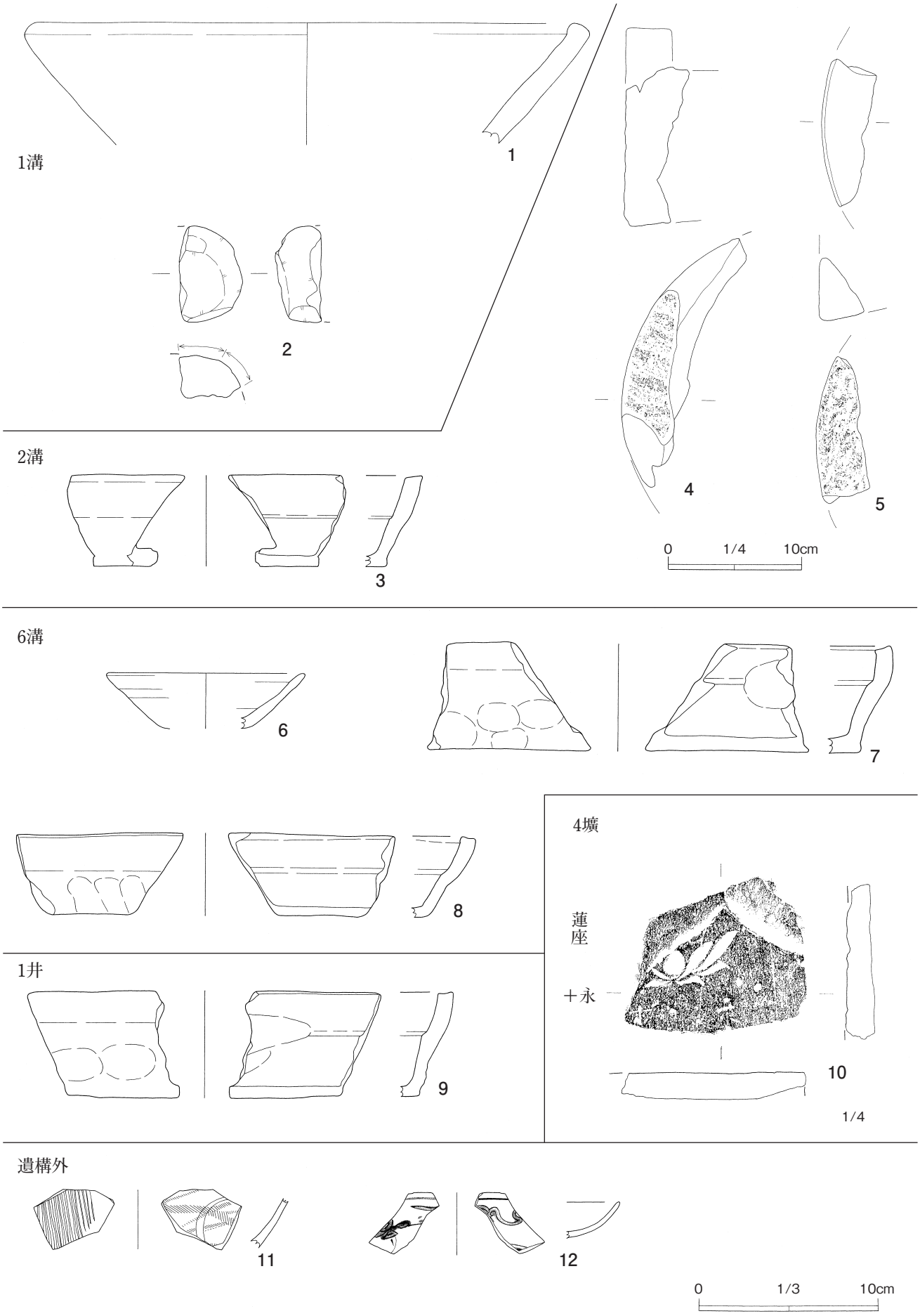
（　　）は残存値、☆はセクション図計測値　　○は当該遺構　　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模（cm）	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	6溝、6壙→○→8壙？	直線	直上	幅☆76	☆44	暗灰褐色	瀬美(鉄絵皿＝17c 前)/在地(捏鉢、擂鉢)/かわらけ/焙烙/磨石	17c 前	L2次堆積
2号溝	6溝→○	直線	直上	幅☆90	☆30	暗灰褐色	かわらけ/焙烙/粉挽臼(上臼)		
3号溝	2井？→○→5溝	直線	ほぼ直上	幅74	20	暗灰褐色	在地擂鉢		
4号溝	5溝	直線	ほぼ直上	幅60	4	暗灰褐色			
5号溝	3溝→○/4溝、3井	直線	ほぼ直上	幅36	12	暗灰色	焙烙		
6号溝	○→1･2溝	直線	箱薬研	幅☆(125)	☆70	暗灰褐色	在地擂鉢/焙烙/かわらけ＝15c 中～16c 前	15c 中～	L2次堆積2枚
1号井戸	攪乱	円形	ほぼ直上	80	☆106	暗灰褐色	焙烙		井戸か
2号井戸	○→3溝？	円形	ほぼ直上	100×90	150	暗灰褐色			L2次堆積
3号井戸	○→6溝？	円形	直上	85×70	120	不明			
1号土壙	12･13壙→○	隅丸長方形	ゆるやか	194×74	☆14	暗灰褐色			
2号土壙	3壙→○	長方形	直上	150×84	10	暗灰褐色			
3号土壙	11壙→○→2壙	長方形	ほぼ直上	276×120	20	暗灰褐色			
4号土壙	なし	不整方形	ゆるやか	65×60	8	C 層、白色粉	板碑		火葬骨埋納か
5号土壙	なし	楕円形	ほぼ直上	98×62	22	C 層			
6号土壙	○→1溝	長方形	ほぼ直上	(157)×82	34	暗灰褐色			
7号土壙	欠番								
8号土壙	1溝？→○	長方形？	ほぼ直上	58×(40)	10	不明			
9号土壙	欠番								
10号土壙	4溝	長方形	ほぼ直上	(430)×(64)	35	暗灰褐色			
11号土壙	○→3壙	長方形	ほぼ直上	(296)×116	26	不明	在地擂鉢/かわらけ/土鍋		
12号土壙	○→1壙	長方形	ほぼ直上	(196)×96	27	不明			
13号土壙	○→1壙	長方形？	不明	(78)×64	15	不明			
14号土壙	なし	楕円形	ほぼ直上	94×60	28	不明			

第１表　騎武第13次遺構一覧表

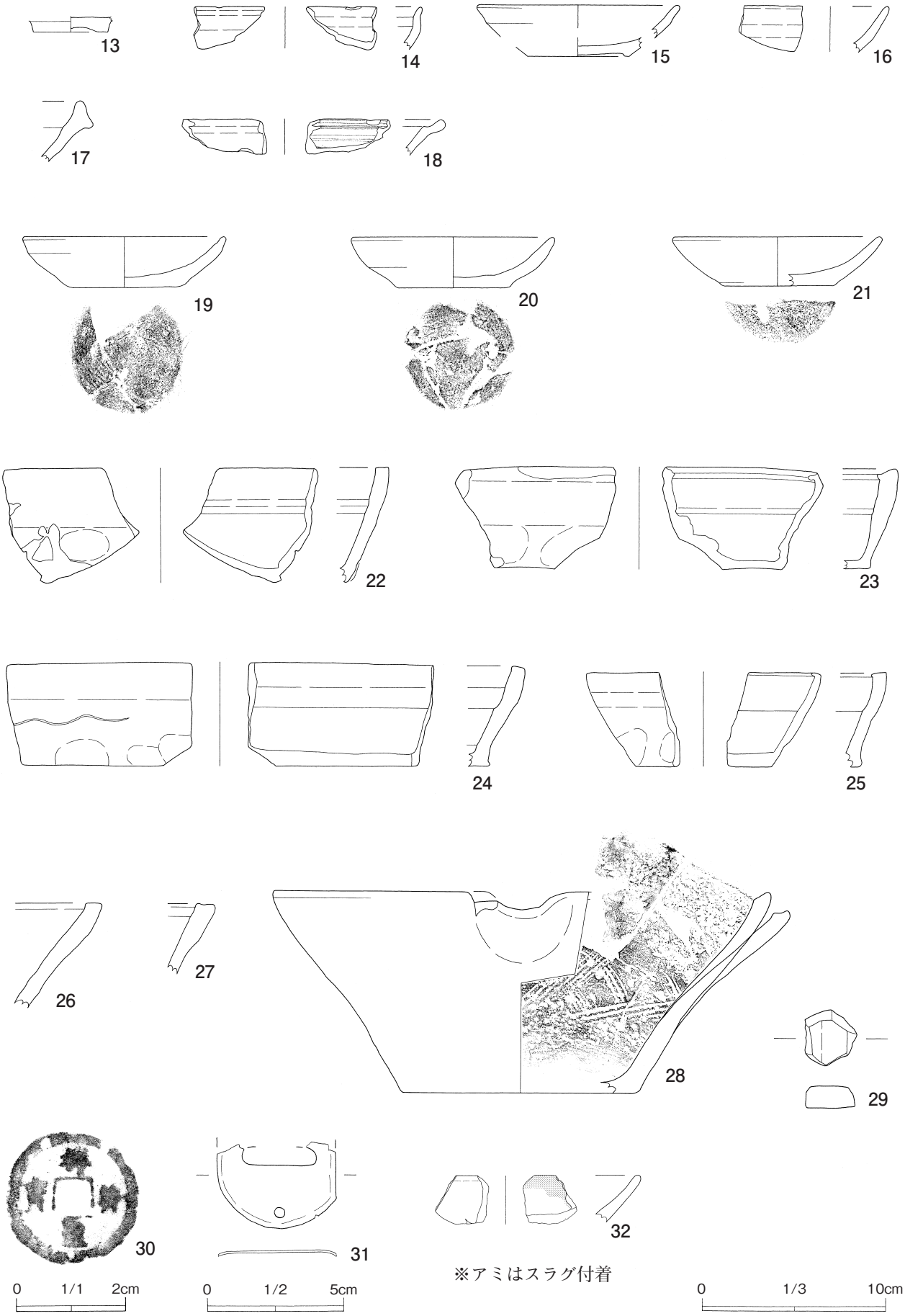


第９図　騎武第13次遺構３



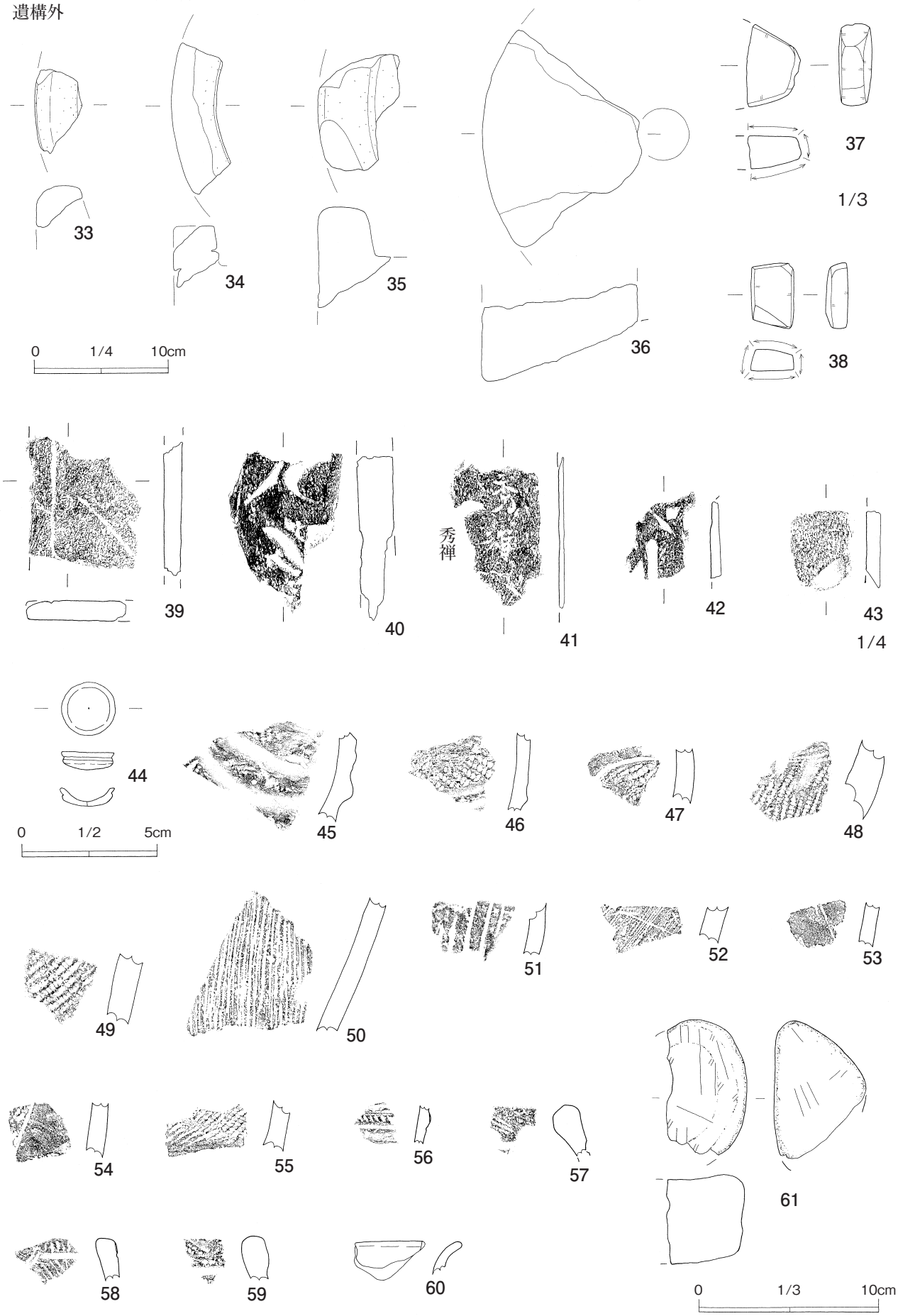
第10図　騎武第13次遺物１

遺構外



第11図　騎武第13次遺物２

遺構外



第12図　騎武第13次遺物３

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	形式等	年代	遺物ID	備考
1	捏鉢	在地	1溝No.3	＊31.7	—	—			町鉢288	
2	磨石	デイサイト	1溝	5.3	(3.5)	(2.5)			石08	
3	ほうろく	在地	2溝No.3、一括	—	—	5.1			H07	
4	粉挽臼(上臼)	石(安山岩)	2溝No.？	—	(3.5)	(4.7)			石01	
5	粉挽臼(上臼)	石(普通輝石安山岩)	2溝No.7、No.34・46	—	(4.8)	(11.7)			石05	
6	かわらけ	在地	6溝	＊11.0	—	—	騎西城Ⅰ期	15c 中～16c 前	K04	
7	ほうろく	在地	6溝	—	—	6.0			H03	
8	ほうろく	在地	6溝	—	—	4.6			H04	
9	ほうろく	在地	1井	—	—	6.0			H06	
10	板碑	石(緑泥片岩)	4壙No.1	(13.0)	(14.1)	2.0			0013－0001	
11	青磁碗	同安窯系中国	No.16	—	—	—	A	12c 中～13c 末	青01	
12	染付皿	中国	一括	—	—	—	E	16c 中～17c 初	染01	
13	天目	瀬戸美濃	一括	—	4.0	—	古後Ⅳ(新)		天02	
14	天目	瀬戸美濃	一括	—	—	—	大3		天01	
15	丸皿	瀬戸美濃	一括、溝	—	＊5.5	—	大3		皿01	
16	志野丸皿	瀬戸美濃	一括	—	—	—	登1・2		皿02	
17	擂鉢	瀬戸美濃	一括	—	—	—	大3前		鉢01	
18	折縁皿	肥前(唐津)	一括	—	—	—		17c 中～末	皿03	
19	かわらけ	在地	No.12・27、一括	11.0	6.0	2.8		◇16c	K02	60％残
20	かわらけ	在地	No.13	11.0	6.0	2.8		◇16c	K01	60％残
21	かわらけ	在地	No.17、一括	＊11.4	＊6.0	2.7			K03	
22	ほうろく	在地	No.14	—	—	—			H08	
23	ほうろく	在地	No.27	—	—	5.5			H05	
24	ほうろく	在地	No.57	—	—	5.5～5.6			H01	
25	ほうろく	在地	一括	—	—	5.1			H02	
26	擂鉢	在地	No.11	—	—	—			鉢03	
27	擂鉢	在地	No.20	—	—	—			鉢02	
28	擂鉢	在地	No.4・18・36・39・42・43・61・64、一括	＊27.0	＊13.0	11.0			鉢04	40％残
29	土製円盤	在地	溝	2.7	—	1.2			つぶて石1	
30	銭貨(祥符通宝)	銅	No.15	2.4	—	—			0013－0001	
31	円板状製品	銅	No.38	4.3	(3.2)	0.1			0013－0001	
32	かわらけ(坩堝？)	在地	一括	—	—	—			鋳01	金色粒付着
33	粉挽臼(上臼)	石(安山岩)	No.30	—	(3.5)	(3.1)			石03	
34	粉挽臼(上臼)	石(安山岩)	No.37	—	(3.3)	(4.6)			石02	
35	粉挽臼(上臼)	石(普通輝石安山岩)	No.？	—	(6.0)	(7.5)			石04	
36	粉挽臼(下臼)	石(角閃石安山岩)	No.14	—	(11.5)	(5.5)			石06	
37	磨石	石(デイサイト)	一括	(2.8)	4.5	1.8			石07	
38	磨石	石(デイサイト)	一括	3.6	2.4	1.2			石09	
39	板碑	石(緑泥片岩)	No.15？	(10.2)	(8.5)	0.9			0013－0002	表裏磨痕
40	板碑	石(緑泥片岩)	No.22	(12.6)	(10.8)	2.6			0013－0003	表面磨痕
41	板碑	石(緑泥片岩)	No.29	(11.3)	(6.5)	(0.4)			0013－0004	
42	板碑	石(緑泥片岩)	No.52	(7.1)	(6.6)	(0.7)			0013－0005	
43	板碑	石(緑泥片岩)	一括	(5.8)	(5.1)	(1.0)			0013－0006	
44	集緒器		一括	2.0	—	0.7			0013－0001	
45	縄文土器	土器	No.24	—	—	—	加曽利E			
46	縄文土器	土器	No.35	—	—	—	加曽利E			
47	縄文土器	土器	一括	—	—	—	加曽利E			
48	縄文土器	土器	No.2	—	—	—	加曽利E			
49	縄文土器	土器	No.23	—	—	—	中期			
50	縄文土器	土器	P	—	—	—	加曽利E			
51	縄文土器	土器	No.19	—	—	—	中期			
52	縄文土器	土器	P	—	—	—	後期			
53	縄文土器	土器	P	—	—	—	加曽利E			
54	縄文土器	土器	一括	—	—	—	後期			
55	縄文土器	土器	一括	—	—	—	後期			
56	縄文土器	土器	一括	—	—	—	安行2			
57	縄文土器	土器	一括	—	—	—	安行			
58	縄文土器	土器	一括	—	—	—	安行			
59	縄文土器	土器	一括	—	—	—	安行			
60	土器	土器	一括	—	—	—				
61	磨石	石	一括	(7.5)	(4.6)	5.0			0013－0001	

第２表　騎武第13次遺物一覧表

第Ⅲ章　騎武第18次調査

第１節　調査の概要

（調査に至る経過）

平成２年１月29日、開発者幅上昭二氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋仮換地32街区９画地における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地は騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、教育総務課主事嶋村英之が担当した。

（調査協力員）

秋池角蔵　新井富子　石井たね　栗原政子
土屋とよ　内藤ふく　松村一枝　柳田典子
吉田美津

（文化庁通知）２委保記第５－3859号
平成２年10月22日

（調査期間）　平成２年７月９日～８月９日

（調査面積）　76㎡

（調査の経過）

建設予定地に9.6m×８ｍの調査区を設定し、人力により表土を掘り下げた。ローム面を確認面として溝・土壙・井戸などの調査を行った。調査区中程にロームの２次堆積が確認され５号土壙として調査した。また１・２号溝に平行し覆土にロームの２次堆積層を持つ特徴的な溝を確認するため南側に２カ所拡張したが、確認できなかった。調査地点は比較的高く降雨等がなかったため、排水の為の側溝は不要であった。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。最後に精査を行ない縄文時代の埋甕・ピットを確認し調査した。

基準杭の標高はKB16区に所在する基準点から計測し使用した。

（周辺の調査）

北に騎武第５次調査区があり、断続する溝・その北側に堀（障子堀か）の落ち際を検出し、東に騎武第13次調査区が隣接し溝の延長が確認された。KB13区の隣接地では溝、やや東方に加曽利Ｅ期の住居跡が確認された。西端には堀が検出され覆土にはローム層がラミナ（葉理）状に２次堆積していた。

第２節　遺構と遺物

【溝】北側に２条検出し、断続するが延長線上にある。いずれも覆土にローム層の２次堆積がある。

１号溝　幅104cmで深さ44cmで、スラグ123gが出土。ローム２次堆積層あり。

２号溝　１号溝と同規模で刀装品の縁金具（３）が出土。ローム層の２次堆積は20cmと厚い。

【井戸状遺構】ほぼ中央に１基検出した。

１号井戸　深さ132cmを計る。在地のほうろく（７～９）・完形の擂鉢（10）、鞴の羽口（11）が出土した。

【土壙】総数11基で平面長方形・円形・不整形のものがある。

３号土壙　ab分割する。いずれも楕円形である。かわらけ（14～25）・銭貨（28～33）が出土した。３a号壙は173cm×126cmの規模で出土遺物から墓壙と思われる。かわらけ（24）は黒色の付着物があり墨と思われる。ほうろく（26・27）は上層のものか。

４号土壙　平面円形で深さ74cmを計る。炭化物が層上に検出され、かわらけ（35）・坩堝？（36）が出土した。

５号土壙　平面不整形で430cm（残存）×310cmの規模である。覆土はロームの２次堆積で下層は炭化物層が堆積する。特殊な遺構か。

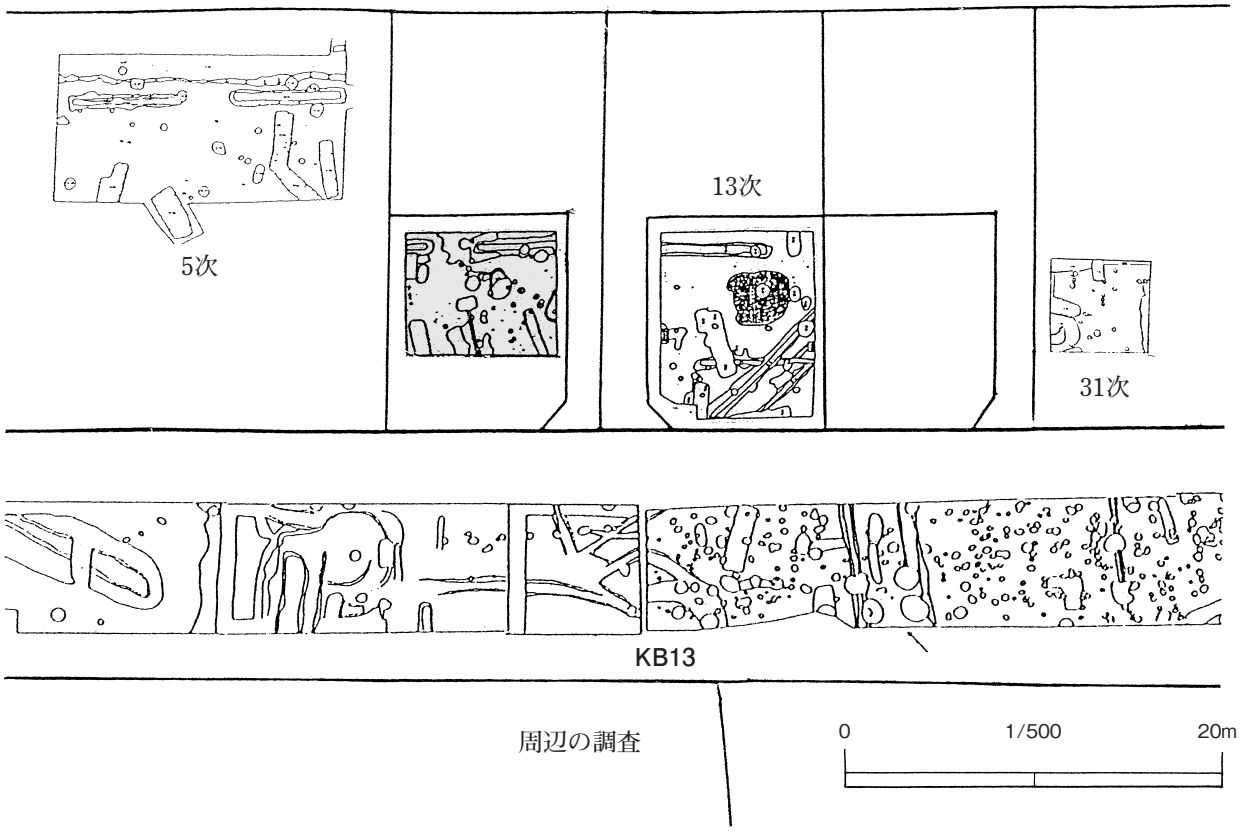
６号土壙　平面円形で106cm×80cm深さ83cmを計る。かわらけ（39）・炭化物が層状に出土した。

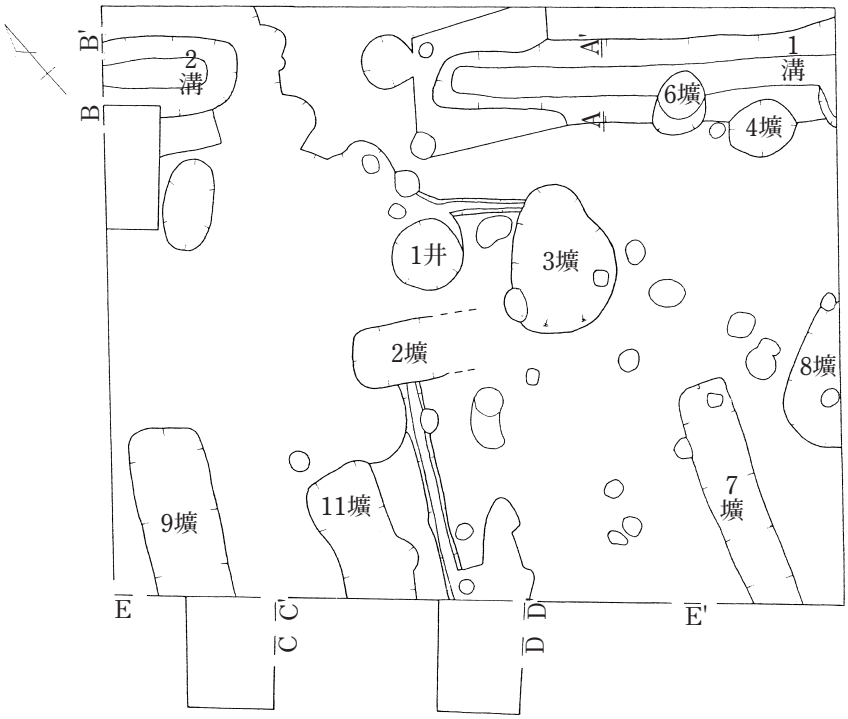
10号土壙　72cm×76cmを計る。雁俣鏃（43）が出土した。

【住居跡】調査区西端に埋甕・炉体土器・ピットを確認し、１号住居跡とする。

１号住居跡（第18図）

床・壁は確認できなかったが、ピットの分布から直径５ｍ前後の平面円形のものと思われる。炉には

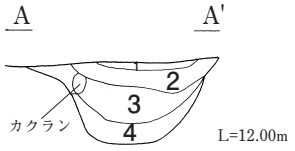




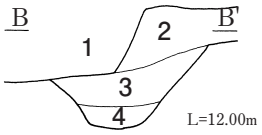
遺構位置図

0 1/100 5m

第13図　騎武第18次周辺と遺構位置図



1号溝



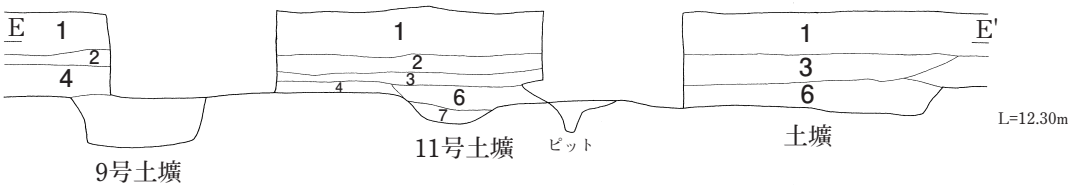
2号溝

土層説明凡例
色調／含有物
テフラ＝T
ローム＝L
炭化物＝C
焼土＝S
酸化鉄＝FE
黒褐色＝BB
黒色＝B
褐色＝Br
粒子＝R
ブロック＝B

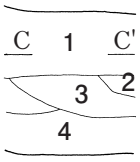
非常に多い＝☆
多量＝◎
少量＝△
微量＝▲
万遍なく＝アンダーライン
やや明るい＝やや明
やや暗い＝やや暗
非常にやわらかい＝軟度高
やわらかい＝軟質
ややわらかい＝軟度低
かたい＝堅緻
締まり良し＝締良
締まり悪し＝締悪
粘性強し＝粘強
粘性有り＝粘有

１溝セクション
1　暗灰褐色土／LB、LR　締良
2　Ｌの２次堆積
3　暗灰褐色土（褐色味強）／LB、LR、FE　締良
4　灰褐色土／LB（やや多）、LR　締良

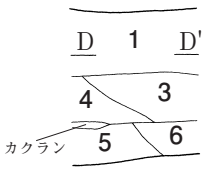
２溝セクション
1　攪乱
2　暗灰褐色土／LB☆、締良
3　Ｌ層の２次堆積
4　暗灰褐色土／LR▲、FER　締良



南側拡張壁面（西）



南側拡張壁面（東）



L=12.30m

南壁土層セクション
1　盛土　埋土
2　Ｌ層２次堆積
3　暗灰褐色土／LB▲、LR☆、C、SR　締良
4　暗灰褐色土／LB▲、LR▲、CR▲、S▲　締良
5　暗灰褐色土／LB、LR、FE、FER　締良
6　暗灰色土／LB▲、LR、FE◎、C、SR　締良
7　暗灰褐色土／LB▲、LR　締良

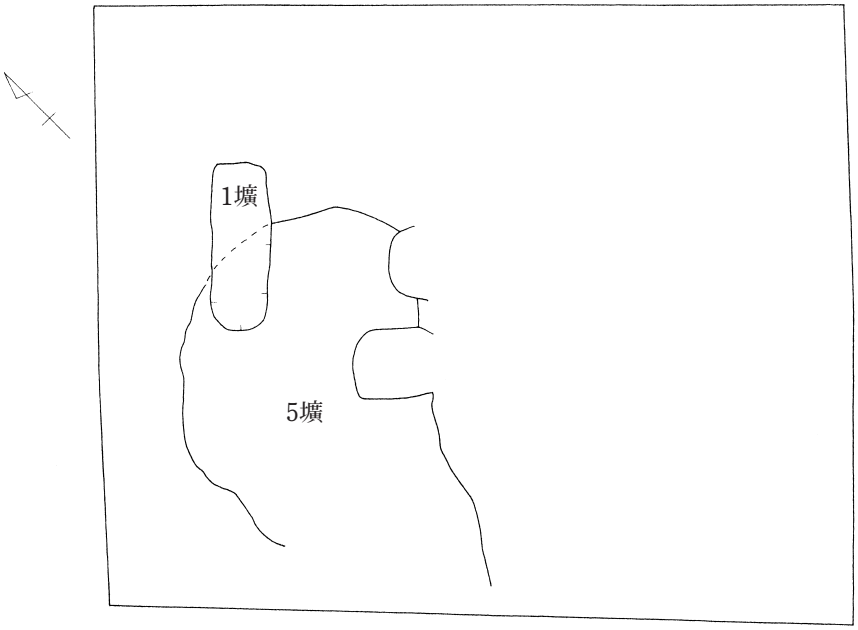
0　1/40　2m

第14図　騎武第18次遺構１

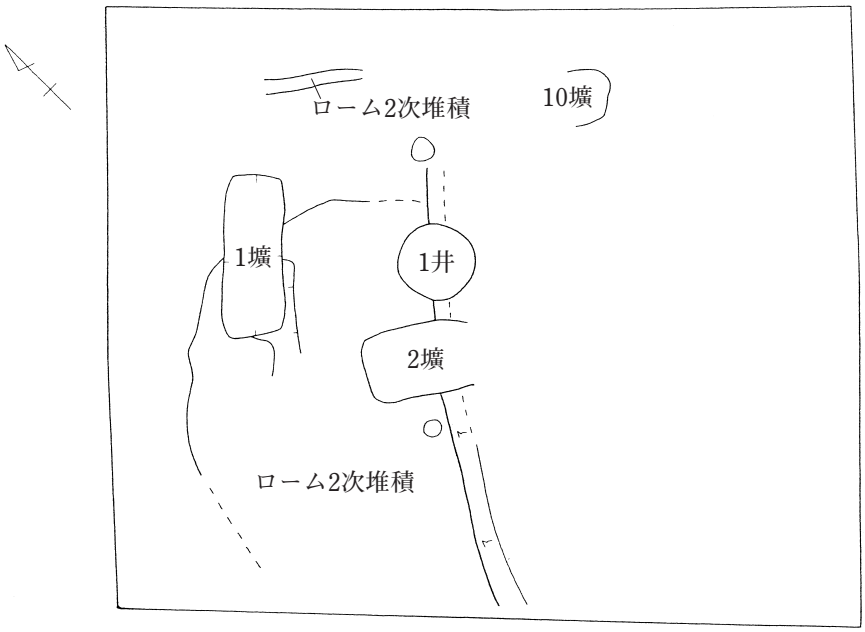
（　）は残存値、☆はセクション図計測値　　○は当該遺構　　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物」、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	○→6･10壙	直線	箱薬研	幅☆104	☆44	暗灰褐色/含LB･LR	かわらけ＝15c 中～16c 中/板碑/スラグ123g	15c 中～	L2次堆積
2号溝	なし	直線	箱薬研	幅☆84	☆46	暗灰褐色/含LB◎	縁(銅)		L2次堆積
1号井戸	5壙→○	円形	直上	100	132	暗灰褐色/含LB◎	中国(染付皿＝15後～16c 末･染付小杯＝16c)/在地擂鉢/かわらけ＝16c 前？/焙烙/粉挽臼(上臼)/石皿/鞴の羽口	16c～	
1号土壙	5壙→○	長方形	ほぼ直上	214　×78	24	暗灰褐色/含LB			
2号土壙	5壙→○	長方形	ほぼ直上	(190)×97	22	暗灰褐色/含LB◎	磨石		
3a 号土壙	3b 壙→○	楕円形	ゆるやか	173×126	☆18	暗灰褐色/含LB☆	かわらけ＝16c 中/焙烙/銭貨(6枚)/骨鹵		墓壙
3b 号土壙	○→3a 壙	不整形	ゆるやか	150×(130)	14	暗灰褐色/含LB･LR	かわらけ		
4号土壙	1溝→○？	円形	ほぼ直上	94×84	74	暗灰褐色	かわらけ＝16c 中/焙烙/坩堝/茶臼(上臼)	16c 中～	
5号土壙	○→1井､1･2･11壙	不整形	ゆるやか	(430)×310	☆22	L2次堆積			
6号土壙	1溝→○？	楕円形	ほぼ直上	106×80	83	暗灰褐色/含LB◎	かわらけ＝16c 中/茶臼(上臼)/銭貨･骨	16c 中～	
7号土壙	なし	長方形	ほぼ直上	(324)×72	8	暗灰褐色			
8号土壙	なし	長方形？	ほぼ直上	190×(106)	14	暗灰褐色	磨石		
9号土壙	5壙	長方形	ほぼ直上	(210)×112	45	暗灰褐色/含T　◎			2基重複？
10号土壙	1溝→○	円形	ほぼ直上	72×(76)	44	暗灰褐色/含炭	鉄鏃		
11号土壙	5壙→○？	長方形	ゆるやか	(184)×94	32	暗灰褐色/LR☆			L2次堆積

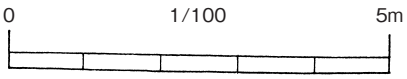
第３表　騎武第18次遺構一覧表



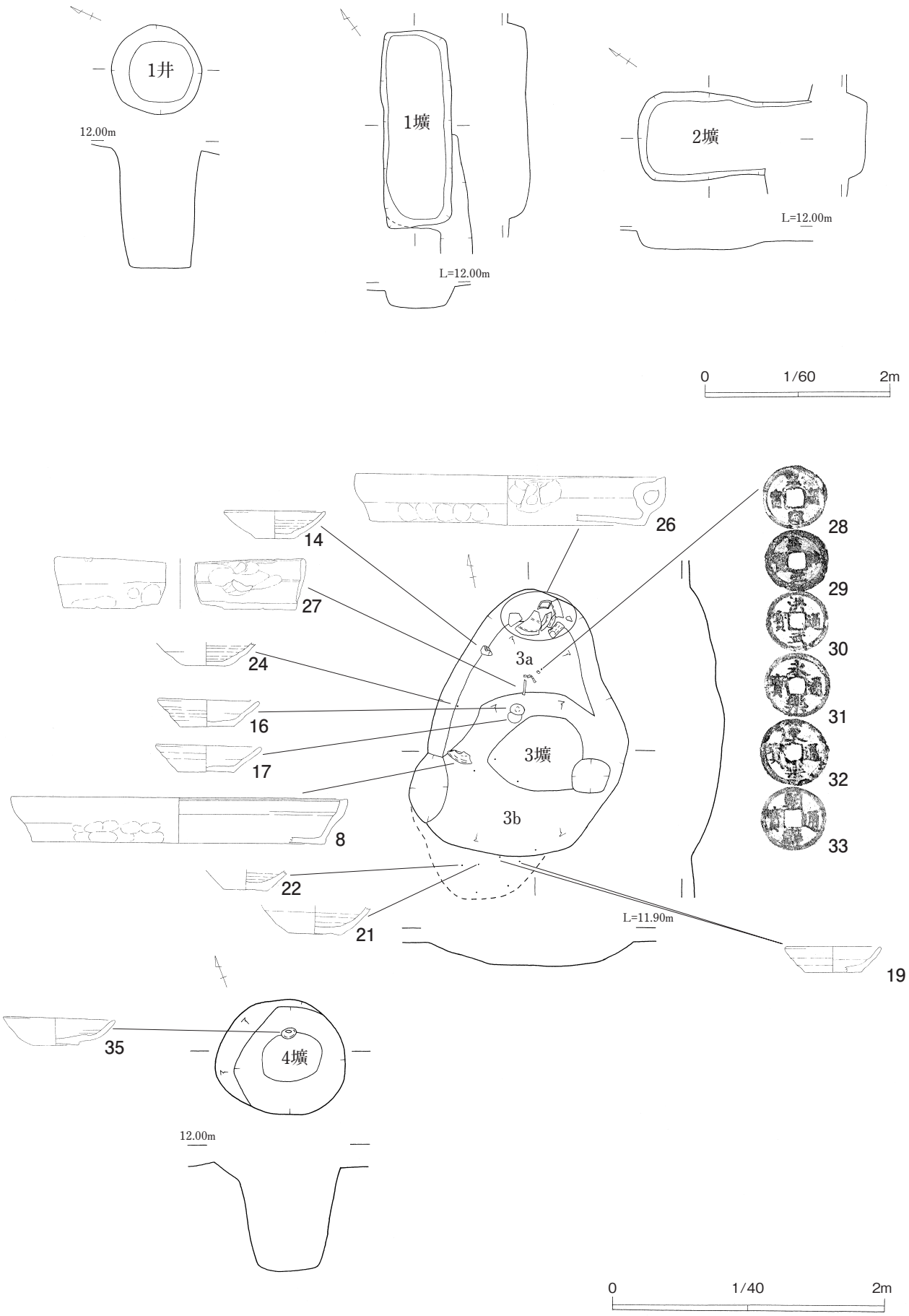
1壙・5壙位置図



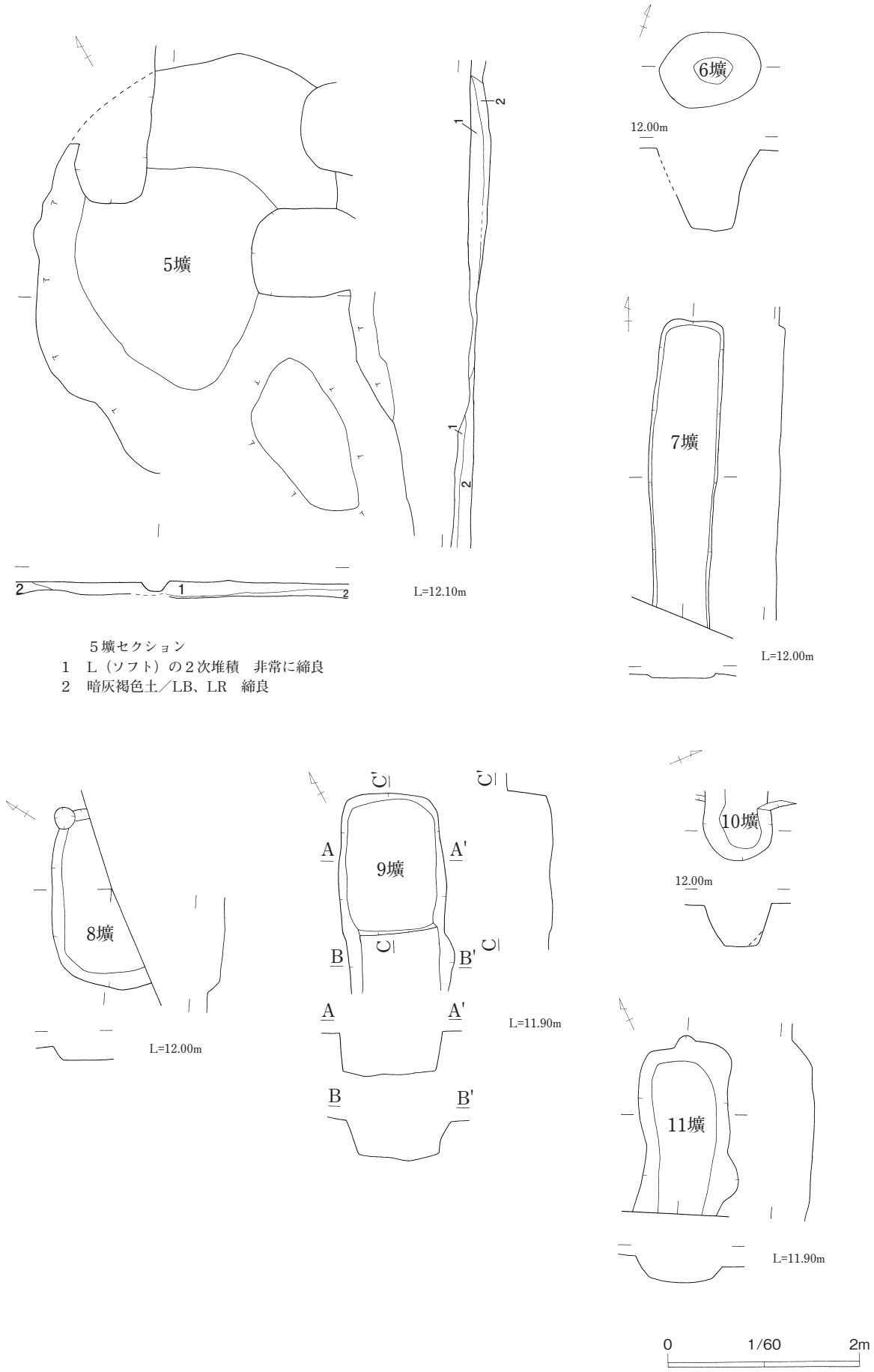
完堀平面図及びローム2次堆積



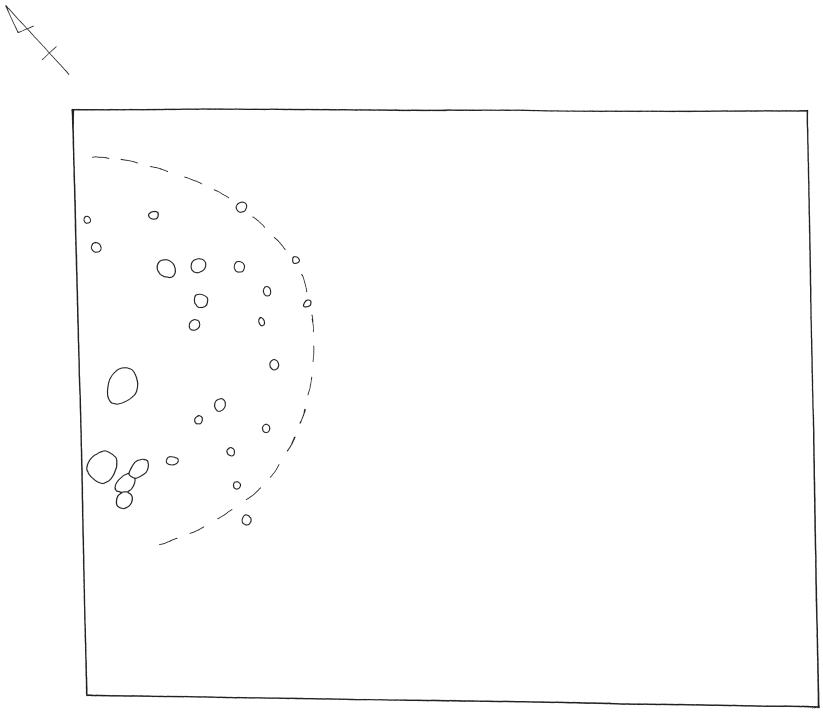
第15図　騎武第18次遺構２



第16図　騎武第18次遺構３

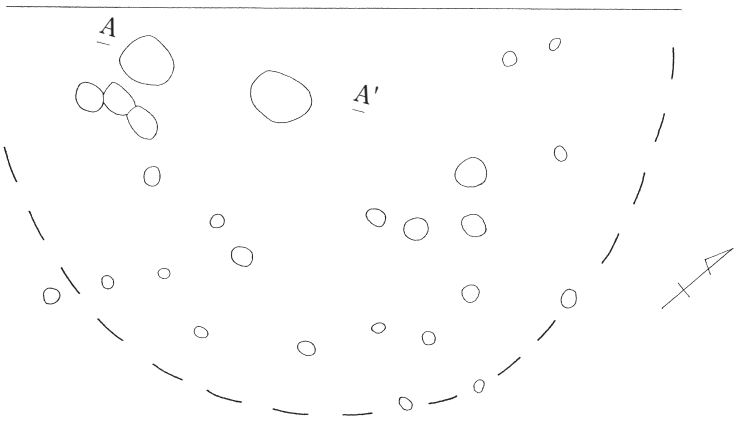


第17図　騎武第18次遺構４



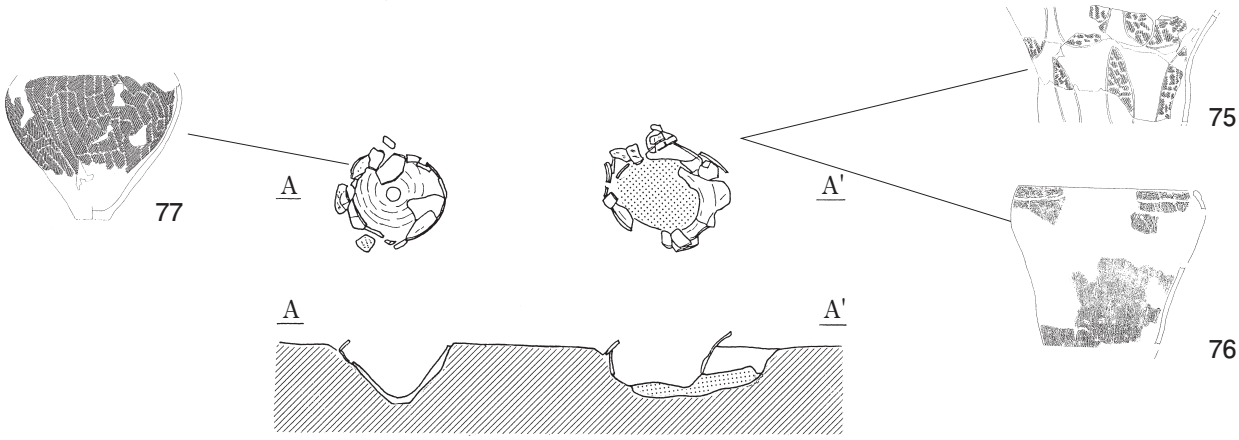
1号住　位置図

0　1/100　5m



0　1/40　2m

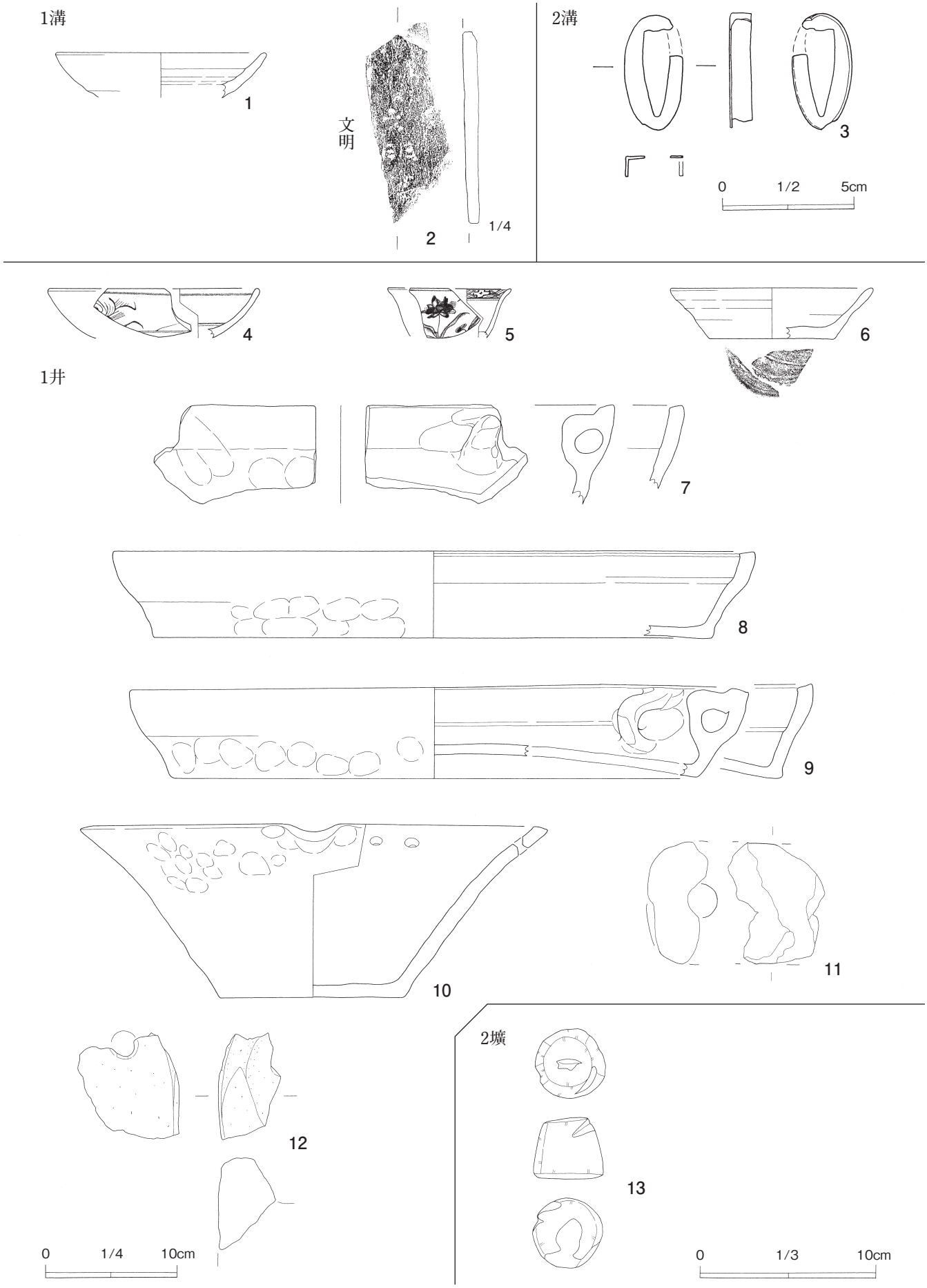
1号住　完堀平面図



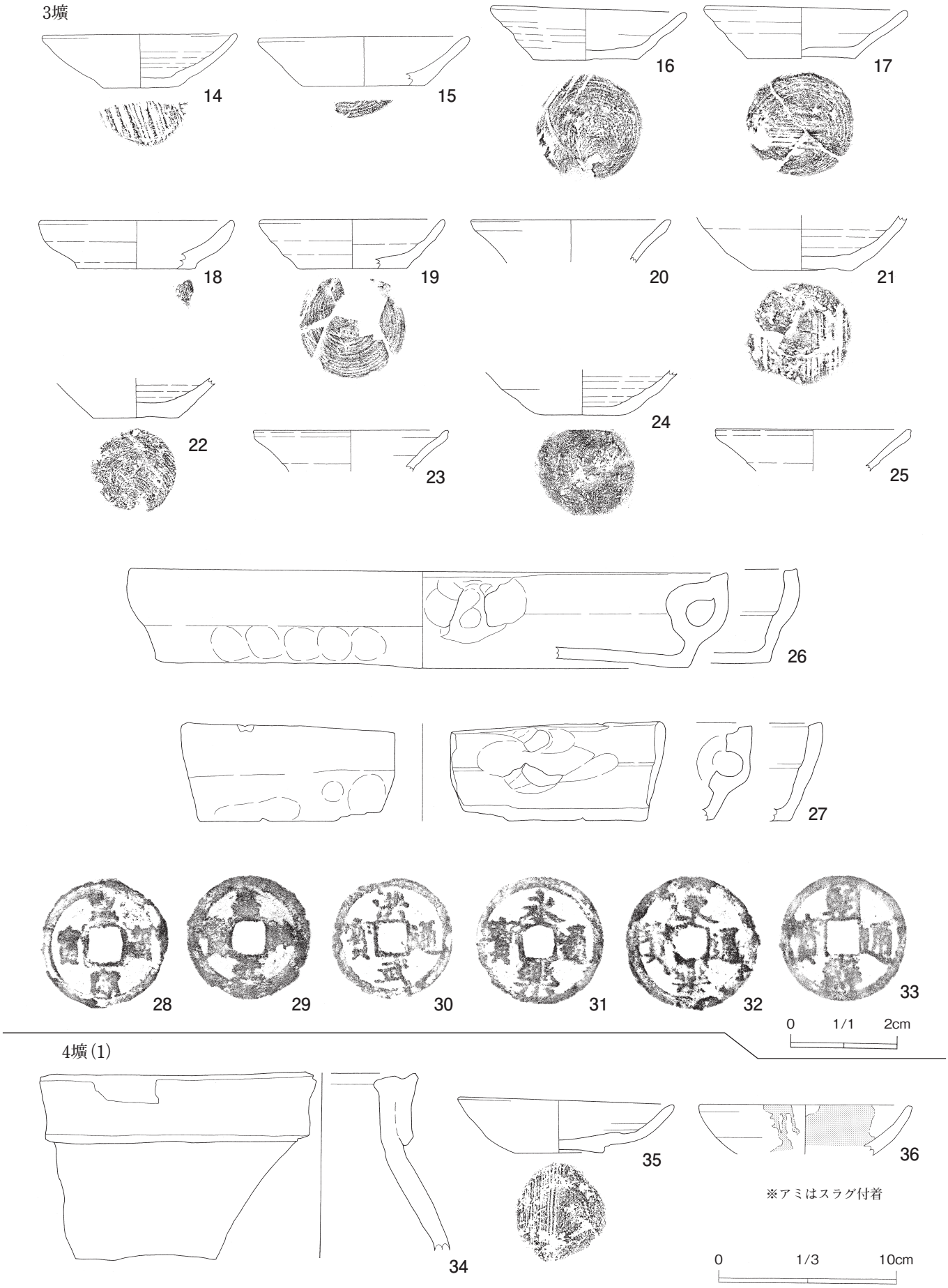
埋甕・炉体土器出土状況　※アミは焼土

0　1/60　2m

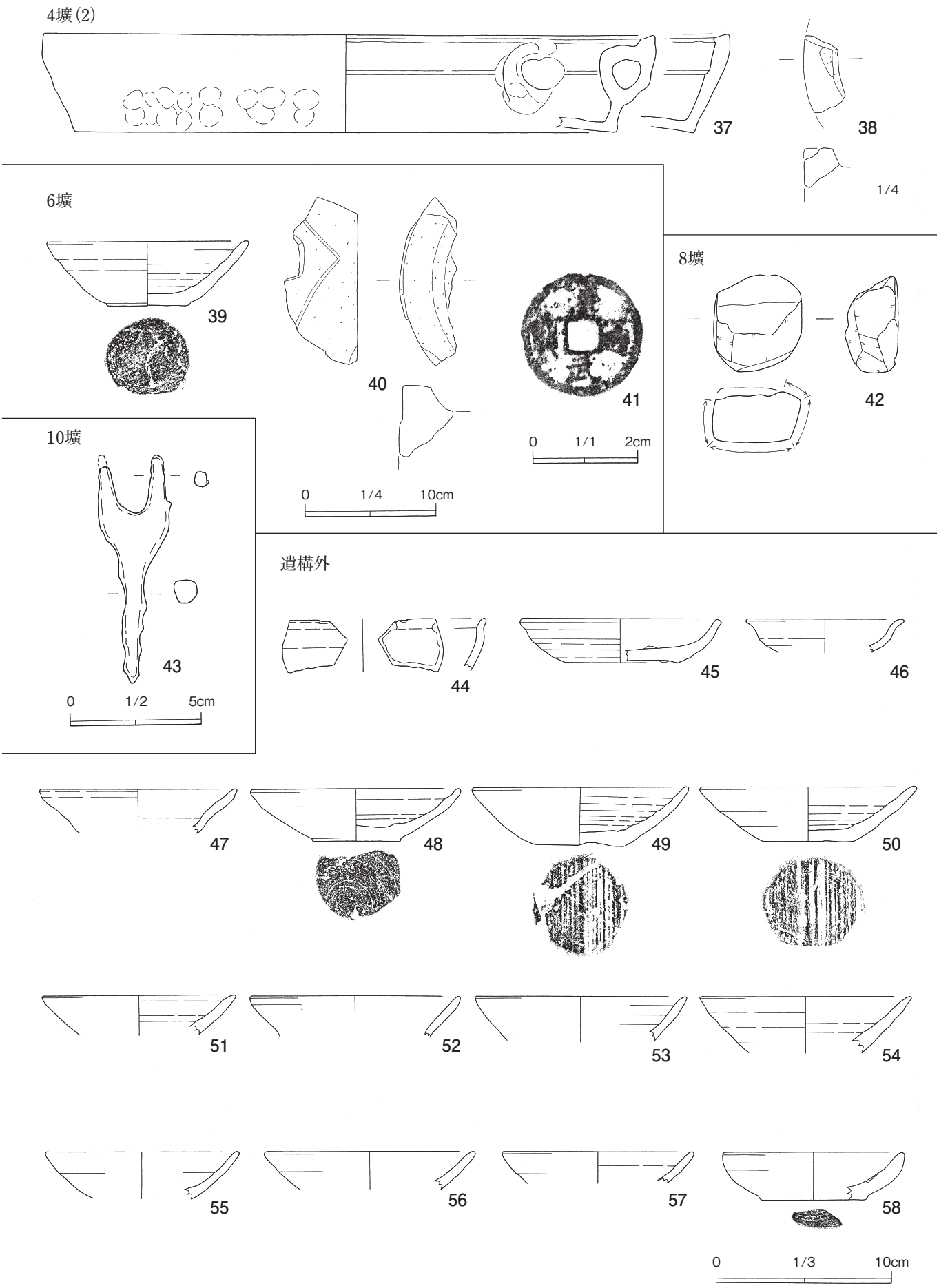
第18図　騎武第18次遺構５



第19図　騎武第18次遺物１

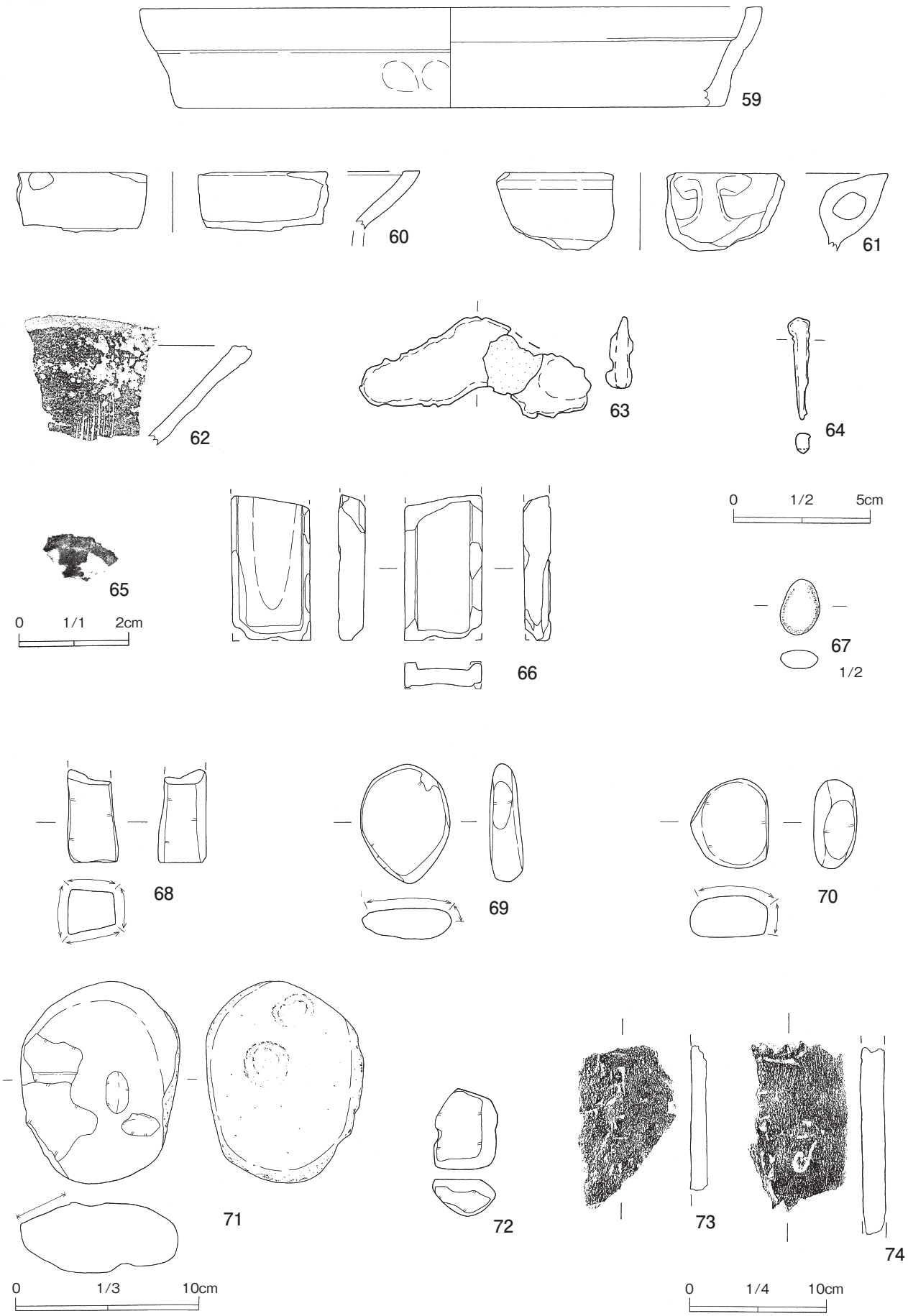


第20図　騎武第18次遺物２

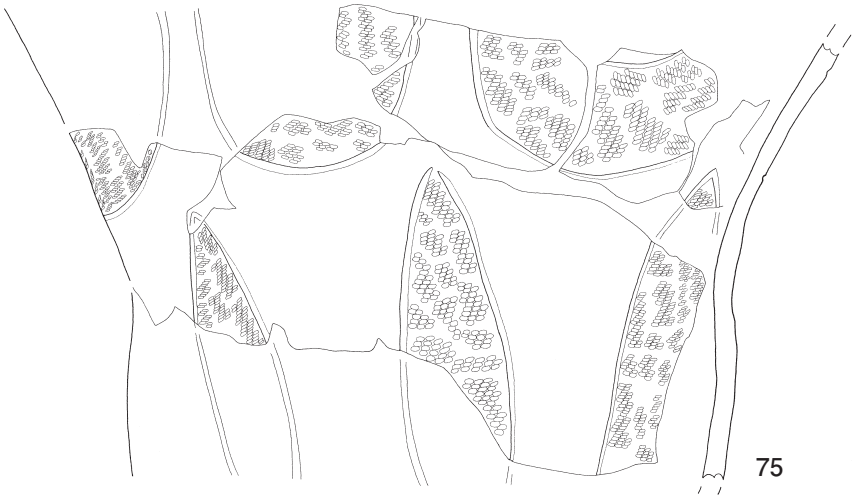


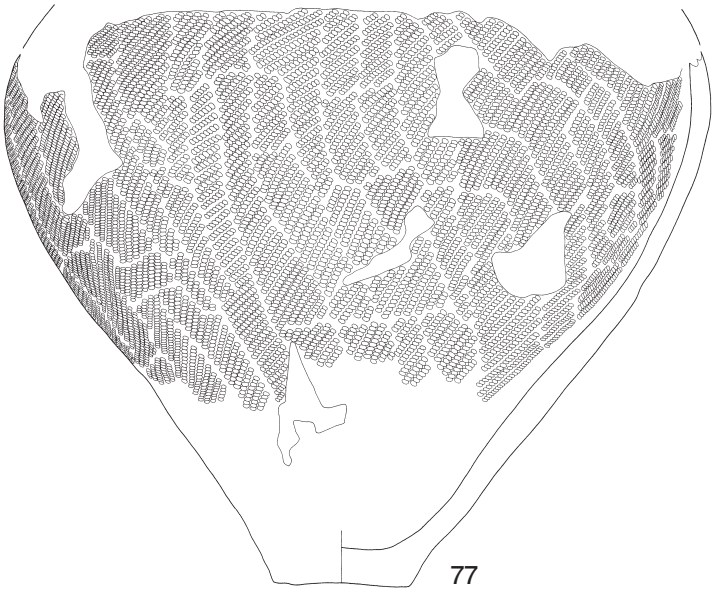
第21図　騎武第18次遺物３

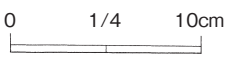
遺構外



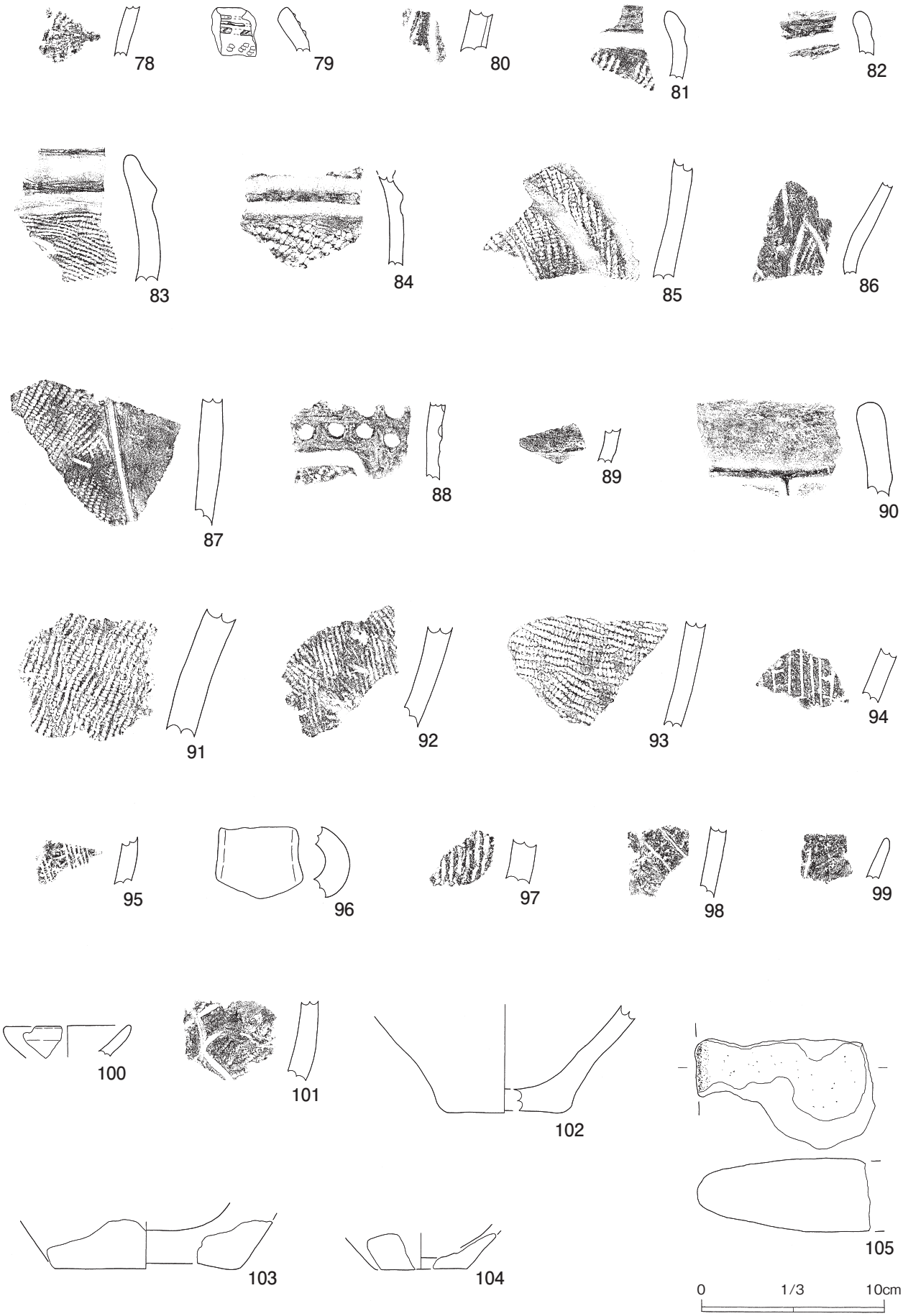
第22図　騎武第18次遺物４







第23図　騎武第18次遺物５



第24図　騎武第18次遺物６

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	形式等	年代	遺物ID	備考
1	かわらけ	在地	1溝、4壙	＊12.0	―	―		◇15c中～16c中	K27	
2	板碑	石(緑泥片岩)	1溝No.4	(16.0)	(7.1)	(1.1)			0018－0001	
3	縁金具	銅	2溝No.1	4.5	2.3	0.8			町金164	
4	染付皿	中国	1井	＊12.0	―	―	C	15c後～16c末	染01	
5	染付小坏	中国	1井No.8	＊7.0	―	―		16c	染02	
6	かわらけ	在地	1井、3壙No.10、一括	＊11.4	＊7.0	2.9		◇16c前？	K08	私13・KB10　1・4溝 出土の器肉が薄く、口縁部が外反するかわらけ
7	ほうろく	在地	1井No.2	―	―	―			H02	
8	ほうろく	在地	1井、3壙(No.9・25)	＊36.6	＊32.0	4.9			H04	
9	ほうろく	在地	1井(No.4・5・7・一括)	35.3	30	5.0～5.4			H05	70％残
10	擂鉢	在地	1井	26.6	10.6	9.6～10.2			鉢02	完形
11	ふいごの羽口	土器	1井No.1	―	―	―			0018－0001	
12	粉挽臼(上臼)	石(安山岩)	1井No.3	―	(4.7)	(6.5)			石03	
13	磨石	石(デイサイト)	2壙	4.0	4.0	3.5			石09	
14	かわらけ	在地	3壙(No.2・11)	11	4.4	3.0～3.4	騎西城Ⅰ期		K04	40％残　見込ナデ　底面削り
15	かわらけ	在地	3壙No.5	＊12.0	＊7.0	2.7		◇不明	K25	
16	かわらけ	在地	3壙No.6、一括	11.1	6.0	2.7～3.1		◇～16c中	K06	完形　底面削り
17	かわらけ	在地	3壙No.7	11.5	6.0	2.7～3.1		◇～16c中	K03	完形　見込ナデ　底面削り
18	かわらけ	在地	3壙No.14	＊11.0	＊6.6	2.7	騎西城Ⅰ期		K21	
19	かわらけ	在地	3壙(No.15・16)	＊10.4	＊6.0	2.8		◇15c中～16c前	K20	
20	かわらけ	在地	3壙No.17	＊11.2	―	―			K18	金雲母
21	かわらけ	在地	3壙No.18	―	5.6	―		◇15c中～16c中	K11	40％残　見込ナデ　底面削り
22	かわらけ	在地	3壙No.19	―	4.8	―			K10	40％残　見込ナデ　底面削り
23	かわらけ	在地	3壙No.23、一括	＊11.0	―	―			K16	
24	かわらけ	在地	3壙No.24	―	5.0	―			K12	見込ナデ　黒色付着　漆？
25	かわらけ	在地	3壙	＊11.0	―	―			K15	
26	ほうろく	在地	3壙No.1、一括	＊34.0	＊30.0	5.4			H06	
27	ほうろく	在地	3壙No.3、一括	―	―	5.5			H03	50％残
28	銭貨(皇宋通宝)	銅	3壙No.29	―	―	―			0018－0003	
29	銭貨(喜祐元宝)	銅	3壙No.29	―	―	―			0018－0004	
30	銭貨(洪武通宝)	銅	3壙No.29	―	―	―			0018－0005	
31	銭貨(永楽通宝)	銅	3壙No.29	―	―	―			0018－0006	
32	銭貨(永楽通宝)	銅	3壙No.29	―	―	―			0018－0007	
33	銭貨(朝鮮通宝)	銅	3壙No.29	―	―	―			0018－0008	
34	甕	常滑	4壙No.3	―	―	―	12		町袋21	
35	かわらけ	在地	4壙No.22	12.2	5.0	2.7～3.6		◇16c中	K05	完形　見込ナデ　底面削り
36	かわらけ(坩堝？)	在地	4壙No.13	＊12.0	―	―			K29	内面スラグ付着　金粒？
37	ほうろく	在地	4壙(No.2・5～12・15・17・20)	35.0	31.0	5.1～5.6			H07	
38	茶臼(上臼)	石(角閃石安山岩)	4壙No.14	―	(2.7)	(2.2)			石01	
39	かわらけ	在地	6壙No.3	＊11.4	4.7	3.7	騎西城Ⅰ期	◇16c中	K07	見込ナデ
40	茶臼(上臼)	石(角閃石安山岩)	6壙No.1	―	(3.8)	(5.5)			石02	
41	銭貨(洪武通宝)	銅	6壙	―	―	―			0018－0009	
42	磨石	石(デイサイト)	8壙	5.5	5.0	2.8			石08	
43	鉄鏃	鉄	10壙No.1	8.8	3.1	0.9			0018－0002	
44	天目	瀬戸美濃	一括	―	―	―	大1		天01	
45	丸皿	瀬戸美濃	No.6	＊11.5	＊6.5	2.5	大3前		町皿229	碁笥底　40％残
46	端反皿	瀬戸美濃	一括	＊9.0	―	―	大1		皿01	
47	かわらけ	在地	No.7	＊11.2	―	―			K17	
48	かわらけ	在地	No.8、一括	＊12.0	5.0	3.0		◇16c中	K09	見込ナデ
49	かわらけ	在地	一括	12.4	5.0	3.2～3.5	騎西城Ⅰ期	◇16c中	K01	略完形　見込ナデ　底面削り
50	かわらけ	在地	一括	12.4	5.2	3.1	騎西城Ⅰ期	◇16c中	K02	60％残　見込ナデ　底面削り
51	かわらけ	在地	一括	＊11.0	―	―	騎西城Ⅰ期		K13	
52	かわらけ	在地	一括	＊12.0	―	―			K14	
53	かわらけ	在地	一括	＊12.0	―	―	騎西城Ⅰ期		K19	
54	かわらけ	在地	一括	＊12.0	―	―	騎西城Ⅰ期		K22	
55	かわらけ	在地	一括	＊11.0	―	―	騎西城Ⅰ期		K23	
56	かわらけ	在地	一括	＊12.0	―	―			K24	
57	かわらけ	在地	一括	＊11.0	―	―			K26	
58	かわらけ	在地	一括	＊10.4	＊6.0	2.7	騎西城Ⅰ期		K28	
59	ほうろく	在地	一括	＊34.0	＊30.0	5.5			H01	
60	土鍋	在地	No.4	―	―	―			D01	
61	土鍋	在地	一括	―	―	―			D02	
62	擂鉢	在地	一括	―	―	―			鉢01	
63	火打金	鉄	一括	8.4	4.0	0.9			0018－0003	
64	釘(角)	鉄	一括	3.8	0.6	―			0018－0004	
65	銭貨(不明)	銅	一括	―	―	―			0018－0001	
66	硯	石	一括	(7.8)	4.2	1.5			石05	
67	碁石	石	一括	2.0	1.4	0.7			0018－0001	
68	砥石	石(泥岩)	一括	(5.0)	2.6	2.5			石04	
69	磨石	石(デイサイト)	No.1	6.5	4.9	1.7			石06	

第４表　騎武第18次遺物一覧表１

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	形式等	年代	遺物 ID	備考
70	磨石	石(デイサイト)	一括	4.9	4.2	2.3			石07	
71	磨石	石(デイサイト)	一括	11.1	8.7	3.9			0018－0001	
72	磨石	石(デイサイト)	一括	4.4	3.5	2.0			0018－0002	
73	板碑	石(緑泥片岩)	No.10	(13.5)	(8.3)	(1.2)			0018－0002	表面磨痕
74	板碑	石(緑泥片岩)	一括	(14.4)	(8.6)	1.8			0018－0003	
75	縄文土器(炉体)	土器	1住炉体	－	－	－			0018－0002	
76	縄文土器(炉体)	土器	1住炉体	－	－	－			0018－0003	
77	縄文土器(埋甕)	土器	1住埋甕	－	－	－			0018－0001	
78	縄文土器	土器	一括	－	－	－	黒浜？			
79	縄文土器	土器	一括	－	－	－	諸磯ｂ			
80	縄文土器	土器	5壙2層	－	－	－	中期			
81	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
82	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
83	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
84	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
85	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
86	縄文土器	土器	9壙	－	－	－	加曽利Ｅ			
87	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
88	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
89	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
90	縄文土器	土器	1住炉体	－	－	－	加曽利Ｅ			
91	縄文土器	土器	一括	－	－	－	中後期			
92	縄文土器	土器	1住	－	－	－	中後期			
93	縄文土器	土器	一括	－	－	－	中後期			
94	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
95	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
96	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
97	縄文土器	土器	一括	－	－	－	不明			
98	縄文土器	土器	一括	－	－	－	後期			
99	縄文土器	土器	一括	－	－	－	後期			
100	縄文土器	土器	一括	－	－	－	後期			
101	縄文土器	土器	No.3	－	－	－	後期			
102	縄文土器	土器	一括	－	－	－	中後期			
103	縄文土器	土器	一括	－	－	－	中後期			
104	縄文土器	土器	一括	－	－	－	後期			
105	石皿(磨石)	石	1井	(6.1)	(9.9)	4.1			0018－0001	

第５表　騎武第18次遺物一覧表２

土器が２個体（75・76）と埋甕は同下半部（77）が埋設されていた。縄文時代加曽利Ｅ期。

【ほか】調査区の南壁土層中位にロームが15cmほど２次堆積しており、当調査区周辺が他地区と異なる状況であったことを示している。（第14図）

【遺構外出土遺物】

かわらけ・火打金（63）・硯（66）・碁石（67）・磨石・臼歯８点・スラグ24gなどがある。

調査風景

第Ⅳ章　騎武第25次調査

第１節　調査の概要

（調査に至る経過）

平成２年８月24日、開発者真田廣夫氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋仮換地52街区３画地における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地は騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

平成３年５月18日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、教育総務課主事嶋村英之が担当した。

（調査協力員）

小川征子　小久保衛　小森谷二三子　土屋とよ
松村一枝　福島利夫

（文化庁通知）３委保記第５－4615号
平成３年10月11日

（調査期間）　平成３年９月２日～11月29日

（調査面積）　112㎡

（調査の経過）

建設予定地に14m×８ｍの調査区を設定し、人力により表土を掘り下げた。一円匙掘り下げ後、南・北側にトレンチをいれ20cmほどでローム面であることを確認した。そのレベルまで一気に掘り下げた。土壙・井戸などの調査を行った。溝・土壙の重複が顕著でサブトレンチをいれ慎重に調査した。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。最後にピット・縄文時代遺構の精査を行った。

基準杭の標高はKB19に所在する基準点から計測し使用した。

（周辺の調査）

KB17区が東接し、西の14区、北の18区・騎武第14次調査区には障子堀が巡り、当地区はその南側に当たる。また、KB17区が東接し１号溝の延長と思われる８号溝が確認された。

第２節　遺構と遺物

【溝】調査区全面に縦横に走行する10条の溝が確認された。１・２・６号溝は屈曲する。

１号溝　東西に走行し３号溝より古い。最上層にテフラを大量に含む。幅125cm深さ60cm。

３号溝　南北に走行し５号溝より古い。幅136cm深さ72cm。

４号溝　abの２つに分割する。最上層にテフラを大量に含む。

５号溝　深くKB18区の６号堀つながるか。　覆土にロームブロック・ローム粒子を非常に多く含む。深さ96cm。

【土壙】調査区縁辺に５基確認された。１号土壙のみ整形である。

１号土壙　平面長方形で135cm×110cmを計る。かわらけが覆土上～下層中から６枚（14～19）・底面から銭貨６枚（20～25）が出土した。かわらけは南西コーナーにまとまる。№15は底面穿孔、№17は一部黒色化している。骨粉様のものも確認されている。墓壙であろう。

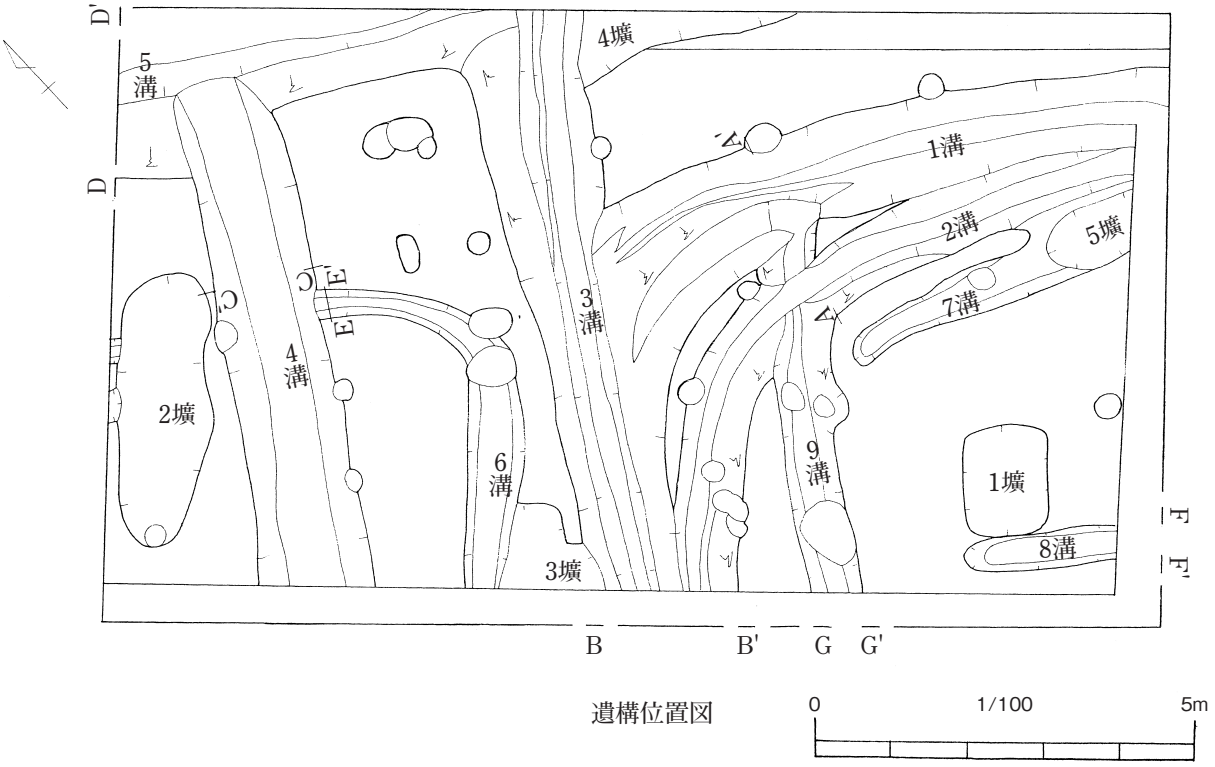
２号土壙　平面不整の長方形であるが、364cm×104cm・深さ60cmとしっかりしている。

【遺構外出土遺物】

油煙が付着するかわらけ（30）や銅製の鋲（31）・スラグ８ｇがある。

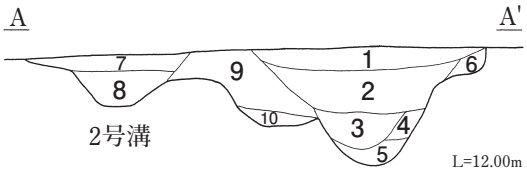
他に縄文時代撚糸文系（32）・加曽利Ｅ期（33～37）の縄文土器・打製石斧（38）がある。

周辺の調査



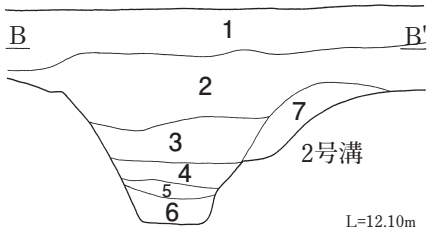
遺構位置図

第25図　騎武第25次周辺と遺構位置図



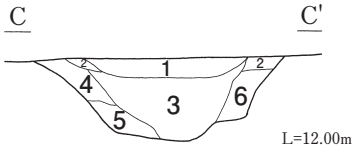
1号溝

１溝２溝　ベルト東壁セクション
1　暗灰褐色土／LR、FER、CR、S、T◎　締良
2　暗灰褐色土／LB△、LR△、FER、FE◎　締良
3　暗灰褐色土／LB、FE、白色粘土Ｂ　締良
4　暗灰褐色土／LR、FE、白色粘土Ｒ　締良
5　暗灰褐色土（やや暗）／LB、FE◎、締良
6　暗灰褐色土／LB（ソフト）、LR◎２次堆積様　締良
7　暗灰褐色土／LR、CR▲、S　締良
8　暗灰褐色土／LB、LR、FE◎　締良
9　暗灰褐色土／LB、LR◎、FE◎、C▲、SR▲　締良
10　暗灰褐色土／LB、LR、FE　締良



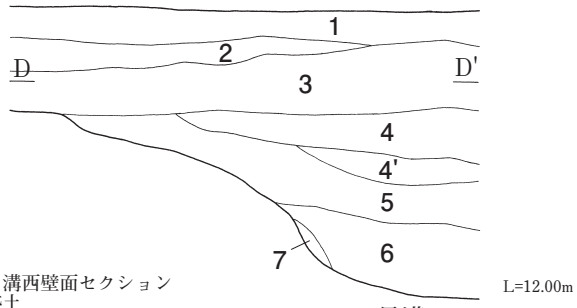
3号溝

３溝セクション
1　表土（盛土を含）
2　暗灰褐色土／LB△、LR、FER、CR△、S　締良
3　暗灰褐色土（灰色味）／LB△、LR、FE◎、CR△、S　締良
4　暗灰褐色土（灰色味）／LR、FE◎、灰色粘土Ｒ　締良
5　暗灰褐色土（灰色味）／LR、FE◎、灰色粘土Ｂ　締良
6　暗灰色土／LB、LR、FE　締良
7　暗灰褐色土／LB、LR△、FE◎、C　締良



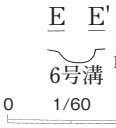
4号溝

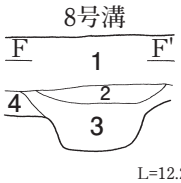
４溝セクション
1　暗灰褐色土／４溝の覆土ではなく上層からの攪乱
　LB、LR、FER、CR、T◎　締良
2　暗灰褐色土／LB、LR、T　締良
3　暗灰褐色土（灰色味）／LB、LR△、FE　締良
4　暗灰褐色土（黄色味）／LR、FER　締良
5　暗灰褐色土（黄色味）／LB　締良
6　暗灰褐色土（褐色味）／LB、LR、FER　締良



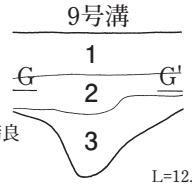
5号溝

５溝西壁面セクション
1　盛土
2　旧耕作土
3　旧表土
4　暗灰褐色土／LB（ソフト・ハード・ブラックバンド）☆
　LR（ソフト・ハード・ブラックバンド）☆、C　△　締やや悪
4’暗灰褐色土／LB（ハード・ブラックバンド）、LR　締良
5　暗灰褐色土（灰色味強）／LR、FE◎　やや粘　締良
6　暗灰褐色土（灰色味強）／LR◎、FE◎　締良
7　FE 層／溝壁面に FE が付着してできた層　堅緻





８溝セクション
1　盛土　旧表土
2　暗灰褐色土（褐色）／LB、LR◎、締良
3　暗灰褐色土／LR　締良
4　黒褐色土／LB、LR　締良



９溝セクション
1　盛土　旧耕作土
2　暗灰褐色土／LR、FER、T　締良
3　暗灰褐色土（暗）／LB、LR、締良

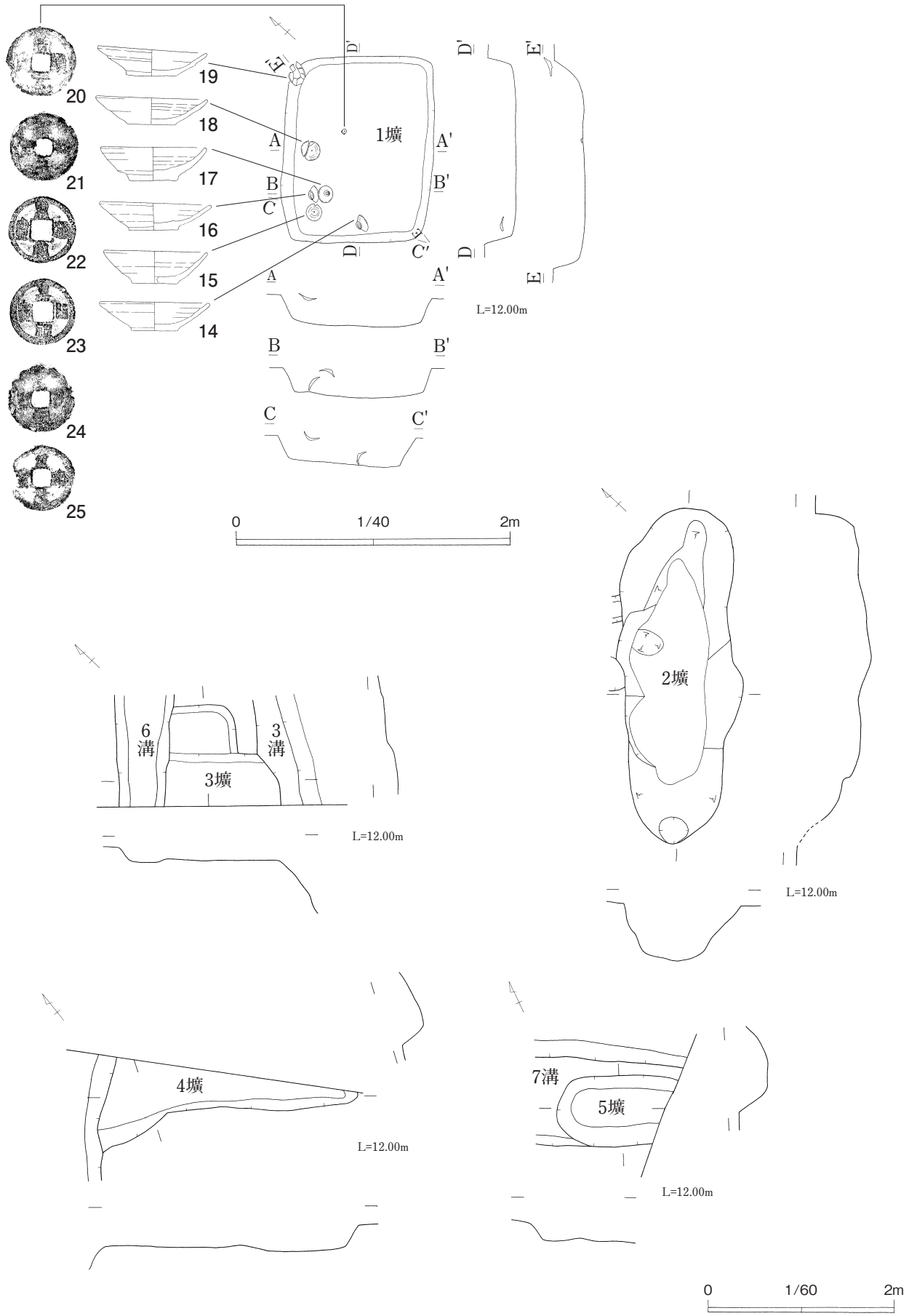
0　1/40　2m

第26図　騎武第25次遺構１

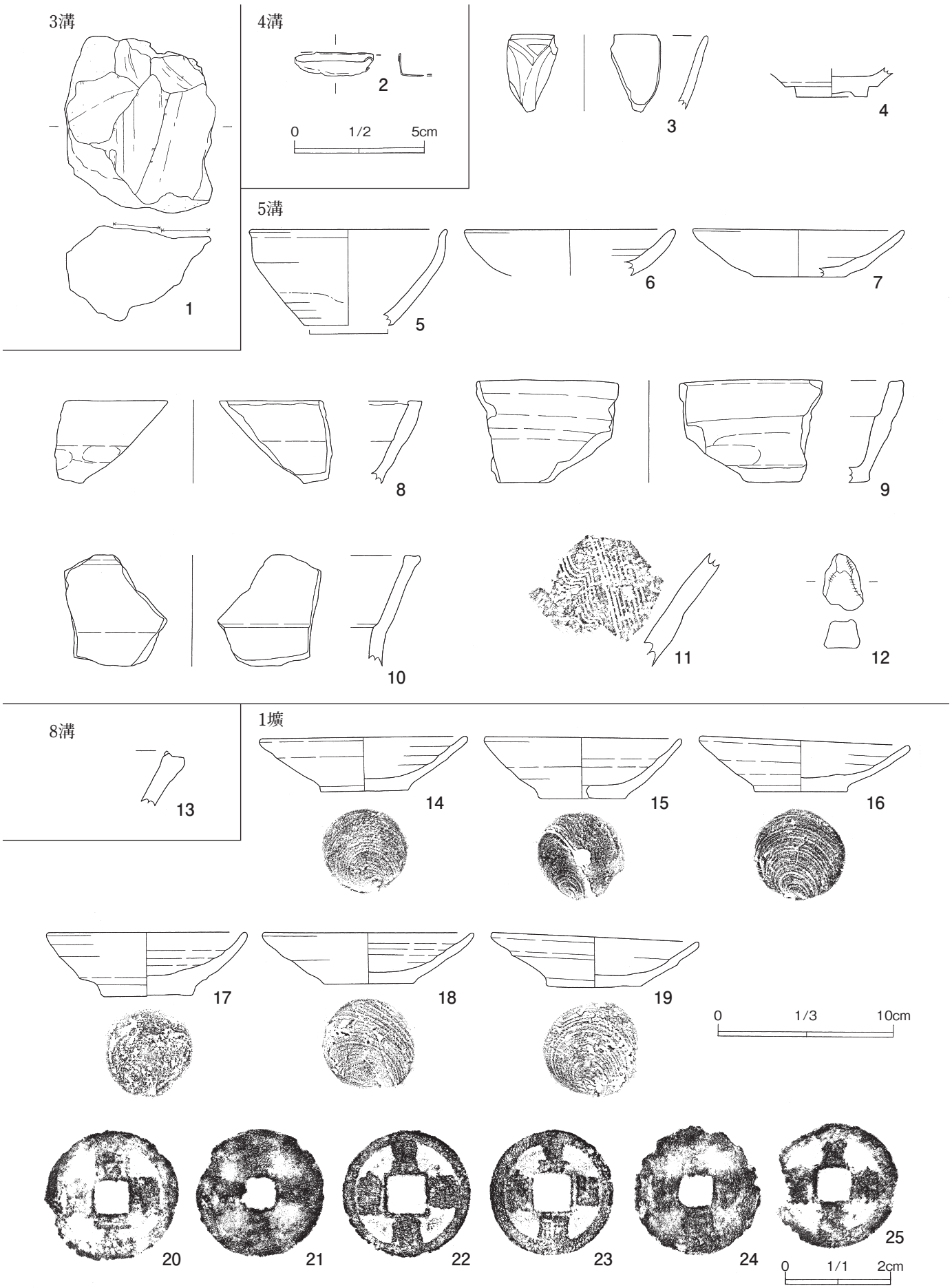
（　）は残存値、☆はセクション図計測値　　○は当該遺構　　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模（cm）	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	○→2溝/9溝	弧状	箱薬研	幅☆125	☆60	暗灰褐色/含Ｔ　◎			
2号溝	1溝→○→3溝	弧状	箱薬研	幅☆90	☆28	暗灰褐色			
3号溝	2溝→○→5溝	直線	箱薬研	幅☆136	☆72	暗灰褐色	磨石		
4号溝							鋺状製品		
4a 号溝	4b 溝→○→5溝	直線	箱薬研	幅☆107	☆62	暗灰褐色			
4b 号溝	○→4a 溝→5溝	直線	箱薬研	幅☆146	☆44	暗灰褐色			
5号溝	4a 溝→○	直線	ゆるやか	幅☆(220)	☆96	暗灰褐色/含 LB ☆･LR☆	龍泉(青磁碗＝13c)/瀬美天目/土鍋/在地擂鉢/焙烙/かわらけ/火打石	16c 前～	障子堀か
6号溝	4溝､2･3壙	屈曲する	ほぼ直上	幅30	10	不明	片口鉢		
7号溝	2溝､5壙	直線	不明	幅60	5	不明			
8号溝	なし	直線	箱薬研	幅☆72	☆34	暗灰褐色/含 LR◎	片口鉢		
9号溝	1･2溝	直線	薬研	幅☆90	☆45	暗灰褐色			
1号土壙	なし	長方形	ほぼ直上	135×110	21	暗灰褐色	かわらけ6枚/銭貨6枚	15c 中～	
2号土壙	6溝	隅丸長方形	ほぼ直上	364×104	☆60	暗灰褐色/含灰色土B◎			
3号土壙	3･6溝	長方形？	ゆるやか	(126)×(56)	7	不明			
4号土壙	○→5溝？	長方形？	ほぼ直上	(283)×(50)	28	不明			
5号土壙	2溝→○→5壙	隅丸長方形	ほぼ直上	(130)×78	20	暗灰褐色			

第６表　騎武第25次遺構一覧表

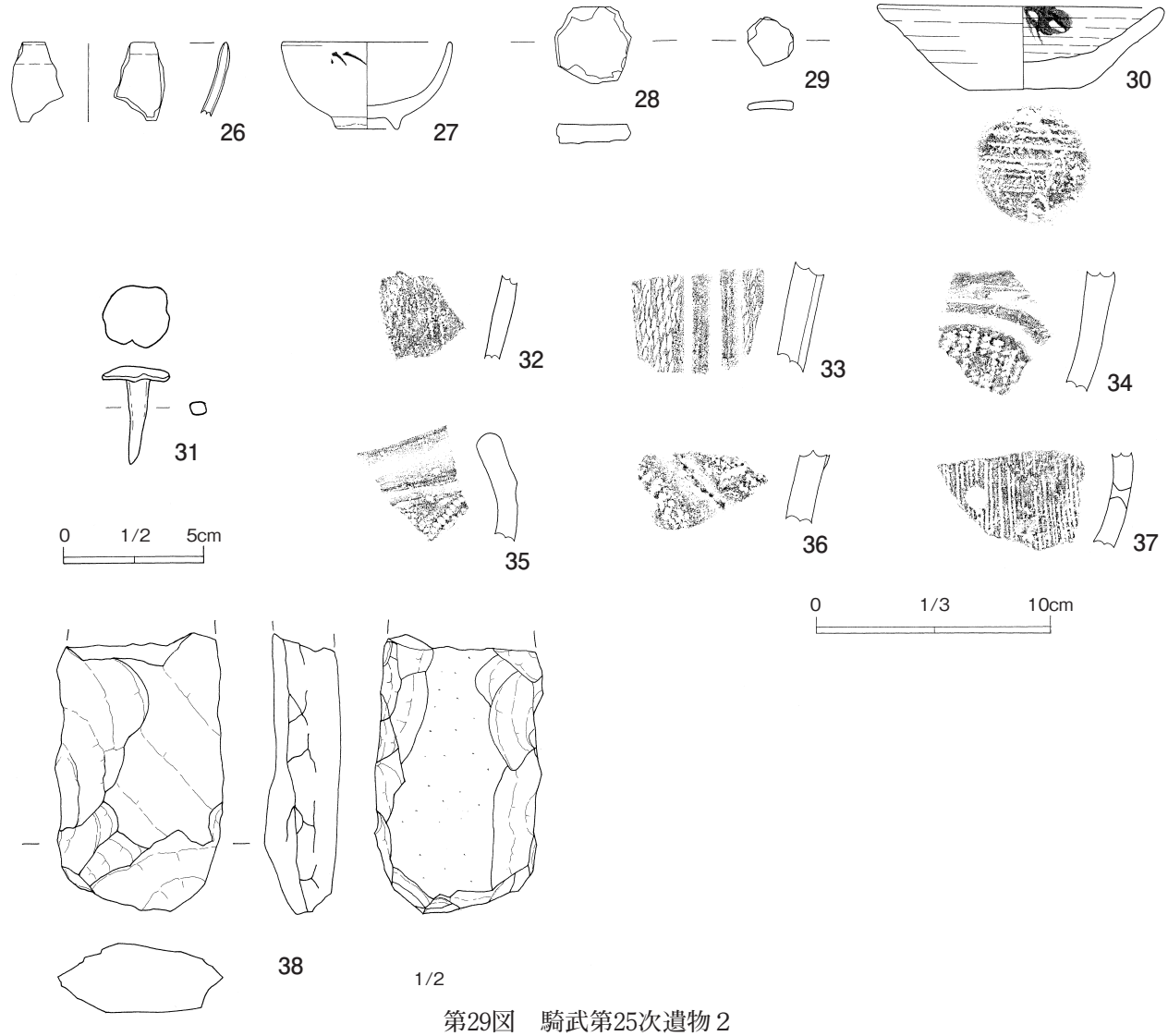


第27図　騎武第25次遺構２



第28図　騎武第25次遺物１

遺構外



第29図　騎武第25次遺物２

調査風景

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	形式等	年代	遺物 ID	備考
1	磨石	石(デイサイト)	3溝	10.2	8.5	5.4			0025－0001	
2	鋺状製品	銅	4溝No1	2.9	1.6	1.4			0025－0001	
3	青磁碗	龍泉窯系中国	5溝No11	－	－	－	B－1	13c	青01	
4	天目	瀬戸美濃	5溝No18	－	4.0	－	古後Ⅳ(新)		天01	
5	天目	瀬戸美濃	5溝No19	＊11.2	－	－	大2		天02	
6	かわらけ	在地	5溝No8	＊12.0	－	－			K08	
7	かわらけ	在地	5溝(No21・23)	＊12.0	＊5.2	2.7	騎西城Ⅰ期カ		K09	
8	ほうろく	在地	5溝No6	－	－	－			H01	
9	ほうろく	在地	5溝No22	－	－	5.8			H02	
10	土鍋	在地	5溝No1	－	－	－			D01	
11	擂鉢	在地	5溝No24	－	－	－			鉢02	
12	火打石	石(石英)	5溝	3.2	2.3	1.6			0025－0002	
13	片口鉢	在地	8溝No1	－	－	－			鉢01	
14	かわらけ	在地	1壙No2	11.8	5.0	2.5～3.1	騎西城Ⅰ期カ		K02	完形
15	かわらけ	在地	1壙No3	11.2	5.0	3.3～3.7	騎西城Ⅰ期カ		K03	完形　底面穿孔
16	かわらけ	在地	1壙No4	12.0	5.3	2.5～3.2	騎西城Ⅰ期カ		K04	完形
17	かわらけ	在地	1壙No5	11.4	5.0	3.5～3.7	騎西城Ⅰ期カ		K05	完形　見込ナデ　一部黒化
18	かわらけ	在地	1壙No6	12.0	5.2	2.8～3.5	騎西城Ⅰ期カ		K06	完形
19	かわらけ	在地	1壙No7	11.8	5.5	2.6～3.2	騎西城Ⅰ期カ		K07	略完形
20	銭貨(開元通宝)	銅	1壙No1	－	－	－			0025－0001	
21	銭貨(祥符元宝)	銅	1壙No1	－	－	－			0025－0002	
22	銭貨(皇宋通宝)	銅	1壙No1	－	－	－			0025－0003	
23	銭貨(喜祐通宝)	銅	1壙No1	－	－	－			0025－0004	
24	銭貨(不明)	銅	1壙No1	－	－	－			0025－0005	
25	銭貨(聖宋元宝)	銅	1壙No1	－	－	－			0025－0006	
26	青磁碗	龍泉窯系中国	一括	－	－	－	E	15c～16c	青02	
27	染付碗	肥前(磁器)	モリド	＊7.2	2.7	3.7		18c	伊01	
28	土製円盤	瀬戸美濃	一括	3.1	－	0.8	大		つぶて石1	
29	土製円盤	瀬戸美濃	一括	2.0	－	0.3	登		他01	
30	かわらけ	在地	No1	11.5～12.2	4.8	3.4～3.7	騎西城Ⅰ期カ		K01	完形　スス付着
31	鋲	銅	No2	2.8	0.5	－			0025－0002	
32	縄文土器	土器	1溝	－	－	－	撚糸文系			
33	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利Ｅ　1,2			
34	縄文土器	土器	1溝No1	－	－	－	加曽利Ｅ			
35	縄文土器	土器	No4	－	－	－	加曽利Ｅ			
36	縄文土器	土器	1溝No2	－	－	－	加曽利Ｅ			
37	縄文土器	土器	4溝No2	－	－	－	加曽利Ｅ			
38	打製石斧	石	No5	－	－	－			0025－0001	

第７表　騎武第25次遺物一覧表

調査風景

第30図　騎武第32～34・38次周辺と遺構位置図

第Ⅴ章　騎武第32次調査

第１節　調査の概要

（調査に至る経過）

平成４年３月27日、開発者柴田勝次郎氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋仮換地52街区23画地の一部における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地は騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

平成４年４月２日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、島村範久が担当した。

（調査協力員）

五十嵐米太郎　小川征子　小森谷アサ　斉藤ふじ

（文化庁通知）４委保記第５－3061号
平成４年10月20日

（調査期間）　平成４年６月16日～８月18日

（調査面積）　48㎡

（調査の経過）

隣接する第33・34次調査と並行で調査した。建築予定地に13m×5.4mの調査区を設定し人力により表土を掘り下げた。湧水のため東側に側溝設け水中ポンプにより排水した。ローム層を確認面として、１号溝を中心に重複関係を確認しながら、溝・土壙・井戸を慎重に調査を行った。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。最後に縄文時代の精査を行った。

（周辺の調査）

西にKB10区、北に騎武第42次調査区、南に第38次、東に第33・34次・KB16区が所在する。当調査区の南北に障子堀が巡り、北側一帯にはピット・井戸が多数分布する。また１・３号溝は周辺の調査区につながり長い直線のものとなる。２号溝について周辺の溝との関係は検討を要する。

第２節　遺構と遺物

【溝】調査区中央で東西方向に２条、西端に南北方向に１条走行する。

１号溝　東西方向に走行するもので、３号溝と併行する。また多数の遺構と重複する。幅90cm深さ77cmで、断面形箱薬研である。

２号溝　西端に南北に走行する。幅122cm深さ22cmである。

【井戸状遺構】東寄りに１基検出した。

１号井戸　直径132cm深さ140cmを計る。瀬戸美濃の徳利（２）・ほうろく（３・４）・銭貨（５）が底面付近から出土した。

【土壙】ほぼ全面に13基検出した。

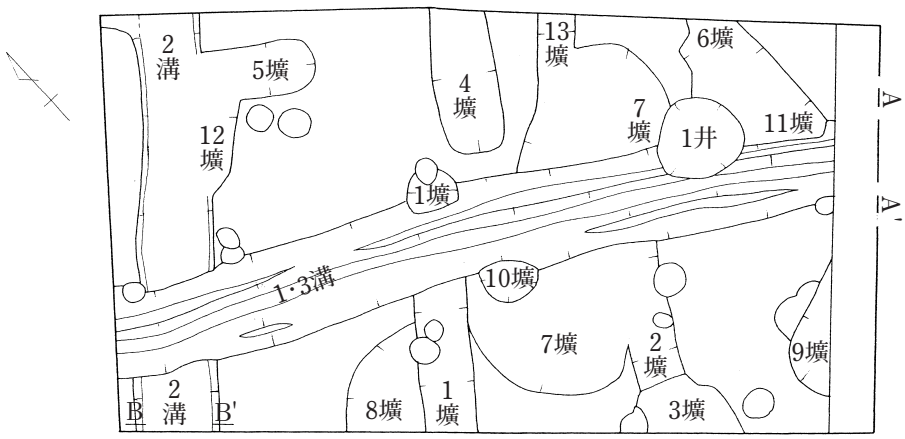
７号土壙　平面楕円形、調査区内最大規模で468cm×207cm・深さ10cmを計る。かわらけが出土した。

【遺構外出土遺物】

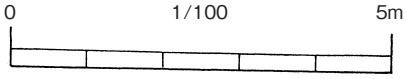
鞴の羽口・スラグ112gがある。

ほかに縄文時代加曽利Ｅ期の土器（18～26・28）や下部が欠損する石匙（29）がある。

※７の木製品は第33次21号土壙出土のものと思われる。



遺構位置図

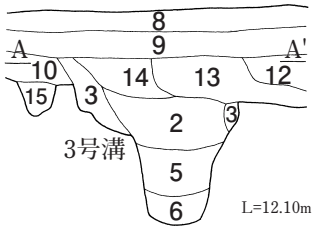


第31図　騎武第32次遺構１

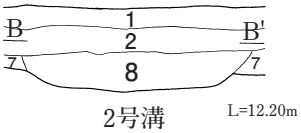
（　）は残存値、☆はセクション図計測値　　○は当該遺構　　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物」、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模（cm）	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
１号溝	2･3溝→○→1井、1･9～11壙	直線	箱薬研	幅(90)	77	暗灰褐色			
２号溝	12壙→○→1溝	直線	ほぼ直上	幅☆122	☆22	暗灰褐色/含Ｔ ▲			
３号溝	7壙→○→1溝	直線	ほぼ直上	幅☆(110)	☆40	暗灰褐色	常滑片		
１号井戸	1溝→○	楕円形	ほぼ直上	132×116	☆140	暗灰褐色	瀬美(徳利･擂鉢)/焙烙/銭貨/板碑	16c 中～	
１号土壙	1溝、8壙→○	長方形	ほぼ直上	(344)×64	☆24	暗灰褐色	かわらけ＝16c	16c～	
２号土壙	3壙→○	長方形？	ほぼ直上	(110)×60	☆14	暗灰褐色/含Ｔ ▲			
３号土壙	○→2壙	不整形	ゆるやか？	166×(78)	☆25	暗灰褐色/含Ｔ ▲			
４号土壙	なし	長方形	ゆるやか	(190)×80	☆14	暗灰褐色	銭貨		
５号土壙	12壙	隅丸長方形	ほぼ直上	(150)×74	6	不明			
６号土壙	○→1井、11壙	長方形？	不明	(110)×(40)		暗灰褐色			
７号土壙	○→3溝、10壙	隅丸長方形？	ゆるやか	468×207	10	暗灰褐色/含LB◎	かわらけ＝16c 末？		
８号土壙	○→1壙	円形？	ゆるやか	(146)×(94)	☆18	暗灰褐色			
９号土壙	1溝→○	不整形	ほぼ直上	170×(56)	☆30	暗灰褐色/含LR◎	粉挽臼(下臼)		
10号土壙	7壙→○	楕円形	ほぼ直上	76×74	☆26	暗灰褐色	中国(白磁碗＝11c 後～12c)		
11号土壙	1溝→○	長方形	ほぼ直上	302×80	☆22	暗灰褐色/含Ｔ ▲	焙烙		
12号土壙	○→2溝	長方形？	ゆるやか	(128)×(42)	10	不明	銭貨		
13号土壙	7壙	？	ゆるやか	54×(50)	6	暗灰褐色/含LB◎			

第８表　騎武第32次遺構一覧表



1号溝



2号溝

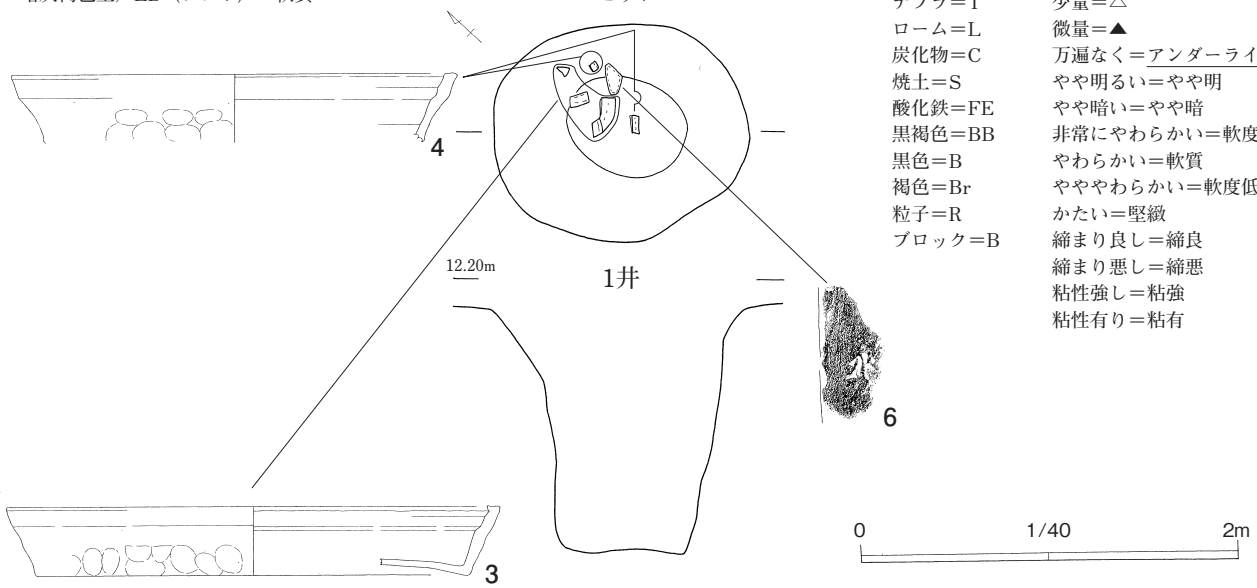
２溝セクション
1　暗灰褐色土（耕作土）／FE◎、T　堅緻　締良
2　暗灰褐色土／LR△、S　▲、T◎　堅緻　締良
7　暗灰褐色土／LB（ソフト）△　軟質
8　暗灰褐色土／LB（ソフト）、LR△、C　、S　▲、T　締良

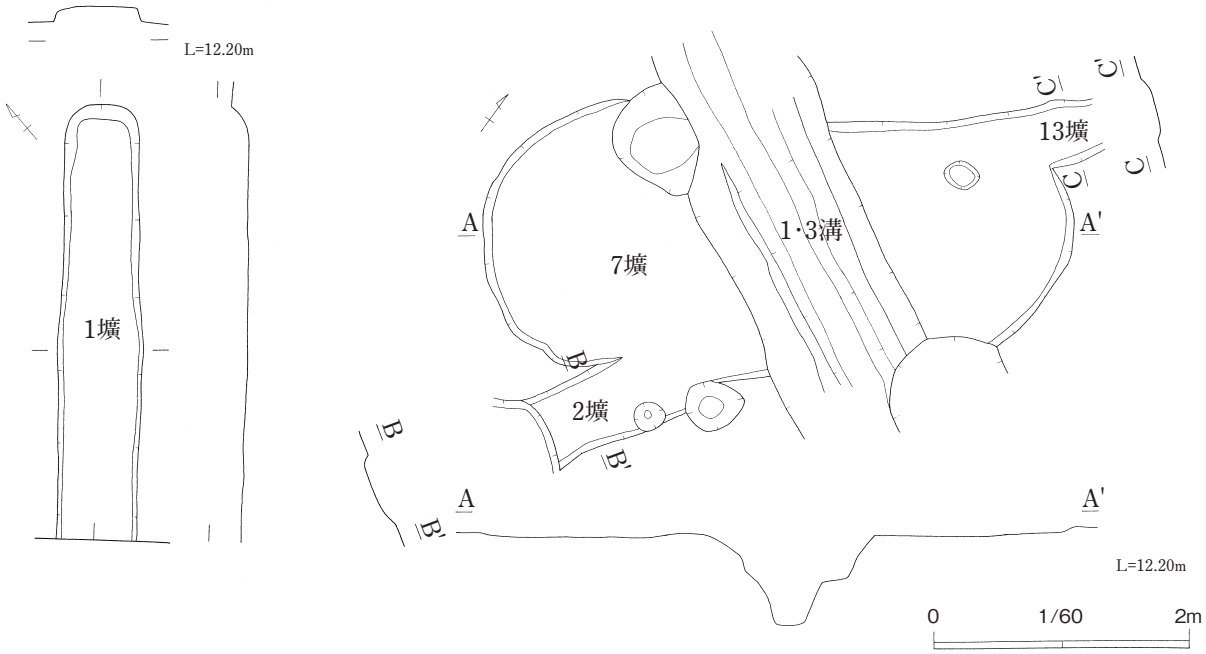
１溝３溝東壁セクション
2　暗灰褐色土（１層より暗）／LB、LR△、T、締良　→３溝
3　暗灰褐色土／LB（ソフト）△　全体に黄色味がかる　締良
5　暗灰褐色土（灰色味強暗）／LB、LR◎、FE◎　締良
6　暗灰褐色土（５層より暗）
8　暗灰褐色土（耕作土）／FE◎、T　堅緻　締良
9　暗灰褐色土／LR△、S　▲、T◎　堅緻　締良
10　暗灰褐色土／LB（ソフト）△　軟度低
12　暗灰褐色土／LR◎、C　△　締良　→９壙
13　暗灰褐色土／LR△、C　◎　締良
14　暗灰褐色土（暗）／LR△、S　▲　締良
15　暗灰褐色土／LB（ソフト）　軟質

→ピット

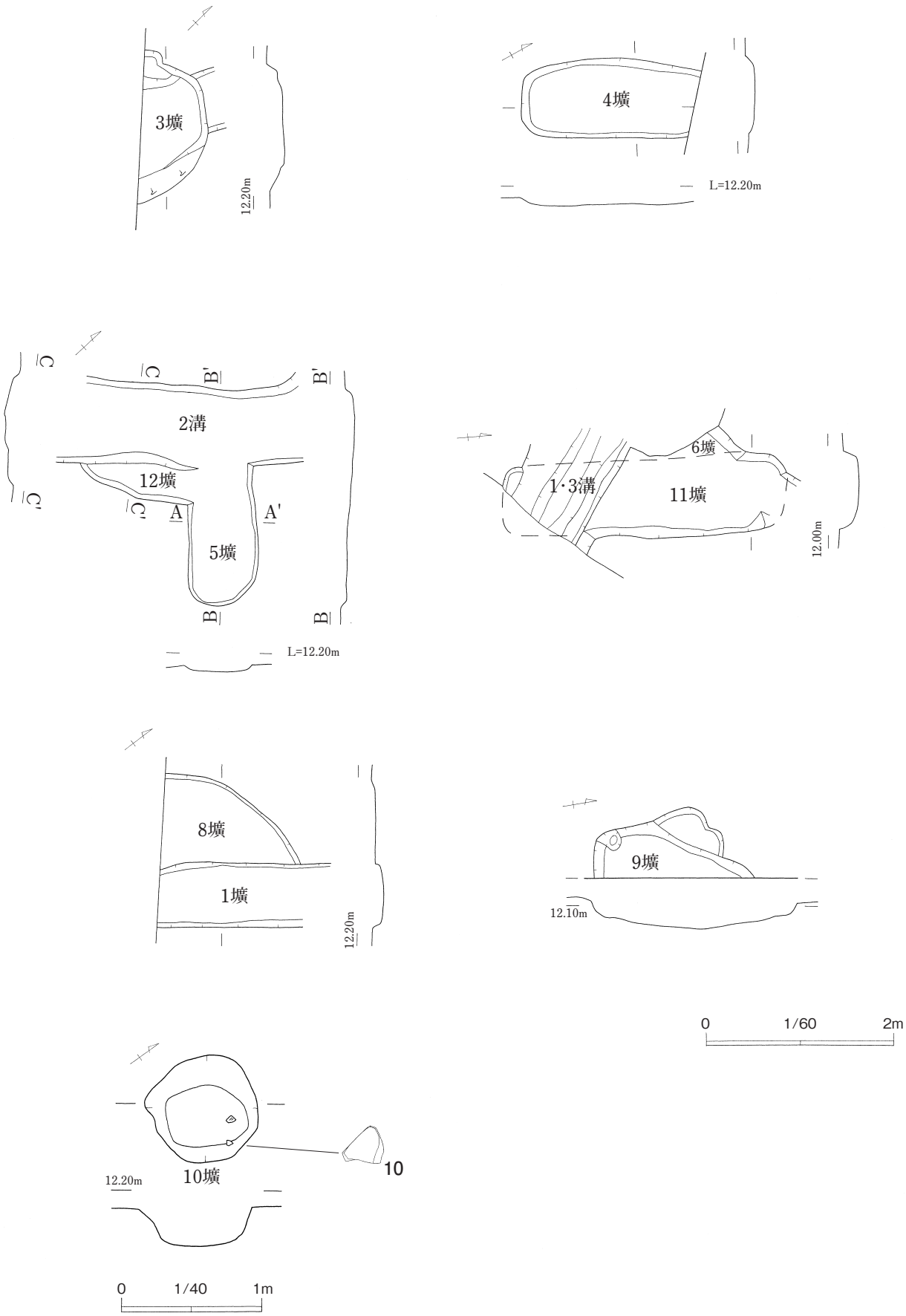
土層説明凡例
色調／含有物
テフラ＝T
ローム＝L
炭化物＝C
焼土＝S
酸化鉄＝FE
黒褐色＝BB
黒色＝B
褐色＝Br
粒子＝R
ブロック＝B

非常に多い＝☆
多量＝◎
少量＝△
微量＝▲
万遍なく＝アンダーライン
やや明るい＝やや明
やや暗い＝やや暗
非常にやわらかい＝軟度高
やわらかい＝軟質
ややわらかい＝軟度低
かたい＝堅緻
締まり良し＝締良
締まり悪し＝締悪
粘性強し＝粘強
粘性有り＝粘有

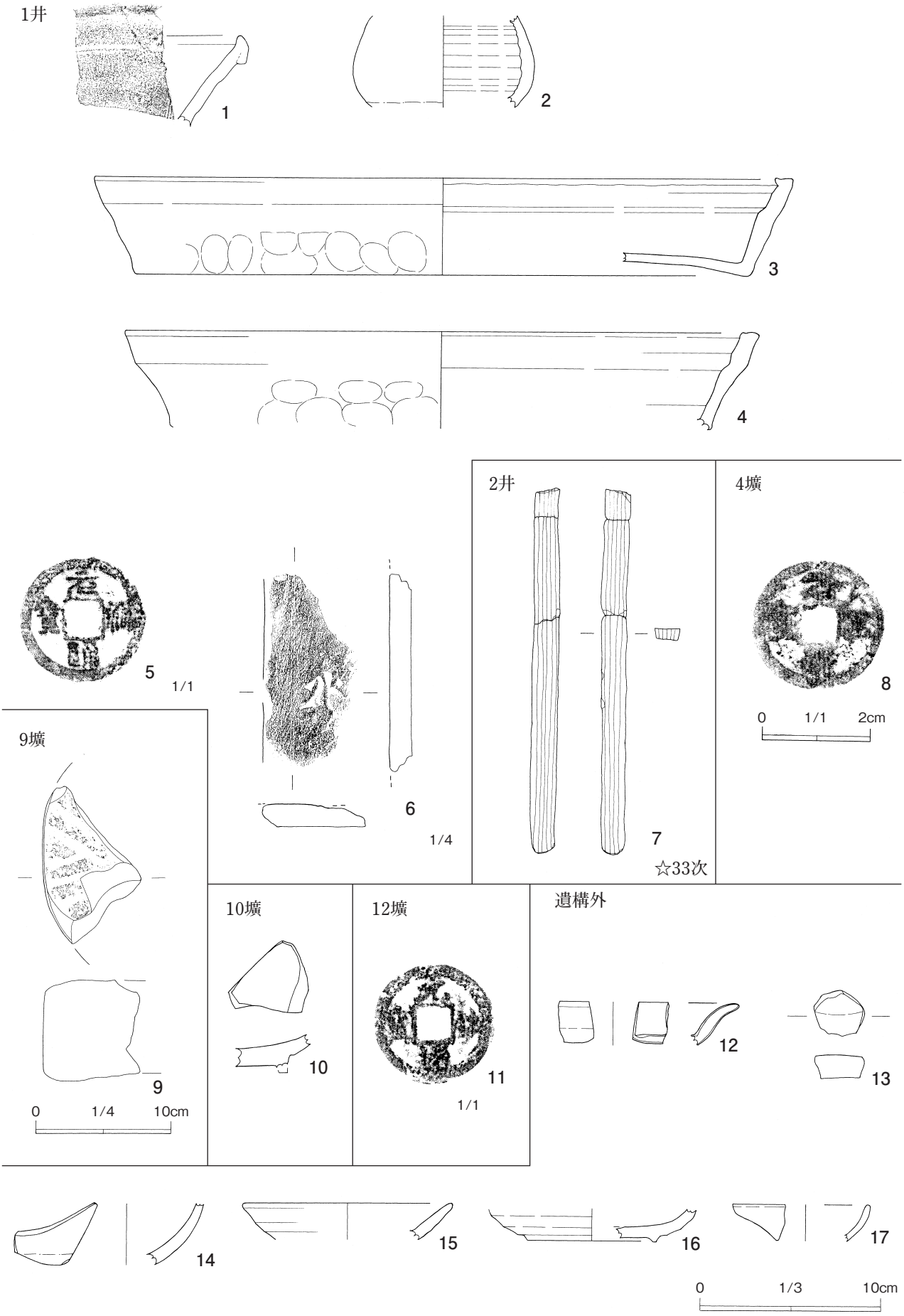




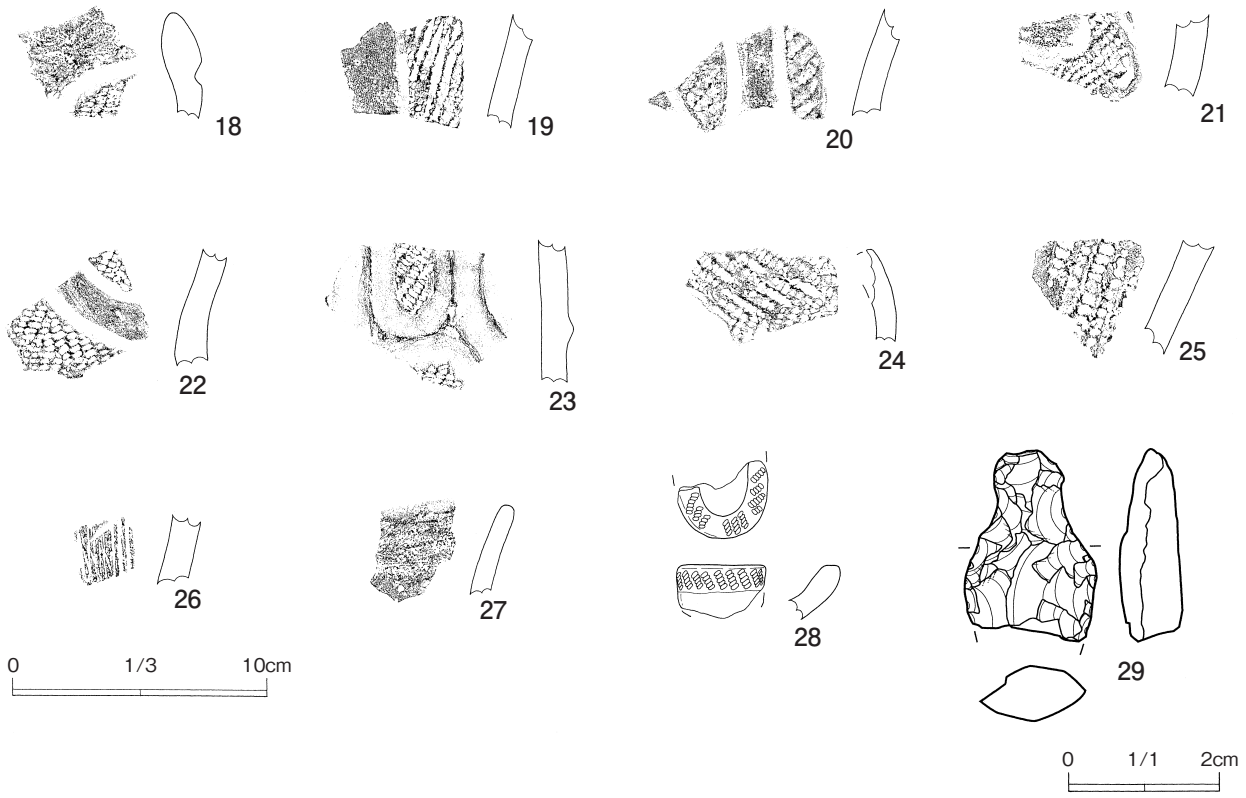
第32図　騎武第32次遺構２



第33図　騎武第32次遺構３



第34図　騎武第32次遺物１



第35図　騎武第32次遺物２

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	形式等	年代	遺物 ID	備考
1	擂鉢	瀬戸美濃	1井	―	―	―	大2		鉢01	
2	徳利	瀬戸美濃	1井	―	―	―	大3		袋01	
3	ほうろく	在地	1井(No.1～4、一括)	＊38.6	＊34.0	5.4			H01	
4	ほうろく	在地	1井(No.5･6、一括)、6･11壙、2層	＊35.0	―	―			H02	
5	銭貨(元祐通宝)	銅	1井	―	―	―			0032－0001	
6	板碑	石(緑泥片岩)	1井No.7	(14.7)	(7.7)	1.6			0032－0001	
7	棒状製品	木	2井　★第33次出土遺物★	(20.2)	1.4	0.7			0032－0001	
8	銭貨(元？通宝)	銅	4壙　No.3	―	―	―			0032－0003	
9	粉挽臼(下臼)	石(安山岩)	9壙	―	(7.1)	(7.0)			石01	
10	白磁碗	中国	10壙　No.2	―	―	―	Ⅱ	11c 後～12c	白01	
11	銭貨(元祐通宝)	銅	12壙	―	―	―			0032－0002	
12	青磁端反皿	龍泉窯系中国	2層	―	―	―		14c～15c	青01	
13	土製円盤(甕)	常滑	2層	2.6	―	1.3			つぶて石1	
14	丸碗	瀬戸美濃	表土	―	―	―	大4		碗01	
15	稜皿	瀬戸美濃	2層	＊11.6	―	―	大3		皿03	
16	志野丸皿	瀬戸美濃	2層	―	＊7.0	―	大4後		皿02	
17	丸皿	肥前(唐津)	2層	―	―	―		16c～17c 前	皿01	
18	縄文土器	土器	一括	―	―	―	加曽利 E			
19	縄文土器	土器	2層	―	―	―	加曽利 E			
20	縄文土器	土器	2層	―	―	―	加曽利 E			
21	縄文土器	土器	4壙　No.2	―	―	―	加曽利 E			
22	縄文土器	土器	1溝	―	―	―	加曽利 E			
23	縄文土器	土器	2層	―	―	―	加曽利 E			
24	縄文土器	土器	一括	―	―	―	加曽利 E			
25	縄文土器	土器	一括	―	―	―	加曽利 E			
26	縄文土器	土器	2層	―	―	―	加曽利 E			
27	縄文土器	土器	2層	―	―	―	後期			
28	縄文土器	土器	一括	―	―	―	加曽利 E			
29	石匙	石(流紋岩)	1壙	2.5	1.7	0.7			0032－0001	

第９表　騎武第32次遺物一覧表

第Ⅵ章　騎武第33次調査

第１節　調査の概要

（調査に至る経過）

平成４年４月６日、開発者斉藤幸作氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋仮換地52街区12画地における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地は騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

平成４年４月８日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、島村範久が担当した。

（調査協力員）

栗原政子　田島汀七　斉藤年治　土屋とよ

（文化庁通知）４委保記第５－3217号
平成４年10月20日

（調査期間）　平成４年６月16日～９月２日

（調査面積）　165㎡

（調査の経過）

隣接する第32・34次調査と並行で調査した。建設予定地に15m×６ｍの調査区を設定し掘り下げた。また、調査区南にトレンチを３ヶ所設定し調査した。湧水のため西側に側溝を設け水中ポンプにより排水した。ローム面を遺構確認面とし溝・井戸・土壙の調査を実施した。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。全側図作成後東へ拡張し21号土壙及びＨ－１住居跡を調査した。最後に縄文時代の精査をした。

（周辺の調査）

西に騎武第32・38次、北に第34・42次、、東にKB16区が所在する。当調査区の南北に障子堀が巡り、北側一帯にはピット・井戸が多数分布する。また１・５号溝は東西の調査区につながり長い直線のものとなる。

第２節　遺構と遺物

【溝】総数７条を数える。南側のトレンチで３条、調査区北端および東端に分布する。

１号溝　調査区北端に東西方向に走行する。幅122cm深さ85cmである。覆土上層にテフラを含む。第32次１号溝につながる。

５号溝　１号溝に併行し、第32次３号溝につながる。

【井戸状遺構】調査時は４まで命名したが、振り替えにより総数２基となった。１号井戸は第２トレンチ・３号井戸は調査区中程に位置する。

３号井戸　平面楕円形で、152cm×134cm深さ140cmである。かわらけ（３）・ほうろく（４）が出土した。

【土壙】総数21基で、ほぼ全面に分布する。長辺200～300cmの大形の長方形土壙が多い。主軸方向は南北が多数を占め、12・21号土壙はややずれる。７・16号土壙は東西方向である。

１号土壙　平面楕円形で270cm×190cm深さ30cmを計る。中央に炭化物がまとまって出土した。

２号土壙　平場が３ヶ所あり北半分は階段状で、南端にも段を有する。南側が最も深く円形で井戸状である。全体は270cm（残存）×120cm深さ100cmで、南側円形部分は直径120cmを計る。覆土はやや締まり悪し。

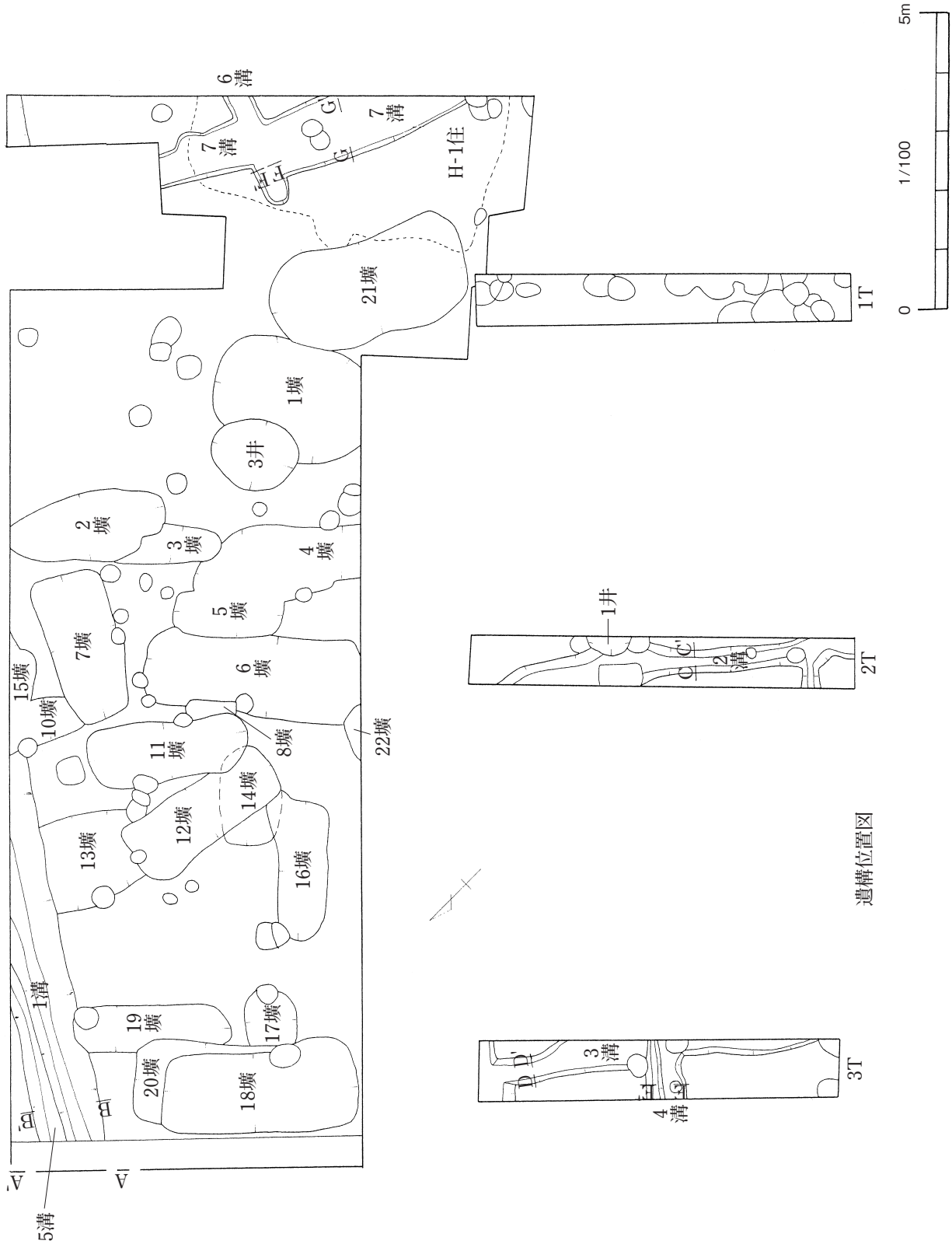
７号土壙　東西に長軸を持つ数少ないもので、平面長方形で254cm×120cm深さ32cmである。北寄りに位置し焼土・炭化物・白色土がまとまって出土した。

14号土壙　平面隅丸長方形で162cm×100cm深さ７cmを計る。かわらけ（13）・骨粉・炭化物が出土している。

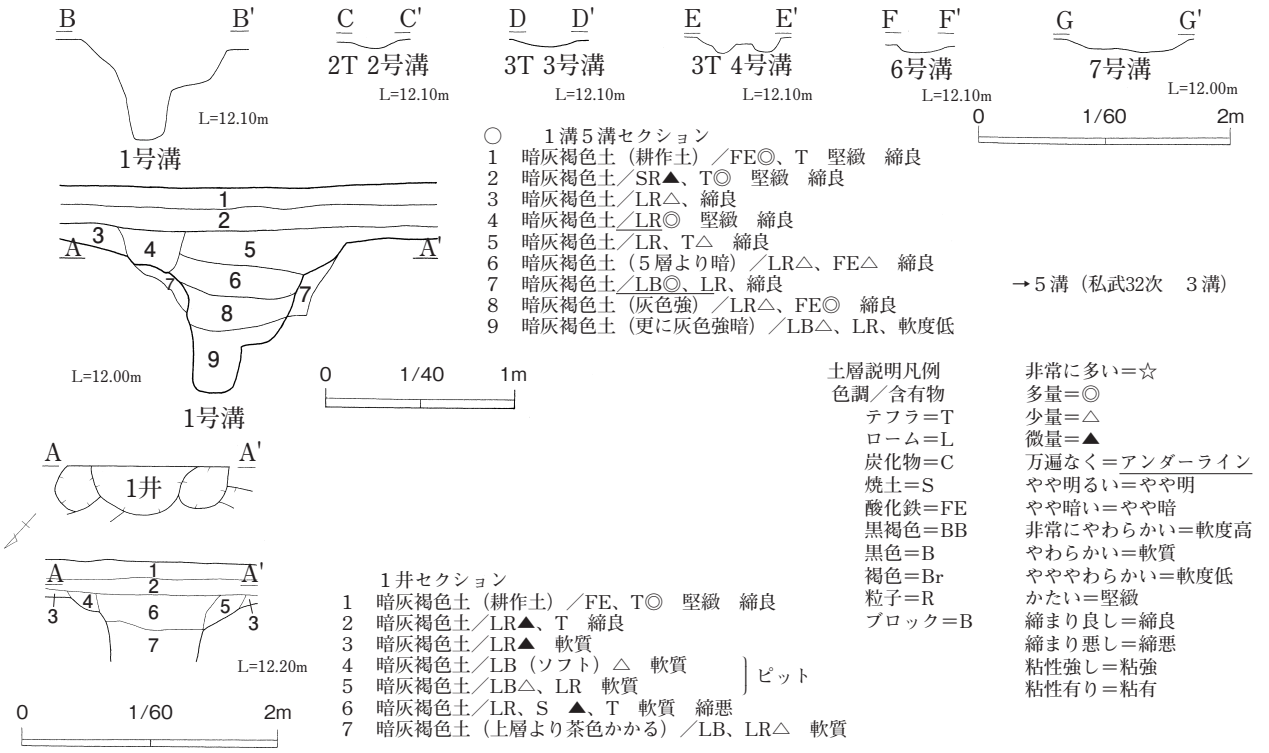
21号土壙　調査区東寄りに位置し、最も深い土壙である。平面長方形で340cm×180cm深さ160cmを計る。かわらけ（17～23）・ほうろく（24～26）・木槌頭部（29）のほかにスラグ134g・巻貝・桃の種等が出土した。

【住居跡】調査区東端に竪穴住居の半分ほどが確認された。

Ｈ－１号住居跡　一辺が５ｍの平面方形を呈すると



第36図　騎武第33次遺構１

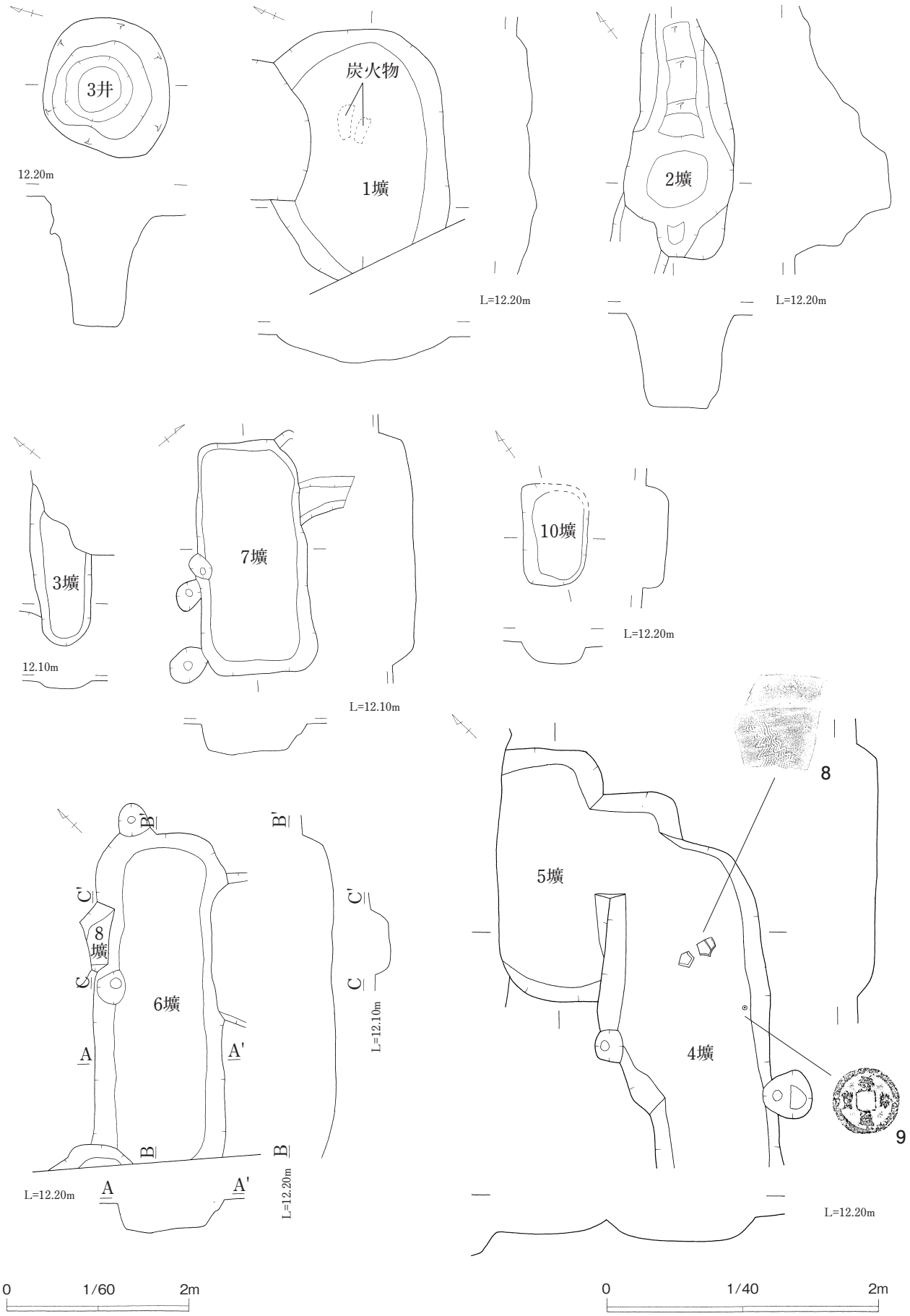


第37図　騎武第33次遺構２

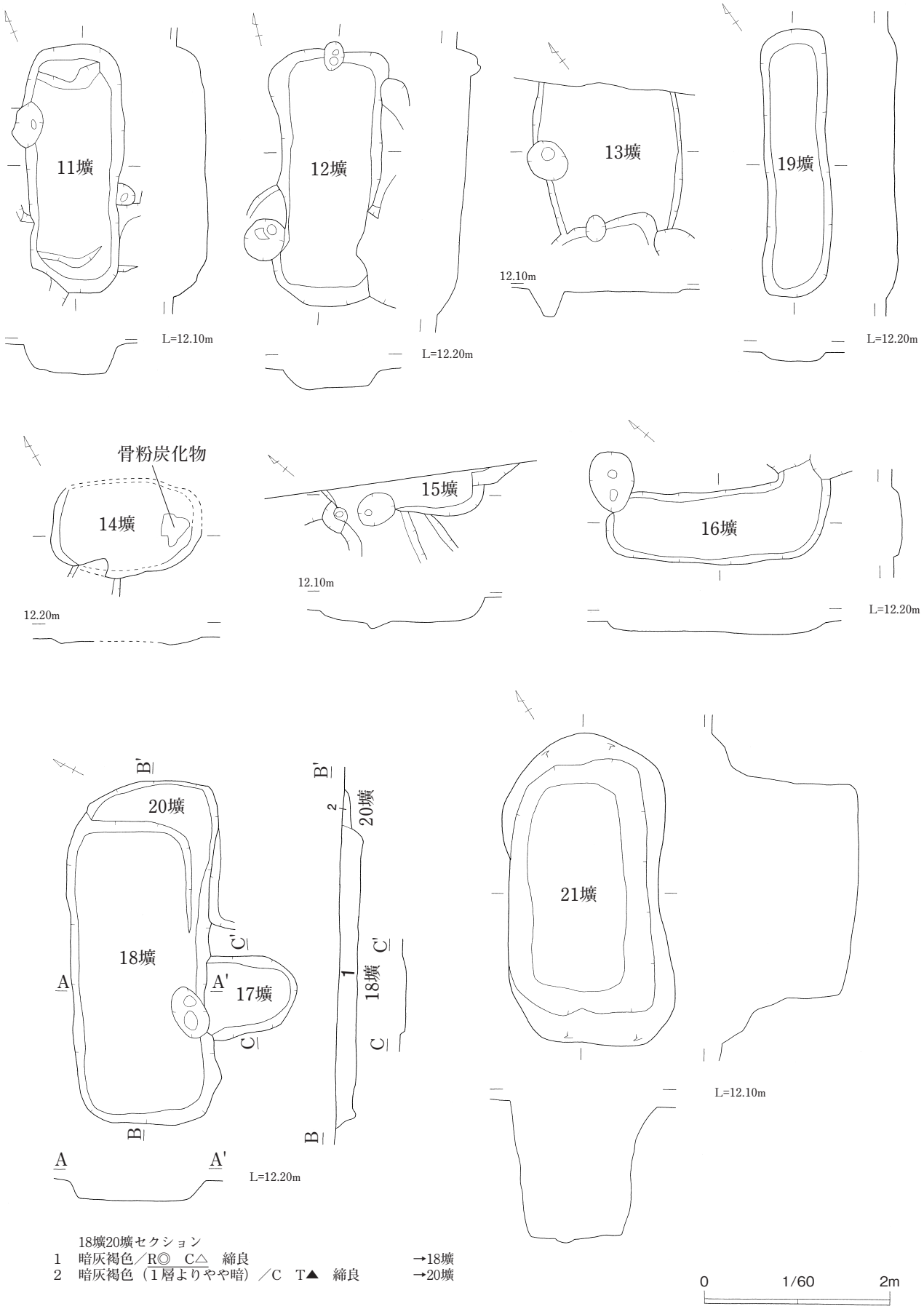
（　）は残存値、☆はセクション図計測値　　○は当該遺構　　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物」、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模（cm）	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
１号溝	5溝→○→19壙	直線	薬研？	幅☆122	☆85	暗灰褐色/含T　△			
２号溝	1井	直線	ゆるやか	幅35	7	不明	瀬美瓶子		
３号溝	4溝	直線	ゆるやか	幅39	6	不明			
４号溝	3溝	直線	ほぼ直上	幅22	12	不明			
５号溝	○→1溝	直線	ほぼ直上	幅☆(108)	☆30	暗灰褐色/含LB◎·LR◎			
６号溝	7溝	直線	ゆるやか	幅☆40	☆6	暗灰褐色			
７号溝	6溝	直線	ゆるやか	幅111	☆10	暗灰褐色			
１号井戸	2溝	円形？	ロート状	80×(38)	69.5	暗灰褐色/含T　▲	銭貨		
２号井戸	欠番								21壙に振替
３号井戸	1壙→○	楕円形	ほぼ直上	152×134	☆140	LB層	かわらけ＝16c？/焙烙	16c～	
１号土壙	○→3井	楕円形	ゆるやか	270×190	☆30	暗灰褐色	かわらけ＝16c？/石臼/搗臼/磨石	16c～	
２号土壙	3壙→○	不整長方形	ほぼ直上	(270)×120	☆100	暗灰褐色/含LB◎·LR◎·T　▲			
３号土壙	○→2壙	隅丸長方形	ゆるやか	(180)×64	8	不明			
４号土壙	3·5壙	長方形	ほぼ直上	(190)×124	☆20	暗灰褐色	在地擂鉢/銭貨		
５号土壙	6壙→○	長方形	ほぼ直上	186×(72)	☆16	暗灰褐色/含T　▲	FE塊？		
６号土壙	○→5壙	長方形	ほぼ直上	(354)×142	36	暗灰褐色	瀬美天目/かわらけ＝16c中	16c中～	
７号土壙	○→10壙	長方形	ほぼ直上	254×120	32	暗灰褐色/含LB◎·LR◎			
８号土壙	11壙→○→6壙	不明	ほぼ直上	80×(20)	20	不明			
９号土壙	欠番								14壙に振替
10号土壙	15·7壙→○	長方形	ほぼ直上	110×70	☆26	暗灰褐色			
11号土壙	○→8壙→6壙	長方形	ほぼ直上	270×106	40	暗灰褐色	銭貨		
12号土壙	11壙→○→14壙	長方形	ほぼ直上	280×110	☆24	暗灰褐色/含LB◎·LR◎			
13号土壙	1溝、12壙	長方形？	ゆるやか	(166)×158	6	不明			
14号土壙	12壙→○	隅丸長方形	ゆるやか	162×100	7	暗灰褐色	かわらけ＝16c?	16c～	
15号土壙	○→10壙	長方形？	ほぼ直上	178×(48)	☆50	暗灰褐色/含LR◎			
16号土壙	なし	長方形	ほぼ直上	240×76	16	暗灰褐色			
17号土壙	○→18壙	隅丸長方形	ゆるやか	(196)×80	6	暗灰褐色			
18号土壙	17·20壙→○	長方形	ほぼ直上	326×134	☆22	暗灰褐色			
19号土壙	1溝→○	長方形	ゆるやか	294×70	11	不明			
20号土壙	○→18壙	長方形？	ゆるやか	(163)×144	10	暗灰褐色/含T　▲			
21号土壙	1壙	長方形	ほぼ直上	340×180	160	暗灰褐色	龍泉(青磁碗＝13c)/中国(染付皿＝15中～16c後)/瀬美徳利/在地擂鉢/かわらけ＝16c/焙烙/茶臼(上臼)/桶/木槌/加工材/磨石/板碑/馬の歯/桃の種/巻貝/スラグ134g	16c～	
22号土壙	6壙→○	円形？	ほぼ直上	(94)×(26)	☆50	暗灰褐色/含LR◎			
H-1住居跡	―	円形？	―	508×(272)	56	黒褐色			

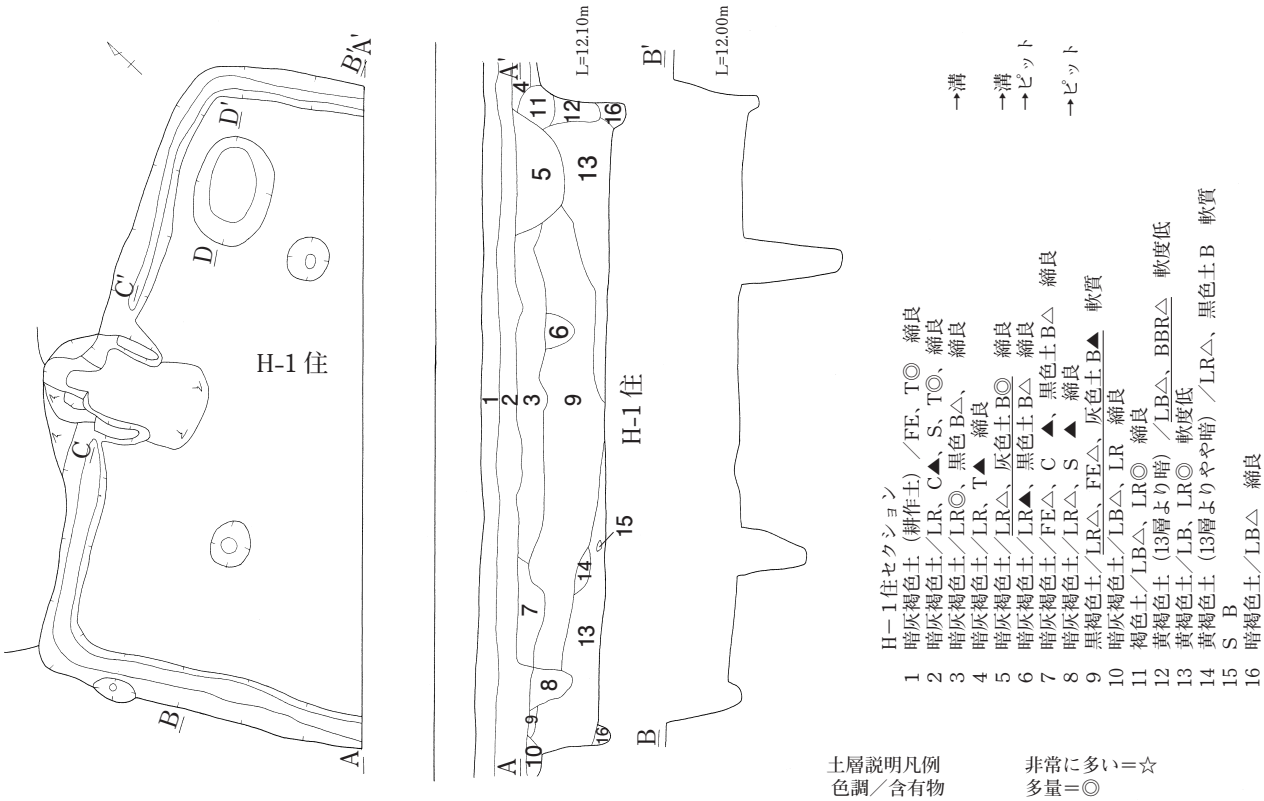
第10表　騎武第33次遺構一覧表



第38図　騎武第33次遺構３



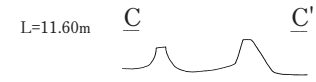
第39図　騎武第33次遺構４



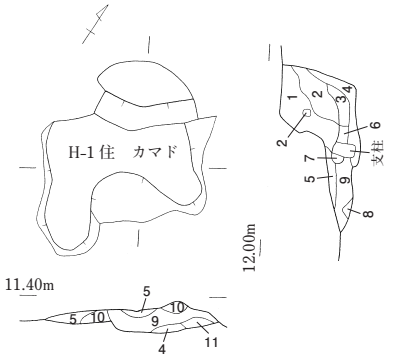
H－1住セクション
1 暗灰褐色土（耕作土）／FE、T◎　締良
2 暗灰褐色土／LR、C▲、S、T◎、締良
3 暗灰褐色土／LR◎、黒色B△、　締良
4 暗灰褐色土／LR、T▲　締良
5 暗灰褐色土／LR△、灰色土B◎　締良
6 暗灰褐色土／LR▲、黒色土B△　締良
7 暗灰褐色土／FE△、C ▲、黒色土B△　締良
8 暗灰褐色土／LR△、S ▲　締良
9 黒褐色土／LR△、FE△、灰色土B▲　軟質
10 暗灰褐色土／LB△、LR　締良
11 褐色土／LB△、LR◎　締良
12 黄褐色土（13層より暗）／LB△、BBR△　軟度低
13 黄褐色土／LB、LR◎　軟度低
14 黄褐色土（13層よりやや暗）／LR△、黒色土B　軟質
15 S　B
16 暗褐色土／LB△　締良

土層説明凡例
色調／含有物
テフラ＝T
ローム＝L
炭化物＝C
焼土＝S
酸化鉄＝FE
黒褐色＝BB
黒色＝B
褐色＝Br
粒子＝R
ブロック＝B

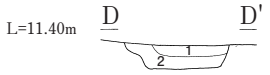
非常に多い＝☆
多量＝◎
少量＝△
微量＝▲
万遍なく＝アンダーライン
やや明るい＝やや明
やや暗い＝やや暗
非常にやわらかい＝軟度高
やわらかい＝軟質
ややわらかい＝軟度低
かたい＝堅緻
締まり良し＝締良
締まり悪し＝締悪
粘性強し＝粘強
粘性有り＝粘有



H-1住　カマド

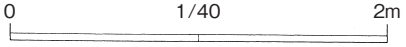


H－1住カマドセクション
1 LR/LR◎、SB、SR△　締良
2 S/SR　ボロボロで締悪
3 黒色土／LR△、S　R△　軟質
4 黒褐色土／LR◎、S　▲　軟質
5 褐色土／LR△、S　締良
6 褐色土／LR△、S　△　ボロボロで　締悪
7 LB/L の焼けたもの（カチカチに焼けている）
8 褐色土／LR△、S　△　ボロボロで締悪
9 S　／S　B主体　LB△　ボロボロ
10 黄褐色粘土／S　△　やや粘
11 灰白色粘土／S　△　やや粘

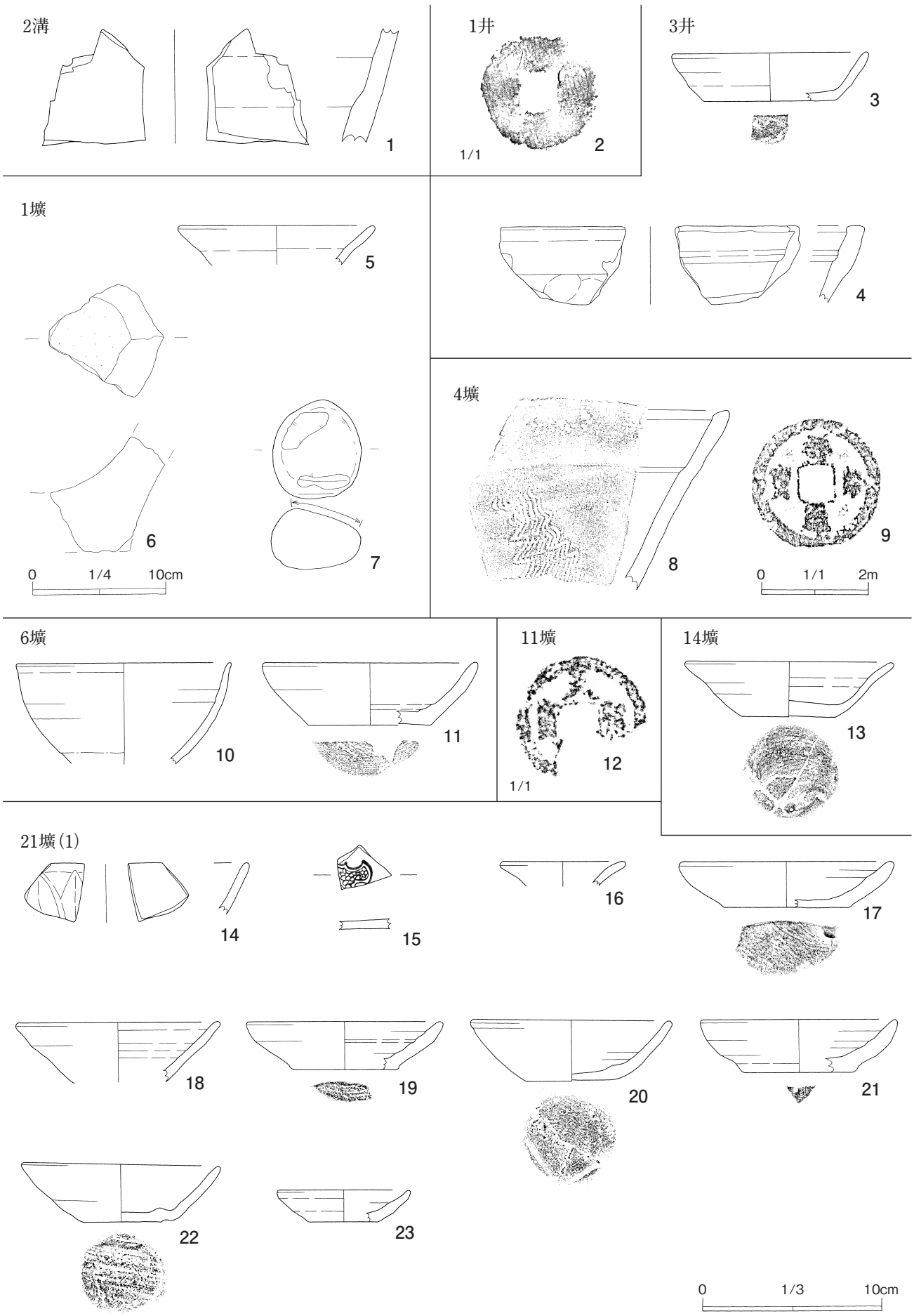


H-1住　貯蔵穴

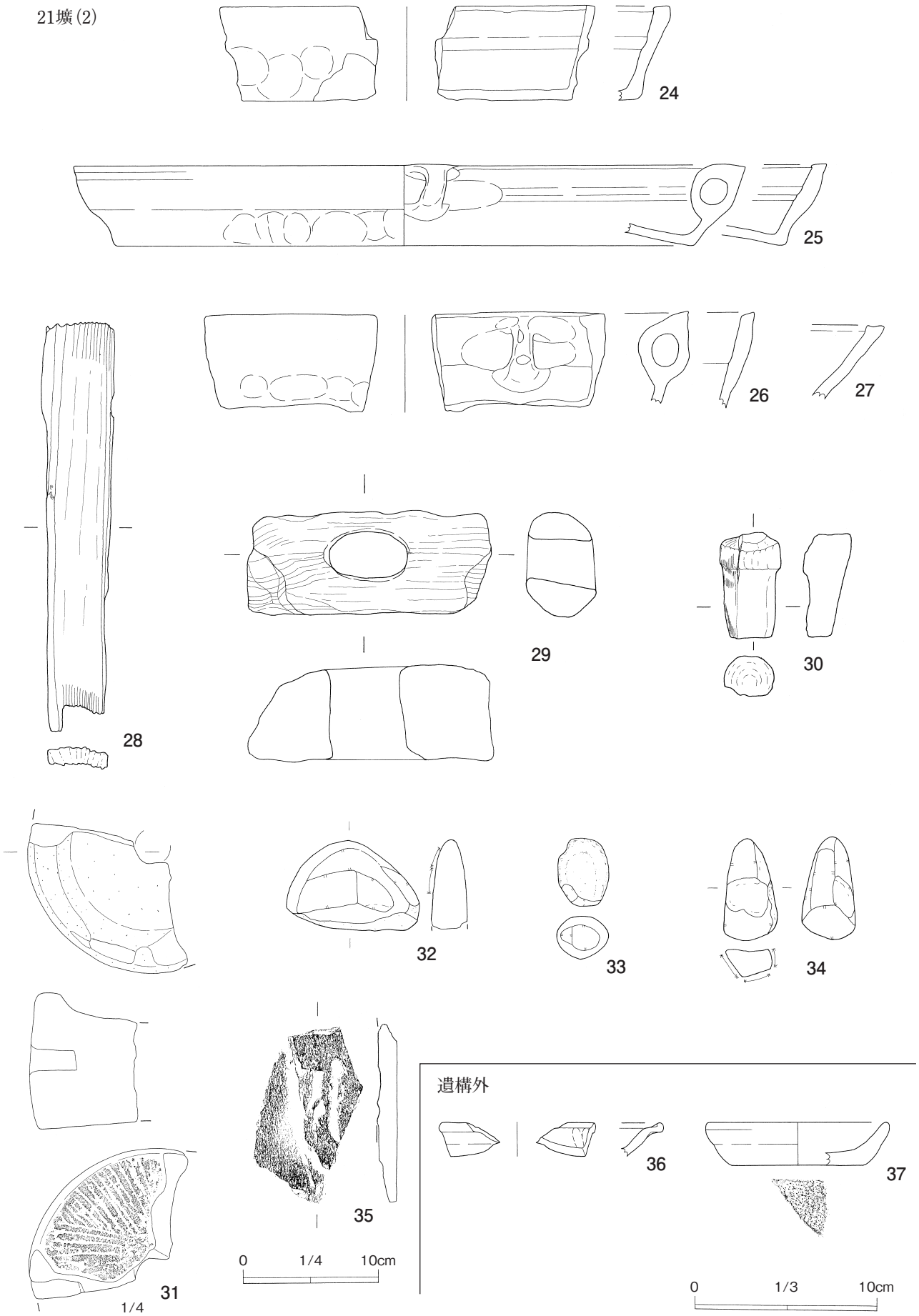
H－1住貯蔵穴セクション
1 黄褐色土／LB△　締悪
2 黄褐色土（上層よりやや暗）／LB△、C　▲　締悪



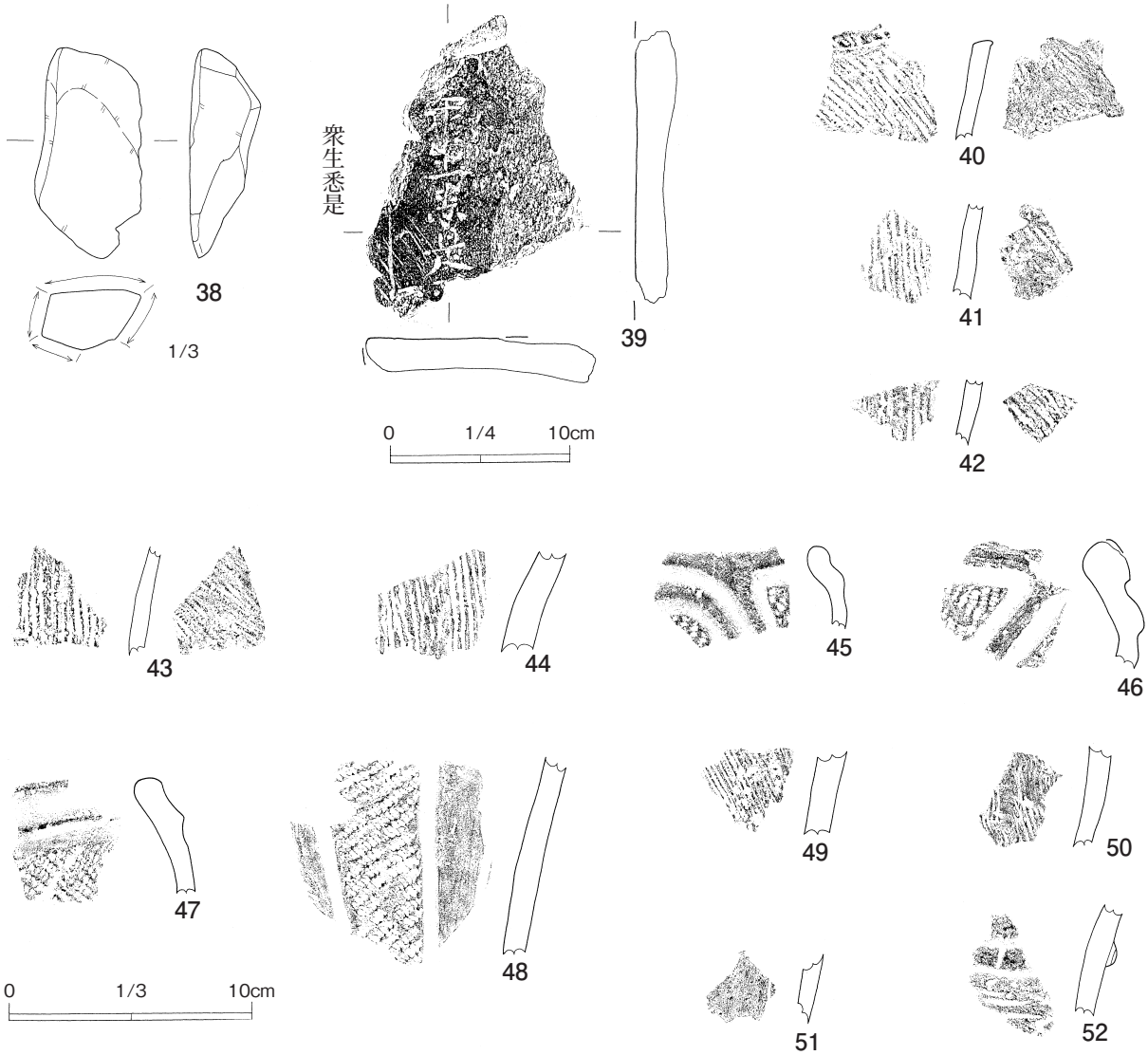
第40図　騎武第33次遺構５



第41図　騎武第33次遺物１



第42図　騎武第33次遺物２



第43図　騎武第33次遺物３

思われ、深さ56cm を計る。竈を北辺に設け、貯蔵穴を竈脇東に備える。柱穴２本が確認された。覆土中に焼土・炭化物がまとまっていた。遺物は出土しておらず時代は不明である。北東30m に奈良期の住居跡が確認された。

調査風景

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地（材質）	出土地点	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	形式等	年代	遺物ID	備考
1	瓶子	瀬戸美濃	2溝No.125	－	－	－	古		袋02	
2	銭貨(熙寧元宝)	銅	1井2T	－	－	－			0033－0003	
3	かわらけ	在地	3井	＊11.0	＊7.4	2.7		◇16c?	K08	
4	ほうろく	在地	3井	－	－	－			H02	
5	かわらけ	在地	1壙No.5	＊11.0	－	－		◇16c?	K11	
6	搗臼	石(安山岩)	1壙No.3	－	(7.5)	(8.6)			石01	
7	磨石	石(デイサイト)	1壙No.1	5.6	4.9	3.4			0033－0001	
8	擂鉢	在地	4壙No.1	－	－	－			鉢02	
9	銭貨(祥符通宝)	銅	4壙No.3	－	－	－			0033－0001	
10	天目	瀬戸美濃	6壙No.1	＊12.0	－	－	大1		天01	
11	かわらけ	在地	6壙No.2、2層	＊12.0	＊6.8	3.5		◇16c 中	K04	
12	銭貨(天禧通宝)	銅	11壙	－	－	－			0033－0002	
13	かわらけ	在地	14壙(No.1・2)	＊11.6	5.2	3.1		◇16c?	K03	60％残
14	青磁碗	龍泉窯系中国	21壙No.1	－	－	－	B－1	13c	青01	
15	染付皿	中国	21壙No.35	－	－	－	B－1	15c 中～16c 後	染01	
16	徳利	瀬戸美濃	21壙No.25	＊7.0	－	－	大3、I		袋01	
17	かわらけ	在地	21壙No.3	＊12.0	＊7.0	2.6		◇16c	K06	
18	かわらけ	在地	21壙(No.4・下層)	11.4	－	－		◇16c	K05	40％残
19	かわらけ	在地	21壙(No.6、一括)	＊11.0	＊6.0	2.7			K07	
20	かわらけ	在地	21壙(No.8、一括)	11.2	5.0	3.3～3.6		◇16c	K02	70％残　見込ナデ　底面削り
21	かわらけ	在地	21壙No.48	＊11.0	＊6.4	3.0		◇16c	K12	
22	かわらけ	在地	21壙	＊11.0	4.5	3.1～3.4		◇16c	K01	60％残　見込ナデ　底面削り
23	かわらけ	在地	21壙	＊7.4	＊3.8	1.8	騎西城Ⅱ期		K09	
24	ほうろく	在地	21壙No.15	－	－	5.2			H01	
25	ほうろく	在地	21壙(No.18～20・37～40・42・43・45～47、一括)	＊37.0	＊32.0	4.4			H04	
26	ほうろく	在地	21壙No.41	－	－	－			H03	
27	擂鉢	在地	21壙No.5	－	－	－			鉢01	
28	桶	木	21壙	22.7	3.8	1.0			0033－0004	
29	木槌	木	21壙No.52	13.3	5.6	4.0			0033－0002	
30	加工材	木	21壙	5.8	3.5	－			0033－0003	
31	茶臼(上臼)	石	21壙	－	(7.7)	10.1			石03	
32	磨石	石(デイサイト)	21壙No.29	(5.0)	7.4	1.9			0033－0002	全面スス付着
33	磨石	石(デイサイト)	21壙	3.8	2.8	2.2			0033－0003	
34	磨石	石(デイサイト)	21壙	5.7	2.8	2.0			0033－0004	
35	板碑	石(緑泥片岩)	21壙No.53	(13.1)	(8.8)	(1.5)			0033－0001	
36	折縁皿	瀬戸美濃	2層	－	－	－	大4		皿01	
37	かわらけ	在地	一括	＊10.0	＊7.0	2.4	騎西城Ⅲ期		K10	
38	砥石	石(泥岩)	一括	8.7	4.4	2.9			石02	
39	板碑	石(緑泥片岩)	一括	(18.1)	(13.0)	(1.7)			0033－0002	
40	縄文土器	土器	一括	－	－	－	条痕文系			表裏条痕
41	縄文土器	土器	11壙	－	－	－	条痕文系			
42	縄文土器	土器	2層	－	－	－	条痕文系			
43	縄文土器	土器	一括	－	－	－	条痕文系			
44	縄文土器	土器	11壙	－	－	－	加曽利E			
45	縄文土器	土器	2層	－	－	－	加曽利E			
46	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利E			
47	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利E			
48	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利E			
49	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利E			
50	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利E			
51	土師器	土器	一括	－	－	－				
52	縄文土器	土器	21壙No.22	－	－	－	早期隆帯文系？			

第11表　騎武第33次遺物一覧表

第Ⅶ章　騎武第34次調査

第１節　調査の概要

（調査に至る経過）

平成３年９月25日、開発者関口一氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋仮換地52街区11画地における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地は騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

平成３年10月21日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、社会教育課主任嶋村英之が担当した。

（調査協力員）

梓沢ユキ子　岡田光子　山口保雄　山崎福太郎

（文化庁通知）４委保記第５－3023号
平成４年10月20日

（調査期間）　平成４年６月16日～９月３日

（調査面積）　110㎡

（調査の経過）

隣接する32・33次調査と並行で調査した。建設予定地に13.5m×8.3mの調査区を設定し掘り下げた。その際遺構密集区の東南隅にトレンチを入れ調査した。ローム面を遺構確認面とし溝・井戸・土壙の調査を実施した。さらにピットの確認を行った。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。最後に縄文時代の精査をした。

（周辺の調査）

西に騎武第42・32・38次、北に第30次、、東にKB16区、南に第33次が所在する。当調査区の南北に障子堀が巡り、本調査区を含め北側一帯にはピット・井戸が多数分布する。また２溝は東西の調査区につながり長い直線のものとなる。

第２節　遺構と遺物

【溝】２条確認され、東端に位置する。

１号溝　東西方向に走行し幅78cm（残存）深さ82cmを計る。

【井戸状遺構】　総数11基を数えるが東端に集中する。規模・深さは多様である。

１号井戸　102cm（残存）×80cm（残存）深さ166cmを計る。

２号井戸　192cm×120cm（残存）深さ210cmを計る。砥石（９）・板碑片（10～14）・雁俣様の鉄鏃？が出土した。10は裏面に砥面がある。

３号井戸　150cm×100cm（残存）深さ150cmを計る。かわらけ（15～18）・砥石（19）・磨石（20・21）が出土する。上層では焼土・炭化物がまとまって出土し、中位ではローム２次堆積が見られる。

４号井戸　104cm×94cm深さ140cmを計る。スラグ112gが出土した。

５号井戸　直径86cm深さ102cmを計る。下層でほうろく（28）・粉挽臼片（29～31）が出土した。

６号井戸　直径110cm深さ220cmを計る。深い。桶の底板（32）・表裏に砥面のある板碑片（34）・桃の種が出土した。

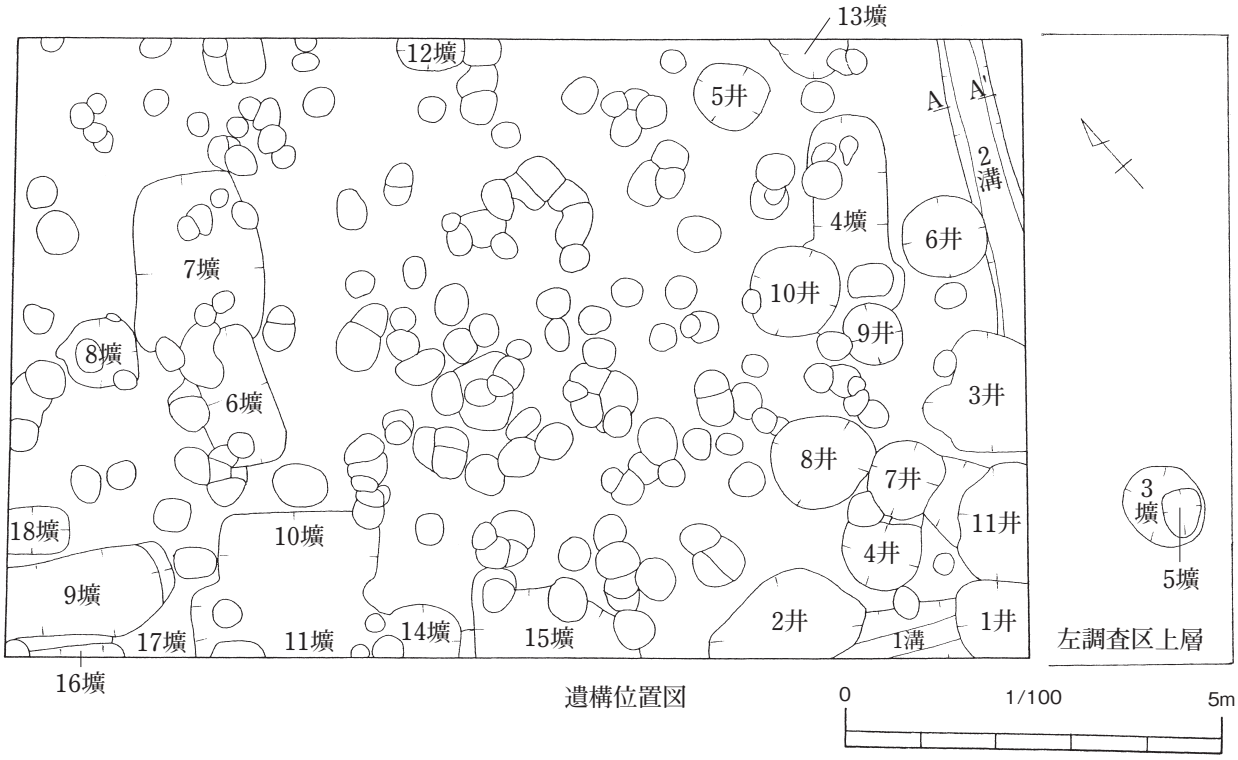
７号井戸　直径100cm深さ146cmを計る。長さ６cm馬形土製品（40）・スラグ６gが出土した。馬形土製品は横位に出土した。祭祀に伴うものか。

８号井戸　142cm×120cm深さ142cmを計る。板碑片（47・48）が出土した。

９号井戸　88cm×70cm深さ134cmを計る。スラグ18gが出土した。

10号井戸　124cm×120cm深さ170cmを計る。かわらけ（51～53）・ほうろく（54）・桶の側板11点及び底板が２点（55・56）・板碑（58）が出土する。板碑裏面には砥面がある。内面黒色のかわらけ(51)・一部黒色（52）はほぼ完形で正位に並んで出土。祭祀に伴うものか。桶は散乱して出土した。側板にはたがの跡、底板には木釘が残る。55－12は不明だが同一個体として扱う。

11号井戸　直径164cm深さ210cmを計る。桶の側板（59－１～３・60）が４点出土した。59の３点は不

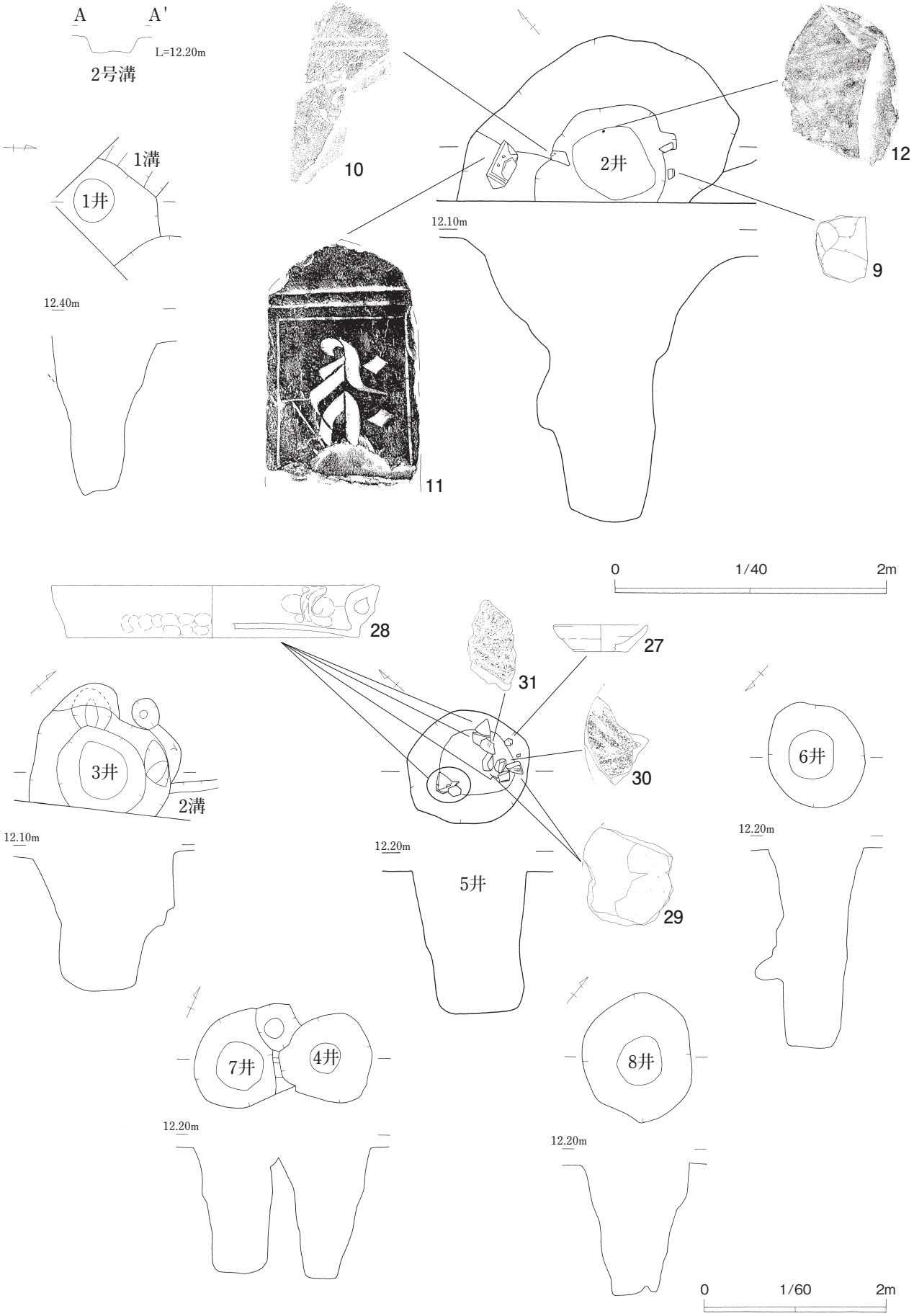


第44図　騎武第34次遺構１

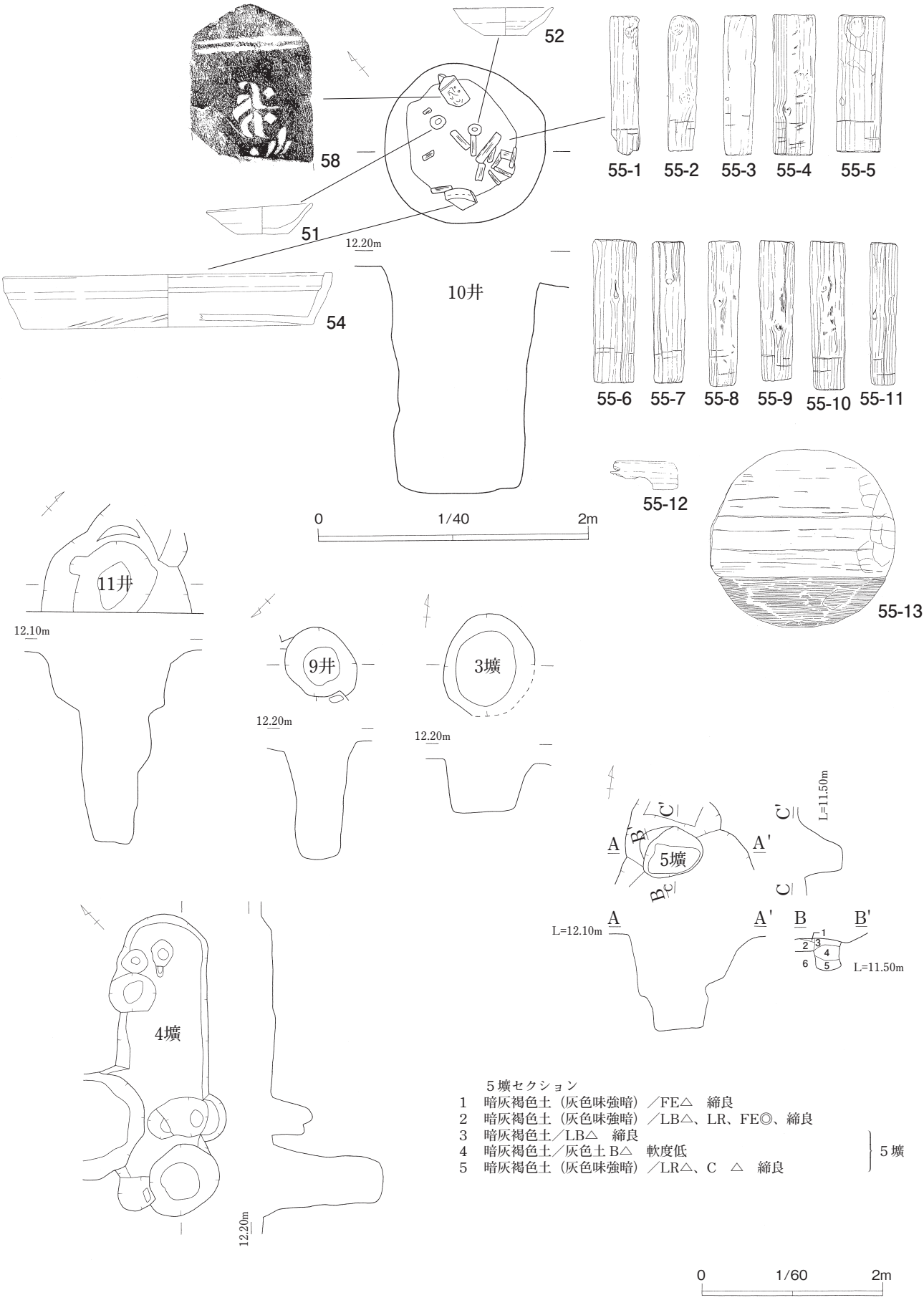
（　）は残存値、☆はセクション図計測値　　○は当該遺構　　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物」、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模（cm）	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
１号溝	○→1･2井	直線	箱薬研	幅(78)	☆82	暗灰褐色/含FE◎			
２号溝	6井	直線	ほぼ直上	幅☆65	☆16	暗灰褐色			
１号井戸	1溝→○	円形	ロート形	(102)×(80)	166	暗灰褐色/含LB層	瀬美擂鉢/かわらけ＝16c末？/銭貨	16c末～	
２号井戸	1溝→○	楕円形	ロート形	192×(120)	210	暗灰褐色/含LB層	在地擂鉢/かわらけ＝16c/焙烙/砥石/板碑＝室町/雁俣様製品(鉄鏃？)	16c～	
３号井戸	2溝→○	円形	ロート形	150×(100)	150	暗灰褐色/含LB層	瀬美(縁釉小皿･丸皿)/かわらけ＝15c中～16c末？/磨石/砥石/板碑	15c中～	
４号井戸	7井→○	円形	直上	104×94	☆140	暗灰褐色	中国(染付皿=15c後)/瀬美擂鉢/砥石/かわらけ=16c?	16c～	
５号井戸	なし	楕円形	直上	86	☆102	暗灰褐色	かわらけ＝16c？/焙烙/粉挽臼(上、下臼)	16c～	
６号井戸	2溝	円形	ほぼ直上	110	☆220	LB層	桶(底板)/板碑/桃の種		
７号井戸	8井→○→4井、3壙	円形	ロート形	100	☆146	暗灰褐色/含C　◎	中国(染付皿＝15c後、16c中･白磁皿＝15後～16c前)/瀬美(徳利･擂鉢)/磨石/砥石/土製馬/銭貨/スラグ6g	16c中～	
８号井戸	○→7井	円形	ほぼ直上	142×120	142	暗灰褐色/含FE◎･LR◎	瀬美擂鉢/焙烙/板碑	16c中～	
９号井戸	なし	楕円形	ほぼ直上	88×70	☆134	暗灰褐色/含T　▲	土鍋/粉挽臼(上臼)/スラグ18g		
10号井戸	4壙→○	円形	直上	124×120	☆170	暗灰褐色	かわらけ＝15c中～16c前/焙烙/桶(底板)/銭貨/板碑	15c中～	
11号井戸	○→5壙	楕円形	ロート形	164	210	暗灰褐色/含LB層	かわらけ＝16c/磨石/桶(側板)		
１号土壙	欠番					－			3井に振替
２号土壙	欠番					－			11井に振替
３号土壙	7井、5壙→○	円形	ほぼ直上	100	60	暗灰褐色	漳州(染付皿＝16後～17c前)/瀬美(丸皿･縁釉小皿)	16c後～	
４号土壙	○→10井	隅丸長方形	ゆるやか	(266)×100	13	暗灰褐色	在地擂鉢		
５号土壙	11井→○→3壙	楕円形	ほぼ直上	70×50	40	暗灰褐色			
６号土壙	7壙	隅丸長方形	ほぼ直上	190×102	☆23	暗灰褐色			
７号土壙	6壙	隅丸長方形	ゆるやか	(240)×178	☆12	暗灰褐色			
８号土壙	なし	円形	ほぼ直上	100×90	☆20	暗灰褐色	かわらけ		
９号土壙	17壙	隅丸長方形	直上	(230)×98	☆38	暗灰褐色/含LB◎･LR◎			
10号土壙	○→11壙	長方形	ほぼ直上	206×100	☆21	暗灰褐色/含LB◎･LR◎			
11号土壙	10壙→○	長方形	ほぼ直上	(246)×(66)	☆18	暗灰褐色	瀬美縁釉小皿		
12号土壙	なし	円形？	ほぼ直上	84×(44)	☆56	暗灰褐色/含LB◎･LR◎	火打石		
13号土壙	なし	円形？	ほぼ直上	104×(50)	☆20	暗灰褐色			
14号土壙	10壙	長方形	ゆるやか	(97)×(74)	18	不明			
15号土壙	なし	不整形	ほぼ直上	212×(90)	14	不明			
16号土壙	なし	楕円形？	不明	(117)×(14)	17	不明			
17号土壙	9･11壙	長方形	ゆるやか	(116)×(88)	14	不明			
18号土壙	なし	長方形	ゆるやか	(86)×66	☆12	暗灰褐色			

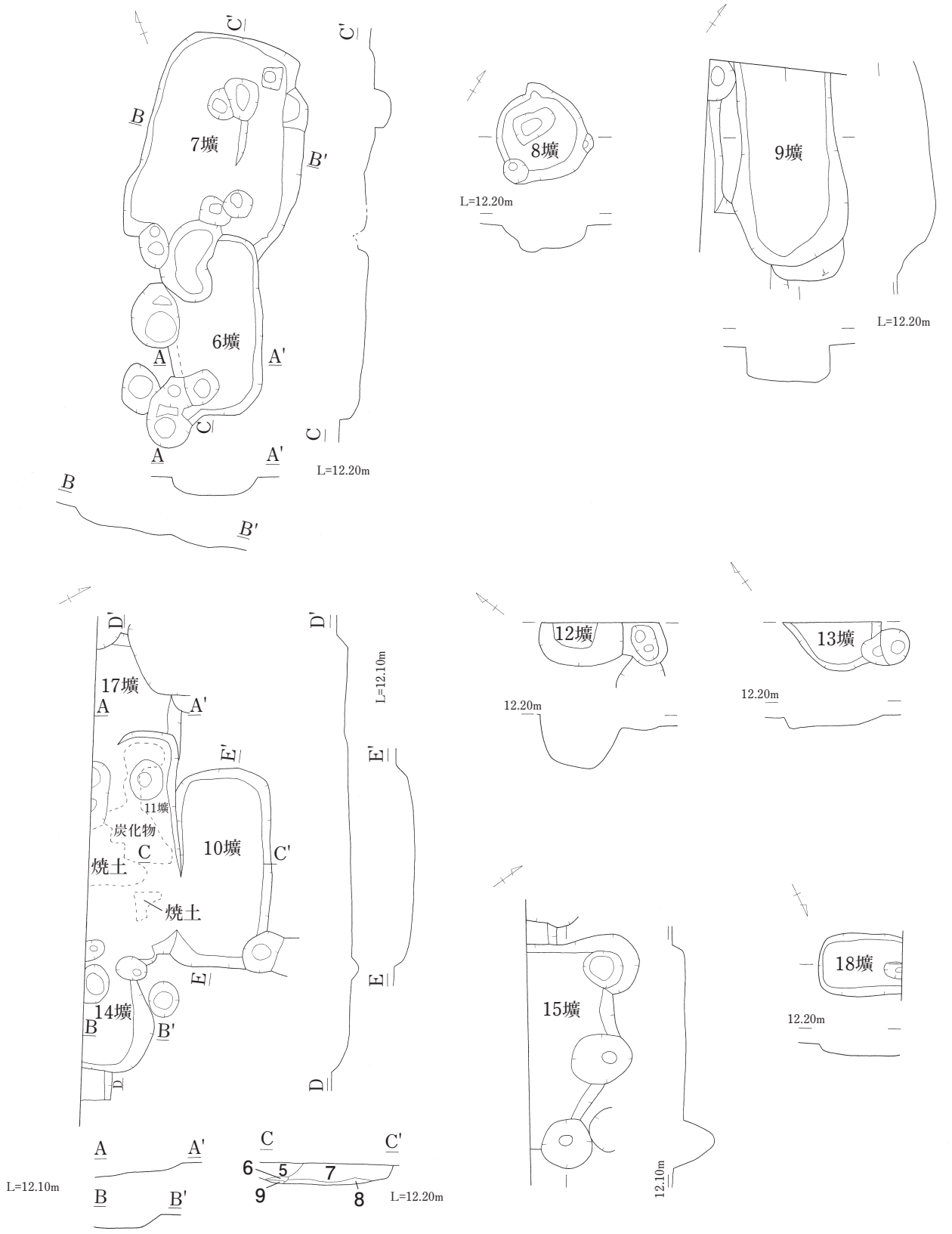
第12表　騎武第34次遺構一覧表



第45図　騎武第34次遺構２



第46図　騎武第34次遺構３

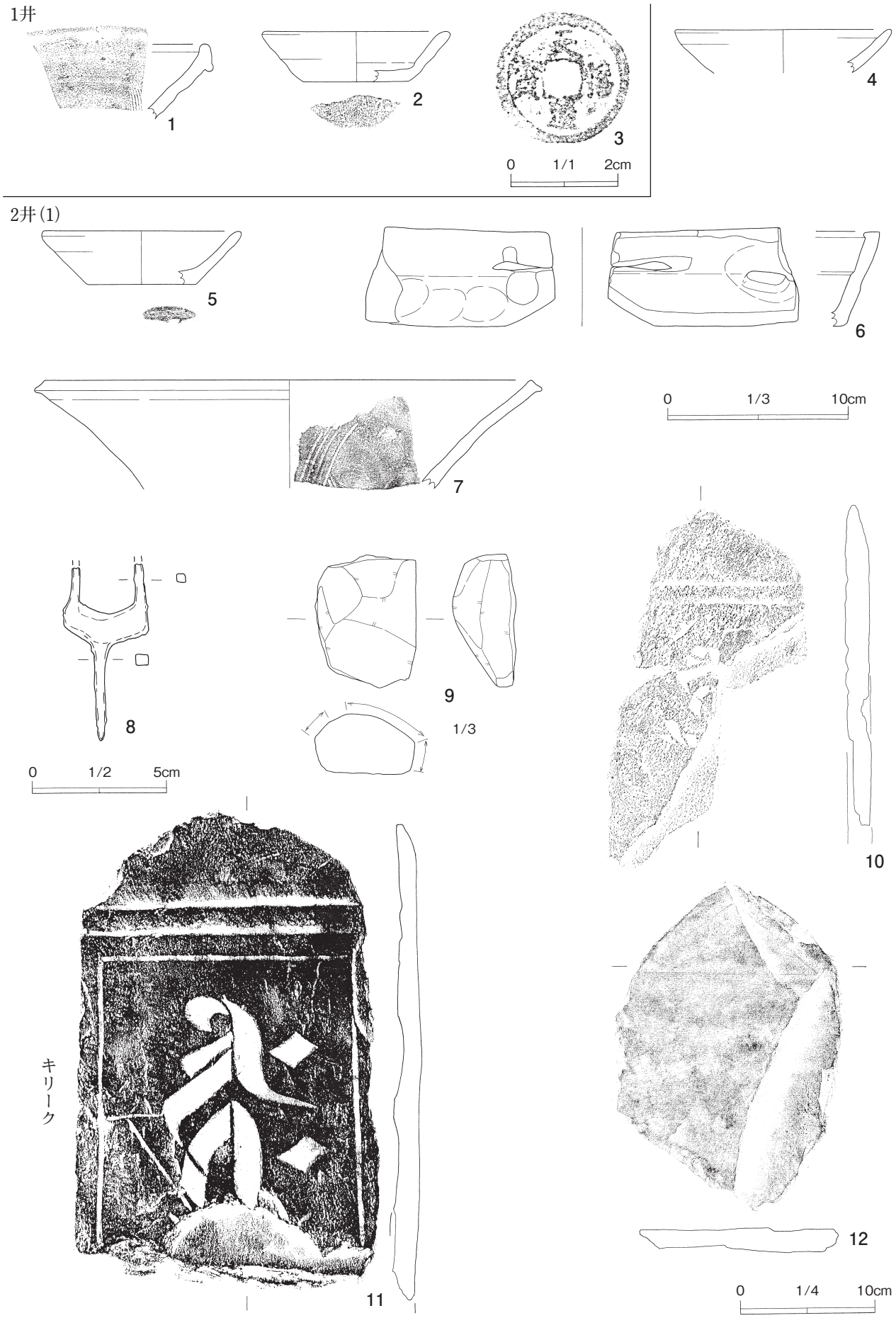


10壙11壙セクション

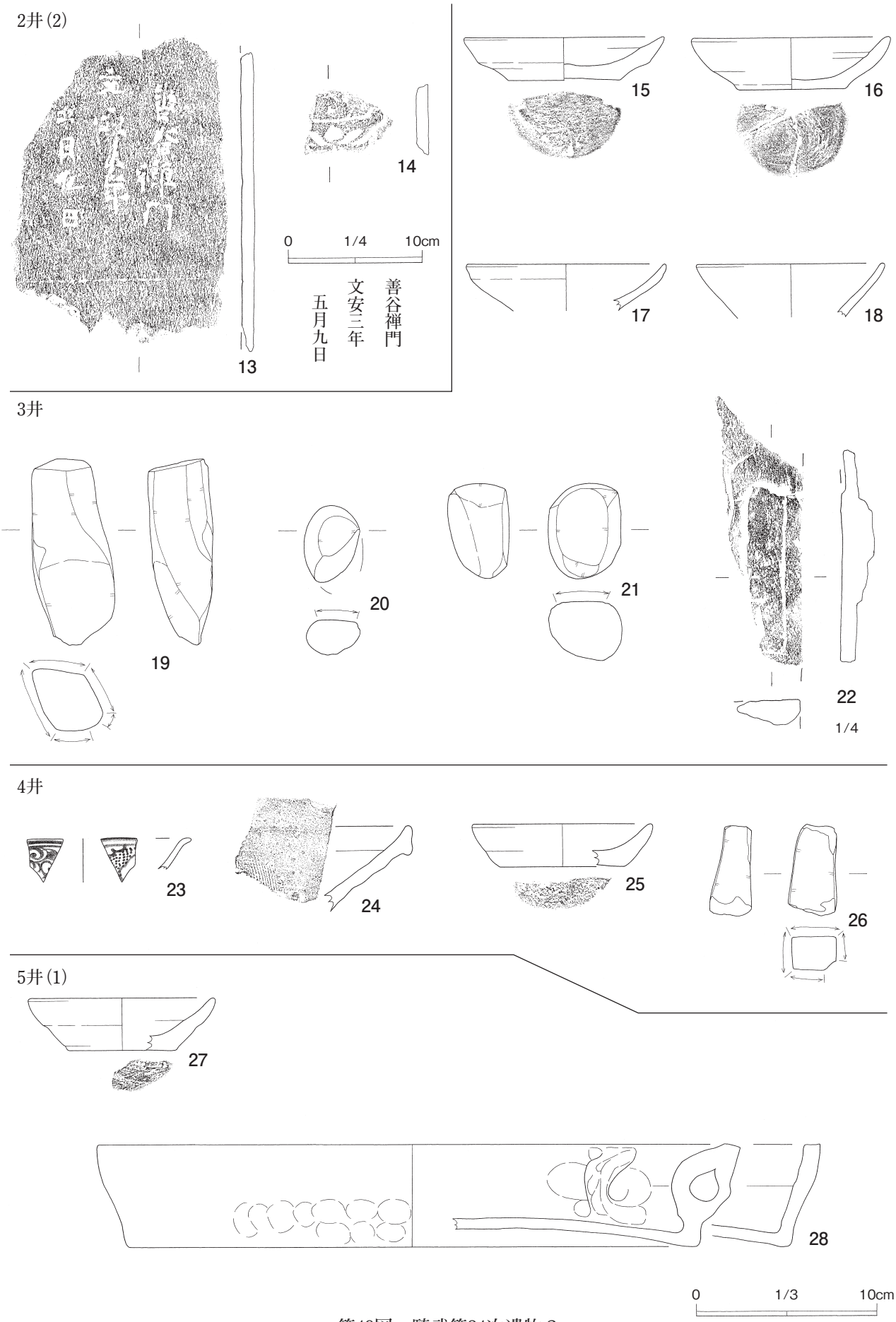
5　暗灰褐色土／LB、LR、S　、T▲　締良
6　S、C/S　、C　を主体　サラサラしている　骨粉△　　11壙
7　暗灰褐色土／LB、LR◎、S　、C　▲　締良
8　暗灰褐色土／LB◎　軟度低　　10壙
9　暗灰褐色土／LB◎　締良　　→　11壙

0　1/60　2m

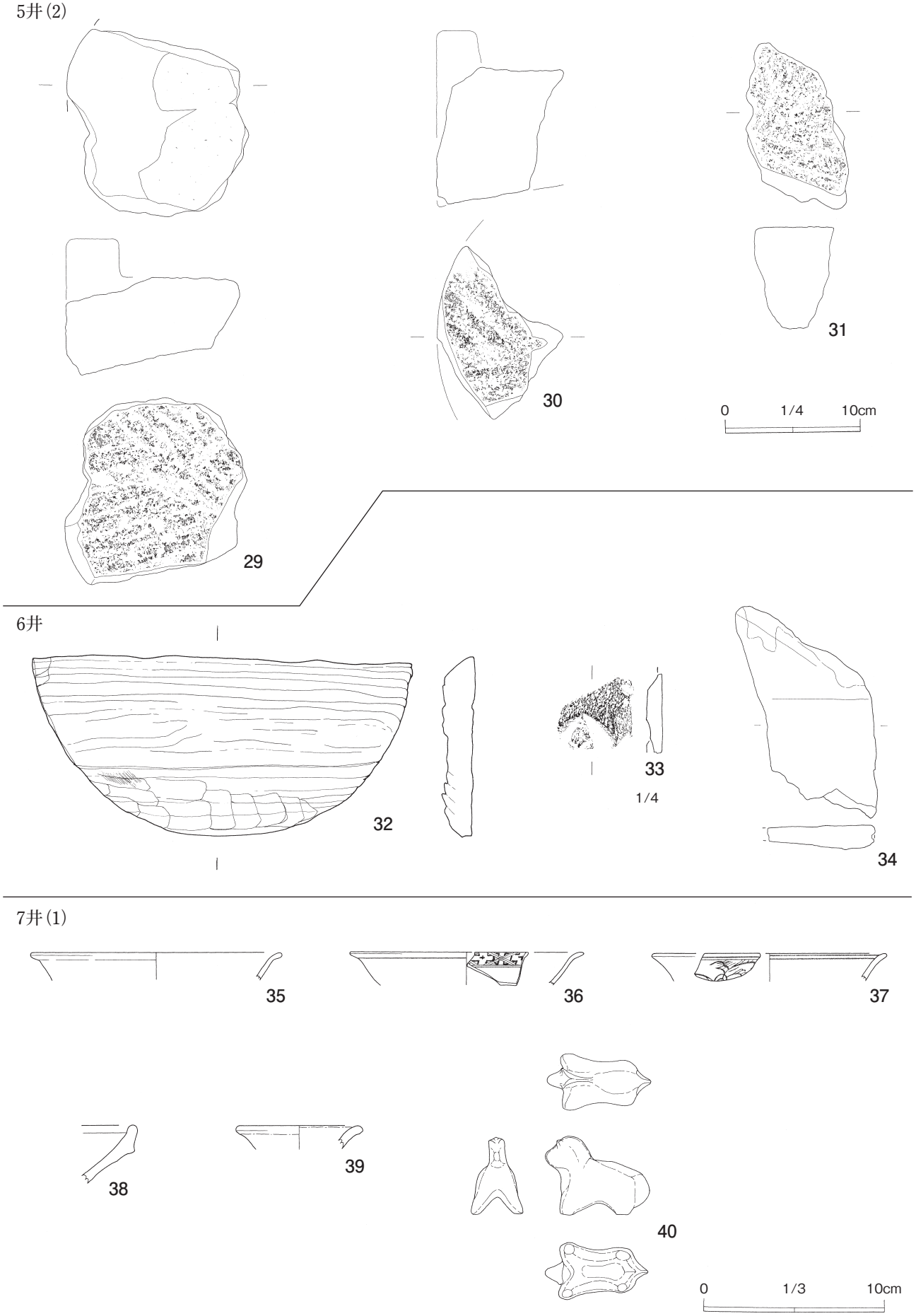
第47図　騎武第34次遺構４



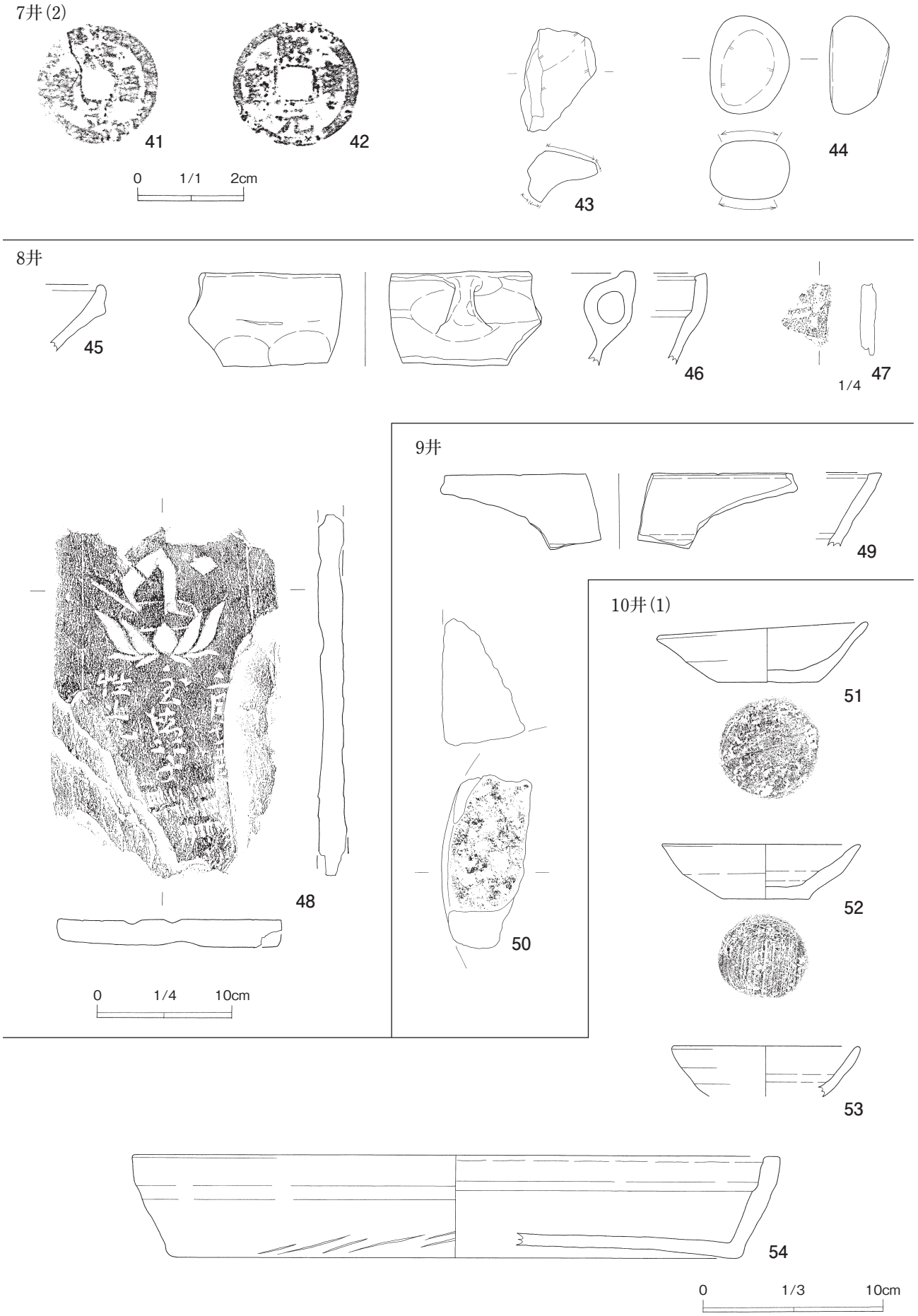
第48図　騎武第34次遺物１



第49図　騎武第34次遺物２

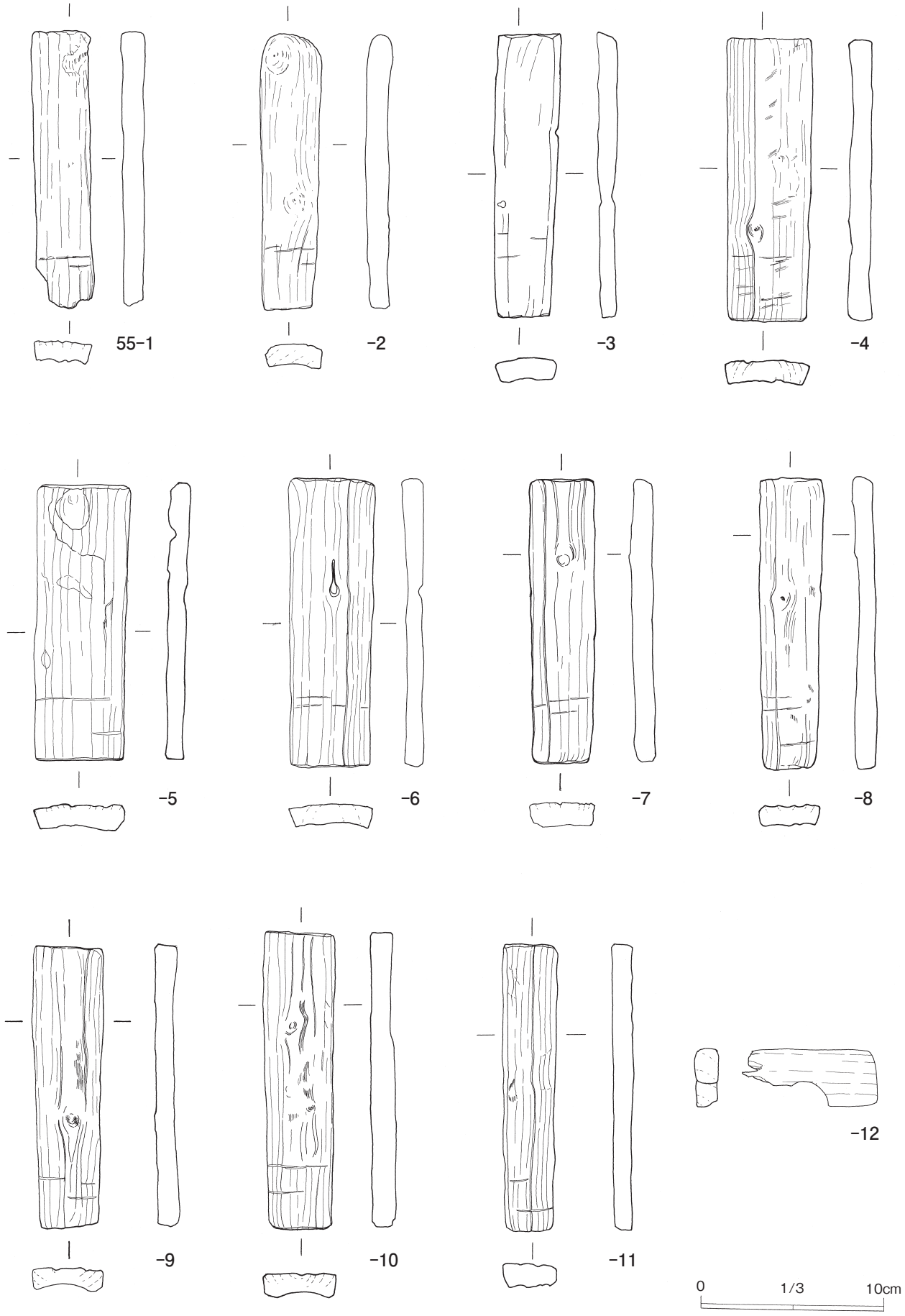


第50図　騎武第34次遺物３



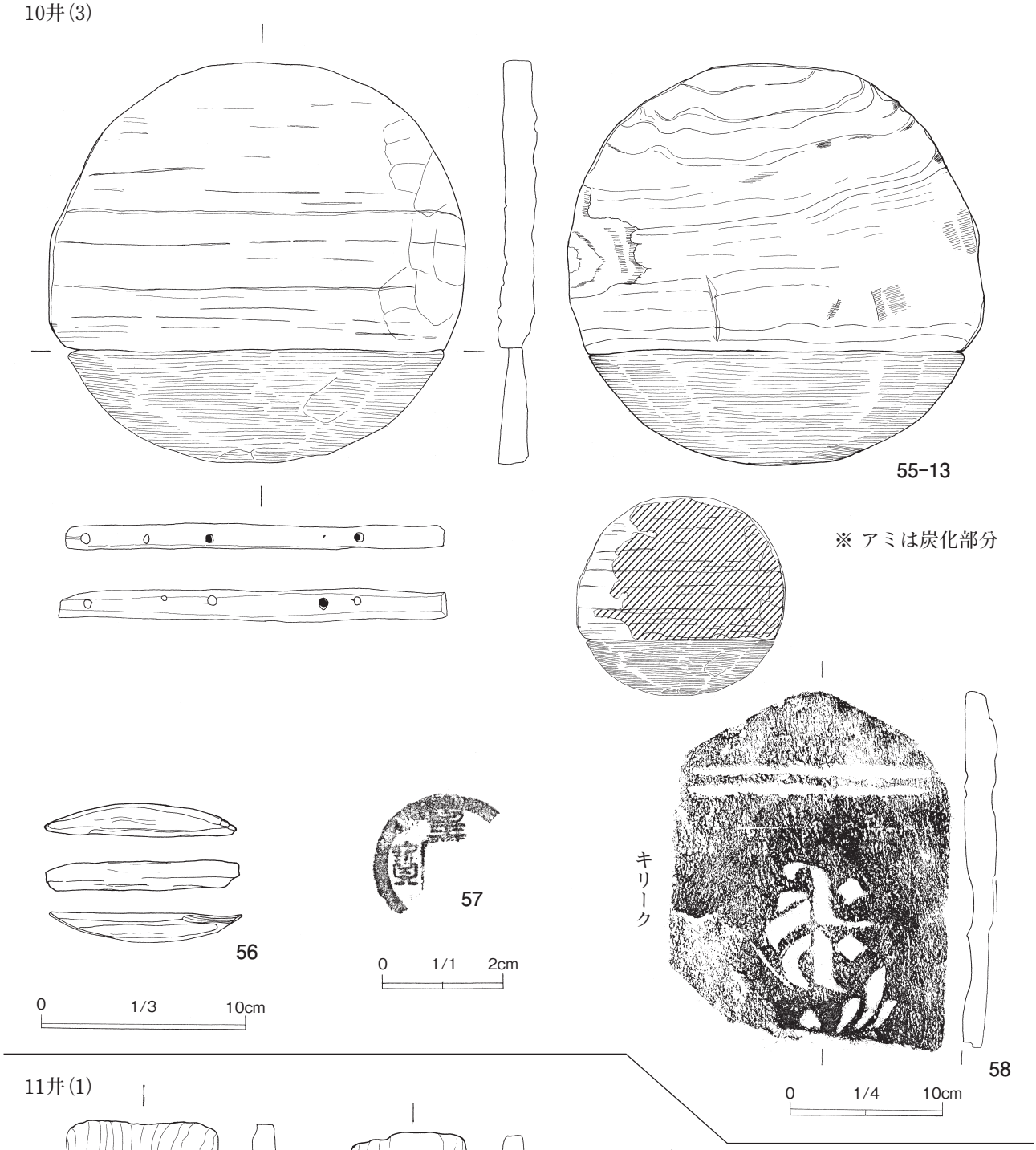
第51図　騎武第34次遺物４

10井(2)

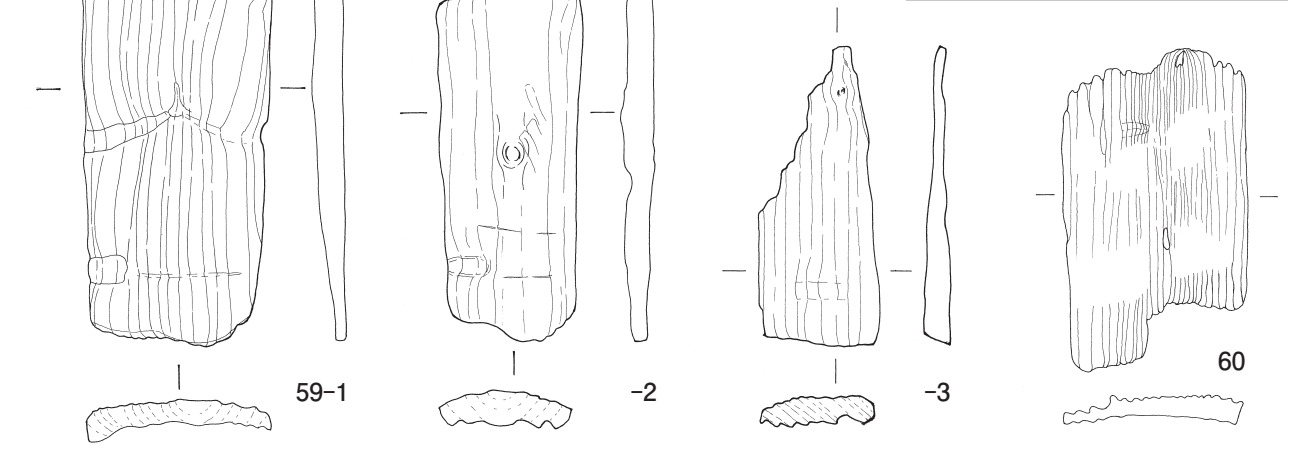


第52図　騎武第34次遺物５

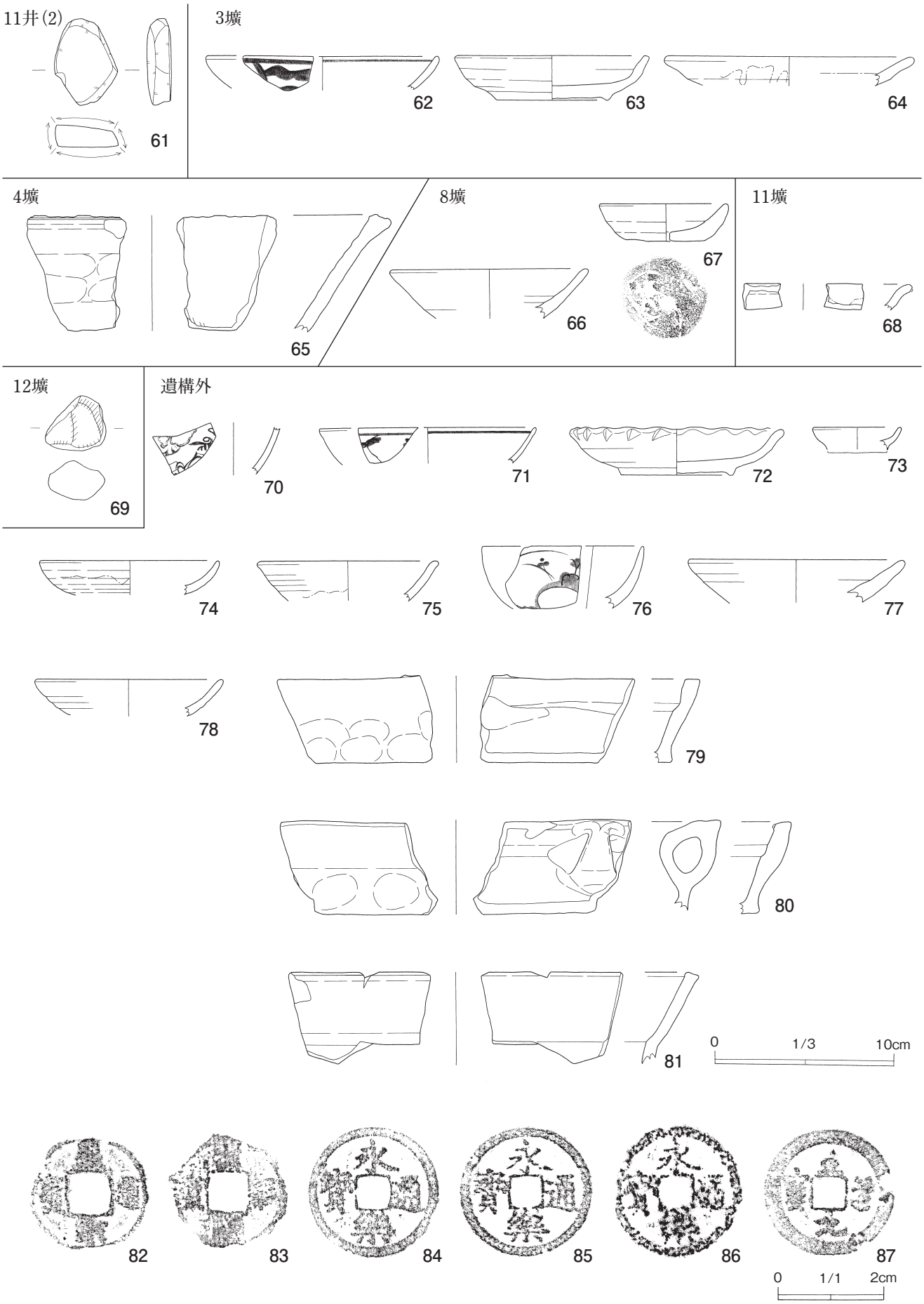
10井(3)



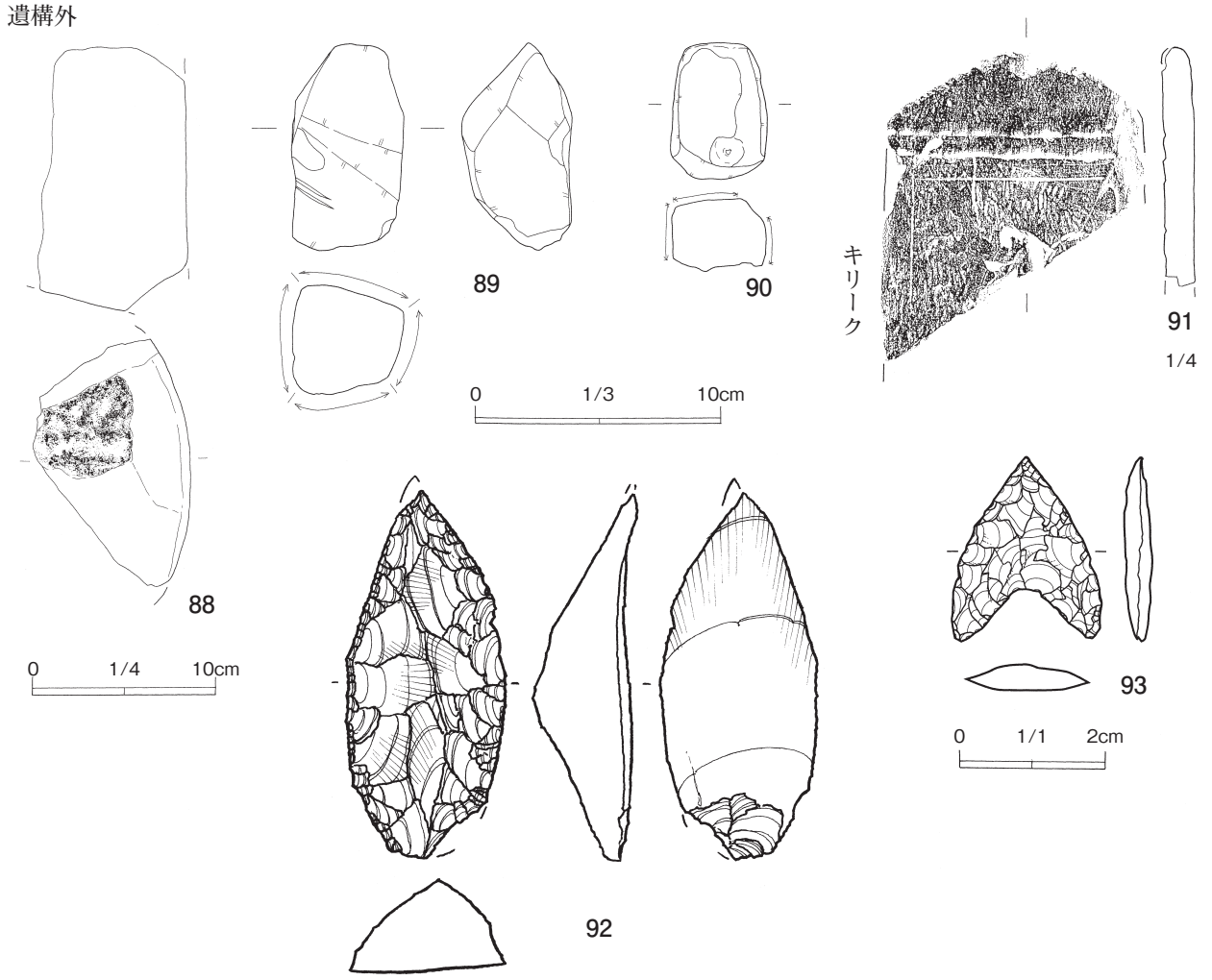
11井(1)



第53図　騎武第34次遺物６



第54図　騎武第34次遺物７



第55図　騎武第34次遺物８

明だが同一個体として扱う。

【土壙】　18まで命名したが欠番により総数16基で調査区中央を除く周縁に分布する。

３号土壙　平面円形で直径100cm 深さ60cm を計る。口縁を一部欠いた瀬戸美濃の丸皿（63）が正位に出土した。

調査風景

【遺構外出土遺物】

瀬戸美濃のヒダ皿（72）・銭貨（82～87）・表面に砥面を持つ板碑（91）・スラグ87g がある。

他に尖頭器（92）・石鏃（93）がある。尖頭器は片面調整で肉厚である。黒曜石製。石鏃は薄く丁寧に造られる。珪質頁岩製。

調査風景

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地（材質）	出土地点	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	形式等	年代	遺物ID	備考
1	擂鉢	瀬戸美濃	1井	－	－	－	大3後、Ⅰ		鉢04	
2	かわらけ	在地	1井、4井No.19	＊10.4	＊5.6	2.8		◇16c 末？	K07	
3	銭貨(天禧通宝)	銅	1井	－	－	－			0034－0004	
4	かわらけ	在地	2井(No.18、一括)	＊12.0	－	－			K11	
5	かわらけ	在地	2井	＊11.0	＊6.0	3.0			K08	
6	ほうろく	在地	2井(No.13・14)、103P	－	－	5.2			H03	
7	擂鉢	在地	2井No.16、2層、表土	＊28.0	－	－			鉢06	
8	雁俣様製品	鉄	2井No.4	6.7	3.4	0.4			0034－0001	鉄鏃？
9	砥石	石(泥岩)	2井No.6	－	－	－			石06	
10	板碑	石(緑泥片岩)	2井(No.2・3)	－	－	－		室町	石13	
11	板碑	石(緑泥片岩)	2井No.8	(34.9)	23.3	1.6			0034－0001	裏面砥面
12	板碑？	石(緑泥片岩)	2井No.22	(24.4)	(17.2)	1.9			0034－0008	
13	板碑	石(緑泥片岩)	2井	(23.5)	(17.0)	(0.9)			0034－0002	
14	板碑	石(緑泥片岩)	2井	－	－	－			石14	
15	かわらけ	在地	3井No.1	＊11.0	＊6.2	2.4		◇15c 中～16c 前	K04	40％残
16	かわらけ	在地	3井No.3	11.0	6.0	2.9	騎西城Ⅰ期		K05	60％残
17	かわらけ	在地	3井	＊11.0	－	－			K06	
18	かわらけ	在地	3井	＊10.4	－	－		◇16c 末？	K09	
19	砥石	石(泥岩)	3井No.4	－	－	－		◇16c 末？	石08	
20	磨石	石(デイサイト)	3井	－	－	－			石02	
21	磨石	石(デイサイト)	3井	－	－	－			石04	
22	板碑	石(緑泥片岩)	3井No.5	(20.3)	(7.1)	2.3			0034－0003	
23	染付皿	中国	4井	－	－	－	B－1	15c 後	染01	
24	擂鉢	瀬戸美濃	4井No.20	－	－	－	大3前、Ⅰ		鉢03	
25	かわらけ	在地	4井No.18	＊10.0	＊6.8	2.4		◇16c?	K10	
26	砥石	石(泥岩)	4井	－	－	－			石05	
27	かわらけ	在地	5井No.9	＊10.4	＊6.0	2.9	騎西城Ⅱ期	◇16c?	K12	
28	ほうろく	在地	5井(No.1・2・4・10・11)、一括	＊36.3	＊32.0	5.2			H06	
29	粉挽臼(上臼)	石(普通輝石安山岩)	5井(No.5・7)	－	－	－			石12	被熱黒化
30	粉挽臼(上臼)	石(安山岩)	5井No.6	－	－	－			石10	
31	粉挽臼(下臼)	石(安山岩)	5井No.3	－	－	－			石11	被熱黒化
32	桶(底板)	木	6井	10.5	－	1.8			0034－0002	
33	板碑	石(緑泥片岩)	6井	(7.2)	(6.6)	1.2			0034－0004	
34	板碑	石(緑泥片岩)	6井	(15.9)	(10.7)	1.8			0034－0009	表裏砥面
35	白磁皿	中国	7井No.4	＊14.0	－	－	C－1	15c 後～16c 前	白01	
36	染付皿	中国	7井No.8	＊13.0	－	－	B－2	16c 中	染03	
37	染付皿	中国	7井No.10	＊13.0	－	－	B－1	15c 後	染02	
38	擂鉢	瀬戸美濃	7井No.13	－	－	－	大3		鉢01	
39	徳利	瀬戸美濃	7井	＊7.0	－	－	大		袋01	
40	馬型土製品	在地	7井No.16	－	－	－			町他36	
41	銭貨(洪武通宝)	銅	7井	－	－	－			0034－0005	
42	銭貨(熙寧元宝)	銅	7井	－	－	－			0034－0006	
43	砥石	石(泥岩)	7井No.5	(5.8)	4.2	2.9			0034－0002	
44	磨石	石(デイサイト)	7井No.6	－	－	－			石03	
45	擂鉢	瀬戸美濃	8井	－	－	－	大3		鉢02	
46	ほうろく	在地	8井	－	－	－			H04	
47	板碑	石(緑泥片岩)	8井	－	－	－			石15	
48	板碑	石(緑泥片岩)	8井	(27.0)	17.5	2.0			0034－0005	
49	土鍋	在地	9井	－	－	－			D01	
50	粉挽臼(上臼)	石(安山岩)	9井	－	－	－			石09	
51	かわらけ	在地	10井No.2	11.0～11.6	5.5	2.6～3.4	騎西城Ⅰ期カ		K01	略完形　見込ナデ
52	かわらけ	在地	10井No.3	10.9	4.8	3.1	騎西城Ⅰ期	15c 中～16c 前	K02	完形　見込ナデ　底面削り
53	かわらけ	在地	10　井	＊10.4	－	－			K13	
54	ほうろく	在地	10井No.4	＊36.0	＊32.0	5.2			H05	
55	桶	木	10井No.5	－	－	－			0034－0004	
56	桶(底板)	木	10井	8.7	－	1.5			0034－0003	
57	銭貨(不明)	銅	10井	－	－	－			0034－0007	
58	板碑	石(緑泥片岩)	10井No.1	(24.6)	18.4	2.0			0034－0006	裏面砥面　スス付着
59	桶(側板)	木	11井	－	－	－			0034－0006	
60	桶(側板)	木	11井	13.0	7.2	0.9			0034－0007	
61	磨石	石(デイサイト)	11井	－	－	－			石01	
62	染付皿	漳州窯系中国	3壙	＊13.0	－	－		16c 後～17c 前	染05	
63	丸皿	瀬戸美濃	3壙No.5	10.8	6.3	2.5	大3		皿02	80％残
64	縁釉小皿	瀬戸美濃	3壙No.6	＊14.0	－	－	大1		皿01	
65	擂鉢	在地	4壙No.1	－	－	－			鉢05	
66	かわらけ	在地	8壙No.1	＊11.0	－	－			K15	
67	かわらけ	在地	8壙	7.2	4.4	2.1			K03	完形　見込ナデ　底面穿孔
68	縁釉小皿	瀬戸美濃	11壙	－	－	－	大1		皿04	

第13表　騎武第34次遺物一覧表１

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地（材質）	出土地点	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	形式等	年代	遺物 ID	備考
69	火打石	石(石英)	12壙	3.1	3.4	2.2			0034－0003	
70	染付碗	中国	表土	－	－	－	C	15c 後～16c 初	染06	
71	染付皿	中国	2層	＊12.0	－	－	E	16c 中～後	染04	
72	ヒダ皿	瀬戸美濃	1P	＊11.8	6.2	2.7	大3		皿03	70％残
73	豆皿	瀬戸美濃	4P	＊5.0	－	－	大1		皿05	
74	灯明皿	瀬戸美濃	2層	＊10.0	－	－		18c～19c	皿06	
75	小坏	瀬戸美濃	表土	＊10.0	－	－	登1･2		他01	
76	染付碗	肥前(磁器)	表土	＊9.0	－	－		18c	伊01	
77	かわらけ	在地	一括	＊12.0	－	－			K14	
78	かわらけ	在地	2層	＊10.4	－	－			K16	
79	ほうろく	在地	一括	－	－	4.7			H01	
80	ほうろく	在地	一括	－	－	5.1			H02	
81	土鍋	在地	一括、表土	－	－	－			D02	
82	銭貨(皇宋通宝)	銅	50P	－	－	－			0034－0008	
83	銭貨(元祐通宝)	銅	95P	－	－	－			0034－0009	
84	銭貨(永楽通宝)	銅	107P	－	－	－			0034－0010	
85	銭貨(永楽通宝)	銅	一括	－	－	－			0034－0001	
86	銭貨(永楽通宝)	銅	一括	－	－	－			0034－0002	
87	銭貨(至道元宝)	銅	一括	－	－	－			0034－0003	
88	粉挽石(上臼)	石(角閃石安山岩)	2層	－	(8.3)	(8.7)			0034－0001	被熱黒化
89	砥石	石(泥岩)	82P	8.5	4.5	4.6			石07	被熱黒化
90	磨石	石(デイサイト)	2層	5.7	4.0	3.0			0034－0001	
91	板碑	石(緑泥片岩)	一括	(18.3)	14.7	1.7			0034－0007	被熱黒化　表面砥面
92	尖頭器	石(黒曜石)								
93	石鏃	石(珪質頁岩)	一括	2.7	－	－			0034－0001	

第14表　騎武第34次遺物一覧表２

調査前風景

第Ⅷ章　騎武第38次調査

第１節　調査の概要

（調査に至る経過）

平成４年４月28日、開発者緑川勝洋氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋仮換地52街区23画地の一部における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地は騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

平成４年６月８日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、社会教育課主任島村範久が担当した。

（調査協力員）

今井竜吉　佐藤ヨシ　関口のぶ　堀越昭次

（文化庁通知）５委保記第５－439号
平成５年４月16日

（調査期間）　平成５年１月18日～３月26日

（調査面積）　72㎡

（調査の経過）

建設予定地に12.5m×６ｍの調査区を設定し掘り下げた。ローム面を遺構確認面とし溝・井戸・土壙の調査を実施した。西端の２号井戸追跡のため西側にトレンチを入れたところ１号溝を確認し全体を拡張した。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

基準杭の標高は大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

（周辺の調査）

西にKB10区、北に騎武第32次、東に第33次・KB16区が所在する。当調査区は南北に障子堀が巡り、北側一帯にはピット・井戸が、東側には土壙が多数分布する。また３号溝は北の第32次調査区２溝につながるか。

第２節　遺構と遺物

【溝】両端に３条確認された。いずれも南北方向に走行する。

１号溝　幅98cm深さ68cmを計る。南側で土鍋（６・７）がまとまって出土した。また取瓶（４）にはスラグが溶着し、微細ながら金色の粒が認められる。

【井戸状遺構】　調査区北東部に２基検出された。

１号井戸　北半分は調査区外であるが、直径100cm深さ180cmを計る。瀬戸美濃の天目茶碗（10）・炭化物・種子が出土した。

２号井戸　直径120cm深さ134cmを計る。唐津の鉄絵皿（15・16）・粉挽臼（24）・礫が出土した。礫は30×17×13cm（７kg）～18×12×４cm（２kg）の４点で１点は扁平で、建物の礎石か作業用台石の可能性がある。

【土壙】偏り無く分布する。15まで命名したが４壙欠番のため総数14基である。平面楕円形のものが多いが掘り込みは深くない。

２号土壙　東寄りにあり平面長方形246cm×100cm深さ40cmと大規模で深い。覆土にロームブロック・ローム粒子を大量に含む。スラグ24g出土。

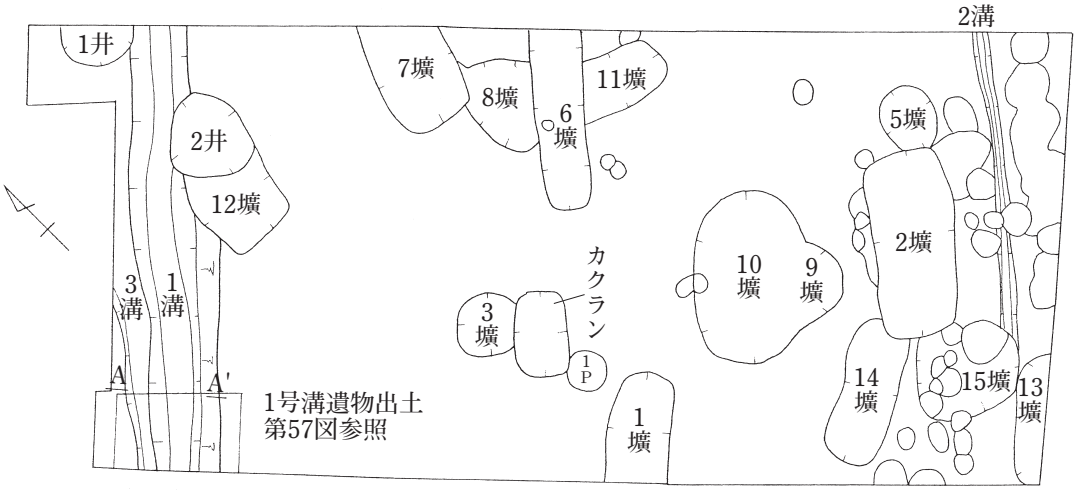
【ピット】

１号ピット　ほぼ中央にあり平面ほぼ円形である。直径50cmで、銭貨が６枚（38～43）出土した。

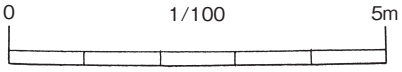
【遺構外出土遺物】鉄製品では刀子の切先（37）、スラグ295gがある。

他に縄文時代加曽利Ｅ期から安行１式までの土器片（44～52）が出土した。

調査前風景



遺構位置図

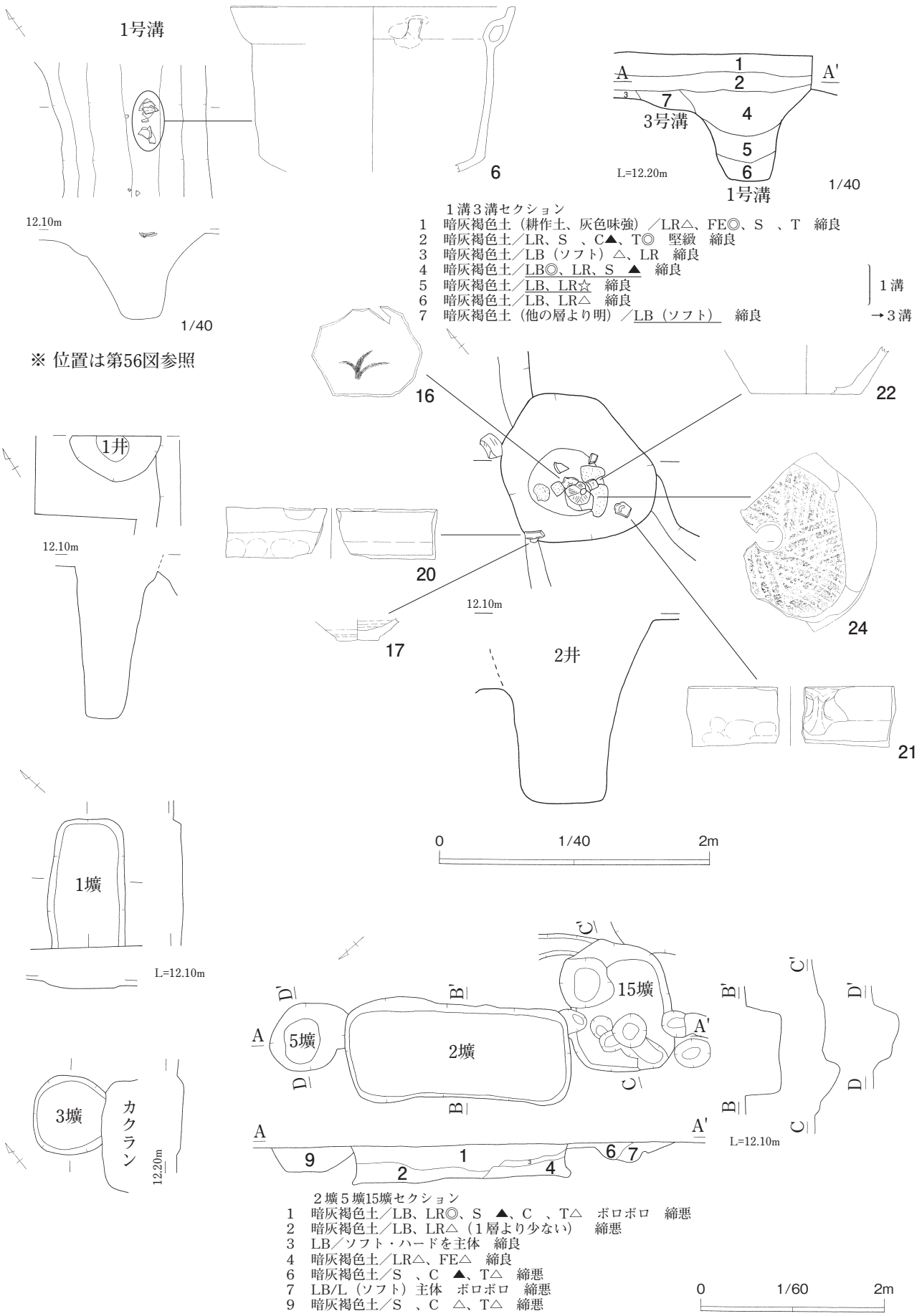


第56図　騎武第38次遺構１

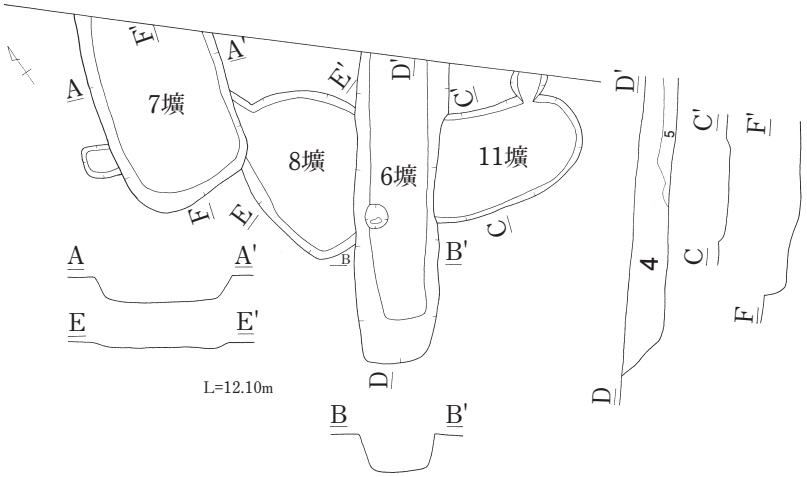
（　）は残存値、☆はセクション図計測値　○は当該遺構　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模（cm）	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
１号溝	3溝→○→1･2井、12壙	直線	箱薬研	幅☆98	☆68	暗灰褐色/含LB◎･LR◎	かわらけ/かわらけ(取瓶＝16c後？)/焙烙/土鍋＝15c後/磨石	16c後～	
２号溝	15壙	直線	ゆるやか	幅20	☆4	不明			
３号溝	○→1溝	曲がる	ゆるやか	幅☆(47)	☆16	暗灰褐色			
１号井戸	1溝→○	円形	ほぼ直上	100	☆180	暗灰褐色/含LB層	中国染付皿/瀬美天目/かわらけ/擂鉢/磨石/炭化物/種子		
２号井戸	1溝→○	不整円形	ロート状	120	☆134	暗灰褐色	瀬美丸皿/肥前唐津(鉄絵皿＝16c末～17c前)/かわらけ＝～16c前･焙烙･擂鉢/搗臼/粉挽臼/磨石/礫	16c末～	
１号土壙	なし	長方形	ほぼ直上	(140)×76	☆10	暗灰褐色/含LB◎･T ▲	焙烙		
２号土壙	5壙→○	長方形	直上	246×100	☆40	暗灰褐色/含LB◎･LR◎･T △	スラグ24g		
３号土壙	なし	円形	ほぼ直上	92	7	暗灰褐色/含LB◎･LR◎			
４号土壙	欠番								
５号土壙	○→2壙	円形	ほぼ直上	76	☆26	暗灰褐色/含T △			
６号土壙	11壙→○→8壙	長方形	ほぼ直上	(248)×72	☆30	暗灰褐色/含LB◎･LR◎			
７号土壙	8壙→○	長方形	ほぼ直上	(174)×106	☆22	暗灰褐色/含LR◎			
８号土壙	6壙→○→7壙	不整形	ゆるやか	(138)×110	☆6	暗灰褐色			
９号土壙	10壙→○	楕円形	ゆるやか	104×80	☆12	暗灰褐色/含LB◎			
10号土壙	○→9壙	楕円形	ゆるやか	226×(142)	☆6	暗灰褐色			
11号土壙	○→6壙	隅丸長方形	ゆるやか	(134)×80	6	暗灰褐色			
12号土壙	1溝→○	長方形	ほぼ直上	242×95	24	暗灰褐色	瀬美袴腰型香炉/焙烙/碁石		
13号土壙	なし	長方形？	ゆるやか	172×(40)	☆26	暗灰褐色/含LB◎･LR◎			
14号土壙	2壙	長方形	ゆるやか	(190)×80	4	不明	在地片口鉢		
15号土壙	なし	長方形	ゆるやか	137×112	14	LB層			

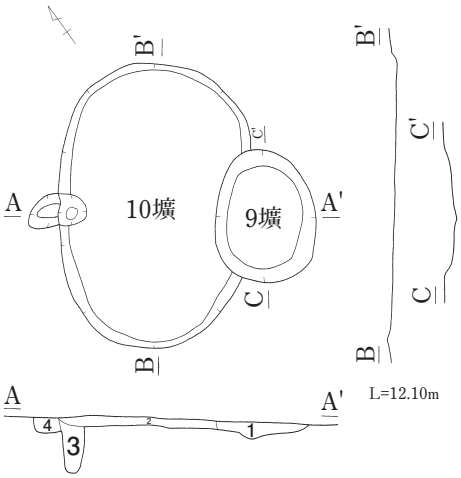
第15表　騎武第38次遺構一覧表



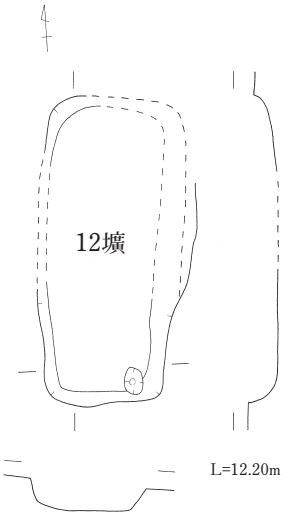
第57図　騎武第38次遺構２

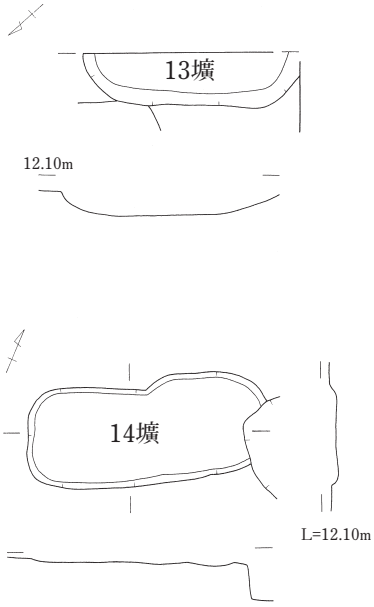


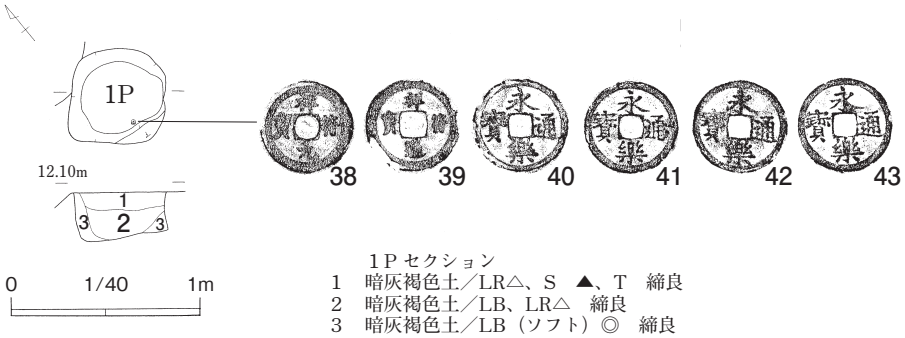
６壙セクション
4　暗灰褐色土／LB、LR◎、C　▲　締良
5　暗灰褐色土（上層より暗）／LR△、S　▲　締良



９壙10壙セクション
1　暗灰褐色土／LB◎、LR△　締良
2　暗灰褐色土／LB△　締良
3　暗灰褐色土／LB（ソフト）主体　締良
4　暗灰褐色土／LB△　締良



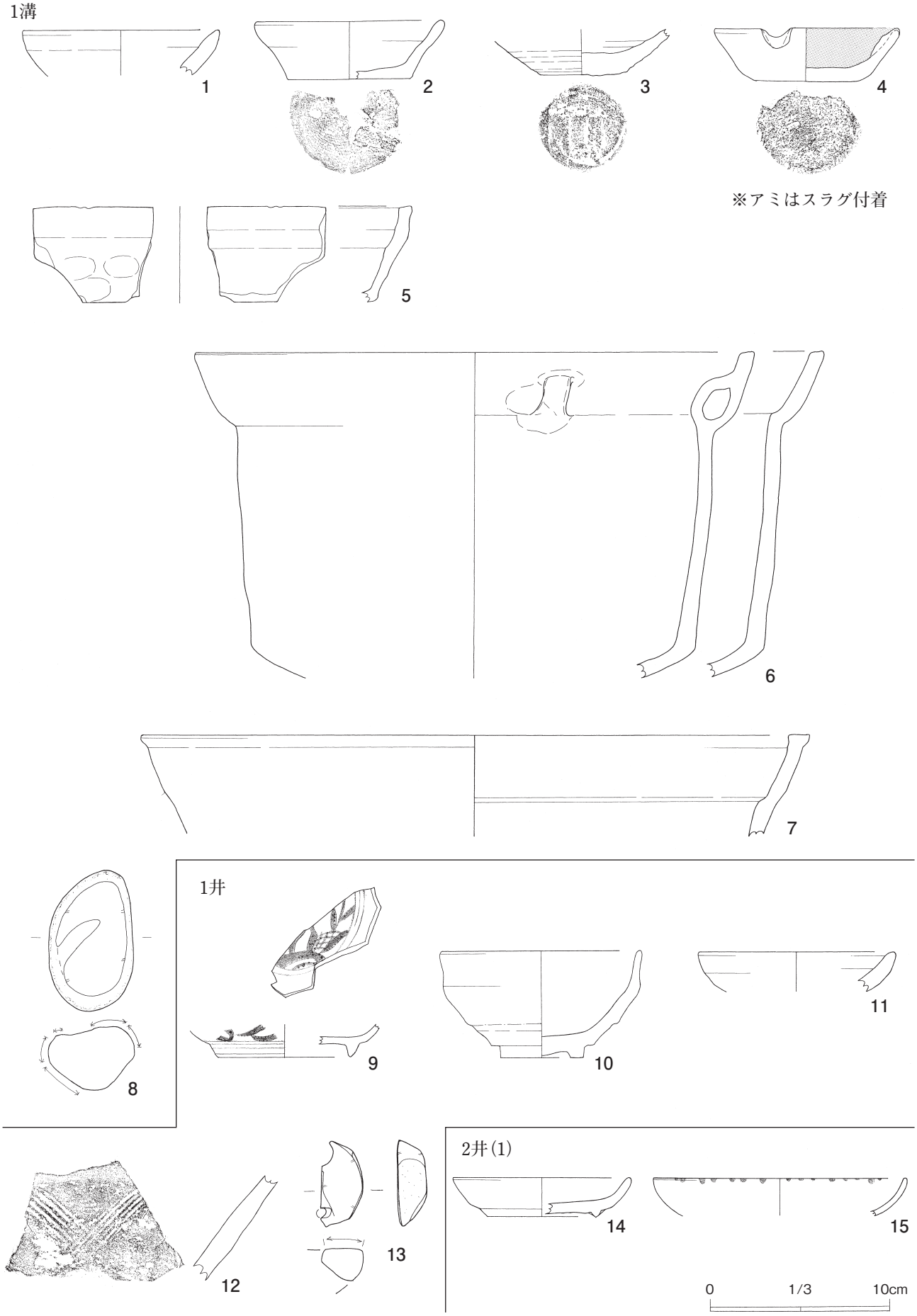




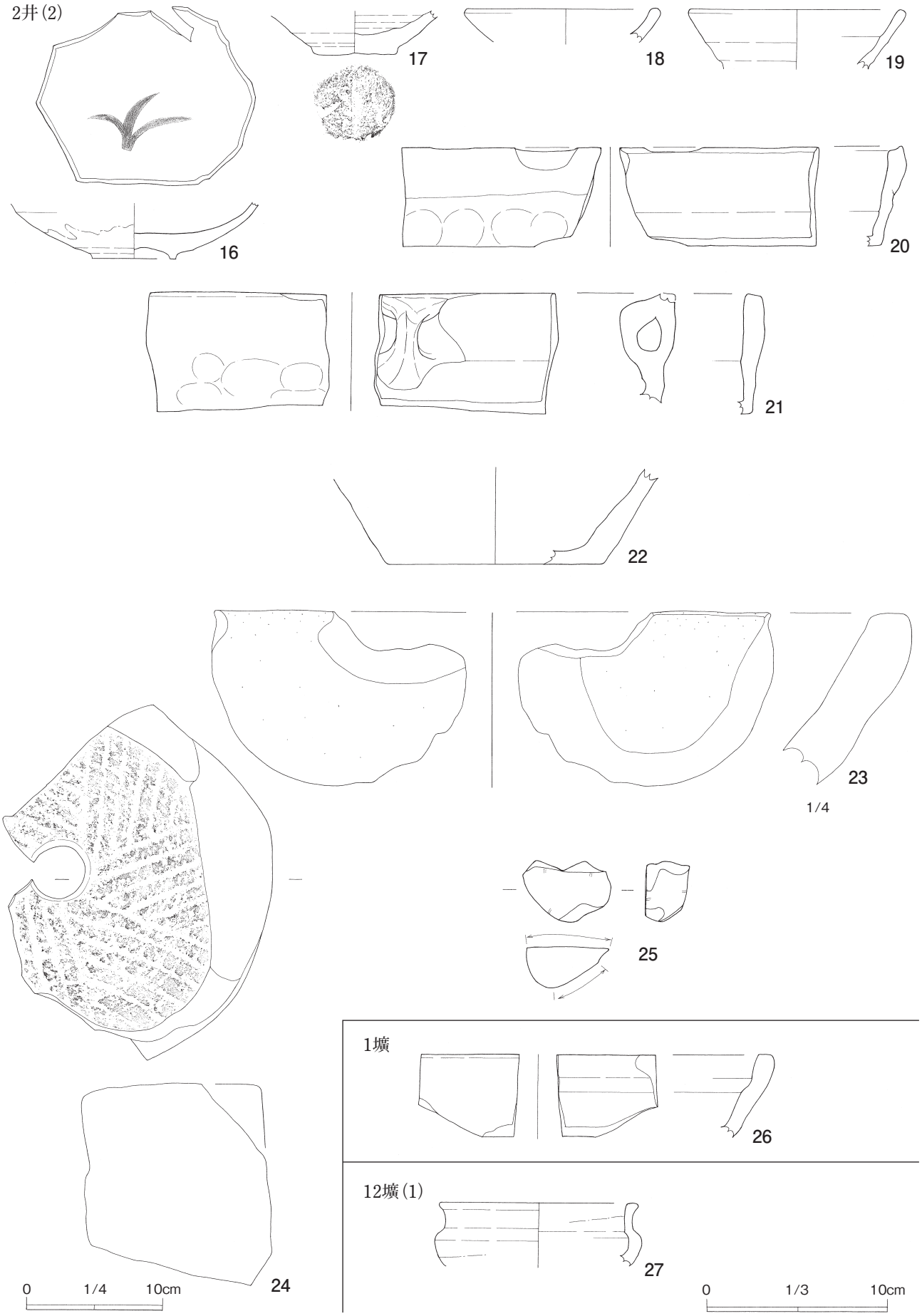
１Ｐセクション
1　暗灰褐色土／LR△、S　▲、T　締良
2　暗灰褐色土／LB、LR△　締良
3　暗灰褐色土／LB（ソフト）◎　締良

0　1/60　2m

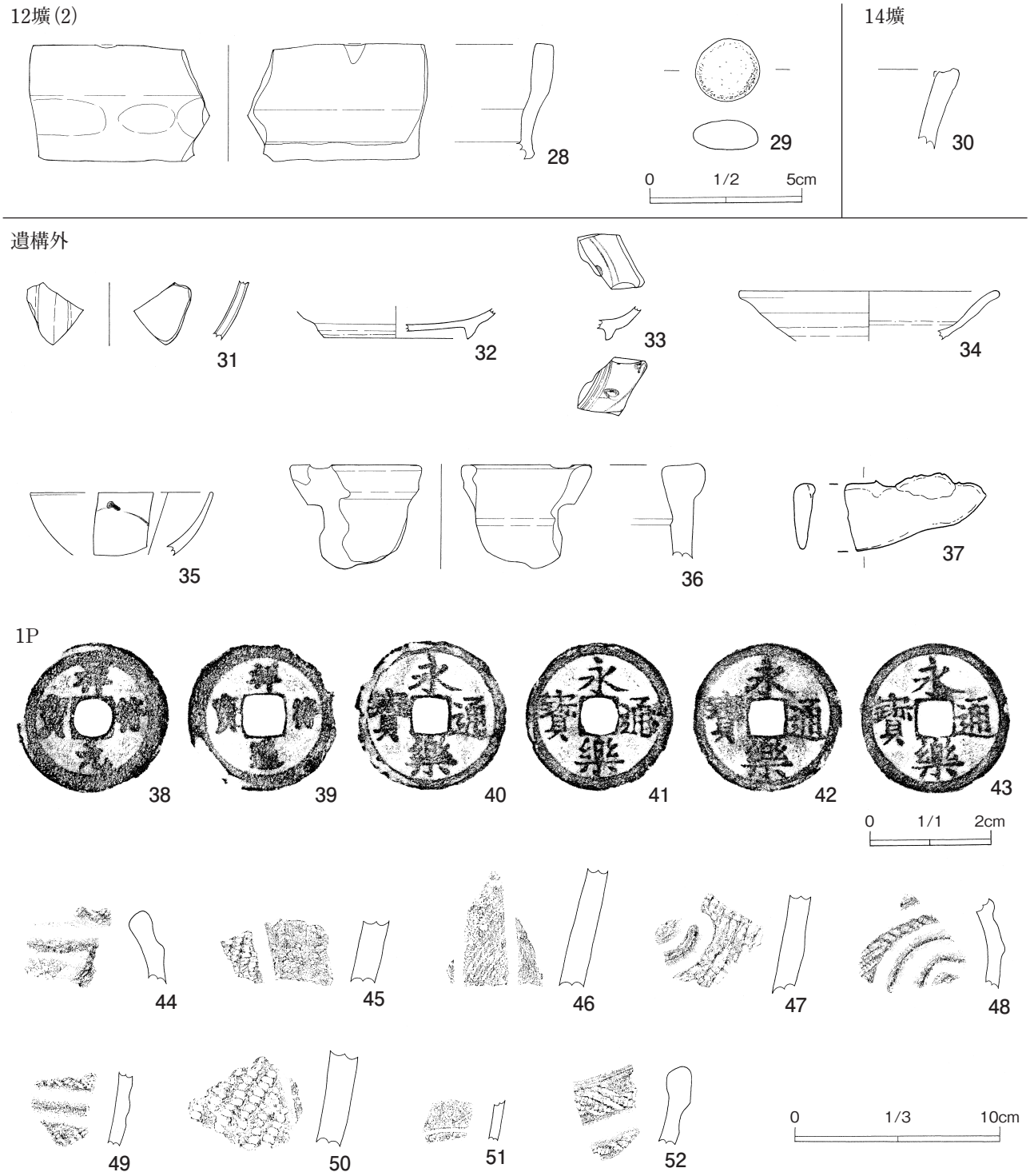
第58図　騎武第38次遺構３



第59図　騎武第38次遺物１



第60図　騎武第38次遺物２



第61図　騎武第38次遺物３

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	形式等	年代	遺物ID	備考
1	かわらけ	在地	1溝No.28	＊11.0	―	―	騎西城Ⅰ期		K05	
2	かわらけ	在地	1溝(No.31・34)	＊10.6	＊6.8	3.2				
3	かわらけ	在地	1溝No.41	―	＊5.5	―	騎西城Ⅰ期		K03	裏面削り
4	かわらけ(取瓶)	在地	1溝No.16	＊10.2	＊5.5	2.9		◇16c 後？	K01	金色粒・銅付着
5	ほうろく	在地	1溝No.21	―	―	―			H04	
6	土鍋	在地	1溝(No.1～8)	＊30.0	＊24.0	19.8		15c 後	町D43・D1	同一
7	土鍋	在地	1溝No.42、一括	＊37.0	―	―			D02	
8	磨石	石	1溝No.24	7.9	4.7	3.5			0038－0001	
9	染付皿	中国	1井	―	＊7.4	―			染01	
10	天目	瀬戸美濃	1井	＊11.2	4.6	5.9	大4後		天01	50％残
11	かわらけ	在地	1井、一括	＊11.0	―	―	騎西城Ⅰ期		K07	
12	擂鉢	在地	1井	―	―	―			鉢03	
13	磨石	石(デイサイト)	1井	(4.7)	(2.3)	(1.6)			石02	
14	丸皿	瀬戸美濃	2井No.34	＊9.8	＊6.0	2.2	大3		皿03	
15	鉄絵皿	肥前(唐津)	2井(No.1・9)、12壙No.4	＊14.0	―	―		16c 末～17c 前	皿01	
16	鉄絵皿	肥前(唐津)	2井(No.25・26)	―	4.6	―		16c 末～17c 前	皿02	50％残
17	かわらけ	在地	2井No.2	―	＊4.5	―		◇～16c 前	K04	見込ナデ 底面整形
18	かわらけ	在地	2井No.20	＊10.8	―	―			K02	
19	かわらけ	在地	2井No.32	＊12.0	―	―			K06	
20	ほうろく	在地	2井No.3	―	―	―			H01	
21	ほうろく	在地	2井No.7	―	―	―			H03	
22	擂鉢	在地	2井No.12	―	＊12.0	―			鉢01	
23	搗臼	石(角閃石安山岩)	2井No.24	―	(9.5)	(12.8)			石03	
24	粉挽臼(下臼)	石	2井No.6	―	(13.4)	(14.7)			石04	
25	磨石	石(デイサイト)	2井No.17	(3.2)	4.5	2.3			石01	
26	ほうろく	在地	1壙No.2	―	―	―			H05	
27	袴腰型香炉	瀬戸美濃	12壙No.3	＊11.0	―	―	古後Ⅱ		香01	
28	ほうろく	在地	12壙No.11	―	―	―			H02	
29	碁石	石	12壙No.2	2.1	2.1	1.0			0038－0001	
30	片口鉢	在地	14壙	―	―	―			鉢02	
31	青磁碗	龍泉窯系中国	一括	―	―	―	B-O	13c～14c	青01	
32	白磁皿	中国	No.37	―	＊7.0	―	C－1		白01	
33	染付皿	中国	一括	―	―	―	B－1	16c 末～後	染02	
34	輪禿皿	瀬戸美濃	No.5	＊12.8	―	―		17c 後	皿04	
35	染付碗	肥前(磁器)	表土	＊9.0	―	―			伊01	
36	火鉢	在地	一括	―	―	―			鉢04	
37	刀子	鉄	No.13	(4.8)	2.6	0.6			0038－0001	
38	銭貨(祥符元宝)	銅	1P	―	―	―			0038－0001	
39	銭貨(祥符通宝)	銅	1P	―	―	―			0038－0002	
40	銭貨(永楽通宝)	銅	1P	―	―	―			0038－0003	
41	銭貨(永楽通宝)	銅	1P	―	―	―			0038－0004	
42	銭貨(永楽通宝)	銅	1P	―	―	―			0038－0005	
43	銭貨(永楽通宝)	銅	1P	―	―	―			0038－0006	
44	縄文土器	土器	一括	―	―	―	加曽利E			
45	縄文土器	土器	一括	―	―	―	加曽利E			
46	縄文土器	土器	一括	―	―	―	加曽利E			
47	縄文土器	土器	No.35	―	―	―	加曽利E			
48	縄文土器	土器	一括	―	―	―	加曽利E			
49	縄文土器	土器	No.34	―	―	―	加曽利E			
50	縄文土器	土器	No.9	―	―	―	加曽利E			
51	縄文土器	土器	一括	―	―	―	堀の内			
52	縄文土器	土器	No.22	―	―	―	安行1			

第16表　騎武第38次遺物一覧表

調査風景

第Ⅸ章　騎武第49次調査

第１節　調査の概要

（調査に至る経過）

平成７年11月２日、開発者江口達也氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋字仮換地54街区８画地の一部における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地は騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

平成７年12月４日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、社会教育課主任坂本征男が担当した。

（調査協力員）

五十嵐米太郎　小川征子　佐藤ヨシ　関口のぶ
野崎志げ子

（文化庁通知）８委保記第５－225号
平成８年４月16日

（調査期間）　平成８年１月17日～３月15日

（調査面積）　60㎡

（調査の経過）

建設予定地に9.2m×7.5mの調査区を設定し重機により掘り下げた。ローム面を遺構確認面とし溝・井戸・土壙の調査を実施した。最後にピットの調査をした。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測しした。

基準杭の標高は大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

（周辺の調査）

西にKB17区、南に騎武第50次が所在する。17区の隣接地では土壙・多数のピットが、50次では１号溝の延長・土壙・井戸・ピットが確認されている。また、土壙から金３点（総量30g）が出土した。

第２節　遺構と遺物

【溝】１条あり南北方向に走行する。

【１号溝】東端にあり幅84cm深さ92cmを計る。志野丸皿（１）が出土した。

【井戸状遺構】５基あり北側に寄る。

１号井戸　直径136cm深さ136cmを計る。磨痕のある板碑片（６）・礫・桃の種・スラグ４gが出土した。

２号井戸　直径143cm深さ120cmを計る。瀬戸美濃の天目茶碗（７）・板碑片（９・10）・焼土・炭化物（材・桃）が出土する。９は磨痕あり。

３号井戸　直径122cm深さ110cmを計る。かわらけ（12・13）・漆椀（被膜のみ）・桶の底板？（腐食）・板碑片（17～21）・　炭化物（桃）・スラグ９gが出土している。18・20に磨痕あり。

４号井戸　直径126cm深さ98cmを計る。瀬戸美濃の皿（22）・かわらけ（23）・板碑片（26）・スラグ11gが出土する。26は表裏に磨痕あり。

【土壙】　２基確認された。

３号土壙　中央にあり平面楕円形、直径116cm深さ16cmを計る。瀬戸美濃の擂鉢（28）が出土した。

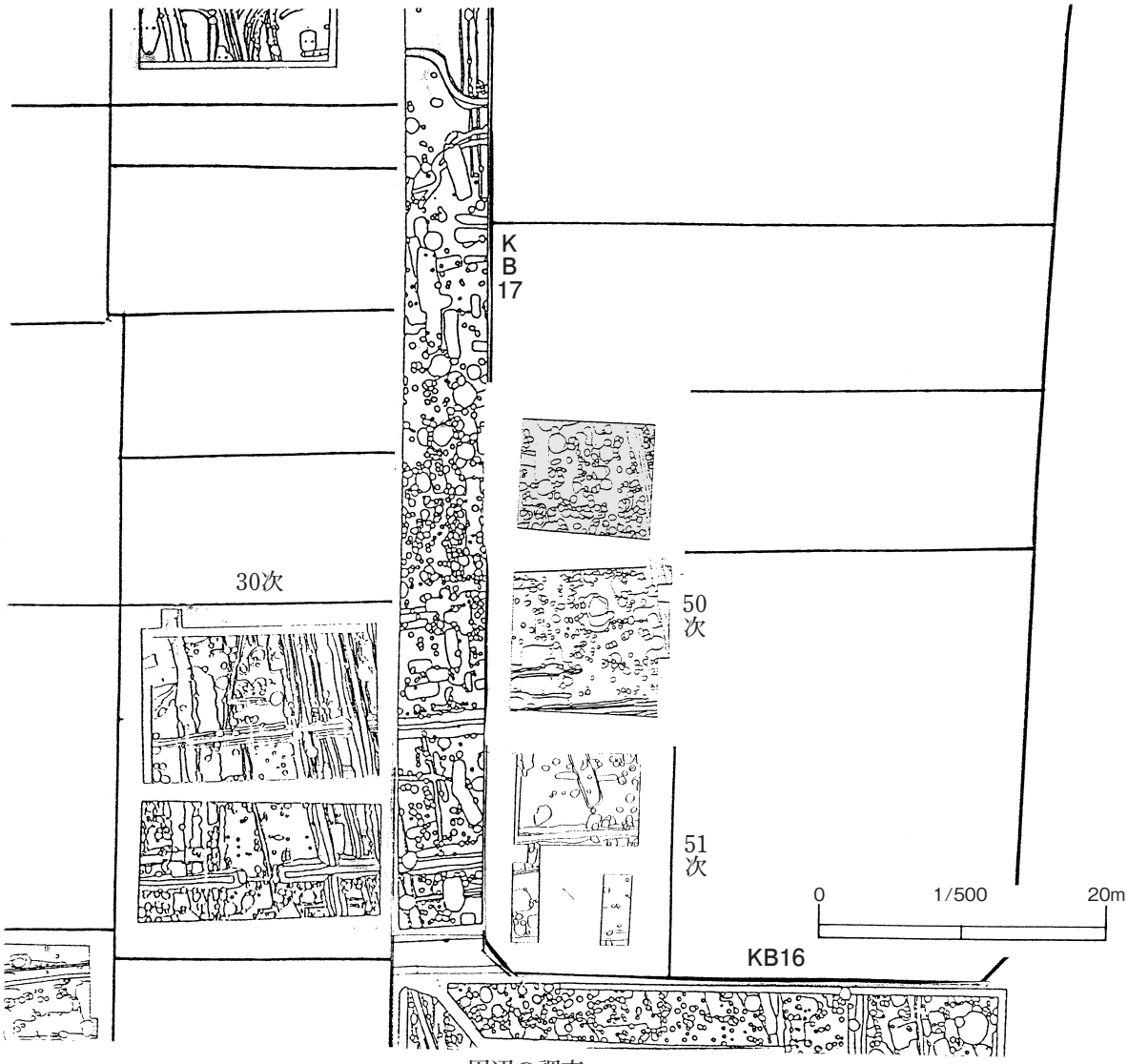
【ピット】　調査区全面に広がる。整理時に建物跡を想定して、検出に務めたが確認できなかった。

【遺構外出土遺物】

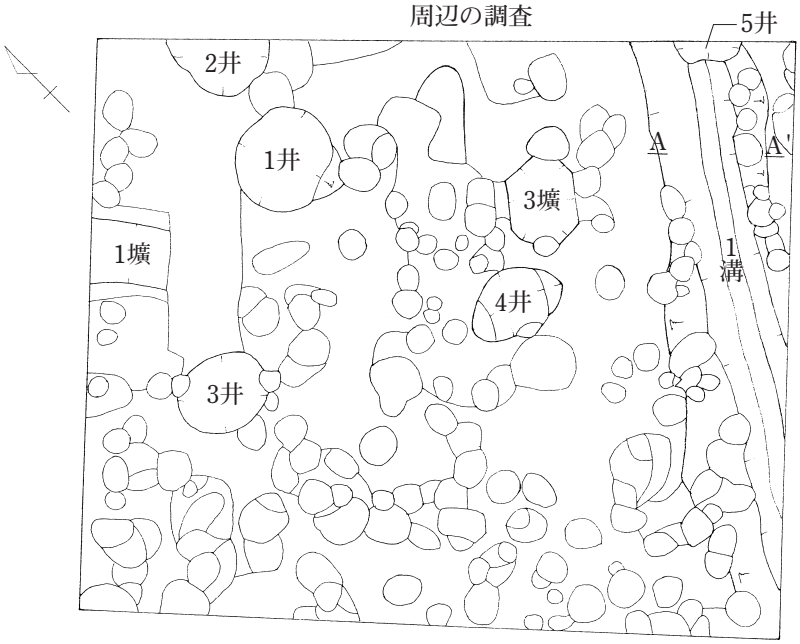
遺存良好な遺物が出土した。土器類では中国の染付（29～33）、瀬戸美濃の皿・擂鉢類（34～47）、唐津の鉄絵皿（48）、志戸呂碗類（49～51）がある。かわらけ（52～85）は完形～60％残のものは72・78・81・84と多数あり、煤・油煙付着は55・73・84である。また被熱痕跡のあるものは61・63・64・71で坩堝として使用されたようである。その中でも61・63・71にはルーペにより金粒が付着していることを確認した。

金属製品では鉄製品の火打金（98・99）・小柄（101～104）、銅製品の煙管（105）・鍔（106）・鐺（107）・小柄の柄（108）・銭貨（109～134）がある。

石製品では粉挽臼・砥石・磨石・板碑片がある。ほかにスラグ113g、縄文時代の撚糸文系期（157）



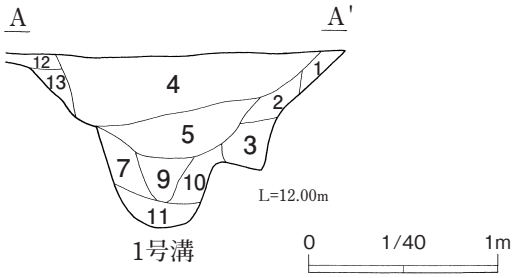
周辺の調査

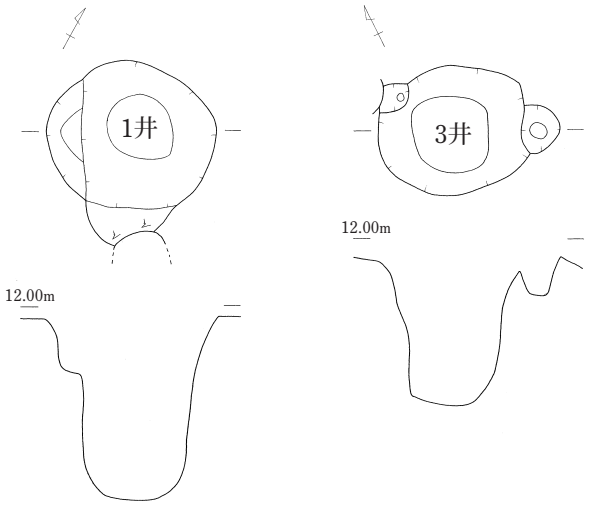


遺構位置図

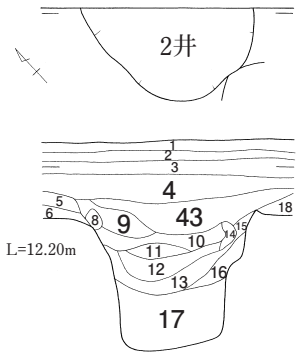
0　1/100　5m

第62図　騎武第49次周辺と遺構位置図

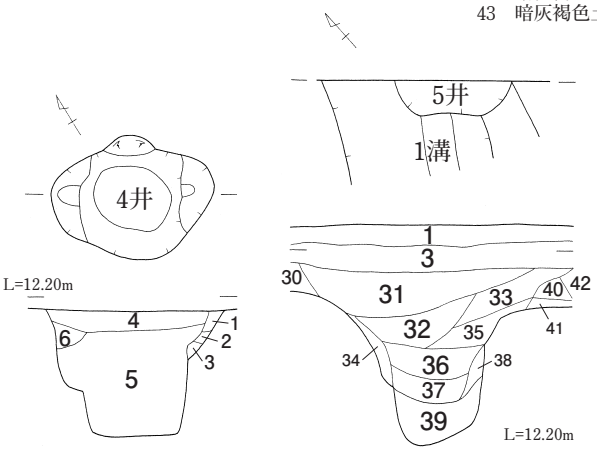




１溝北セクション
1　暗灰褐色土／LB、LR△、C▲　締良
2　暗灰褐色土／LB▲、LR◎　締良
3　暗灰褐色土LB◎、LR　締やや悪
4　暗灰褐色土／LB、LR△、C　▲、T、粘性土▲　締良
5　灰褐色土／LB、LR、FE▲、C　締良
7　暗褐色土／LB▲、LR◎　締やや悪
9　暗褐色土LB▲、LR△　締やや悪
10　暗褐色土／LR△（９層より多い）　締良
11　暗褐色土／LB、LR、FE△　締良
12　暗褐色土／LB▲、LR△、C　◎　締良
13　黄褐色土／LB▲、LR◎　締良

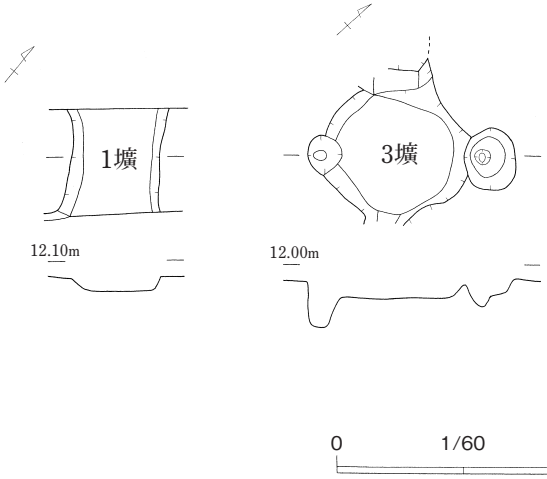


２井戸北壁セクション
1　耕作土
2　暗灰褐色土／LB▲、LR、T◎　締良
3　暗灰褐色土（上層よりやや暗）／LB▲、LR、FE（２層と３層の間）、T◎　締良
4　暗灰褐色土（1,2,3層より暗）／LB▲、LR　締良
5　暗灰褐色土（やや灰褐色）／LB▲、LR　締良
6　暗灰褐色土／LB▲、LR◎　締良
8　暗灰褐色土／LB◎、LR　ボロボロ　締やや悪
9　黄褐色土／LB▲、LR◎　締やや悪
10　暗灰褐色土／LB、LR、FE◎、C　▲　締悪
11　暗灰褐色土／LB◎（黄色強）　LR、ボロボロ　締やや悪
12　暗灰褐色土／LB◎、LR△　締やや悪
13　S、C　／S　の上下にC　層有　締悪
14　S　／C　▲　締悪
15　灰褐色土／S　、C　△　粘強
16　灰褐色土／LB▲、LR、FE　粘強　締やや悪
17　灰褐色土／LB、LR、FE▲　やや粘有　締良
18　暗灰褐色土／LB、LR、FE◎、C　▲　締良
43　暗灰褐色土／LB、LR△、C　▲　締良



５井戸北壁セクション
1　耕作土
3　暗灰褐色土（上層よりやや暗）／LB▲、LR、FE（２層と３層の間）、T◎　締良
30　暗灰褐色土／LB▲、LR　締良
31　暗灰褐色土／LB、LR、C、T▲　締良
32　暗灰褐色土／LB、LR、FE◎、C　▲　締良
33　暗灰褐色土／LB▲、LR△、C　締良
34　暗灰褐色土／LB▲、LR△　締良
35　灰褐色土／LB▲、LR△、FE◎、C　締良
36　灰褐色土／LB▲、LR、FE◎　締良
37　灰褐色土（上層より暗）／LB▲、LR、FE◎　締良
38　灰褐色土／LB▲、LR、FE　締良
39　灰褐色土／FE▲　全体に砂層質（上層に粘性土有）　締やや悪
40　暗灰褐色土／LB▲、LR△、C　◎　締良
41　黄褐色土／LB▲、LR◎、C　締良
42　暗灰褐色土／LB、LR、T▲　締良

４井戸セクション
1　黄色土／LB▲、LR◎　締良
2　暗灰褐色土／LB、LR、C　▲　締やや悪
3　黄色土／LR主体　締やや悪
4　暗灰褐色土／LB▲、LR　締良
5　暗灰褐色土（やや灰色味おびる）／LB、LR、C　△　締良
6　暗灰褐色土（やや灰色味おびる）／LB◎、LR　締良



第63図　騎武第49次遺構

（　）は残存値、☆はセクション図計測値　○は当該遺構　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模（cm）	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	5井→○	直線	箱薬研	幅84	☆92	暗灰褐色/含T ▲	瀬美(志野丸皿・端反皿)/片口鉢		
1号井戸	なし	円形	ロート形	136	☆136	暗灰褐色/含SB	中国(染付皿＝15c後～16c後)/板碑/礫/桃の種/スラグ4g		
2号井戸	なし	円形	ロート形	☆143	☆120	暗灰褐色/含SB	瀬美天目/粉挽臼(下臼)/板碑/焼土・炭化物(材、桃)		
3号井戸	なし	円形	ほぼ直上	122	110	不明	志戸呂擂鉢/在地擂鉢/かわらけ＝16c後～末/焙烙/磨石/板碑/漆椀/桶(底板？)/炭化物(桃)/スラグ9g		
4号井戸	なし	円形	ロート形	126×98	☆98	暗灰褐色	瀬美(端反皿又は丸皿)/在地擂鉢/かわらけ/焙烙/銭貨/板碑/スラグ11g		
5号井戸	○→1溝	円形	ロート形	☆68	☆82	灰褐色			
1号土壙	なし	長方形	ほぼ直上	(80)×70	12	不明	在地擂鉢		
2号土壙	欠番								
3号土壙	不明	楕円形	ほぼ直上	116	16	なし	瀬美擂鉢		

第17表　騎武第49次遺構一覧表

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

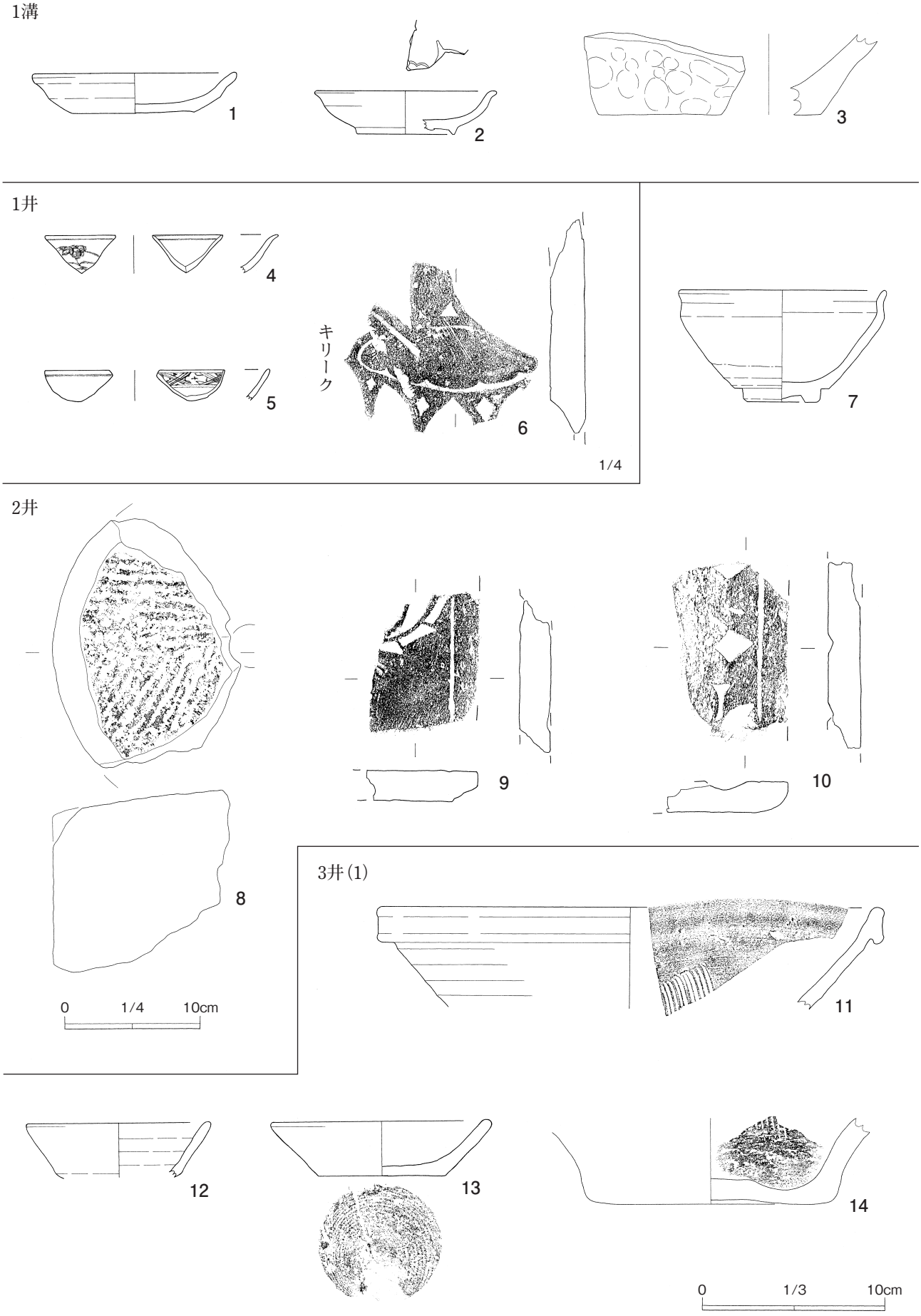
図No.	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	形式等	年代	遺物ID	備考
1	志野丸皿	瀬戸美濃	1溝No.368、No.126、一括	11.2	6.7	2.3	大4後		皿01	80％残
2	端反皿	瀬戸美濃	1溝No.371、一括	＊10.0	＊5.4	2.4	大1		皿03	
3	片口鉢	在地	1溝No.373	－	－	－			鉢12	
4	染付皿	中国	1井	－	－	－	B－1	15c後	染02	
5	染付皿	中国	1井	－	－	－	E	16c中～後	染05	

第18表　騎武第49次遺物一覧表１

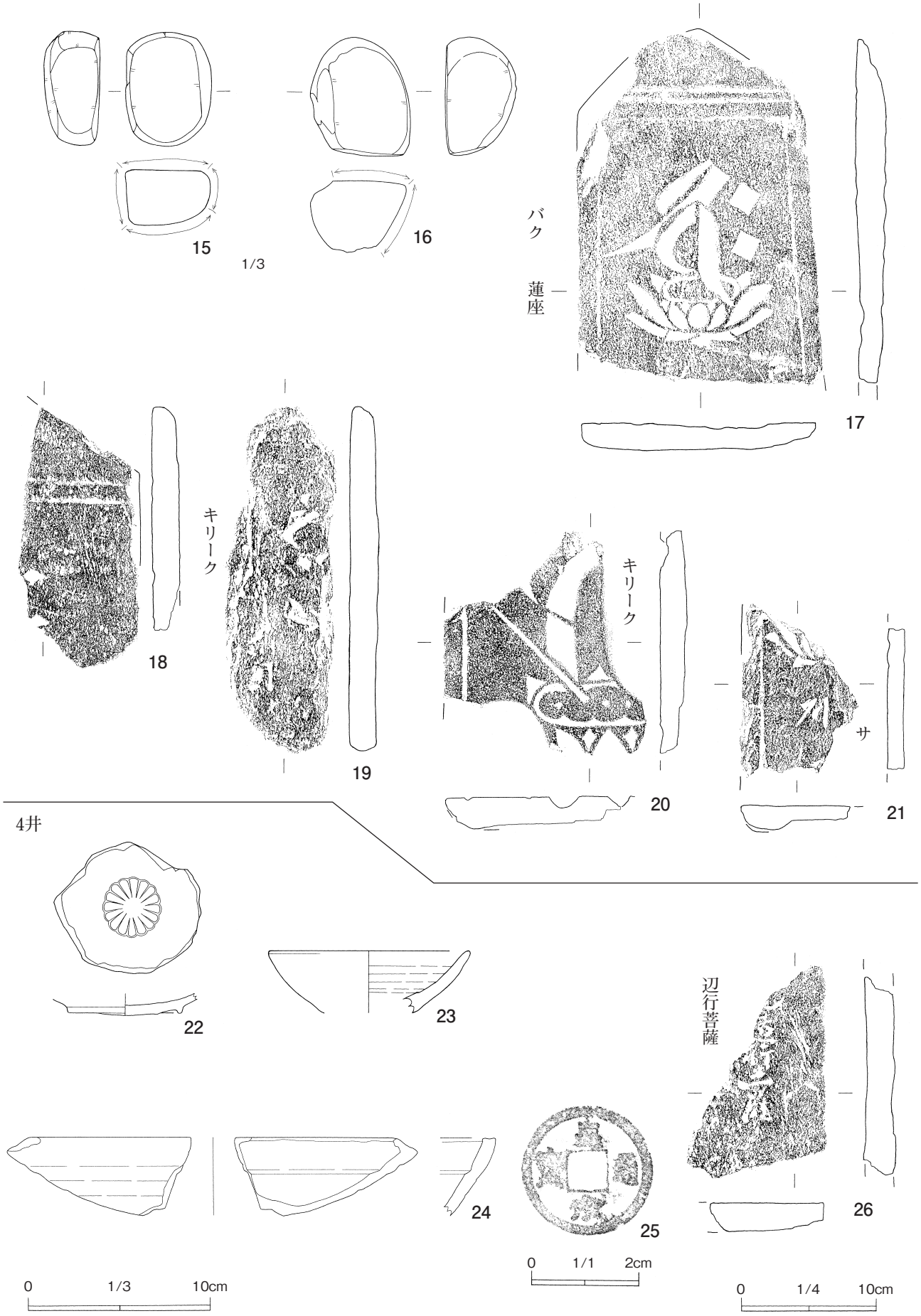
・加曽利Ｅ期（158～160）の土器片がある。

　また、今回報告したもの以外にも磨面や敲打痕のある礫や板碑片などが出土した。

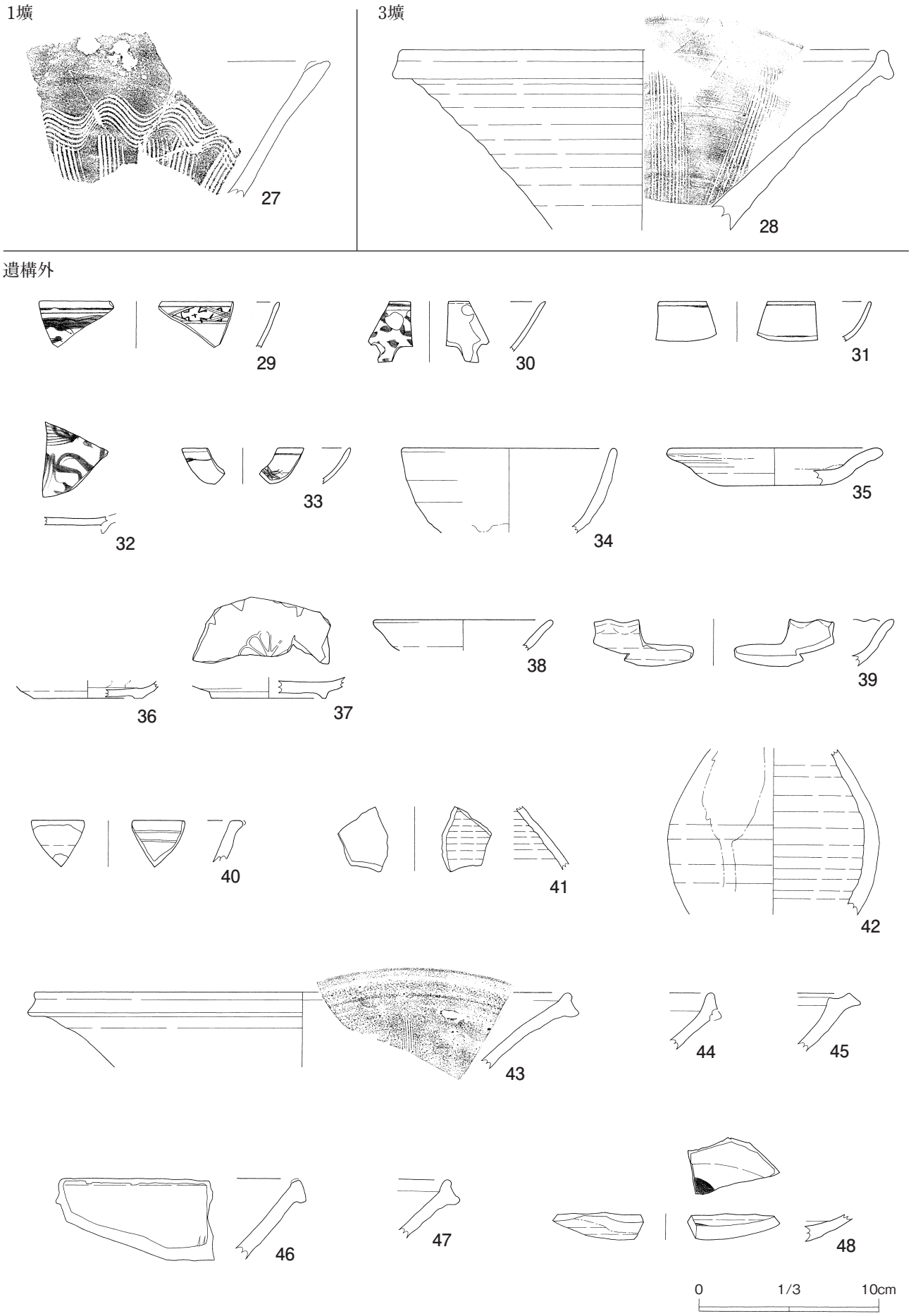
調査風景



第64図　騎武第49次遺物１



第65図　騎武第49次遺物２



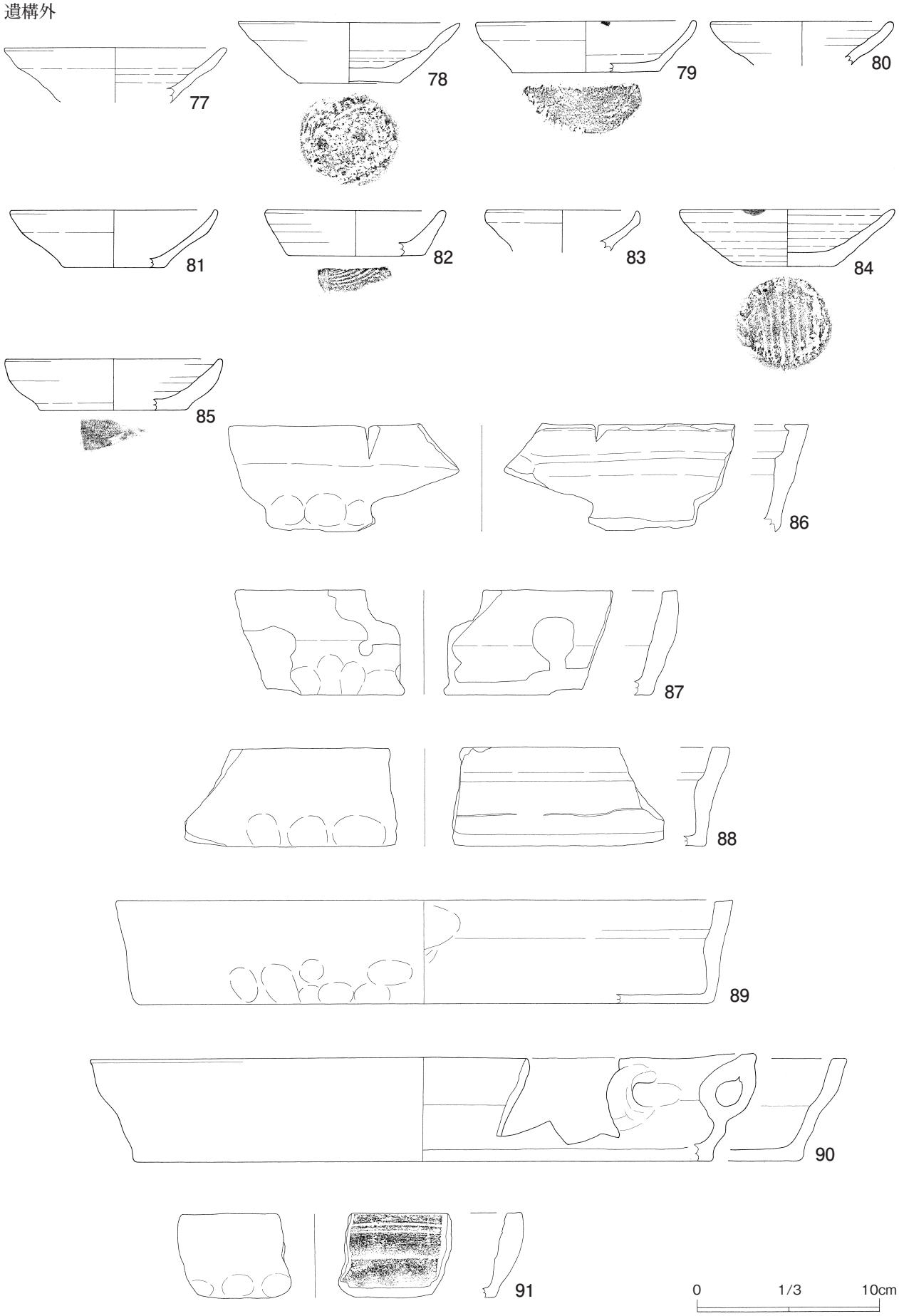
第66図　騎武第49次遺物３

遺構外

※アミはススか墨

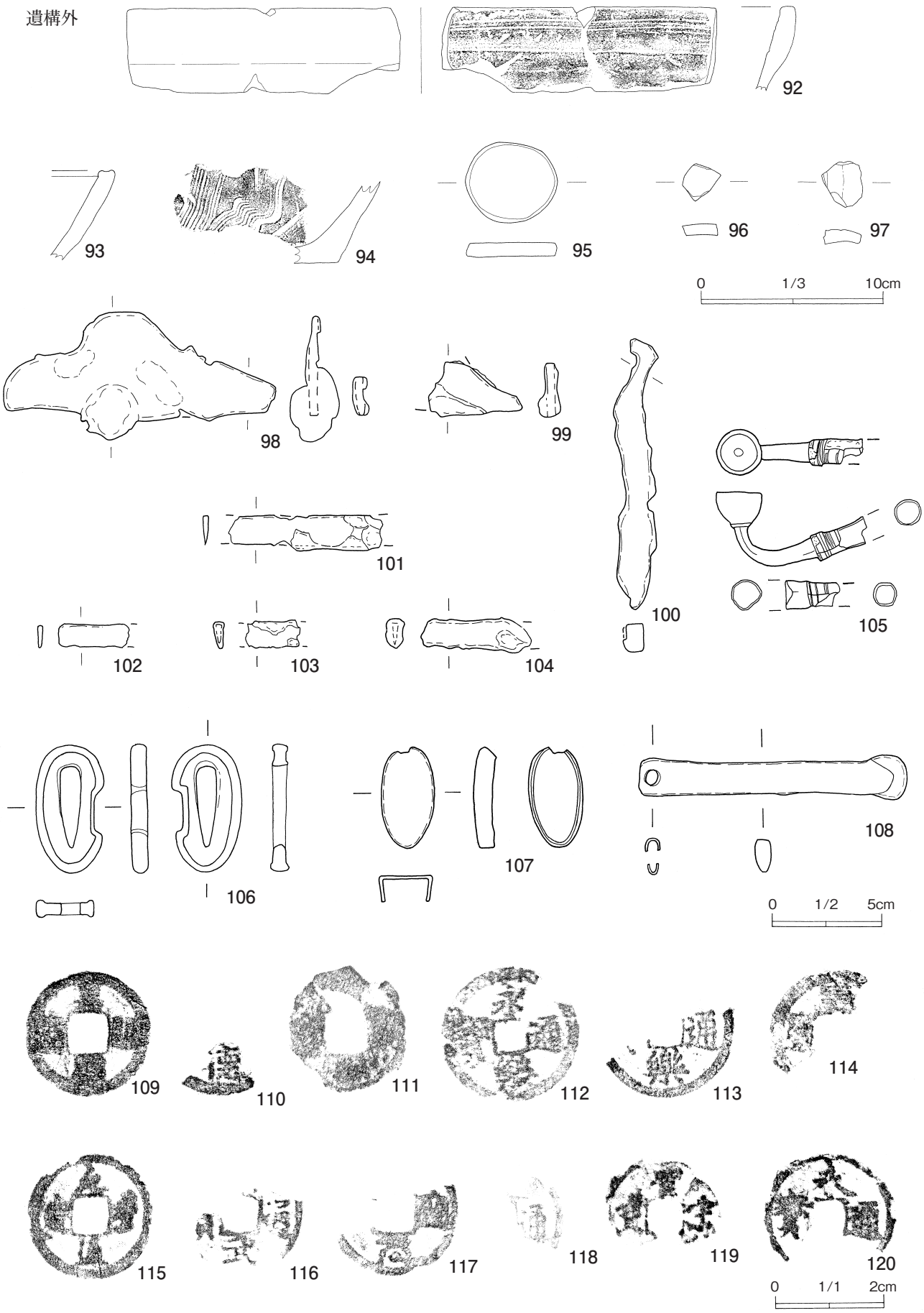
第67図　騎武第49次遺物４

遺構外



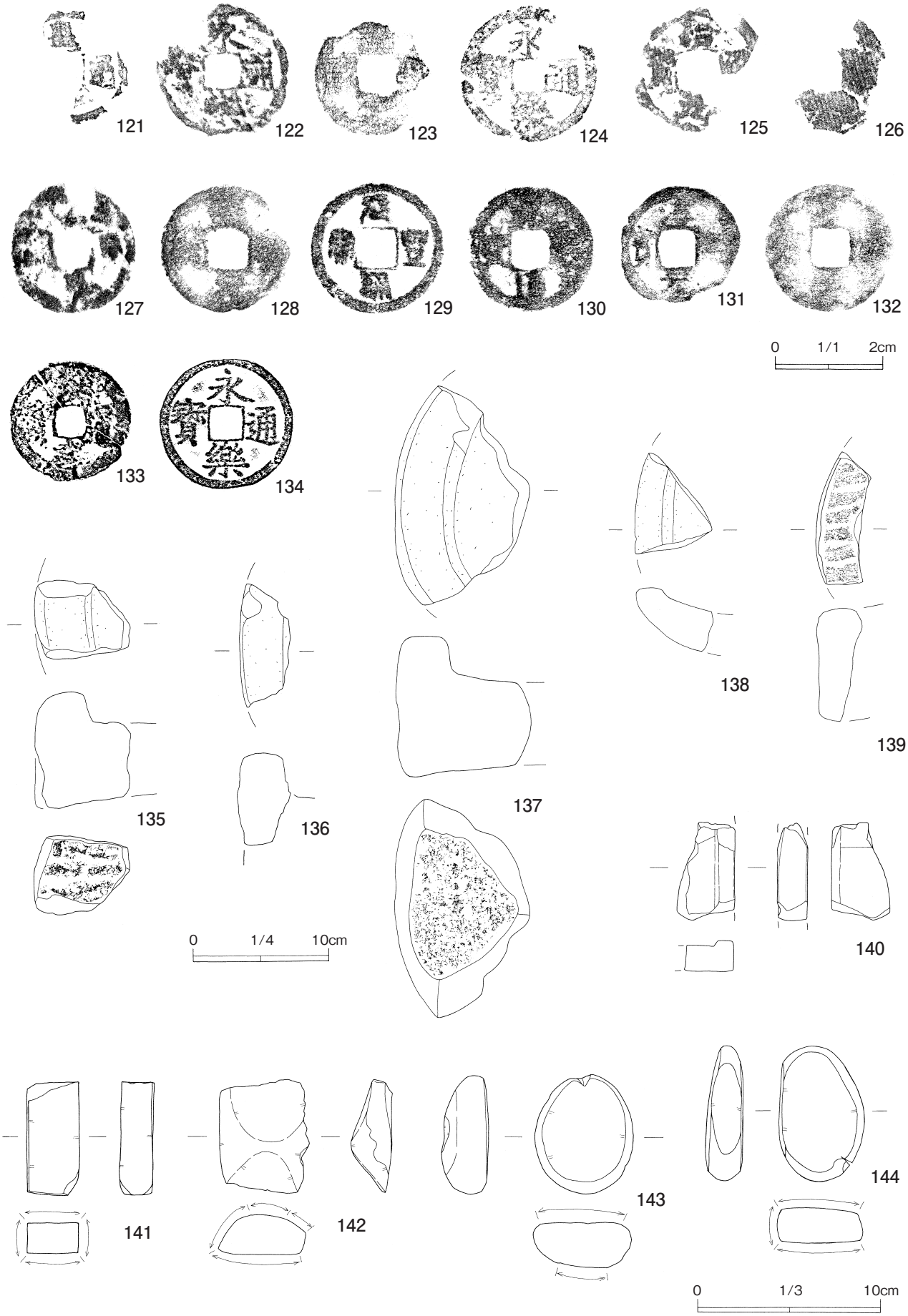
第68図　騎武第49次遺物５

遺構外



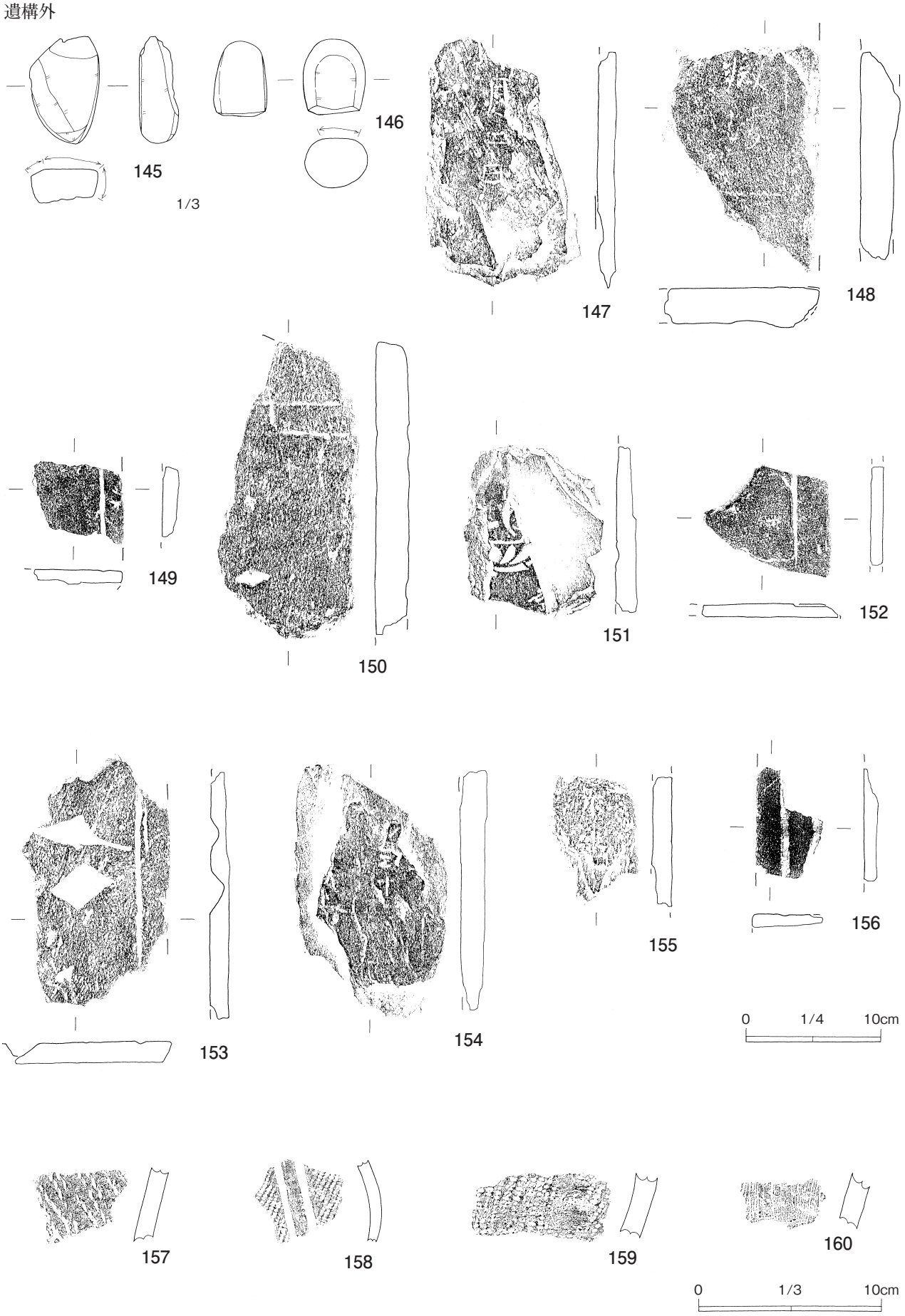
第69図　騎武第49次遺物６

遺構外



第70図　騎武第49次遺物７

遺構外



第71図　騎武第49次遺物８

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図№	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	形式等	年代	遺物ID	備考
6	板碑	石(緑泥片岩)	1井	(17.3)	(19.7)	2.6			0049－0001	表面磨痕
7	天目	瀬戸美濃	2井(№421・424・428)	11.4	4.2	6.2	大4前		天01	40％残
8	粉挽臼(下臼)	石(角閃石安山岩)	2井№427	－	(13.0)	12.0			石15	
9	板碑	石(緑泥片岩)	2井№307	(12.3)	(8.6)	2.3			0049－0002	表面磨痕
10	板碑	石(緑泥片岩)	2井	(15.0)	(9.0)	2.4			0049－0003	
11	擂鉢	志戸呂	3井№418	＊28.0	－	－	大4相当，Ⅰ		鉢06	
12	かわらけ	在地	3井	＊10.0	－	－			K10	
13	かわらけ	在地	3井、№34・35・158、一括	＊12.0	7.0	3.0		◇16c 後～末	K21	60％残
14	擂鉢	在地	3井№301	－	13.2	－			鉢10	
15	磨石	石(デイサイト)	3井	6.3	4.7	3.0			石01	
16	磨石	石(デイサイト)	3井	6.5	5.4	4.0			石10	
17	板碑	石(緑泥片岩)	3井№397	(25.8)	17.9	2.1			0049－0004	
18	板碑	石(緑泥片岩)	3井№401	(19.8)	(9.6)	2.0			0049－0005	表裏磨痕
19	板碑	石(緑泥片岩)	3井№402	(26.4)	(8.4)	2.0			0049－0006	
20	板碑	石(緑泥片岩)	3井№417	(17.2)	(15.3)	1.7			0049－0007	裏面磨痕
21	板碑	石(緑泥片岩)	3井	(13.0)	(8.8)	1.2			0049－0008	
22	端反皿又は丸皿	瀬戸美濃	4井№391	－	6.3	－	大1・2		皿10	
23	かわらけ	在地	4井№394	＊11.0	－	－	騎西城Ⅰ期		K08	
24	ほうろく	在地	4井№393	－	－	－			H04	
25	銭貨(皇宋通宝)	銅	4井№337	－	－	－			0049－0026	
26	板碑	石(緑泥片岩)	4井	(17.5)	(10.5)	2.0			0049－0009	表裏磨痕
27	擂鉢	在地	1壙№177、№116、一括	－	－	－			鉢11	
28	擂鉢	瀬戸美濃	3壙、№55・58・79・122・249・333－P、一括	＊28.0	－	－	大3後，Ⅰ		鉢04	
29	染付碗	中国	№65	－	－	－	E	16c 中～後葉	染07	
30	染付碗	中国	№244	－	－	－	C	15c 後～16c 初	染03	
31	染付皿	中国	№11	－	－	－	E	16c 中～後葉	染04	
32	染付皿	中国	№28	－	－	－	B－1	15c 後	染01	
33	染付皿	中国	一括	－	－	－	E	16c 中～後葉	染06	
34	丸碗	瀬戸美濃	№111	＊12.0	－	－	大3・4		碗01	
35	縁釉小皿	瀬戸美濃	№84	＊12.0	＊6.4	2.1	大1		皿02	
36	丸皿	瀬戸美濃	№129、一括	－	＊6.0	－	大2・3		皿07	
37	端反皿又は丸皿	瀬戸美濃	№302、一括	－	＊6.4	－	大1・2		皿05	
38	稜皿	瀬戸美濃	一括	＊10.0	－	－	大2		皿04	
39	ヒダ皿	瀬戸美濃	一括	－	－	－	大3		皿06	
40	志野大皿	瀬戸美濃	一括	－	－	－	大4末		皿08	
41	瓶	瀬戸美濃	一括	－	－	－	古中		袋01	
42	徳利	瀬戸美濃	№13	－	－	－	登1・2		袋02	
43	擂鉢	瀬戸美濃	№20・67	＊30.8	－	－	大3後，Ⅰ		鉢03	
44	擂鉢	瀬戸美濃	№73	－	－	－	大3前		鉢01	
45	擂鉢	瀬戸美濃	№176－P	－	－	－	登1，Ⅱ		鉢07	
46	擂鉢	瀬戸美濃	№274	－	－	－	大4後，Ⅰ		鉢05	
47	擂鉢	瀬戸美濃	一括	－	－	－	大3後，Ⅰ		鉢02	
48	鉄絵皿	肥前(唐津)	№156	－	－	－		16c 末～17c 初	皿09	
49	筒形碗	志戸呂	№36	＊11.0	－	－		16c 末～17c 前	碗03	
50	筒形碗	志戸呂	№82	－	－	－		16c 末～17c 前	碗02	
51	向付	志戸呂	№185　土壙	＊7.6	－	－	大4相当		他01	
52	かわらけ	在地	№1カクラン	＊12.0	－	－			K37	
53	かわらけ	在地	№9	＊11.0	＊7.4	1.8			K28	
54	かわらけ	在地	№32	＊10.4	＊7.6	2.7	騎西城Ⅱ・Ⅲ期		K11	
55	かわらけ	在地	№40	＊11.0	－	－			K25	油煙
56	かわらけ	在地	№41	＊12.0	－	－			K12	
57	かわらけ	在地	№50	＊9.0	－	－			K27	
58	かわらけ	在地	№60	＊11.6	＊7.6	2.9	騎西城Ⅱ期		K29	
59	かわらけ	在地	№77	＊11.6	＊7.0	2.8			K31	
60	かわらけ	在地	№89・94	＊11.8	5.0	3.1			K30	見込ナデ 底面整形
61	かわらけ(坩堝)	在地	№107	＊11.4	＊7.0	2.6	騎西城Ⅱ期		K01	金粒付着 口縁スラグ
62	かわらけ	在地	№110、一括	－	＊6.0	－	騎西城Ⅱ期		K32	
63	かわらけ(坩堝)	在地	№112・258、一括	＊12.0	7.0	2.5		◇16c 後	K18	金粒付着 底部スラグ
64	かわらけ(坩堝)	在地	№141	＊11.4	＊8.2	2.7			K23	
65	かわらけ	在地	№154	＊11.4	－	－			K33	
66	かわらけ	在地	№173	＊11.8	＊8.6	2.5	騎西城Ⅲ期		K34	
67	かわらけ	在地	№178	＊11.6	＊8.0	2.7	騎西城Ⅱ期		K20	
68	かわらけ	在地	№206－P	＊12.0	－	－	騎西城Ⅰ期		K36	
69	かわらけ	在地	№219－6CP	＊9.6	＊7.0	2.6	騎西城Ⅲ期		K04	
70	かわらけ	在地	№226、一括	＊7.4	＊3.4	2.5			K35	底面削り
71	かわらけ(坩堝)	在地	№277	＊11.0	＊7.0	2.5	騎西城Ⅱ期		K02	金粒付着
72	かわらけ	在地	№296－P	12.0	6.2	3.0	上杉かわらけカ		K16	完形
73	かわらけ	在地	№303・304　、一括	＊13.2	＊8.2	3.1	上杉かわらけカ		K03	内面スス付着 見込ナデ
74	かわらけ	在地	№338	＊7.4	＊5.0	1.9			K26	
75	かわらけ	在地	№349－P、44P、一括	＊11.0	－	－	騎西城Ⅰ期		K22	
76	かわらけ	在地	№354－22P、一括	＊11.0	－	－			K24	
77	かわらけ	在地	№408、44P	＊12.2	－	－	騎西城Ⅰ期		K13	
78	かわらけ	在地	№410、EP	＊12.2	5.6	3.4	騎西城Ⅰ期		K14	60％残　見込ナデ
79	かわらけ	在地	1P、2P、一括	＊11.2	＊8.2	2.8			K06	
80	かわらけ	在地	22P、一括	＊10.0	－	－			K09	
81	かわらけ	在地	44P、EP	11.4	＊5.6	3.2	騎西城Ⅰ期		K15	70％残　底面削り
82	かわらけ	在地	一括	＊10.0	＊7.6	2.5			K05	
83	かわらけ	在地	一括	＊8.6	－	－			K07	

第19表　騎武第49次遺物一覧表２

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	形式等	年代	遺物ID	備考
84	かわらけ	在地	№161	11.9	5.0	3.1	騎西城Ⅰ期		K17	定形 見込ナデ 底面削り 油煙
85	かわらけ	在地	一括	＊12.0	＊8.0	2.8			K19	
86	ほうろく	在地	№96・241	－	－	－			H03	
87	ほうろく	在地	№143	－	－	5.8			H05	
88	ほうろく	在地	№151	－	－	5.4			H06	
89	ほうろく	在地	№198・282	＊3.4	＊3.2	5.7			H07	
90	ほうろく	在地	№224－CP・315・316・406・407、5P、45P、一括	＊36.6	＊3.2	5.7			H08	
91	ほうろく	在地	№261	－	－	4.7			H02	
92	ほうろく	在地	№357・358－P	－	－	－			H01	
93	擂鉢	在地	№265	－	－	－			鉢09	
94	擂鉢	在地	一括	－	－	－			鉢08	
95	土製円盤	在地	№360－39P	4.8	－	0.8			つぶて石1	
96	土製円盤	瀬戸美濃	一括	1.8	－	0.6	大		他02	
97	土製円盤	瀬戸美濃	一括	2.0	－	0.7	登1・2		他03	
98	火打金	鉄	№325－27P	9.8	4.5	0.2			0049－0002	
99	火打金	鉄	44P	3.4	2.0	0.8			0049－000	
100	釘(角)	鉄	№15	10.0	－	0.8			0049－0006	
101	小柄	鉄	№268	5.5	1.3	0.2			0049－000	
102	小柄	鉄	№269	2.6	0.8	0.15			0049－000	
103	小柄	鉄	№269	1.9	1.0	0.4			0049－000	
104	小柄	鉄	№269	4.0	1.15	0.6			0049－000	
105	煙管(雁首)	銅	№63	7.1	1.7	－			0049－0002	
106	喰出鍔	銅	№280	4.7	2.5	0.6			町金95	
107	鐺	銅	№3	3.2	2.0	0.6			町金96	
108	小柄(柄)	銅	№98	9.8	1.4	0.4			町金157	
109	銭貨(喜祐通宝)	銅	№14		－	－			0049－0009	
110	銭貨(不明)	銅	№22	－	－	－			0049－0010	
111	銭貨(皇宋通宝)	銅	№25	－	－	－			0049－0011	
112	銭貨(永楽通宝)	銅	№46	－	－	－			0049－0012	
113	銭貨(永楽通宝)	銅	№97	－	－	－			0049－0013	
114	銭貨(不明)	銅	№127	－	－	－			0049－0014	
115	銭貨(元豊通宝)	銅	№152	－	－	－			0049－0015	
116	銭貨(洪武通宝)	銅	№165	－	－	－			0049－0016	
117	銭貨(不明)	銅	№167	－	－	－			0049－0017	
118	銭貨(不明)	銅	№191	－	－	－			0049－0018	
119	銭貨(聖宋元宝)	銅	№213	－	－	－			0049－0019	
120	銭貨(永楽通宝)	銅	№236	－	－	－			0049－0020	
121	銭貨(不明)	銅	№342	－	－	－			0049－0021	
122	銭貨(永楽通宝)	銅	№345	－	－	－			0049－0022	
123	銭貨(開元通宝)	銅	№347	－	－	－			0049－0023	
124	銭貨(永楽通宝)	銅	№412	－	－	－			0049－0024	
125	銭貨(治平元宝)	銅	№416－P	－	－	－			0049－0029	
126	銭貨(不明)	銅	1P	－	－	－			0049－0027	
127	銭貨(不明)	銅	35P	－	－	－			0049－0028	
128	銭貨(熙寧元宝)	銅	一括	－	－	－			0049－0008	
129	銭貨(元豊通宝)	銅	一括	－	－	－			0049－0005	
130	銭貨(元祐通宝)	銅	一括	－	－	－			0049－0004	
131	銭貨(淳熙元宝)	銅	一括	－	－	－			0049－0006	
132	銭貨(咸淳元宝)	銅	一括	－	－	－			0049－0007	
133	銭貨(洪武通宝)	銅	№355	－	－	－			0049－0031	
134	銭貨(永楽通宝)	銅	№309－CP	－	－	－			0049－0030	
135	粉挽臼(上臼)	石(角閃石安山岩)	№44	－	(7.0)	8.5			石14	
136	粉挽臼(上臼)	石(角閃石安山岩)	№329	－	(3.9)	6.8			石07	
137	粉挽臼(上臼)	石(角閃石安山岩)	№387	－	(9.7)	10.3			石08	
138	茶臼(下臼)	石(角閃石安山岩)	№64	－	(5.7)	(3.1)			石05	
139	粉挽臼(下臼)	石(角閃石安山岩)	№179	－	(3.1)	8.3			石06	
140	硯	石	一括	(5.1)	(3.1)	1.7			石13	
141	砥石	石(泥岩)	№288	(6.2)	2.9	1.7			石02	
142	砥石	石(泥岩)	№315	6.1	4.5	2.2			石12	
143	磨石	石(デイサイト)	№30	6.6	5.4	2.5			石09	
144	磨石	石(デイサイト)	№222－CP、一括	7.4	4.6	2.1			石03	
145	磨石	石(デイサイト)	№234	5.9	3.7	2.1			石11	
146	磨石	石(デイサイト)	№317－C	4.2	3.5	2.9			石04	
147	板碑	石(緑泥片岩)	№33	(18.1)	(11.8)	2.3			0049－0010	
148	板碑	石(緑泥片岩)	№38	(18.6)	(11.8)	2.7			0049－0011	
149	板碑	石(緑泥片岩)	№52	(6.8)	(6.8)	1.1			0049－0012	
150	板碑	石(緑泥片岩)	№71	(22.6)	(11.0)	2.4			0049－0013	
151	板碑	石(緑泥片岩)	№74	(13.1)	(10.4)	1.5			0049－0014	
152	板碑	石(緑泥片岩)	№376	(8.6)	(10.1)	0.9			0049－0015	
153	板碑	石(緑泥片岩)	№378	(19.7)	(11.5)	1.4			0049－0016	
154	板碑	石(緑泥片岩)	№382	(19.8)	(11.5)	1.8			0049－0017	
155	板碑	石(緑泥片岩)	№385	(10.0)	(7.2)	1.4			0049－0018	
156	板碑	石(緑泥片岩)	一括	(8.5)	(5.4)	1.9			0049－0019	
157	縄文土器	土器	№252	－	－	－	撚糸文系			
158	縄文土器	土器	№292－P	－	－	－	加曽利Ｅ			
159	縄文土器	土器	JP	－	－	－	加曽利Ｅ			
160	縄文土器	土器	FP	－	－	－	加曽利Ｅ			

第20表　騎武第49次遺物一覧表３

第72図　騎西城跡第９・10次周辺と遺構位置図

第Ｘ章　騎西城跡第９次調査

第１節　調査の概要

（調査に至る経過）

平成４年12月24日、開発者長谷川克司氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋字仮換地31街区２画地の一部における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地は騎西城跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

平成５年５月６日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、島村範久が担当した。

（文化庁通知）６委保記第５－315号
平成６年４月27日
（調査期間）　平成６年１月17日～３月22日
（調査面積）　65㎡

（調査の経過）

建設予定地に12.5m×９ｍの調査区を設定し掘り下げた。ローム面を遺構確認面とし溝・井戸・土壙の調査を実施した。ピット多数。最後にピット・縄文時代の調査をした。その際旧石器の彫刻器が出土し周辺を精査したが当該期の遺構遺物は確認できなかった。

遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。基準杭の標高は大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

（周辺の調査）

東にKB15区、西にKB19区のＤ区がある。KB15区では障子堀が南北に巡らされているが、隣接地は平場でピット・土壙が検出され、障子堀から兜・袋入り銭貨・薙鎌・湯釜等が出土した。19区でも障子堀が南北に巡らされ、位牌・将棋の駒・織部沓茶碗等が出土した。

第２節　遺構と遺物

【建物跡】１棟想定した。

１号建物跡　調査次に認定したもので調査区南側に位置する。柱穴は整然と並ばないが２×４間の建物跡としている。整理時にも検出を試みたが明確に確認できなかった。

【井戸状遺構】３基あり北西側に寄る。

１号井戸　直径80cm 深さ95cm を計る。種子が出土した。湧水無し。

２号井戸　直径110cm 深さ150cm を計る。桃の種が出土した。

３号井戸　直径120cm 深さ160cm と深い。かわらけ（５～７）が出土した。

【土壙】　９基あり西側に寄る。

２号土壙　西端に位置する。平面円形で直径60cm 深さ20cm を計る。覆土は炭化物・灰を主体とする。瀬戸美濃の天目茶碗（９）・かわらけ（10）が出土した

【ピット】

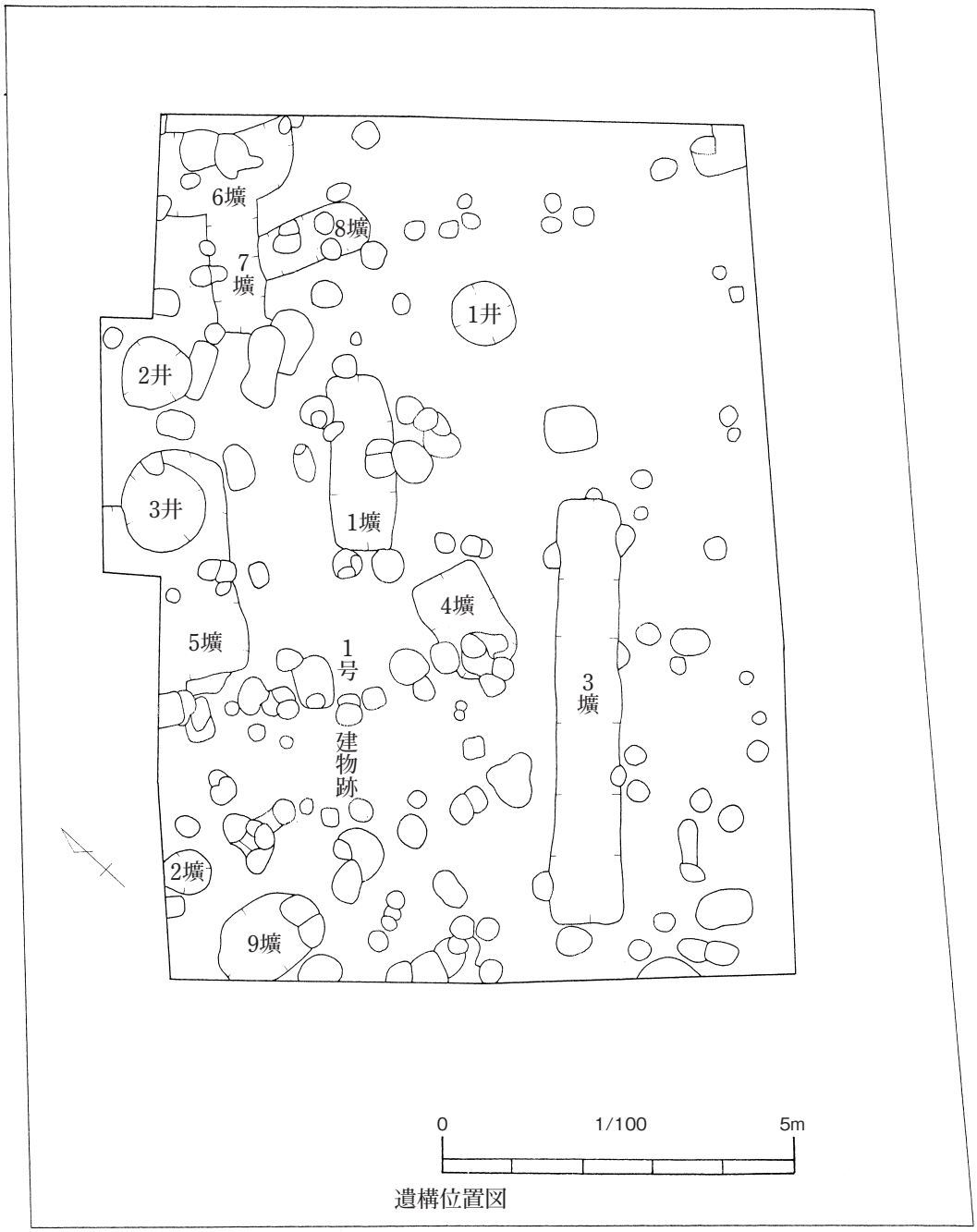
８号ピット　底面より80％残のかわらけ（24）が出土した。

【遺構外出土遺物】

土器類では常滑の甕（14～16）・瀬戸美濃の皿（17・18）・かわらけ（19～23）、石製品では粉挽臼（28・29）・火打石（30）、ほかに被熱した粘土塊がある。

旧石器時代の石器は荒屋型彫刻器（31）がある。厚手の剥片を用い、縁辺部に入念な調整加工を施す。その後一端に一回の打撃で彫刻刀面を作出している。4.5×2.8厚さ0.8cm。硬質頁岩製。

縄文時代のものでは、加曽利Ｅ期（32～34・37～39）・安行３b~c 期（44～47）の土器や分銅形の打製石斧（50）・石鏃（51・52）がある。51は無茎で内湾する脚を有し、52は有茎で両側辺下部に段を備える。

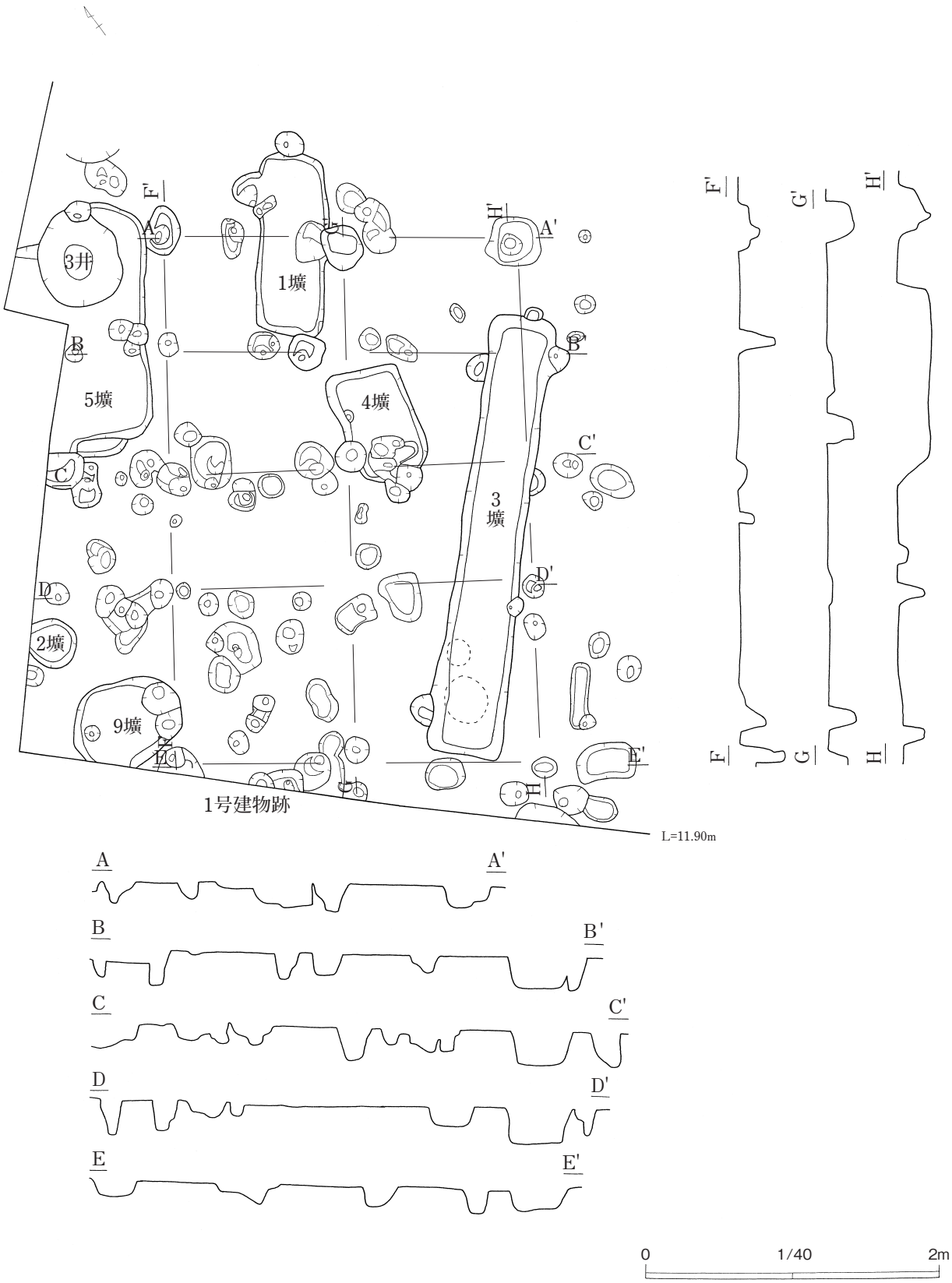


第73図　騎西城跡第９次遺構１

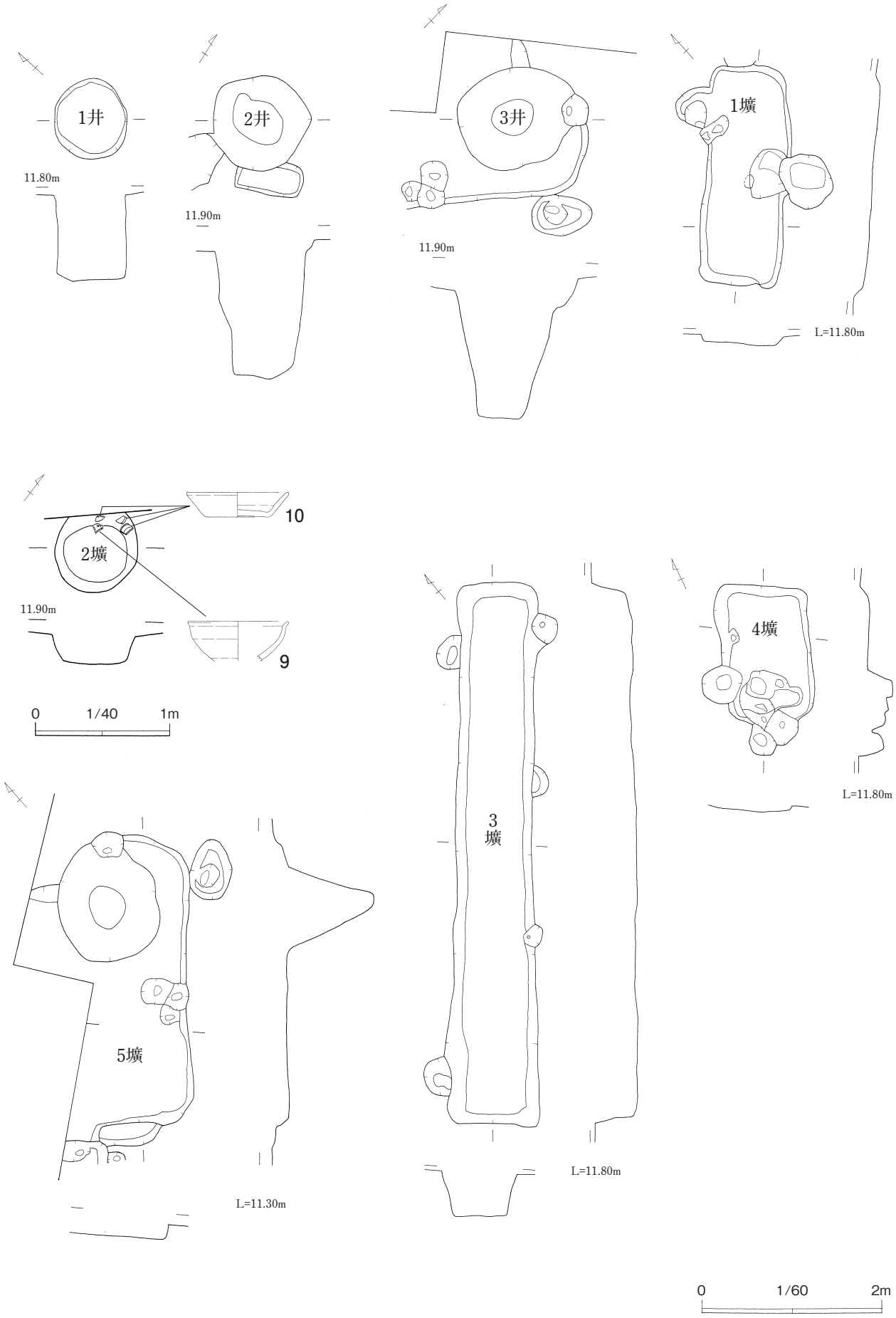
（　　）は残存値、☆はセクション図計測値　　○は当該遺構　　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
１号建物跡	不明	方形	―	240×360	―	―	なし		
１号井戸	なし	円形	直上	80	☆95	暗灰褐色	かわらけ/ヒョウタン？の種子		
２号井戸	なし	円形	ほぼ直上	110	150	暗灰褐色	かわらけ＝～16c 前？/焙烙/銭貨/桃の種		
３号井戸	5壙→○	円形	ロート形	120	160	暗灰褐色	瀬美天目/かわらけ/土製円盤		
１号土壙	なし	長方形	ほぼ直上	250×90	10	暗灰褐色			
２号土壙	なし	円形	ほぼ直上	60	☆20	C 層/含灰	瀬美天目/かわらけ		
３号土壙	なし	長方形	ほぼ直上	605	☆47	暗灰褐色/含Ｔ　△	常滑(片口鉢＝～13c 末)		
４号土壙	なし	長方形	ほぼ直上	154×100	☆10	暗灰褐色			
５号土壙	○→3井	長方形？	ほぼ直上	348×(120)	16	暗灰褐色/含Ｔ　△	常滑甕		
６号土壙	7壙	不整形	ほぼ直上	(190)×120	10	暗灰褐色			
７号土壙	6･8壙	長方形	ほぼ直上	(194)×76	☆14	暗灰褐色			
８号土壙	7壙	隅丸長方形	ゆるやか	(168)×68	☆8	暗灰褐色	土鍋		
９号土壙	なし	楕円形	ゆるやか	143×116	☆14	暗灰褐色	砥石		

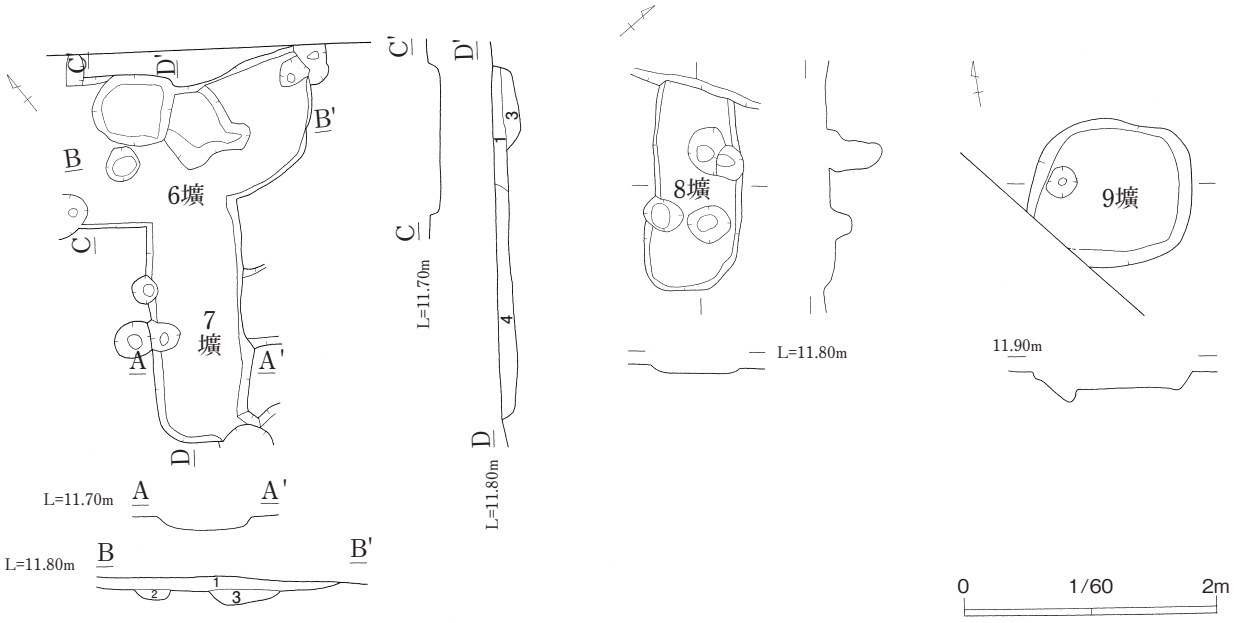
第21表　騎西城跡第９次遺構一覧表



第74図　騎西城跡第９次遺構２



第75図　騎西城跡第９次遺構３

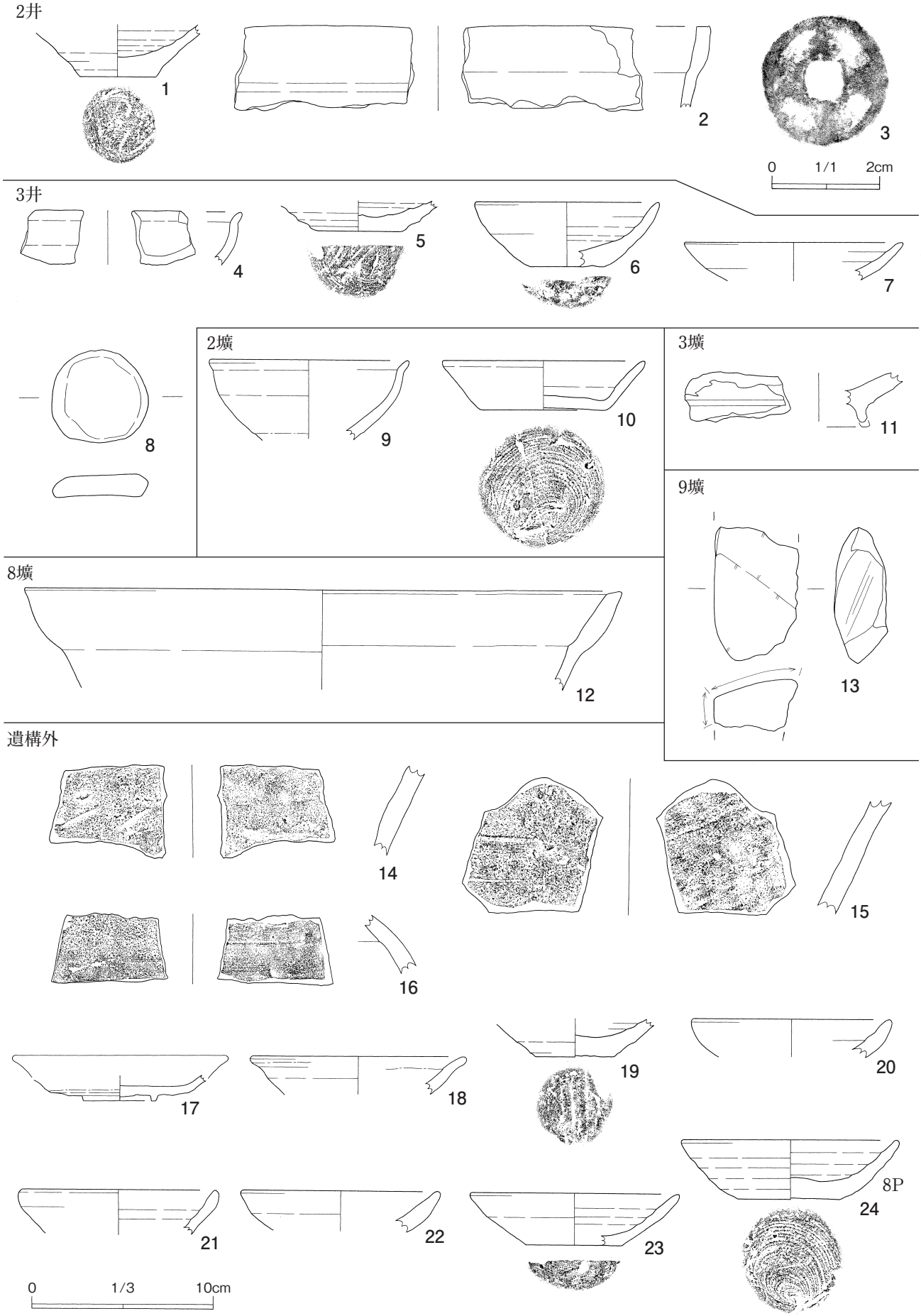


６壙７壙セクション
1　暗灰褐色土／LB、LR△、C、黒色土 B△　締良
2　暗灰褐色土（上層よりやや茶色味がかる）／LB（ソフト）△　締良
3　暗灰褐色土（上層よりやや明）／LB（ソフト）△　締良
4　暗灰褐色土／LR　△、FE△、C　締良

第76図　騎西城跡第９次遺構４

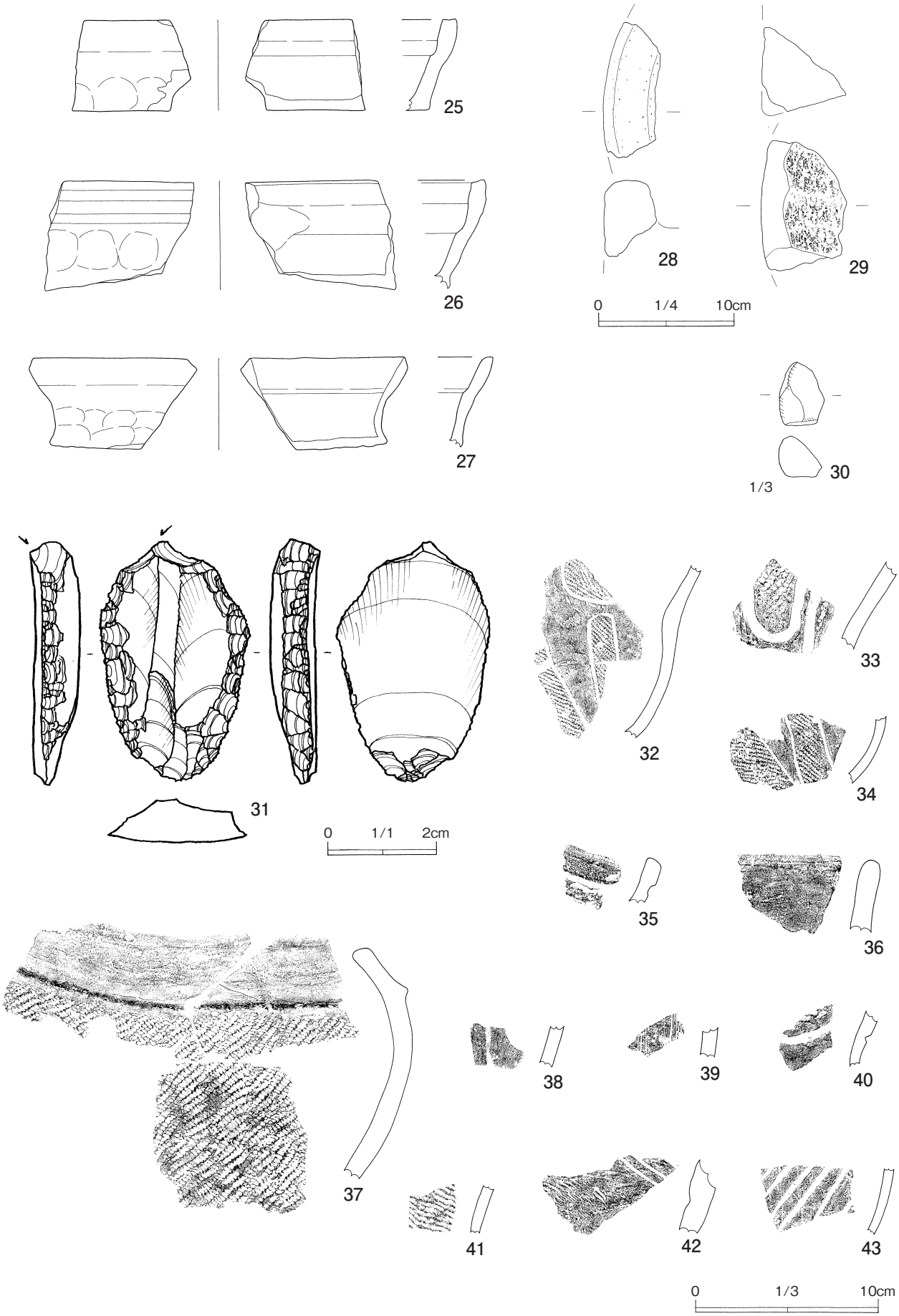
３井　かわらけ（No. 6）出土

調査前風景

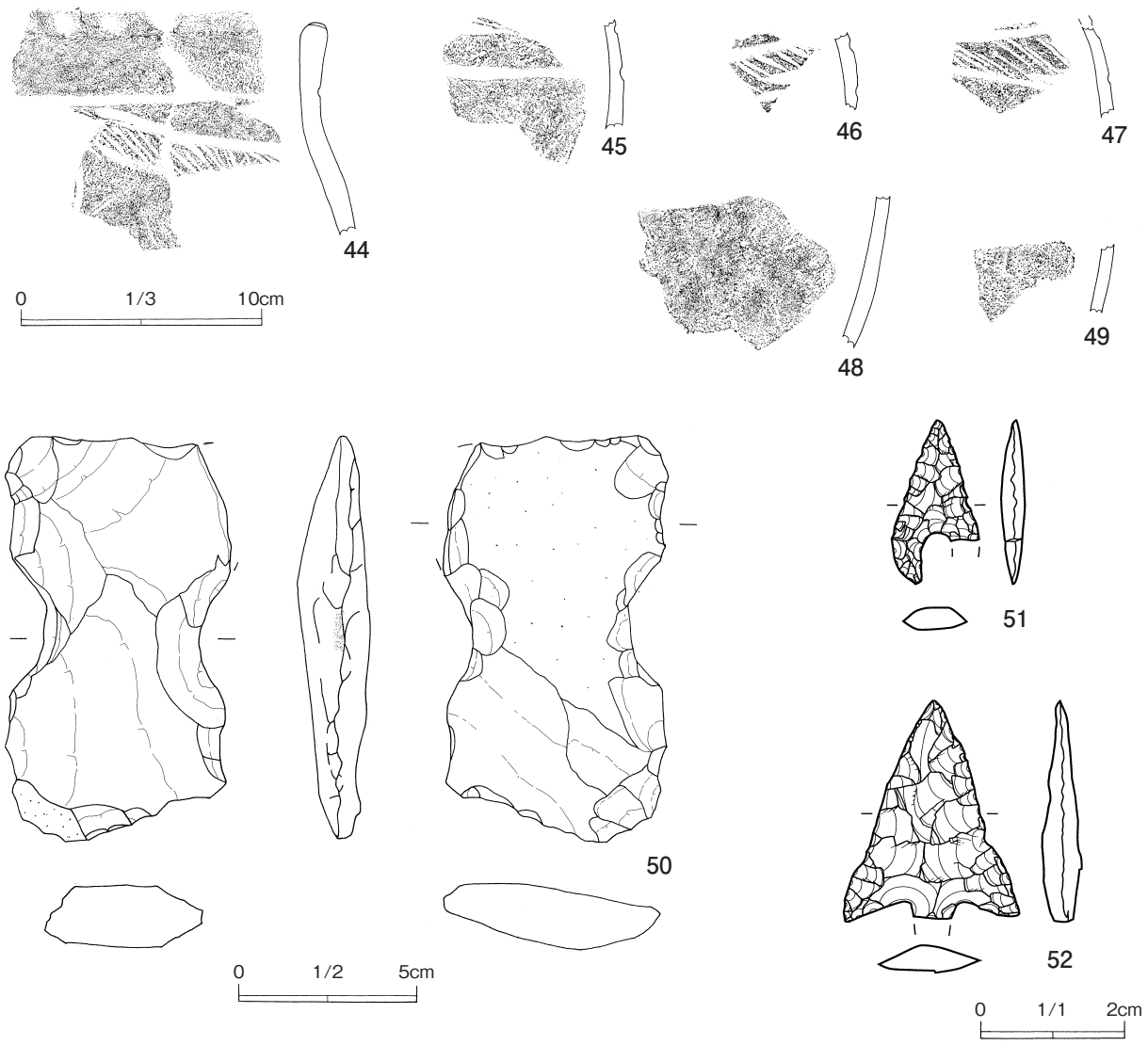


第77図　騎西城跡第９次遺物１

遺構外



第78図　騎西城跡第９次遺物２



第79図　騎西城跡第９次遺物３

調査風景

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	形式等	年代	遺物ID	備考
1	かわらけ	在地	2井	－	4.2	－		◇～16c前？	K06	見込ナデ
2	ほうろく	在地	2井	－	－	－			H01	
3	銭貨(元祐通宝)	銅	2井	－	－	－			0009－0001	
4	天目	瀬戸美濃	3井	－	－	－	古後Ⅳ(新)		天01	15％残
5	かわらけ	在地	3井	－	5.0	－			K03	見込ナデ　底面削り
6	かわらけ	在地	3井	＊10.2	＊4.0	3.6	騎西城Ⅰ期		K04	
7	かわらけ	在地	3井	＊12.0	－	－			K09	騎西城Ⅰ期かわらけに似るが、器高の低いものと思われる。
8	土製円盤	在地	3井	5.4	－	1.1			つぶて石1	
9	天目	瀬戸美濃	2壙No.1	＊11.0	－	－	古後Ⅳ(新)		天02	
10	かわらけ	在地	2壙(No.2～4)	11.2	6.8	2.7			K01	60％残　金雲母
11	片口鉢	常滑	3壙	－	－	－	Ⅰ	～13c末	鉢01	
12	土鍋	在地	8壙	＊33.0	－	－			D01	
13	砥石	石(泥岩)	9壙	7.5	4.6	(3.0)			石01	
14	甕	常滑	一括	－	－	－			袋01	
15	甕	常滑	一括	－	－	－			袋02	
16	甕	常滑	一括	－	－	－			袋03	
17	腰折皿	瀬戸美濃	一括	－	4.0	－	古後Ⅳ(新)		皿01	
18	縁釉小皿	瀬戸美濃	一括	＊12.0	－	－	大1		皿02	
19	かわらけ	在地	一括	－	4.4	－			K05	底面削り
20	かわらけ	在地	一括	＊11.0	－	－	騎西城Ⅰ期		K07	
21	かわらけ	在地	一括	＊11.0	－	－			K10	
22	かわらけ	在地	一括	＊11.0	－	－	騎西城Ⅰ期		K11	
23	かわらけ	在地	一括	＊11.6	＊5.4	2.9			K02	騎西城Ⅰ期かわらけに似るが器高が低い
24	かわらけ	在地	8P	12.0	5.6	3.3			K08	80％残　スス付着
25	ほうろく	在地	23P	－	－	5.0			H03	
26	ほうろく	在地	一括	－	－	－			H02	
27	ほうろく	在地	一括	－	－	－			H04	
28	粉挽臼(上臼)	石(安山岩)	一括	－	(4.0)	(5.5)			石02	
29	粉挽臼(上臼)	石(角閃石安山岩)	52P	－	(6.4)	(5.5)			石03	
30	火打石	石(石英)	101P	3.5	2.5	2.2			0009－0001	
31	彫刻器	石(硬質頁岩)	一括	4.5	2.8	0.8			0009－0001	
32	縄文土器	土器	一括				加曽利Ｅ			
33	縄文土器	土器	一括				加曽利Ｅ			
34	縄文土器	土器	一括				加曽利Ｅ			
35	縄文土器	土器	64P、一括							
36	縄文土器	土器	一括				中後期			
37	縄文土器	土器	一括				加曽利Ｅ			
38	縄文土器	土器	一括				加曽利Ｅ			
39	縄文土器	土器	一括				加曽利Ｅ			
40	縄文土器	土器	一括				中後期			
41	縄文土器	土器	一括				中後期			
42	縄文土器	土器	一括				中後期			
43	縄文土器	土器	一括				安行			
44	縄文土器	土器	一括				安行3b~c			
45	縄文土器	土器	一括				安行3b~c			
46	縄文土器	土器	一括				安行3b~c			
47	縄文土器	土器	一括				安行3b~c			
48	縄文土器	土器	一括				安行			
49	縄文土器	土器	一括				安行			
50	打製石斧	石	一括	11.2	6.1	1.9			0009－0003	
51	石鏃	石(チャート)	一括	2.3	－	－			0009－0001	
52	石鏃	石(チャート)	一括	3.0	－	－			0009－0002	

第22表　騎西城跡第９次遺物一覧表

第XI章　騎西城跡第10次調査

第１節　調査の概要

（調査に至る経過）

平成５年４月14日、開発者鈴木為雄氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋字仮換地31街区８画地の一部における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地は騎西城跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

平成５年５月20日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、島村範久が担当した。

（文化庁通知）６委保記第５－314号
　　平成６年４月27日
（調査期間）　平成６年１月17日～３月22日
（調査面積）　90㎡

（調査の経過）

建設予定地に10.5m×６ｍの調査区を設定し掘り下げた。ローム面を遺構確認面とし溝・井戸・土壙の調査を実施した。攪乱有り。北西部を拡張した。最後に縄文の調査をした。ベルトを残しグリット状に調査した。埋甕・炉体土器が出土した。南西に5.3m×１ｍのトレンチを入れ堀を確認した。

遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。基準杭の標高は大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

（周辺の調査）

西にKB19区Ｃ区、南に騎12次・KB19区Ａ区がある。Ｃ区は南北に長い調査区で全面に障子堀が確認された。騎12次では井戸状遺構・土壙・ピット等が、Ａ区では溝状遺構が加わる。

第２節　遺構と遺物

【堀】調査区の南にある第１トレンチで１カ所確認された。

１号堀　東端から西へ466cmを計りＣ区につながる。深さ70cmで障子堀と思われる。（第72図）

【溝】１条で南東端に僅かに検出された。

１号溝　瀬戸美濃の縁釉皿（２）・擂鉢（３）が出土した。

【井戸状遺構】１基あり北西に寄る。

１号井戸　直径67cm深さ89cmを計る。かわらけ（４）・板碑片（５～７）が出土した。

【土壙】５基で周縁に分布する。

１号土壙　１号溝上に位置し、平面長方形98cm（残存）×66cmを計る。上層に炭化物層がある。

２号土壙　ab分割する。２ａ壙は平面長方形で150cm×120cm深さ50cmを計る。覆土に炭化物層を含む。

３号土壙　板碑片・かわらけが出土した。

４号土壙　調査時風倒木痕の可能性を指摘している。平面不整形で246cm×168cm（残存）深さ100cmを計る。覆土に黒色土層・LB層を含む。

【住居跡】縄文時代の埋甕・炉体土器が確認され、竪穴住居として報告する。

Ｊ－１号住居跡　埋甕２基・炉１ヶ所、周辺にピットが分布する。埋甕Ａを炉に伴うもの、埋甕Ｂを出入口に埋設したものしておく。ピットを壁柱穴と考えると直径６ｍほどの規模である。

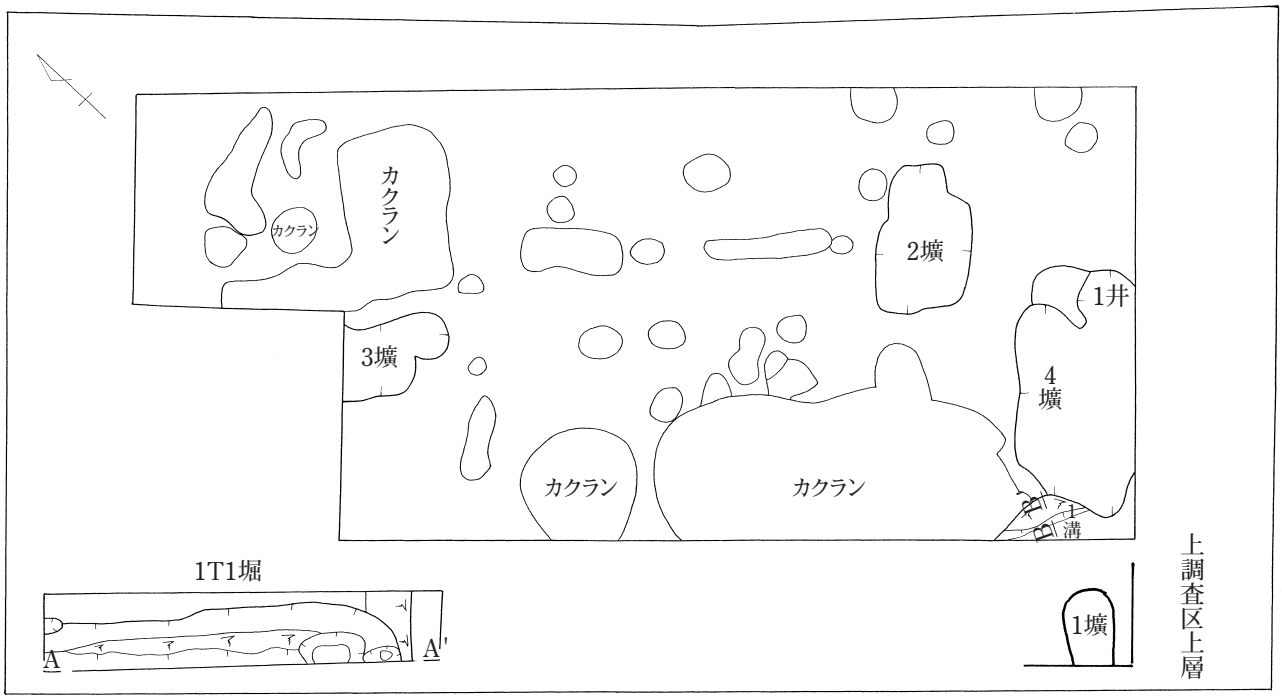
炉体土器は胴部上半（24）と頸部を欠失したもの（25）を使用している。24は沈線による渦巻き文・25は微隆起隆帯による渦巻き文などが描かれている。埋甕Ａ（26）はほぼ完形で沈線による波状文・楕円形文などが描かれている。埋甕Ｂ（27）は下半部で数条の懸垂文を施す。

同時期の土器は28～71で加曽利Ｅ期である。

石器は剥片（75）・刃部を欠損する打製石斧（76）・条下面に敲打痕を有する敲石（77）・砥石（78）・上部に穿孔する石錘（79）がある。

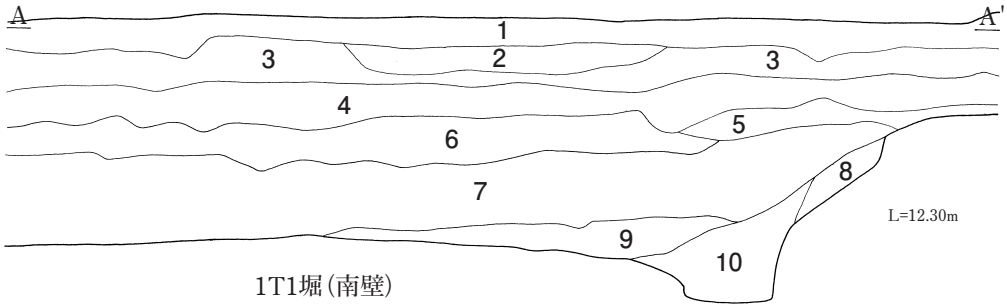
【遺構外出土遺物】土器類ではかわらけ（14・15）で、15は小型で油煙が付着している。18は弾丸の欠損と思われる。ほかにスラグ113gがある。

縄文土器は後期安行（72）・安行３ｄ（73・74）がある。



遺構位置図

0　1/100　5m



1T1堀(南壁)

0　1/40　2m

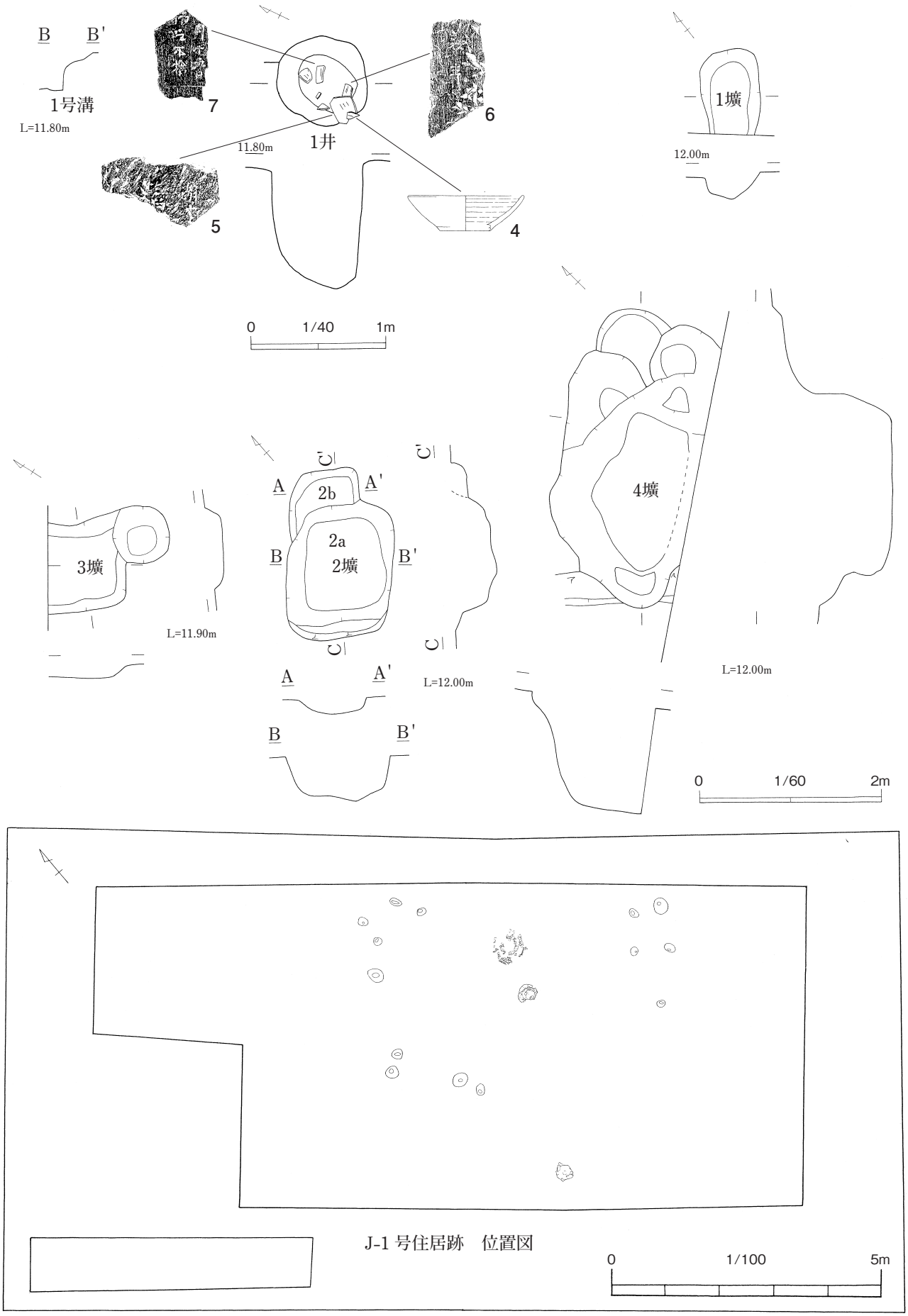
1T南壁セクション
1　盛土
2　撹乱
3　暗灰褐色土／LR◎、S　△、C、T　締良
4　暗灰褐色土（上層よりやや暗）／LR△、C　▲、T△　砂粒が混ざっている　締良
5　暗灰褐色土／LB、LR△、S　▲、C　締良
6　暗灰褐色土／LB（ハード）◎、LR◎、S　▲、C　ボロボロ　締悪
7　暗灰褐色土／LB（ハード）◎、LR、FE◎、S　△、C、灰色粘土B△　ボロボロ　締悪
8　暗灰褐色土／LR△、FE△　締良
9　暗灰褐色土／LB、LR△、FE◎、　締良
10　暗灰褐色土（暗）／LB、LR△、FE　軟度低

第80図　騎西城跡第10次遺構１

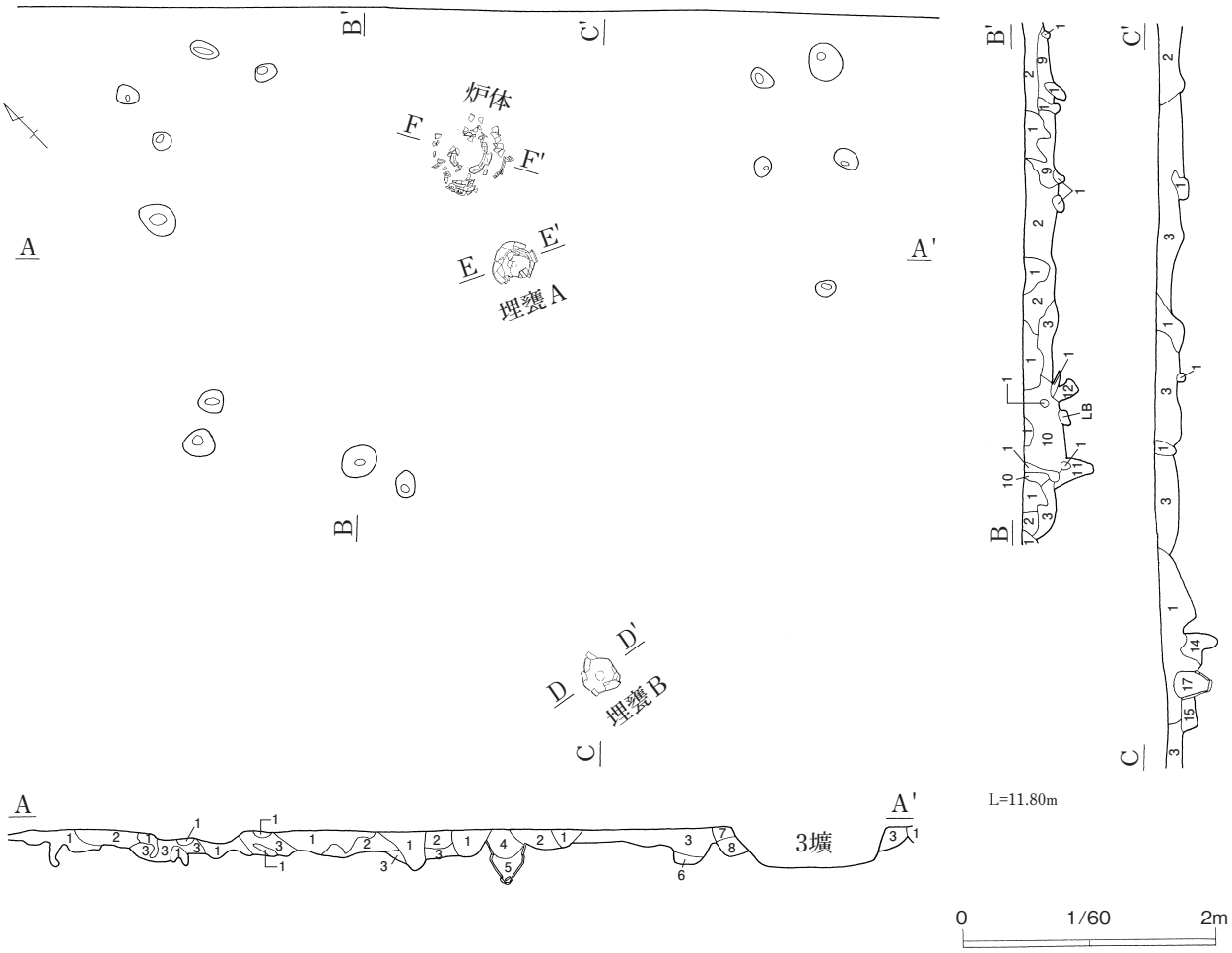
（　）は残存値、☆はセクション図計測値　○は当該遺構　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模（cm）	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
１堀	なし			(466)×(80)	70	暗灰褐色/含LB◎･LR◎	在地擂鉢		
１号溝	○→1壙	直線	箱薬研	幅(60)	41	不明	瀬美緑釉小皿/在地擂鉢		
１号井戸	不明	円形	直上	67	☆89	暗灰褐色	かわらけ/板碑		
１号土壙	不明	長方形	ほぼ直上	(98)×66	☆28	C層			
2a号土壙	2b壙→○	長方形	ほぼ直上	150×120	☆50	暗灰褐色/含C層	かわらけ		
2b号土壙	○→2a壙	長方形	ほぼ直上	78×(74)	☆18	暗灰褐色			
３号土壙	なし	長方形？	ほぼ直上	(88)×96	18	不明	かわらけ/板碑		
４号土壙	なし	不整形	ほぼ直上	246×(168)	100	暗灰褐色/含黒色土層･LB層			
J-1号住居跡	なし	円形か	不明	600か	不明	茶褐色･黄褐色		加曽利E式	

第23表　騎西城跡第10次遺構一覧表

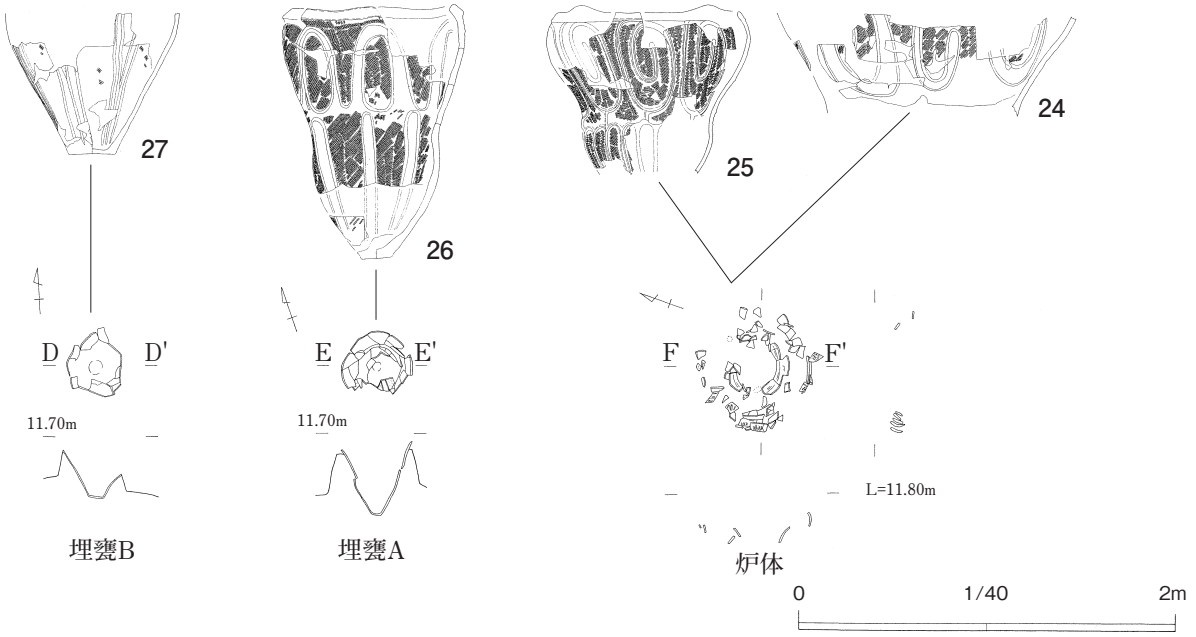


第81図　騎西城跡第10次遺構２

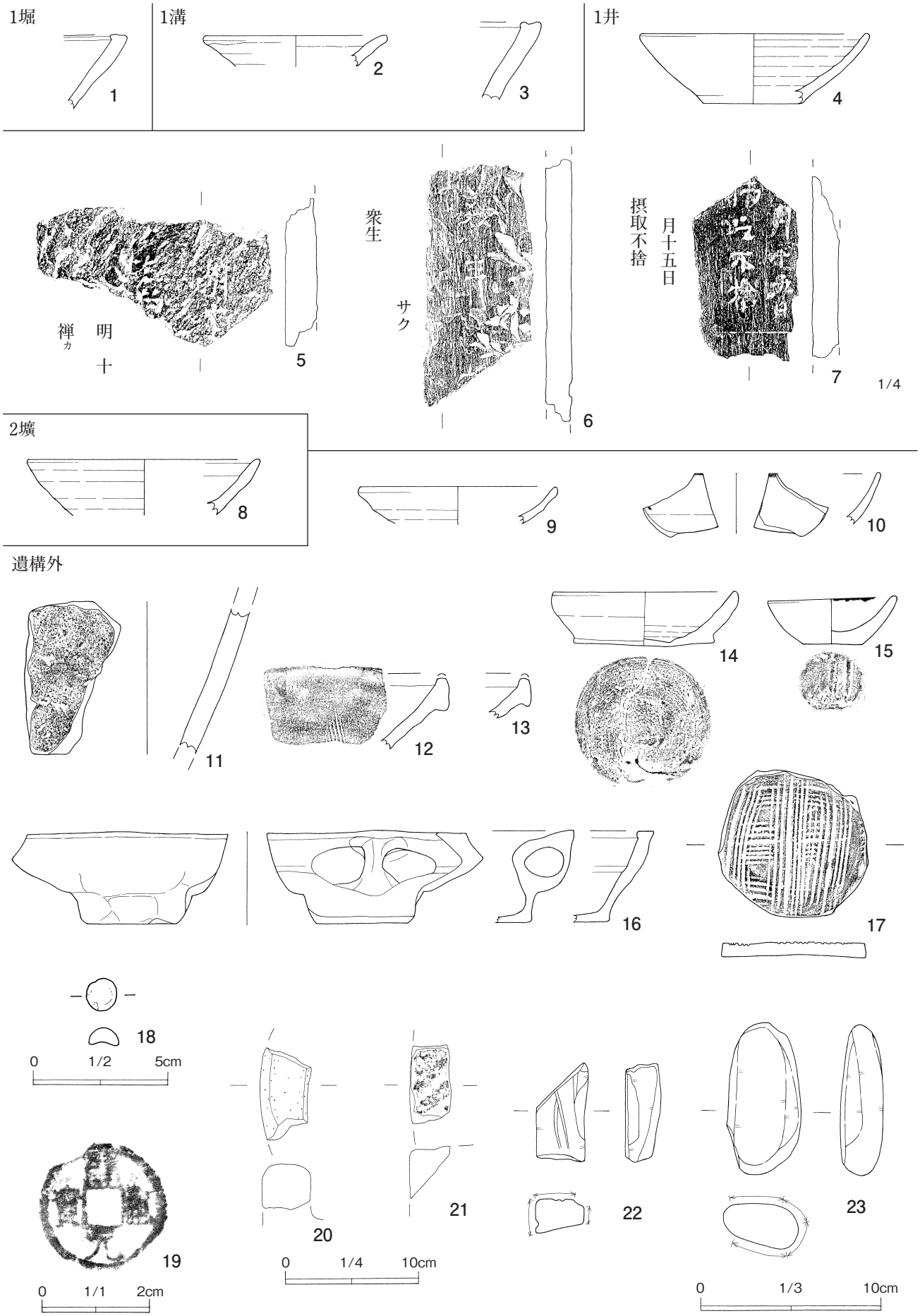


J-1号住居跡

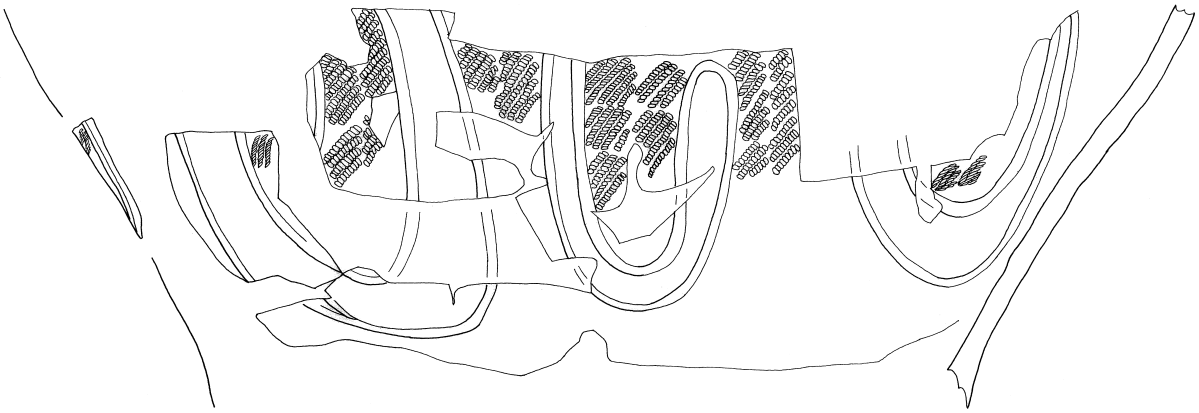
J－１住セクション
1　攪乱
2　茶褐色土／LB▲、LR△、　締良
3　黄褐色土／L（ソフト）主体、FE△、茶褐色土B△　締良
4　黒褐色土／LR◎、C　△　締良
5　黄褐色土／黒褐色土B△、堅緻　締良
6　黄褐色土／茶褐色土B△　軟質
7　茶褐色土／LR▲、黒褐色土B△、　軟質
8　黄褐色土／LB（ソフト）△　締良
9　黄褐色土（３層よりやや明）／LB、LR◎　堅緻　締良
10　黄褐色土／LB、黒褐色土B△　締良
11　黄褐色土／FE△、黒褐色土B△　締良
12　黄褐色土／LB△、軟質
14　黄褐色土／LB△　締良
15　黄褐色土／LB△　締良
17　黒褐色土／LB（ソフト）△、LR△　締良



第82図　騎西城跡第10次遺構３

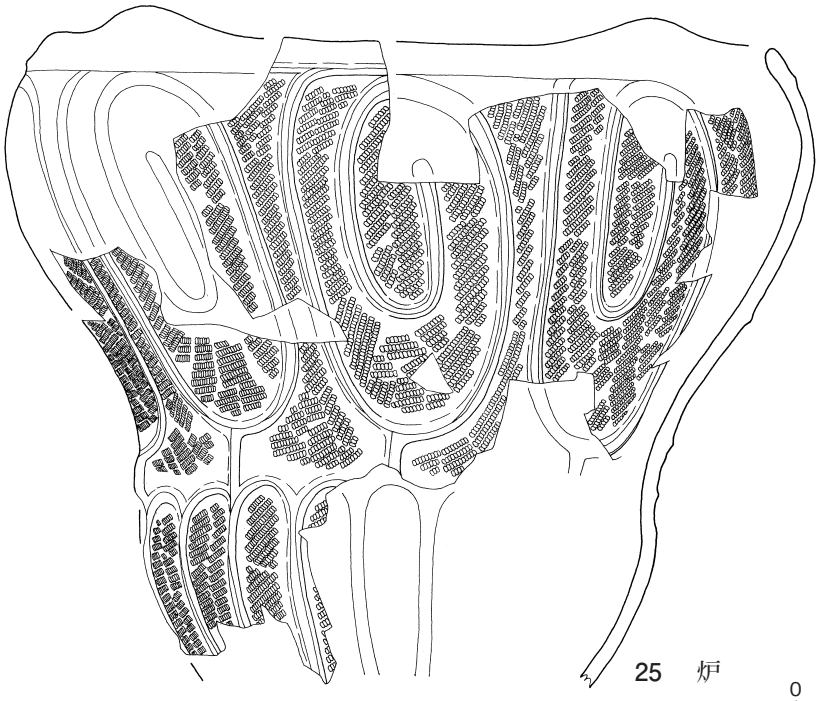


第83図　騎西城跡第10次遺物１



24

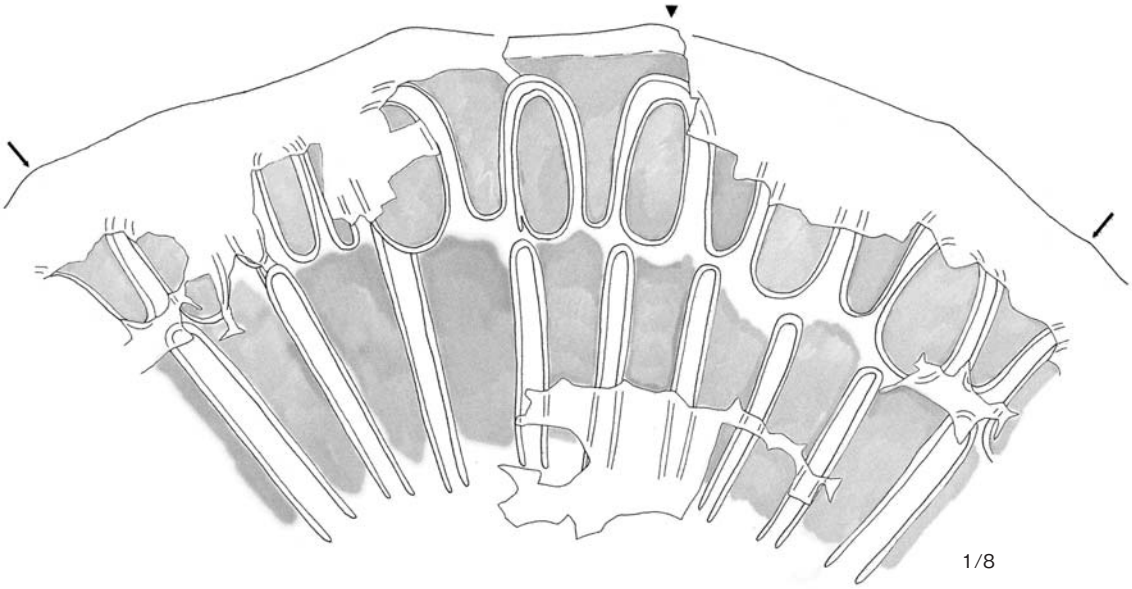
1/8

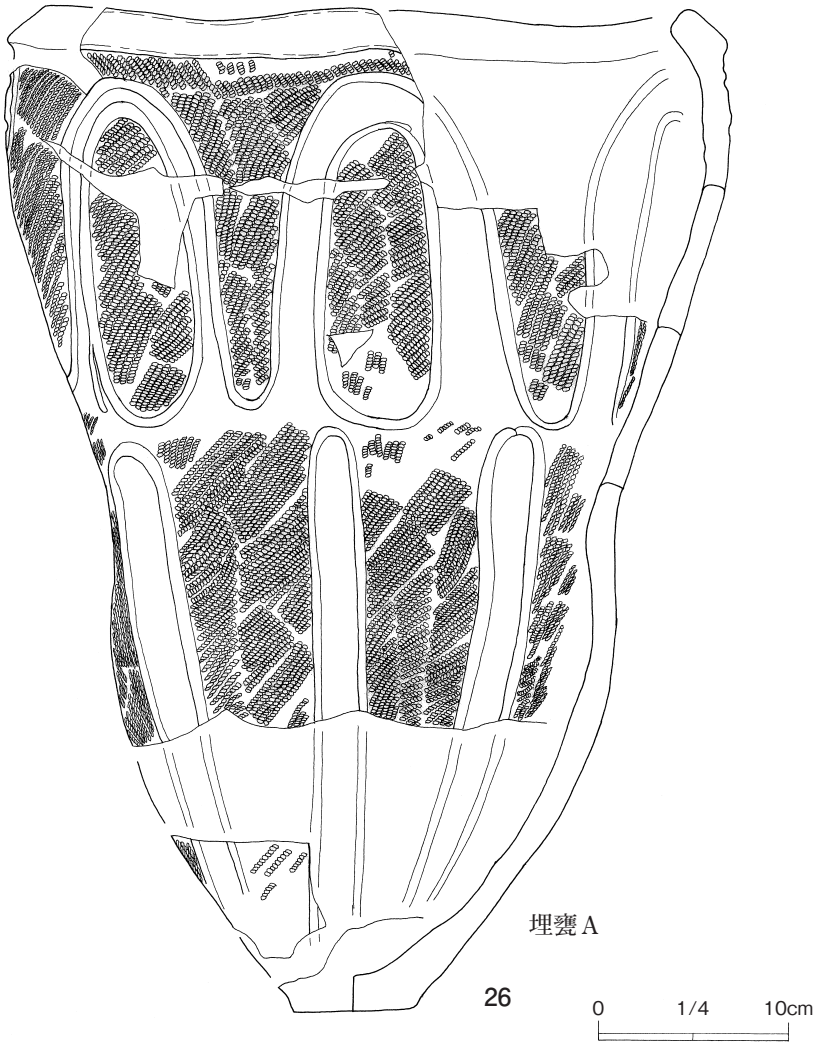


25　炉

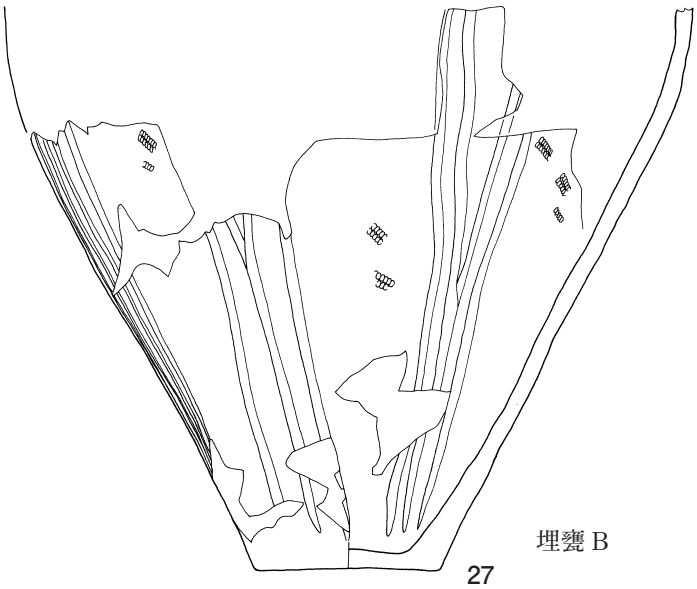
0　1/4　10cm

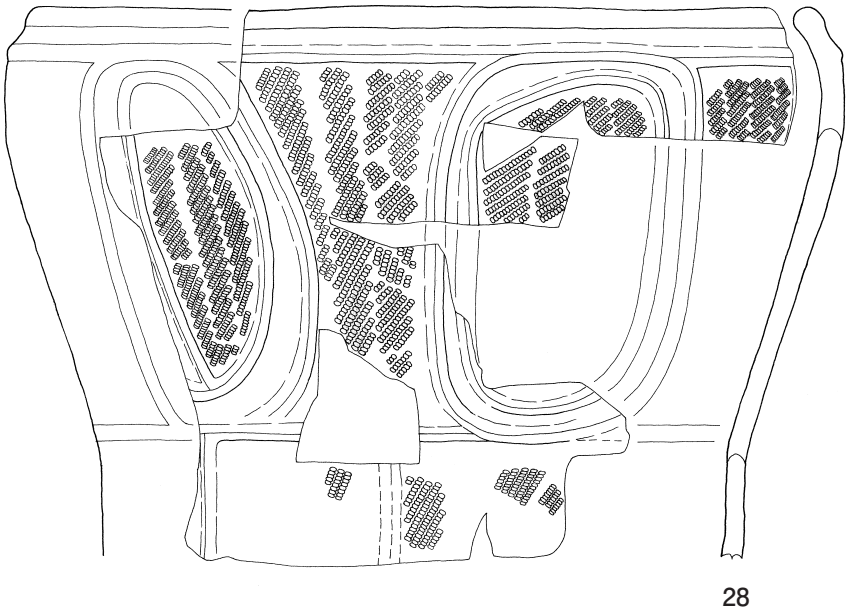
第84図　騎西城跡第10次遺物２





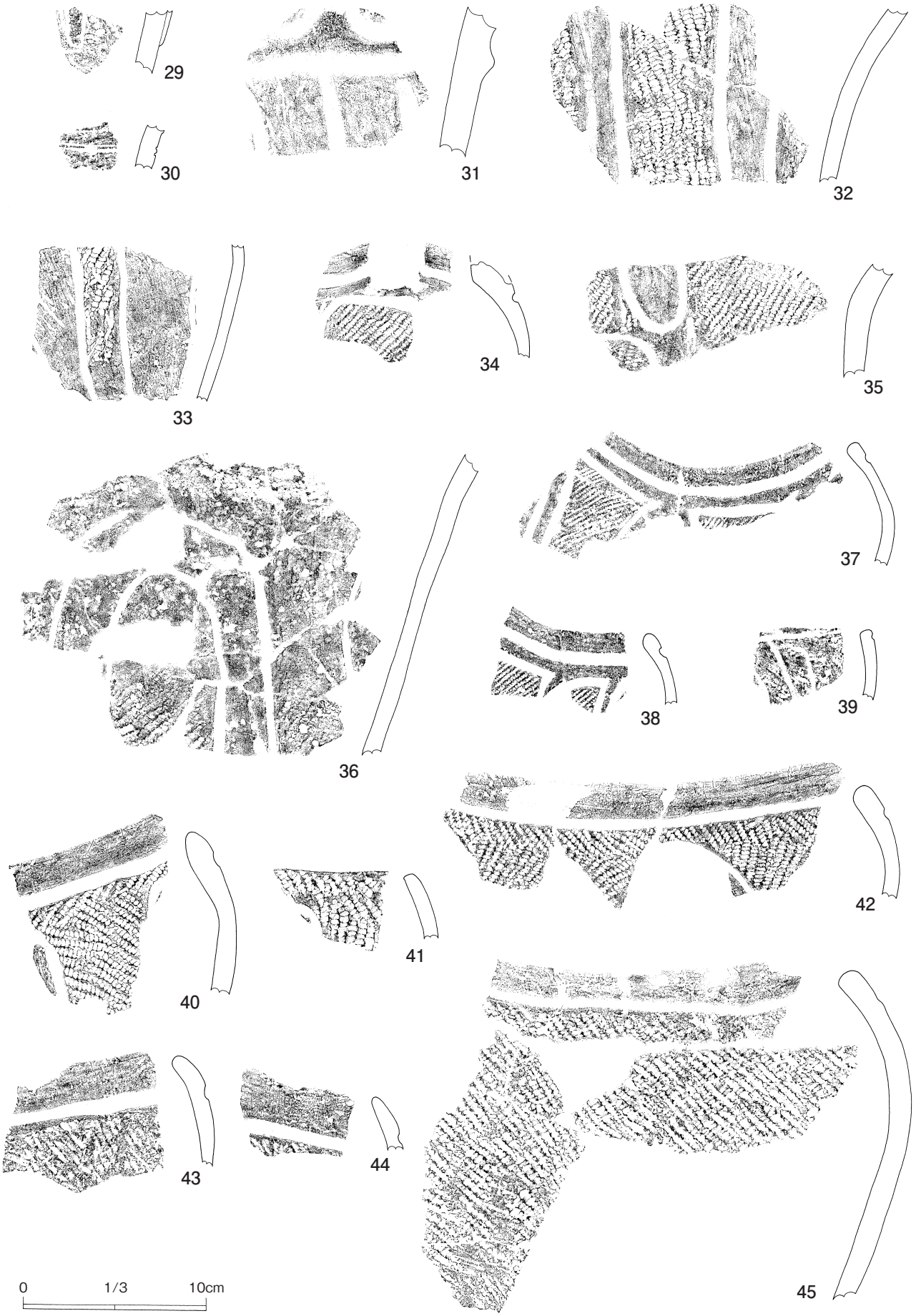
第85図　騎西城跡第10次遺物３



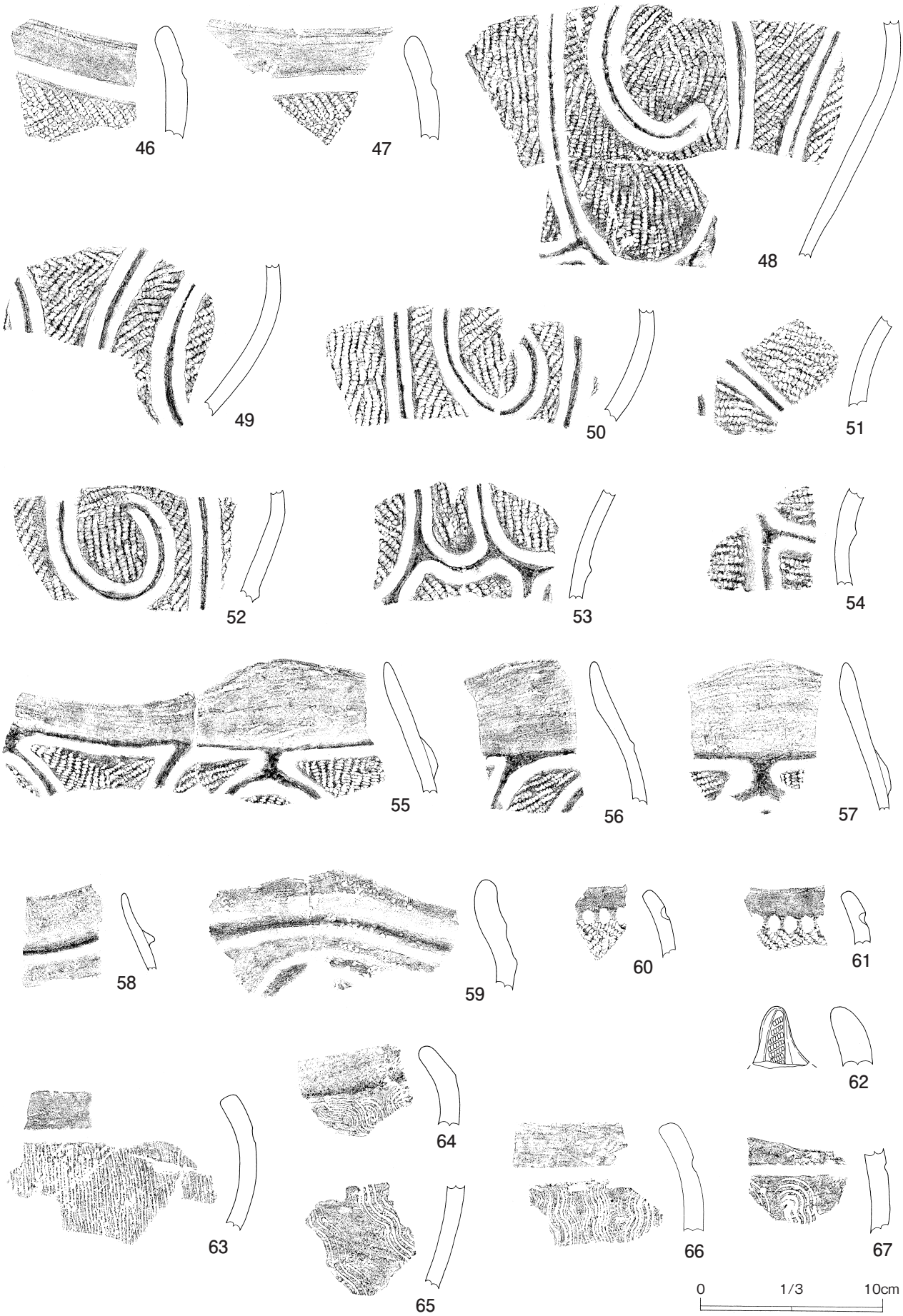


0　1/4　10cm

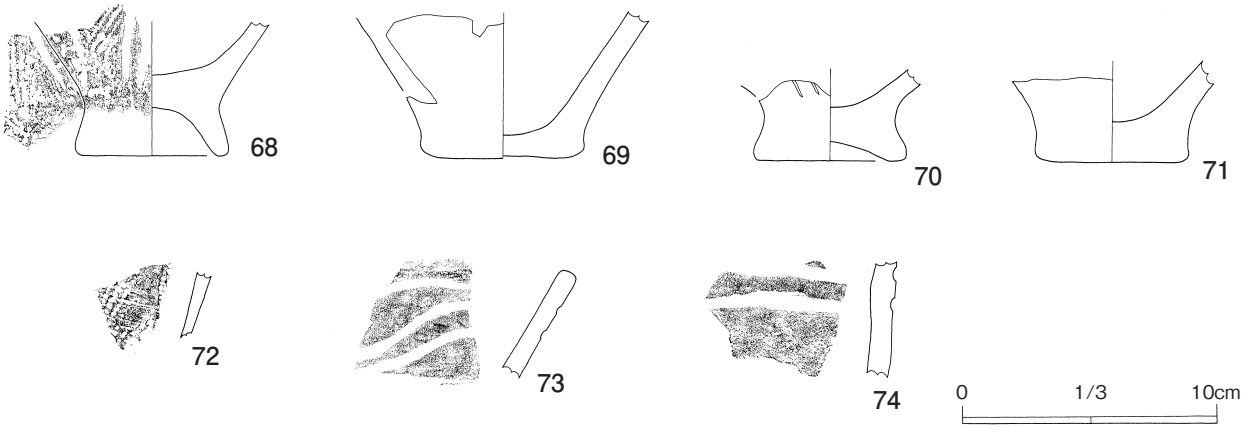
第86図　騎西城跡第10次遺物 4

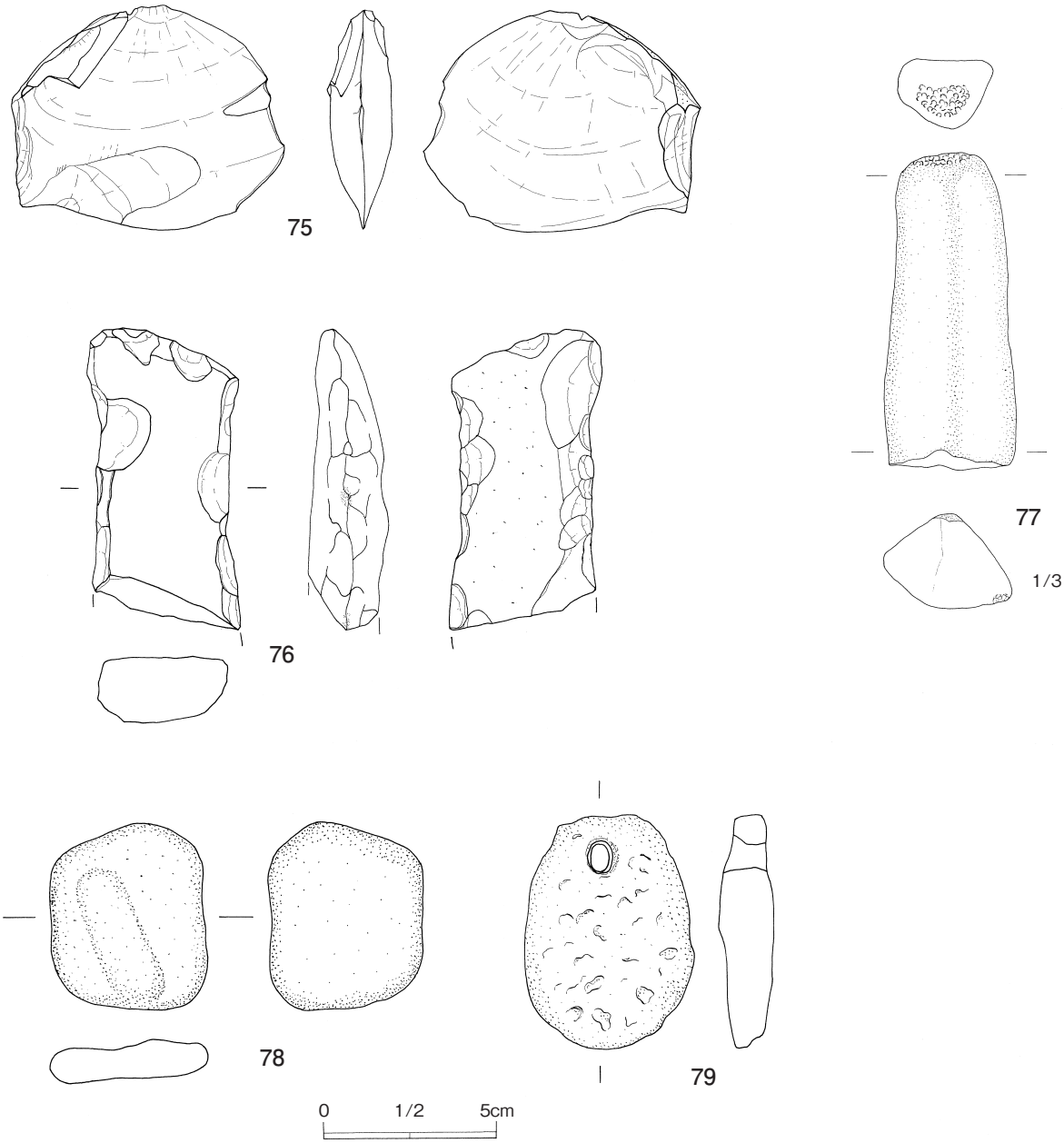


第87図　騎西城跡第10次遺物５



第88図　騎西城跡第10次遺物６





第89図　騎西城跡第10次遺物７

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	形式等	年代	遺物ID	備考
1	擂鉢	在地	1堀埋土	－	－	－			鉢01	
2	縁釉小皿	瀬戸美濃	1溝	＊10.2	－	－	大1		皿02	
3	擂鉢	在地	1溝	－	－	－			鉢02	
4	かわらけ	在地	1井No.3	＊12.8	＊5.6	3.9	騎西城Ⅰ期		K03	金雲母
5	板碑	石(緑泥片岩)	1井No.4	(11.9)	17.6	2.2			0010－0001	
6	板碑	石(緑泥片岩)	1井No.5	(20.8)	(9.0)	1.9			0010－0002	
7	板碑	石(緑泥片岩)	1井No.6	(14.1)	(8.3)	2.0			0010－0003	
8	かわらけ	在地	2壙No.2	＊13.0	－	－	騎西城Ⅰ期		K02	
9	甕	常滑	一括	－	－	－			袋01	
10	丸皿	瀬戸美濃	一括	＊11.2	－	－	大3		皿01	
11	織部向付	瀬戸美濃	一括	－	－	－	登1		皿03	
12	擂鉢	瀬戸美濃	一括	－	－	－	大3後		鉢03	
13	擂鉢	瀬戸美濃	一括	－	－	－	大3後		鉢04	
14	かわらけ	在地	11P　No.27	10.0	7.8	3.0			K04	70％残
15	かわらけ	在地	一括	7.2	3.4	2.5			K01	鐙 貼付 (編))
16	ほうろく	在地	一括	－	－	－			H01	
17	土製円盤	在地	一括	8.2	－	0.7			石03	
18	弾丸	銅	一括	1.2		0.7			0010－0001	
19	銭貨(開元通宝)	銅	9P	－	－	－			0010－0002	
20	粉挽臼(上臼)	石(角閃石安山岩)	一括	－	(3.7)	(3.4)			石01	
21	粉挽臼(下臼)	石(角閃石安山岩)	一括	－	(3.0)	(3.7)			石02	
22	砥石	石(緑泥片岩)	一括	5.4	2.7	2.0			石04	
23	磨石	石(デイサイト)	一括	8.4	4.2	2.4			石05	
24	縄文土器(炉体)	土器	No.59・262－47、他	－	－	－	加曽利Ｅ		0010－0002	
25	縄文土器(炉体)	土器	No.262、KB19　Ａ区、他	－	－	－	加曽利Ｅ		0010－0003	
26	縄文土器(埋甕Ａ)	土器	No.45・228、他	－	－	－	加曽利Ｅ		0010－0005	
27	縄文土器(埋甕Ｂ)	土器	No.184、Ｃ－3G	－	－	－	加曽利Ｅ		0010－0004	
28	縄文土器(炉体)	土器	2壙、No.116、他	－	－	－	加曽利Ｅ		0010－0001	
29	縄文土器	土器	一括	－	－	－	諸磯ｂ			
30	縄文土器	土器	一括	－	－	－	諸磯ｂ			
31	縄文土器	土器	No.13	－	－	－	加曽利Ｅ			
32	縄文土器	土器	No.85・97	－	－	－	加曽利Ｅ			
33	縄文土器	土器	No.228	－	－	－	加曽利Ｅ			
34	縄文土器	土器	No.236	－	－	－	加曽利Ｅ			
35	縄文土器	土器	No.18	－	－	－	加曽利Ｅ			
36	縄文土器	土器	No.11・21・43・68・143・147・162・262・262－27、一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
37	縄文土器	土器	No.175・215・219、一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
38	縄文土器	土器	No.104、一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
39	縄文土器	土器	Ｂ－2G	－	－	－	加曽利Ｅ			
40	縄文土器	土器	No.30	－	－	－	加曽利Ｅ			
41	縄文土器	土器	No.39	－	－	－	加曽利Ｅ			
42	縄文土器	土器	No.63・64・110	－	－	－	加曽利Ｅ			
43	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
44	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
45	縄文土器	土器	No.5・80・154・262・262－2、一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
46	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
47	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
48	縄文土器	土器	No.76・262・262－12・262－13・262－15、一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
49	縄文土器	土器	No.262・262－44	－	－	－	加曽利Ｅ			
50	縄文土器	土器	No.262・262－1	－	－	－	加曽利Ｅ			
51	縄文土器	土器	No.62	－	－	－	加曽利Ｅ			
52	縄文土器	土器	No.35・262	－	－	－	加曽利Ｅ			
53	縄文土器	土器	No.158、一括	－	－	－	加曽利Ｅ			
54	縄文土器	土器	Ｃ－3G	－	－	－	加曽利Ｅ			
55	縄文土器	土器	No.32・67	－	－	－	加曽利Ｅ			
56	縄文土器	土器	No.81	－	－	－	加曽利Ｅ			
57	縄文土器	土器	No.240	－	－	－	加曽利Ｅ			
58	縄文土器	土器	No.28	－	－	－	加曽利Ｅ			
59	縄文土器	土器	No.140・262	－	－	－	加曽利Ｅ			
60	縄文土器	土器	Ｂ－2G	－	－	－	加曽利Ｅ			
61	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利Ｅ			

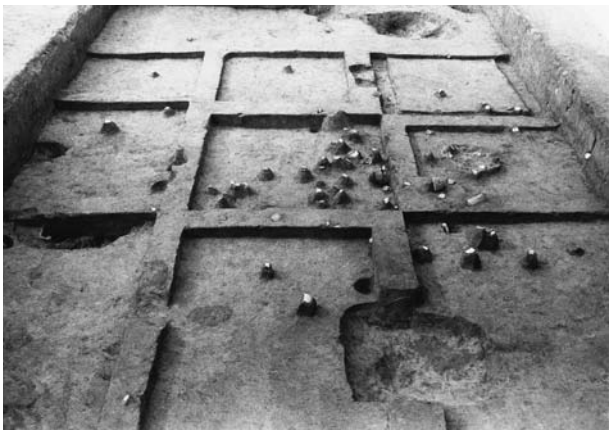
第24表　騎西城跡第10次遺物一覧表１

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	形式等	年代	遺物ID	備考
62	縄文土器	土器	C－３G	－	－	－	加曽利E			
63	縄文土器	土器	No.262－７、A－２G	－	－	－	加曽利E			
64	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利E			
65	縄文土器	土器	一括	－	－	－	加曽利E			
66	縄文土器	土器	No.３	－	－	－	加曽利E			
67	縄文土器	土器	No.57	－	－	－	加曽利E			
68	縄文土器	土器	No.226	－	－	－	加曽利E			
69	縄文土器	土器	C－３G、一括	－	－	－	加曽利E			
70	縄文土器	土器	No.139	－	－	－	加曽利E			
71	縄文土器	土器	No.122	－	－	－	加曽利E			
72	縄文土器	土器	一括	－	－	－	安行			
73	縄文土器	土器	一括	－	－	－	安行３d			
74	縄文土器	土器	一括	－	－	－	安行３d			
75	剥片	石	No.31	6.3	7.8	1.9			0010－0001	
76	打製石斧	石	No.261	8.5	3.7	1.9			0010－0004	
77	敲石	石	No.185	13.8	5.4	4.2			0010－0002	
78	砥石	石	２壙No.４	5.5	4.6	1.1			0010－0005	
79	石錘	石	No.187	6.7	5.0	1.6			0010－0003	

第25表　騎西城跡第10次遺物一覧表２

調査風景



縄文土器出土状況

第XII章　出土遺物補遺

これまでに報告した調査区でその後確認された遺物を補遺として掲載する。

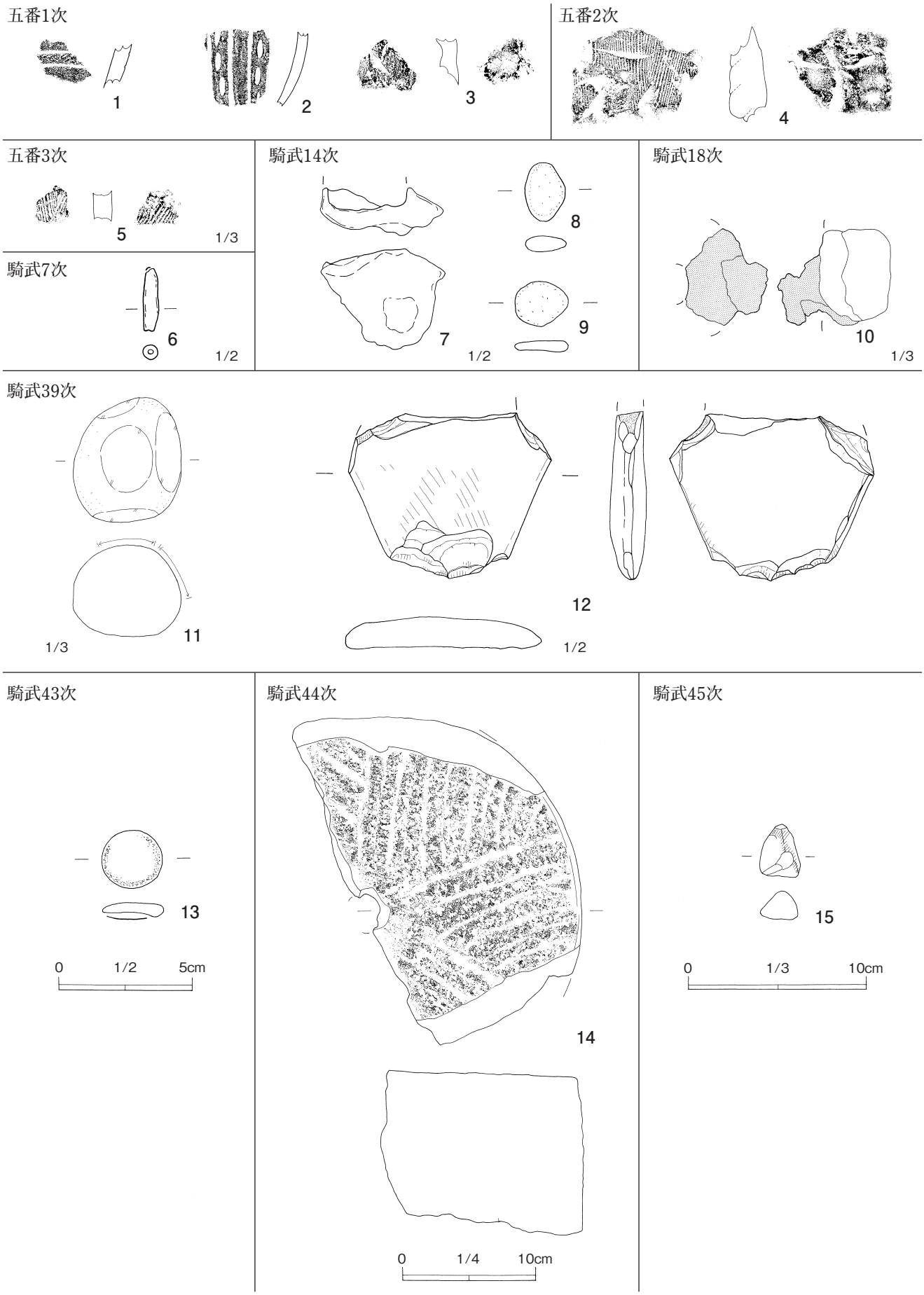
１～５は五番遺跡のもので１・２は縄文後期の土器片・３～５は埴輪片で当遺跡ではこれのみである。

６～15は騎西城武家屋敷跡のもの。６は土錘、８・９・13は碁石、15は火打石とする。12は縄文時代の打製石斧下半で抉り部は装着により、刃部は使用により摩耗が認められる。

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地(材質)	調査名	出土地点	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	形式等	年代	遺物 ID	備考
1	縄文土器	土器	五番1次	19壙	－	－	－	後期			
2	縄文土器	土器	五番1次	A2　ⅣⅤ層	－	－	－	後期			
3	埴輪	土器	五番1次	7層	－	－	－				
4	埴輪	土器	五番2次	No.115	－	－	－				
5	埴輪	土器	五番3次	Ⅴ層	－	－	－				
6	土錘	土器	騎武7次	一括	2.3	0.6	－			0007－000	
7	鋺状製品	銅	騎武14次	11壙	4.8	4.0	1.5			0014－0001	
8	碁石	石	騎武14次	8P	2.2	1.5	0.6			0014－0002	
9	碁石	石	騎武14次	14P	1.7	2.0	0.4			0014－0003	
10	吹子の羽口	土器	騎武18次	一括	5.5	5.3	4.5			0018－000	
11	磨石	石(デイサイト)	騎武39次	2井	7.0	6.0	5.1			0039－0001	
12	打製石斧	石	騎武39次	3T 溝	(6.3)	7.4	1.3			0039－0002	
13	碁石	石	騎武43次	B 区1層	2.2	－	0.5			0043－0001	
14	粉挽臼(下臼)	石	騎武44次	4壙No.12	－	(21.8)	12.5			0044－0001	
15	火打石	石	騎武45次	2層	3.0	2.3	1.6			0045－0001	

第26表　出土遺物補遺一覧表


五番1次
1
2
3
五番2次
4
五番3次
5
1/3
騎武7次
6
1/2
騎武14次
7
8
9
1/2
騎武18次
10
1/3
騎武39次
11
1/3
12
1/2
騎武43次
13
0
1/2
5cm
騎武44次
14
0
1/4
10cm
騎武45次
15
0
1/3
10cm

第90図　出土遺物補遺

第Ⅲ章　まとめ

時期決定に不確実な部分を伴うが今後の叩き台として敢えて変遷を追うこととする。

第１節　騎武第13・18次調査

城郭部南の障子堀と、さらに70m 南に東西方向に巡る障子堀に挟まれる区域である。『武州騎西之絵図』（以下絵図）では御蔵屋舗地に相当する。

覆土にロームの２次堆積を含む遺構は13次６溝・２井／18次１・２溝・11壙があり、ほぼ同一時期としておく。溝は同時期で断続するものである。５壙はやや新しいものか。15世紀中頃以降。

平面円形の遺構は18次４・６・10壙・１井で、かわらけや完形の擂鉢・骨片が出土し墓壙の可能性がある。重複関係から断続する溝より新しい。

調査区に対し方向軸が斜めに振れる長方形の土壙は、13次２・３・11壙／18次７・９壙があり同規模同様のものはこれまで廃城後に位置づけられた。

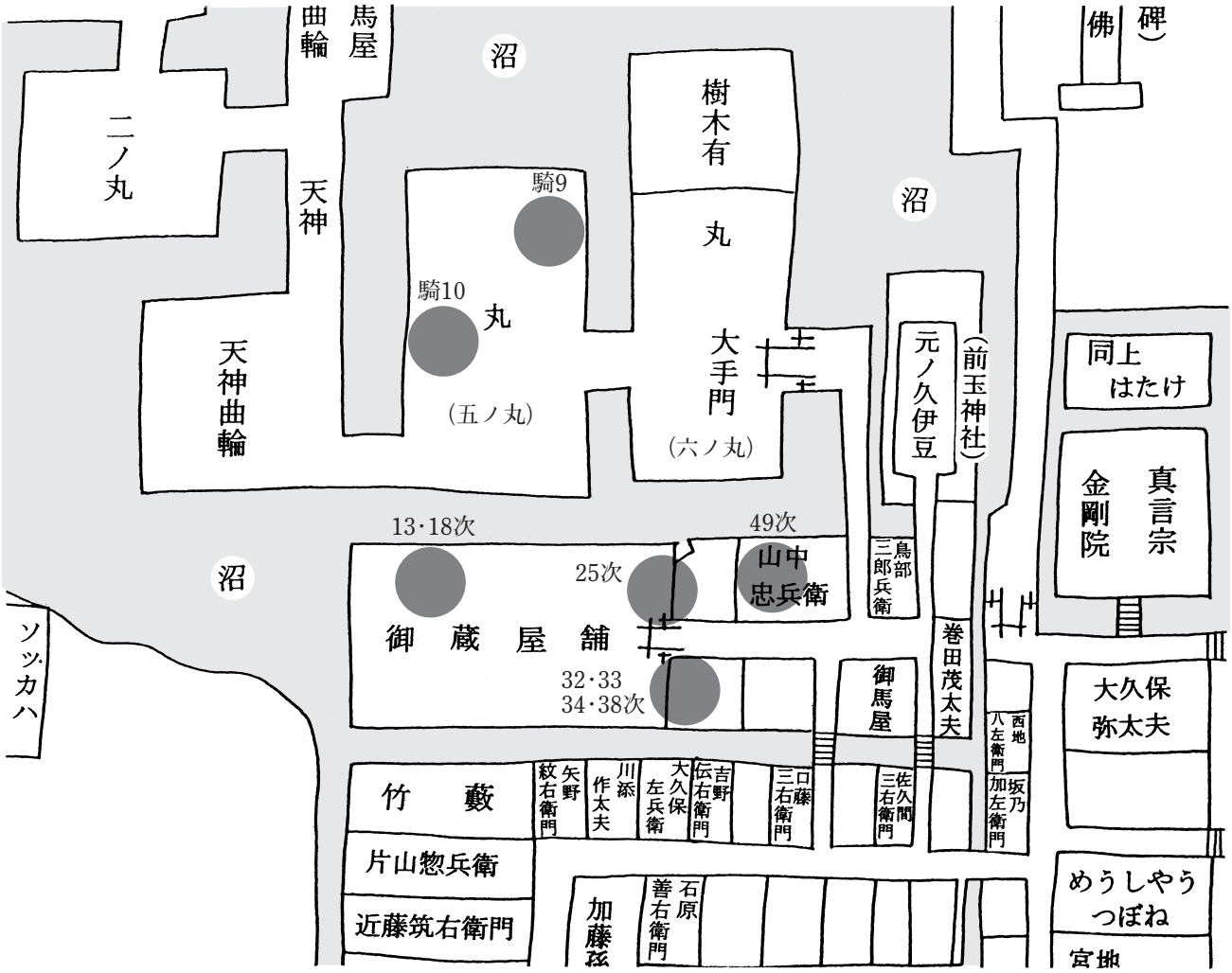
１井は土壙とも思われるが、あるいは障子堀等の掘削により湧水が衰えたものか。

以上をまとめ変遷の概略を追うと、第１段階－断続する溝、２段階－墓域としての円形土壙（16世紀中～後）、３段階－廃城後の斜行軸の土壙群である

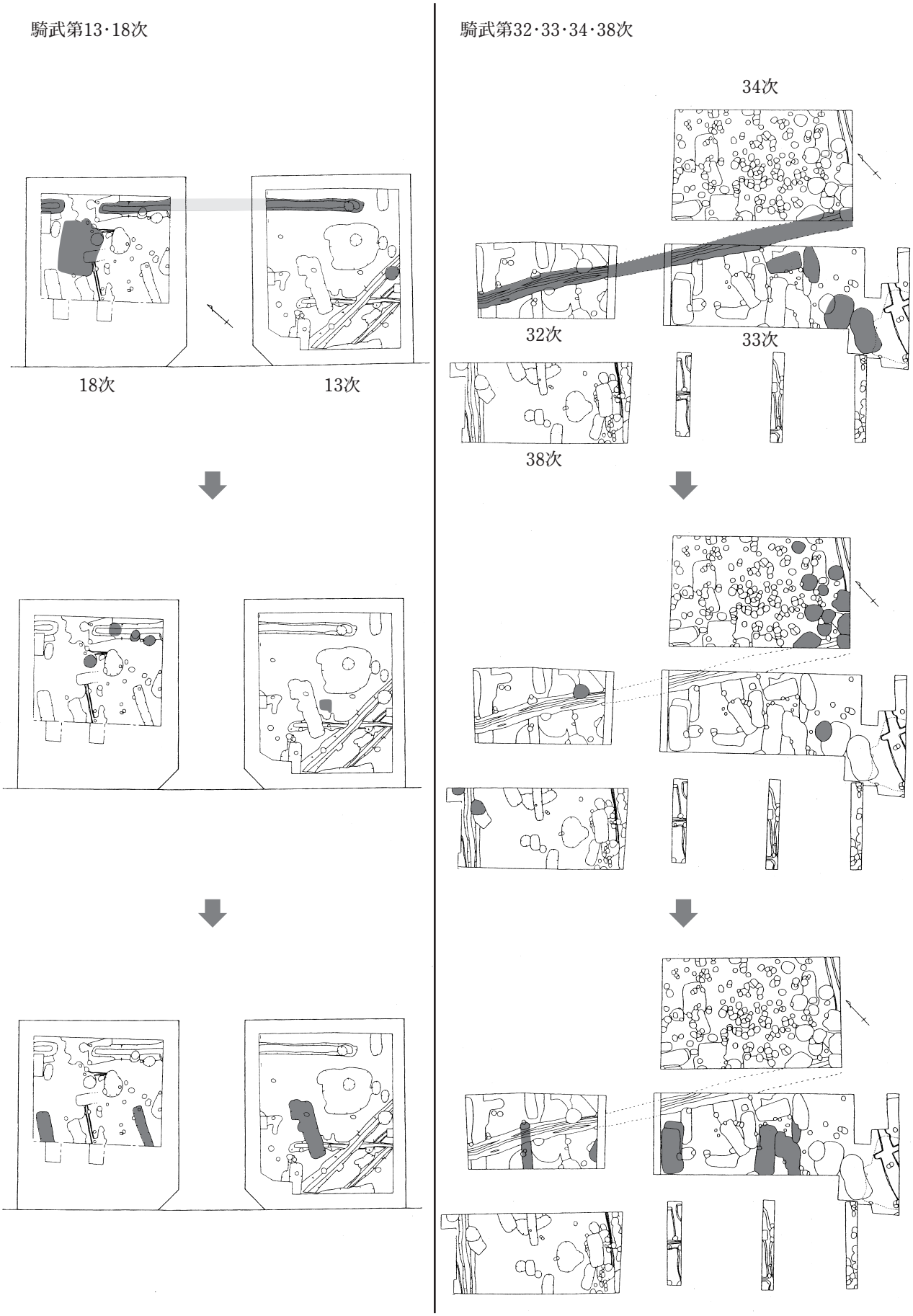
なお断続する溝は、西方の第５次や東方の KB14 区でも検出される。障子堀と同じ軸を持ち、現地表より100cm 近くを計る。防御の溝あるいは道の側溝であろうか。

第２節　騎武第25次調査

城郭部南に巡る障子堀の南で、六ノ丸（仮称）の南方に位置する。『絵図』では御蔵屋舗東端から山



第91図　各地区の騎西城内の推定位置



第92図　遺構の変遷

中忠兵衛屋敷地東周辺にあたる。

１号土壙はかわらけ・銭貨の出土から墓壙で、15c 中～16c 前半ごろであろう。５溝は城郭との境を成す障子堀の可能性あり。他の溝は切り合いを追っていくと３溝→１溝→２溝→３溝と循環してしまう。１・２・７溝は障子堀を意識しており障子堀後の所産か。３・４溝は障子堀を意識しておらず障子堀前段階のものと思われる。

第３節　騎武第32･33･34･38次調査

城郭部南の障子堀と、さらに70m 南に東西方向に巡る障子堀に挟まれる区域である。『絵図』では御蔵屋舗地南側の東端から無記名の屋敷地に当たる。

第32次では１溝が東西に走行し、重複関係から１井、１・11壙が次の段階で、16世紀以降である。

第33次では１溝と２・７・21壙の方向軸が一致し、近接する時期と思われる。段を有する２壙、大規模で木槌・スラグ出土の21壙、炭化物等出土の７・１壙は特徴的な遺構である。また調査区と同一軸の３～７・16～20はテフラ（天明期）を覆土に含むものがあり廃城後か。

第34次では、１・２溝が軸を直行し近接する時期か。次段階は井戸群で集中する数は当遺跡有数である。砥石・磨石・板碑片や桶一個体が出土する。作業空間および墓域が展開したものか。

第38次では、１溝で土鍋が出土し比較的古い時期となる。次段階では井戸・12壙がある。また１溝から金粒状付着物がある土器が出土している。

以上４調査区をまとめ変遷の概略を追うと、第１段階に東西に走行する溝および同一軸土壙群、第２段階に井戸群、第３段階に調査区と同一軸を成す土壙群となる。井戸の一部は第１段階に遡り作業的空間を構成したものであろう。多数のピットは作業場等の掘立柱建物の可能性があるが整理時の精査では確認できなかった。

第４節　騎武第49次調査

城郭部南の障子堀とさらに70m 南に東西方向に巡る障子堀に挟まれる区域である。『絵図』では山中忠兵衛屋敷地東周辺に相当する。

坩堝や磨痕・敲打痕のある板碑や磨石の出土から当地区に工房があったものと思われる。特に金粒付着土器が複数確認され、隣接する50次で金が出土していることを考え併せると金の加工施設があった可能性を有する。当地区で検出された井戸・ピットはその作業に関わるものであろう。操業年代は金粒付着土器（坩堝）の年代から16世紀中～末頃を想定しておく。なお西方80m の KB10区でも金粒付着土器が多数出土している。また、板碑・かわらけ・銭貨の出土から墓域であったことも推定できる。

第５節　騎西城跡第９・10次調査

城郭内部である。東と西に障子堀が南北に巡り、それぞれ堀際に位置する。『絵図』によると天神曲輪の外側五ノ丸（仮称）の中程に相当する。

城郭内の特徴的な遺構は見あたらない。ただ10次では障子堀・９次では１号建物跡？の検出があるのみである。

本地区では旧石器・縄文時代の遺構・遺物があり、特に第９次では単独ではあるが荒屋型彫刻器が出土している。深谷市（旧川本町）の白草遺跡や千葉県で出土するが、関東地方では数少ないものである。また、埋甕・炉体土器を伴う住居跡が検出された。隣接する調査区で中世以降の遺構が疎らである区域には加曽利Ｅ期の遺構が遺存しており、集落が存在したことを証する。

参考文献

秋本太郎　2008　「戦国期北関東のかわらけ－戦国大名支配との関連－」『中世東国の世界３　戦国大名北条氏』高志書院

浅野晴樹　1988　「関東における中世在地産土器について」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』第４号

1991　「東国における中世在地系土器について－主に関東を中心に－」『国立歴史民俗博物館研究報告』第31集

大橋康二　1984　「肥前陶磁の変遷と出土分布」『国内出土の肥前陶磁』佐賀県立九州陶磁文化館

小野正敏　1982　「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』№２貿易陶磁研究会

2000　「遠江の出土陶磁器組成の特徴」『横地城跡　総合調査報告書　資料編』菊川町教育委員会

『騎西町史』考古資料編１　2001　騎西町教育委員会

『騎西町史』考古資料編２　1999　騎西町教育委員会

『騎西町史』通史編　2005　騎西町教育委員会

九州近世陶磁学会　2000　「九州陶磁の編年」　九州陶磁学会

2001　「国内出土の肥前陶磁」　東日本の流通をさぐる　九州陶磁学会

島村範久・嶋村英之・坂本征男　1997　「騎西武家屋敷跡城　妙光寺第１・２次発掘調査報告書」騎西町遺跡調査会報告書第２集　騎西町遺跡調査会

島村範久　2005　「騎西（私市）城跡」『シンポジウム　埼玉の戦国時代　検証　比企の城』資料集　史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会

2005　「騎西（私市）城跡」『戦国の城』高志書院

2009　「騎西城武家屋敷跡　第40次発掘調査報告書」騎西町遺跡調査会報告書第６集　騎西町遺跡調査会

嶋村英之　2011　「騎西城武家屋敷跡　第17・28・35・36・39・41・43次調査」加須市埋蔵文化財調査報告書第１集　加須市教育委員会

嶋村英之・島村範久・嶋村薫　2011　「騎西城武家屋敷跡　KB大英寺・１・２区調査－中近世編－」加須市埋蔵文化財調査報告書第２集　加須市教育委員会

田中　信　1996　「川越市内出土の中世土師器について－特に河越館跡および周辺出土を中心に－」『川越市埋蔵文化財調査報告書（ＸⅠ）』川越市教育委員会

2005　「山内上杉氏の土器（かわらけ）とは」『戦国の城』高志書院

2005　「出土遺物からみた山内上杉（越後上杉氏）の城・陣所」『シンポジウム　埼玉の戦国時代　検証　比企の城』
資料集　史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会

2010　「葛西城と扇谷上杉氏のかわらけ」『葛西城と古河公方足利義氏』雄山閣

塚田良道　1989　「忍城跡の発掘調査」『行田市郷土博物館研究報告』Vol１行田市郷土博物館

中野晴久　1994　「生産地における編年について」『全国シンポジウム中世常滑焼をおって』資料集

2005　「常滑・渥美窯」『陶磁器から見る静岡県の中世社会』菊川城館遺跡国指定記念シンポジウム資料集

服部実喜　2008　「かわらけから見た北条氏の権力構造」『中世東国の世界３　戦国大名北条氏』高志書院

藤澤良祐　1987　「本業焼の研究（１）」研究紀要Ⅵ　瀬戸市歴史民俗資料館

1988　「本業焼の研究（２）」研究紀要Ⅶ　瀬戸市歴史民俗資料館

1989　「本業焼の研究（３）」研究紀要Ⅷ　瀬戸市歴史民俗資料館

2002　「瀬戸・美濃大窯の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯　財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター

2008　「中世瀬戸窯の編年」高志書院

横田賢次郎・森田　勉　1978　「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』４

図　　版

調査前風景

調査風景

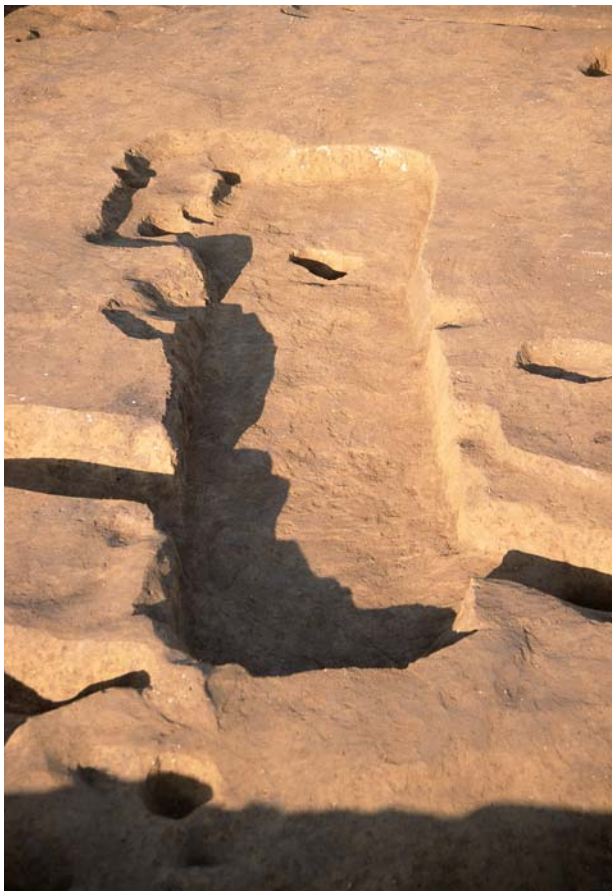
完掘

騎武第13次遺構２

１（右）・２号溝

５号溝　完掘

１号溝　ローム２次堆積



２・３・11号土壙　完掘

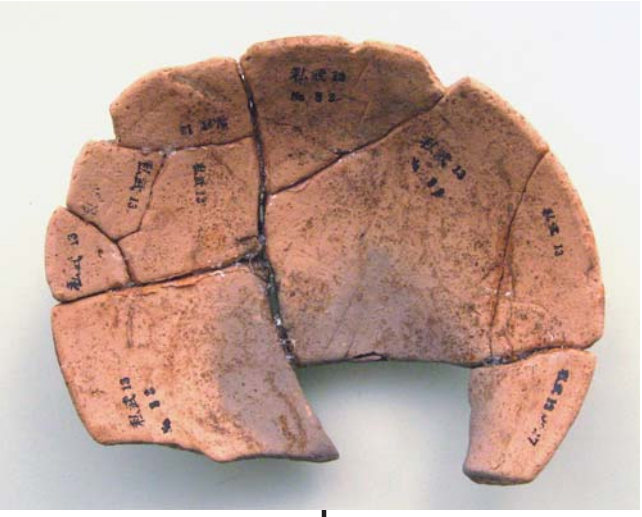
12・13号土壙　完掘

４号土壙　炭化物検出

５号土壙　炭化物検出

同上　白色土検出

１号井戸　完掘



かわらけ

擂鉢

１号溝　遺物出土

１号溝　完掘

２号溝　縁金具（３）出土

１号井戸　完掘

No. 26

３号土壙　遺物出土

No. 16・17

４号土壙　炭化物出土

４号土壙　かわらけ出土

６号土壙　炭化物出土

５号土壙　ローム２次堆積検出

同上　堆積アップ

10号土壙　炭化物出土

10号土壙　鉄鏃出土

1号住居跡　完掘

9

37

14

35

16

45

17

50

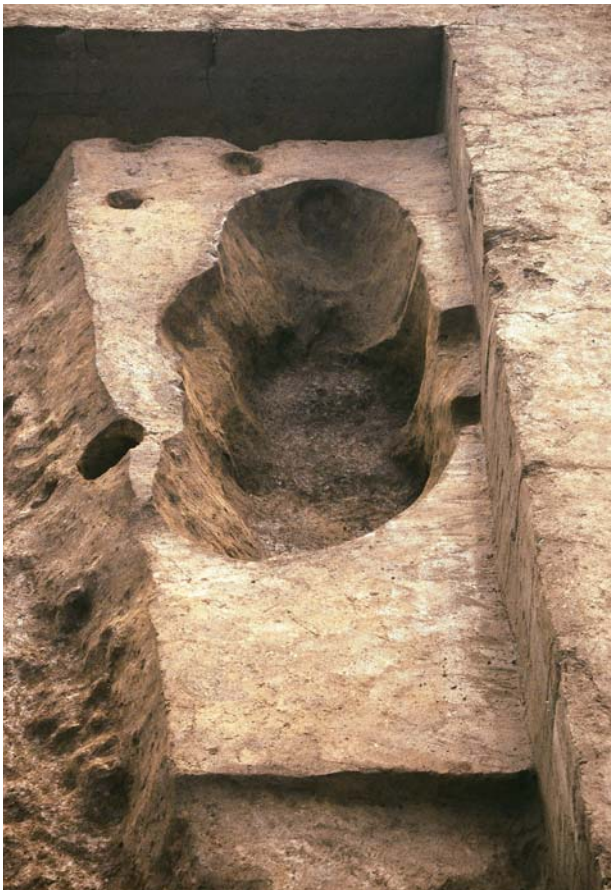
騎武第18次出土遺物２

完　掘（南から）

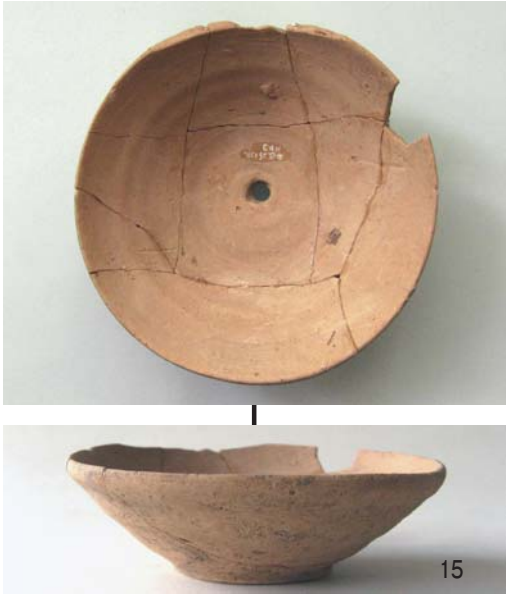
完　掘（北半分）

１（右）・２号溝完掘

４号溝完掘

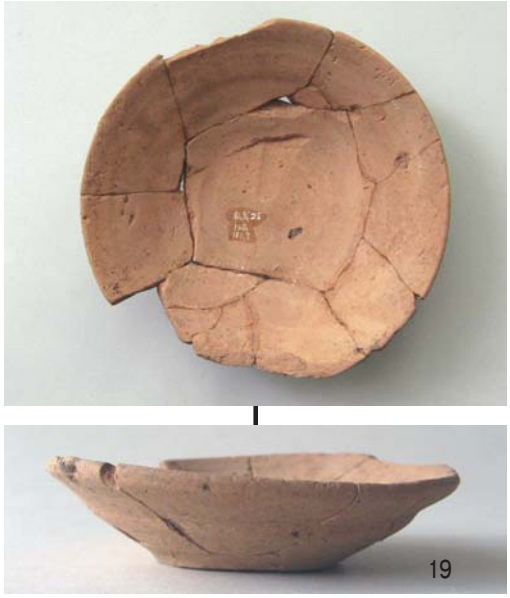


２号土壙完掘


15

18

16


19

17

30

騎武第32次遺構１

調査前風景

調査風景

１号溝　完掘

調査風景

１号井戸完掘

同上遺物出土

騎武第33次遺構１

調査前風景

３号井戸　完掘

完掘（西から）

２号土壙　完掘

７号土壙
焼土・炭化物出土

21号土壙　完掘

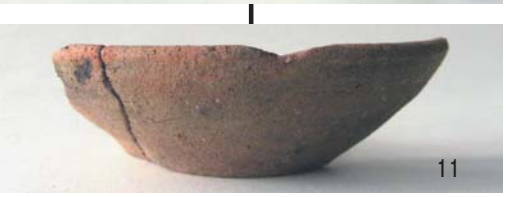
同上
木槌（No. 29）出土

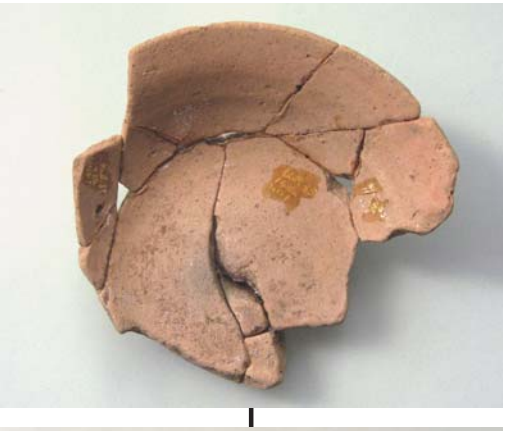
騎武第33次遺構３

H-１号住居跡　完掘

同上　竈断面

同上　貯蔵穴完掘





粉挽臼

騎武第34次遺構１

完掘（東から）

完掘（西から）

１号土壙
焼土・炭化物出土

井戸群　完掘

１号井戸　完掘

２号井戸　完掘

２号井戸　板碑（No. 11）出土

３号井戸　完掘

同左　遺物出土

４・７・８号井戸　完掘

５号井戸　完掘

同左　ほうろく（No. 28）出土

６号井戸　完掘

７号井戸　馬形土製品（No. 40）出土

８号井戸　板碑（No. 48）出土

９号井戸　完掘

10号井戸　かわらけ（51・52）出土

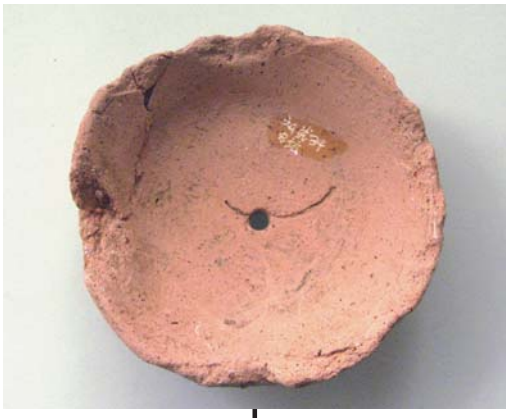
10号井戸　完掘

３号土壙　丸皿（No. 63）出土

ヒダ皿（No. 72）出土

騎武第34次出土遺物

馬形土製品



雁俣様製品

完掘（東から）

完掘（西から）

１号溝　土鍋
（No. 6）出土

同上　かわらけ
（No. 4）出土

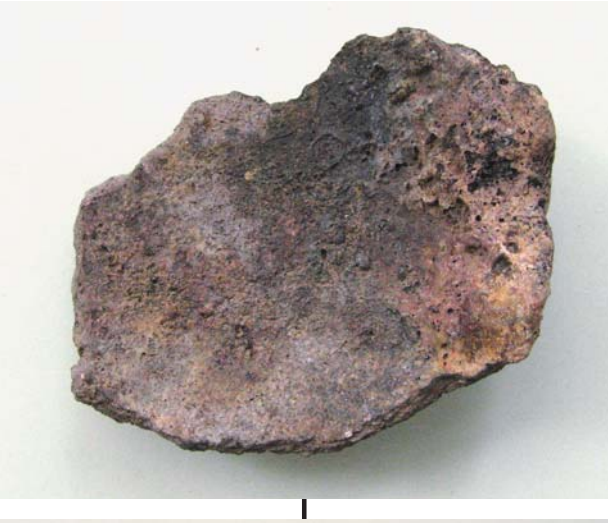
１号井戸　完掘

２号井戸　完掘

同上　鉄絵皿
（No. 16）出土

２号土壙　完掘

騎武第38次出土遺物



取瓶

粉挽臼

刀子

土鍋

完掘（西から）

完掘（東から）

騎武第49次遺構２

１号溝　完掘

１号井戸　完掘

２号井戸　完掘

３号井戸　完掘

３号井戸　擂鉢（No. 14）出土

かわらけ（No. 72）出土

かわらけ（No. 161）出土

４号井戸　遺物出土

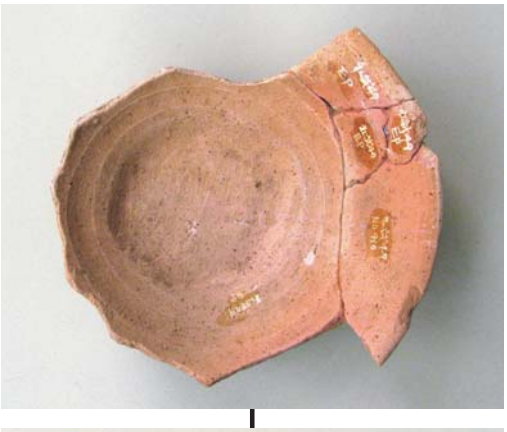
同　完掘

鍔（No. 106）出土

陶磁器

小柄（No. 108）出土

騎武第49次出土遺物 2



かわらけ

火打金

煙管

完　掘（北から）

２号井戸　完掘

３号井戸　完掘

３号土擴　完掘

８号ピット　かわらけ（No. 24）出土

騎西城跡第９次出土遺物

かわらけ

打製石斧

石鏃

縄文土器

１号堀　完掘

１号井戸　完掘

４号土壙　完掘

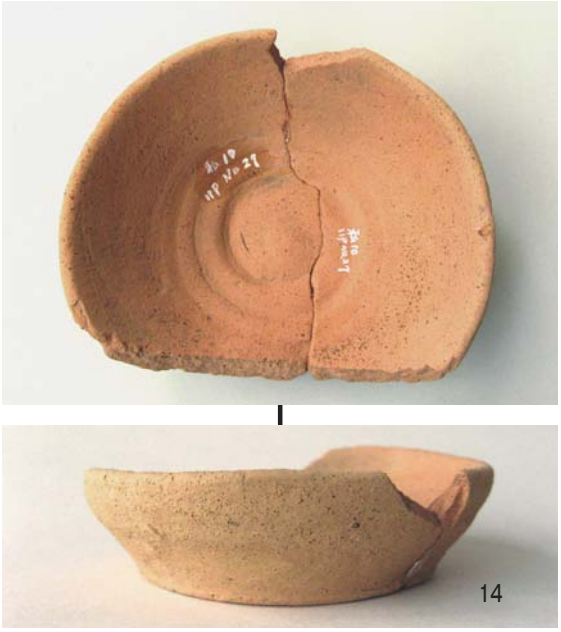
J-１号住居跡　完掘

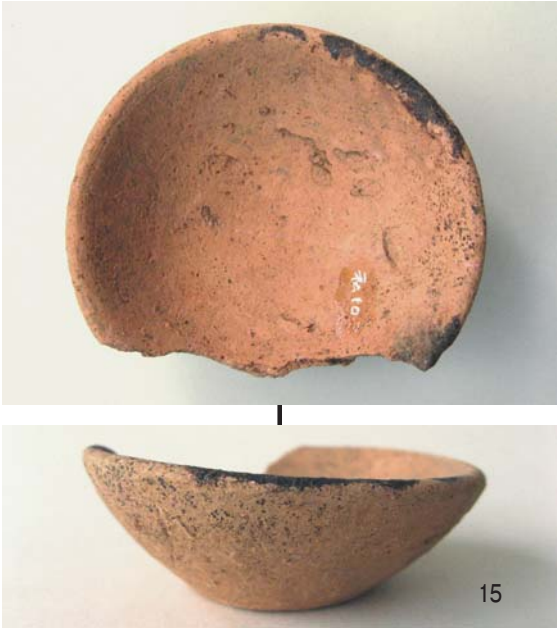
炉体土器（No. 24・25）

埋甕 A（No. 26）

埋甕 B（No. 27）

同左　土層堆積





かわらけ

縄文土器

騎西城跡第10次出土遺物２

縄文土器

打製石斧

敲石

砥石

石錘

報　告　書　抄　録

フリガナ	キサイジョウブケヤシキアト　　キサイジョウアト
書名	騎西城武家屋敷跡第13・18・25・32・33・34・38・49次調査　騎西城跡第９・10次調査
副書名	
巻次	
シリーズ名	加須市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第３集
編著者名	嶋村英之
編集機関	加須市教育委員会
所在地	〒347－8501　埼玉県加須市下三俣290番地
発行年月日	西暦2012年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
私市城 武家屋敷跡	埼玉県加須市 大字根古屋	11421	070			19891127～		
	13次202－４			36°6′14″	139°35′4″	19900109	113	
	18次仮32－９			36°6′13″	139°35′5″	19900709～0809	76	個人住宅建設
	25次仮52－３			36°6′13″	139°35′9″	19910902～1129	112	
	32次仮52－23			36°6′11″	139°35′6″	19920616～0818	48	
	33次仮52－12			36°6′11″	139°35′7″	19920616～0902	165	
	34次仮52－11			36°6′11″	139°35′8″	19920616～0903	110	
	38次仮52－23			36°6′11″	139°35′6″	19930118～0326	72	
	49次仮54－８			36°6′12″	139°35′9″	19960117～0315	60	
私市城 跡	９次仮31－２		010	36°6′16″	139°35′9″	19940117～0322	65	
	10次仮31－８			36°6′15″	139°35′7″	19940117～0322	90	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
私市城 武家屋敷跡	城館跡	13次　中近世	溝６／井戸３／土壙12	かわらけ
		18次　中近世	溝２／井戸１／土壙11／縄文住１	在地擂鉢・縁金具・鉄鏃
		25次　中近世	溝10／土壙５	かわらけ・銭貨
		32次　中近世	溝３／井戸１／土壙13	ほうろく・銭貨
		33次　中近世	溝７／井戸２／土壙21／竪穴住１	かわらけ・木槌・磨石
		34次　中近世	溝２／井戸11／土壙16	桶・土馬・鉄鏃？・磨石・板碑
		38次　中近世	溝３／井戸２／土壙14	土鍋・取瓶・銭貨
		49次　中近世	溝１／井戸５／土壙２	金粒付着土器・鍔・鐺・磨石
私市城 跡	城館跡	９次　中近世	建物１／井戸３／土壙９	荒屋型彫刻器
		10次　中近世	堀１／溝１／土壙５／縄文住１	縄文土器・石器

要約	武家屋敷の調査区は、南北に障子堀が巡る区域で「絵図」では御蔵屋舗周辺である。調査成果から居住・戦闘・作業の機能があったものと思われる。特に断続し平行する溝は道あるいは防御が、金粒付着土器は金の加工が想定される。

加須市埋蔵文化財調査報告書　第３集

騎西城武家屋敷跡

第13･18･25･32･33･34･38･49次調査

騎西城跡

第９・10次調査

平成24年３月25日印刷

平成24年３月31日発行

発　行　加須市教育委員会

〒347－8501　埼玉県加須市下三俣290番地

印　刷　関東図書株式会社